福井県埋蔵文化財調査報告　第181集

# 長 崎 遺 跡

―北陸新幹線建設事業に伴う調査 10―

２０２３

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

# 序　　文

このたび北陸新幹線建設事業に伴って、坂井市丸岡町長崎において、平成28年度に発掘調査を実施しました長崎遺跡の調査成果がまとまり、福井県埋蔵文化財調査報告第181集として刊行することとなりました。

長崎遺跡は、兵庫川と田島川に挟まれた場所に位置し、本調査地の西方には長崎城跡と同位置に存在した長崎称念寺が立地しています。

本調査区は、旧河川や湿地に挟まれた微高地に立地することが判明し、本調査で掘立柱建物や多くの井戸・土坑・溝等が検出され、鎌倉時代から室町時代の土地利用の状況を知ることができました。こうした地形の利用は、「寺」以外に「城」としても活用された当地の様相を示しています。

出土遺物には、地元産の土師質皿や越前焼、能登半島先端で生産された珠洲焼や東海地方の瀬戸焼・山茶碗、喫茶の風習を表す瓦質風炉や輸入陶磁器等、当時の物流を物語る資料が含まれており、当地の生活の一端がかいまみれます。

このように、今回の発掘調査で得られた資料は、称念寺の近辺の様相を知るうえで大変重要であり、これらの成果が地域の歴史研究に寄与するとともに広く公開、活用されて、埋蔵文化財の理解をより一層深めていただければ誠に幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書刊行に至るまで、関係諸機関をはじめ、多くの皆様から多大なご支援とご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

令和５年３月

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
所　長　中　川　佳　三

# 例　　言

1　本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが北陸新幹線建設事業に伴い、平成 28 年度に実施した長崎遺跡（福井県坂井市丸岡町長崎）の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の依頼を受けて、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施し、宮崎認（当時）、秋山綾子（当時）が担当した。

3　発掘調査の支援業務は、株式会社アーキジオ福井事務所に委託した。

4　発掘調査は、平成 28 年６月１日から平成 29 年３月 31 日まで実施した。

5　出土遺物の整理は平成 29 年４月１日～令和５年３月 31 日まで福井県教育庁埋蔵文化財調査センターにて実施した。

6　本書の編集は木村孝一郎が行い、御嶽貞義、秋山綾子が分担して執筆した。執筆の分担は以下の通りである。

木村　第１～４章、第５章第１節、第７章　　秋山　第５章第２節、第６章第１節　御嶽

第５章第３・４節　株式会社吉田生物研究所　第６章２・３節　一般社団法人　文化財科学研究センター

第６章第４節　パリノ・サーヴェイ株式会社　第６章第５節　第６章の各節は木村が加除筆、編集した。

7　本書では発掘調査と遺物整理で用いた地区に従い、第４章・第５章第１節とそれに伴う写真図版を作成した。

8　本書に掲載した遺構・地形測量図ならびに空中写真は、株式会社アーキジオ福井事務所に委託して作成したもので、一部改変して用いた。

9　遺物整理のうち土器・陶磁器類の洗浄・注記・実測・トレースは株式会社キミコン、木製品・石製品・金属製品のトレースは株式会社エヌ・エムにそれぞれ委託した。また自然科学分析は一般社団法人　文化財科学研究センターおよびパリノサーヴェイ株式会社、漆器塗膜・素材分析、木製品保存処理を株式会社吉田生物研究所にそれぞれ委託した。

10　自然科学分析は各機関で分析方法が異なるため第６章で各節で分けて報告した。図版第 35 の花粉・37 の珪藻化石の写真は、パリノサーヴェイ株式会社の帰属である。

11　長崎遺跡に関するこれまでの成果発表のうち、本書と齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものとする。

12　遺構番号は調査区の別なく通し番号である。また図版、挿図、表の番号は符号し、写真の縮尺は不同である。

13　本書における水平レベルの表示は海抜高（m）を示し、方位は全て座標北を用いた。座標値は平面直角座標系第Ⅵ系に基づく。

14　土色及び遺物の色調については、『新版標準土色帳（2003 年度版）』（農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修）準拠にした。

15　本書に掲載した遺物ならびに調査に際して作成した図面・写真類は、一括して福井県教育庁埋蔵文化財調査センターに保管している。

16　発掘調査ならびに本書の作成にあたり、下記の機関、方々からの指導・協力を得た。

坂井市丸岡町長崎地区　福井県地域戦略部新幹線建設推進課

17　発掘調査には、地元の方々の参加・協力を得た。また、遺物整理作業には、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの整理・普及グループおよび会計年度任用職員があたった。

# 目　　次

第１章　調査の経緯 …… 1
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の経過 …… 2

第２章　遺跡の位置と周辺の地理的・歴史的環境 …… 3
第１節　地理的環境 …… 3
第２節　歴史的環境 …… 4

第３章　遺跡の概要 …… 7
第１節　基本層序…… 7
第２節　遺構の分布状況 …… 7
第３節　遺物の出土状況 …… 7

第４章　遺構…… 11
第１節　北調査区…… 11
第２節　南調査区…… 29

第５章　遺物…… 45
第１節　土器・陶磁器 …… 45
第２節　木製品 …… 68
第３節　石製品 ……100
第４節　金属製品 ……104

第６章　自然科学分析 ……109
第１節　長崎遺跡出土木製品の樹種……109
第２節　漆器・漆製品の分析……111
第３節　長崎遺跡出土布の材質調査……123
第４節　自然科学分析１……123
第５節　自然科学分析２……144

第７章　まとめ ……159

# 写真図版目次


図版第１　遺跡（１）遺跡近影（南から）
（２）遺跡遠景（南東から）
図版第２　遺構（１）北地区全景（北から）
（２）北地区全景（南から）
（３）北地区北端全景（東から）
（４）SB4（東から）
（７）SB5-SK1（北から）
図版第３　遺構（１）SE1（東から）
（２）SE2（西から）
（３）SE4（西から）
（４）SK1（南から）
（５）SK2（南から）
（６）SK2 遺物出土状況（東から）
（７）SK3（東から）
（８）SK7・8（東から）
図版第４　遺構（１）SK10・11（西から）
（２）SK13（南西から）
（３）SK15（東から）
（４）SK23（東から）
（５）SK24（南から）
（６）SK33（北東から）
（７）SK45（西から）
（８）SK50（東から）
図版第５　遺構（１）D・E4・5 地区溝（東から）
（２）SD1（東から）
（３）SD1（西から）
（４）SD15（南東から）
（５）SD15 遺物出土状況（北から）
図版第６　遺構（１）SD18（南から）
（２）SD26（西から）
（３）SD29（南西から）
（４）SD36（東から）
（５）SD36（東から）
（６）SD39（南から）
（７）SD70・71（東から）
（８）SP161（東から）
図版第７　遺構（１）南調査区全景（南から）
（２）SE5（南から）
（３）SE6（西から）
（４）SE6（西から）
（５）SE8（西から）
図版第８　遺構（１）SE10（東から）
（２）SE11（東から）
（３）SE12（北から）
（４）SE13（南から）
（５）SE14（北から）
（６）SE15（東から）
（７）SE16（北から）
（８）SE17（北から）
図版第９　遺構（１）SK57（北から）
（２）SK57（西から）
（３）SK57 遺物出土状況（北から）
（４）SD41 ～ 43（東から）
（５）SD43 遺物出土状況（北から）
（６）SD43 遺物出土状況（東から）
（７）SD43 遺物出土状況（北から）
（８）SD45（西から）
（９）SD57・58（西から）
図版第 10　遺物　北調査区　土器・陶磁器
図版第 11　遺物　北調査区　土器・陶磁器
図版第 12　遺物　北調査区　土器・陶磁器
図版第 13　遺物　南調査区　土器・陶磁器
図版第 14　遺物　南調査区　土器・陶磁器
図版第 15　遺物　南調査区　土器・陶磁器
図版第 16　遺物　南調査区　土器・陶磁器
図版第 17　遺物　木製品
図版第 18　遺物　木製品
図版第 19　遺物　木製品
図版第 20　遺物　木製品
図版第 21　遺物　木製品
図版第 22　遺物　木製品
図版第 23　遺物　石製品

図版第 24　遺物　石製品
図版第 25　遺物　金属製品
図版第 26　遺物　金属製品
図版第 27　遺物　金属製品
図版第 28　木製品の樹種
図版第 29　木製品の樹種
図版第 30　漆器　漆薄片
図版第 31　漆器　漆薄片
図版第 32　漆器　漆薄片
図版第 33　漆器　漆薄片・布
図版第 34　花粉化石
図版第 35　花粉化石
図版第 36　珪藻化石
図版第 37　珪藻化石・骨
図版第 38　植物遺体
図版第 39　植物遺体
図版第 40　植物遺体

# 挿　図　目　次

第１図　１・２次調査範囲 ……1
第２図　調査区位置図 ……2
第３図　遺跡周辺の地形図 ……3
第４図　周辺の遺跡分布図 ……5
第５図　調査地周辺の字名 ……6
第６図　全体図 ……9
第７図　北調査区建物(SB1)・柵列(SA2)実測図 ……12
第８図　北調査区建物(SB2)実測図 ……13
第９図　北調査区建物(SB2)柱穴実測図 ……14
第10図　北調査区建物(SB2)土坑実測図 ……15
第11図　北調査区道路(SS1)・柵列（SA1)実測図 …16
第12図　北調査区井戸実測図……19
第13図　北調査区井戸・土坑実測図……20
第14図　北調査区土坑実測図１……21
第15図　北調査区土坑実測図２……22
第16図　北調査区土坑実測図３……23
第17図　北調査区溝実測図１……24
第18図　北調査区溝実測図２……25
第19図　北調査区溝実測図３……26
第20図　北調査区溝実測図４……27
第21図　北調査区ピット実測図……28
第22図　南調査区井戸実測図１……31
第23図　南調査区井戸実測図２……32
第24図　南調査区井戸実測図３……33
第25図　南調査区井戸実測図４……34
第26図　南調査区土坑実測図１……37
第27図　南調査区土坑実測図２……38
第28図　南調査区溝実測図１ ……39
第29図　北調査区溝実測図２ ……40
第30図　北調査区溝実測図３ ……41
第31図　土師質皿分類図 ……45
第32図　土器・陶磁器実測図１ ……51
第33図　土器・陶磁器実測図２ ……52
第34図　土器・陶磁器実測図３ ……53
第35図　土器・陶磁器実測図４ ……54
第36図　土器・陶磁器実測図５ ……58
第37図　土器・陶磁器実測図６ ……59
第38図　土器・陶磁器実測図７ ……60
第39図　土器・陶磁器実測図８ ……61
第40図　土器・陶磁器実測図９ ……62
第41図　木製品計測位置と加工痕の分類 ……68
第42図　木製品実測図１ ……69
第43図　木製品実測図２ ……71
第44図　木製品実測図３ ……72
第45図　木製品実測図４ ……73
第46図　木製品実測図５ ……74
第47図　縦板組隅柱横桟留型井戸側の構造と井戸材
　　の計測位置 ……75
第48図　SE4 井戸材実測図 ……76
第49図　SE6 井戸材実測図１ ……77
第50図　SE6 井戸材実測図２ ……78
第51図　SE6 井戸材実測図３ ……79
第52図　SE6 井戸材実測図４ ……80
第53図　SE6 井戸材実測図５ ……81

第54図　SE6 井戸材実測図６ ……82
第55図　SE9 井戸材実測図調 ……83
第56図　SE10 井戸材実測図１……84
第57図　SE10 井戸材実測図２……85
第58図　SE11 井戸材実測図……86
第59図　SE13 井戸材実測図１……87
第60図　SE13 井戸材実測図２……88
第61図　SE12・14 井戸材実測図……89
第62図　SE17 井戸材実測図……90
第63図　SE18 井戸材実測図１……91
第64図　SE18 井戸材実測図２……92
第65図　長崎遺跡における木材利用図 ……93
第66図　柱根実測図 ……94
第67図　石製品実測図１……100
第68図　石製品実測図２……101
第69図　石製品実測図３……102
第70図　金属製品実測図１……105
第71図　金属製品実測図２……106
第72図　銭貨拓影図……106
第73図　漆器塗膜スペクトル図１……116
第74図　漆器塗膜スペクトル図２……117
第75図　漆器塗膜スペクトル図３……118
第76図　漆器塗膜スペクトル図４……119
第77図　漆器塗膜スペクトル図５……120
第78図　漆器塗膜スペクトル図６……121
第79図　漆器塗膜スペクトル図７……122
第80図　花粉ダイアグラム……129
第81図　主要珪藻ダイアグラム……132
第82図　大型植物遺体ダイアグラム……136
第83図　微細植物遺体（種実）ダイアグラム……142
第84図　主要花粉化石群集……149
第85図　主要珪藻化石群集……156
第86図　遺跡周辺の地形分類図……161
第87図　遺跡周辺の地籍図……161

# 表　目　次

第１表　出土遺物一覧表……8
第２表　掘立柱建物・柵列計測一覧……42
第３表　井戸計測一覧表……42
第４表　土坑計測一覧表……43
第５表　溝計測一覧表……43
第６表　道路計測一覧表……44
第７表　土器・陶磁器時間軸……47
第８表　土器・陶磁器観察表……63
第９表　出土押印一覧表……67
第10表　漆器観察表……96
第11表　箸観察表……96
第12表　楊枝・曲物・指物・下駄・部材など観察表……96
第13表　井戸材観察表……97
第14表　柱根・杭観察表……99
第15表　石製品観察表……103
第16表　金属製品観察表……107
第17表　銭貨観察表……108
第18表　分析試料……111
第19表　漆器の断面観察結果……112
第20表　分析試料……113
第21表　成分分析結果……114
第22表　成分分析結果……122
第23表　分析試料……123
第24表　分析試料……123
第25表　表面観察結果……123
第26表　分析試料一覧……124
第27表　花粉分析結果……128
第28表　珪藻分析結果……131
第29表　大型植物遺体（種実）同定結果……135
第30表　微細遺物分析結果……141
第31表　花粉分析結果……148
第32表　珪藻分析結果……154

# 第１章　調査の経緯

## 第１節　調査に至る経緯

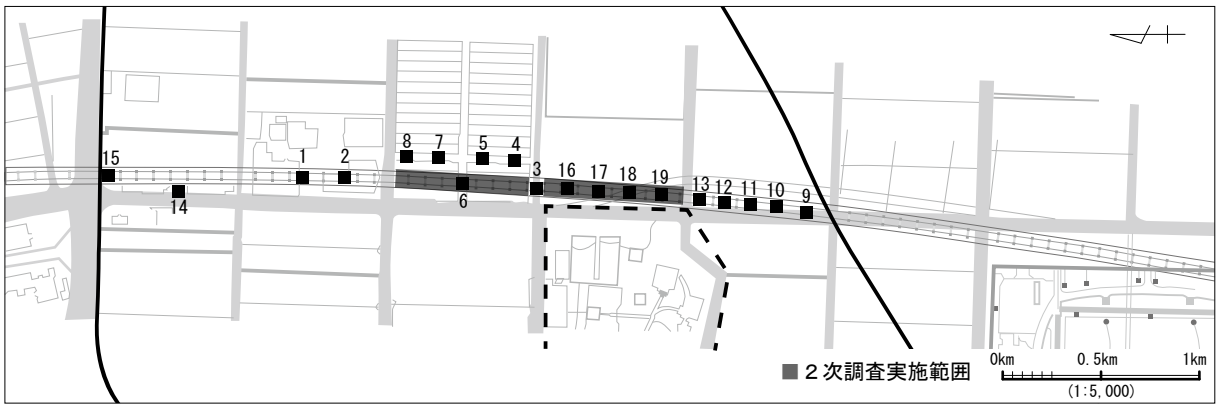
長崎遺跡は坂井市丸岡町長崎に所在し、その範囲内に長崎城跡も含まれる。調査前の現況は宅地、水田と畑地である。両遺跡とも周知の埋蔵文化財含蔵地であり、長崎遺跡は平安時代～中世の遺物散布地（福井県遺跡地図番号 13036）、長崎城跡は中世の城跡（同 13035）として福井県遺跡地図にみられる。

北陸新幹線は、東京から北陸地方を経て大阪に至る路線として国の整備計画が決定され、平成 27 年に長野・金沢間が営業を開始し、残る金沢・大阪間のうち福井駅部は平成 17 年、金沢・敦賀間については平成 24 年に工事実施計画が認可され、同年８月に着工された。これに伴い福井県教育庁生涯学習・文化財課（以下、文化財課）が工事の影響を受ける埋蔵文化財の取り扱いについて、事業主体である独立行政法人鉄道運輸施設整備機構（以下、鉄道機構）と福井県地域政略部新幹線建設推進課の間で協議を行った。

結果、埋蔵文化財含蔵地内において建設工事により直接的な影響を及ぼす箇所と、恒久的な工作物の設置箇所について内容把握のための１次調査（試掘調査）を実施し、必要に応じて記録保存のため２次調査（発掘調査）や工事立会を実施すること、また調査は鉄道機構が文化財課に依頼し、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター（以下、県埋文）が実施することとなった。

長崎遺跡の１次調査は平成 27 年 12 月 15 日～ 17 日に長崎佐羅栄遺跡を含めて行い、その結果を受け平成 28 年５月 14 日・６月１日に長崎遺跡で追加調査を行った。調査は試掘坑を 19 箇所設定して実施したが、土層の堆積状況から試掘坑６以北と 13 以南は低湿地とされ、遺構・遺物を確認して微高地とされた試掘坑３・16 近辺と、長崎城の堀との関連も想定できる旧河川を含む試掘坑 19 までの 2,850㎡が対象とされた。

以上のような経緯のもと、平成 28 年９月～平成 29 年３月までの７箇月間にわたり発掘調査を実施することとなった。本調査の位置は長崎称念寺の東側にあたる。




**第１図**　１・２次調査範囲（縮尺 1/5,000）

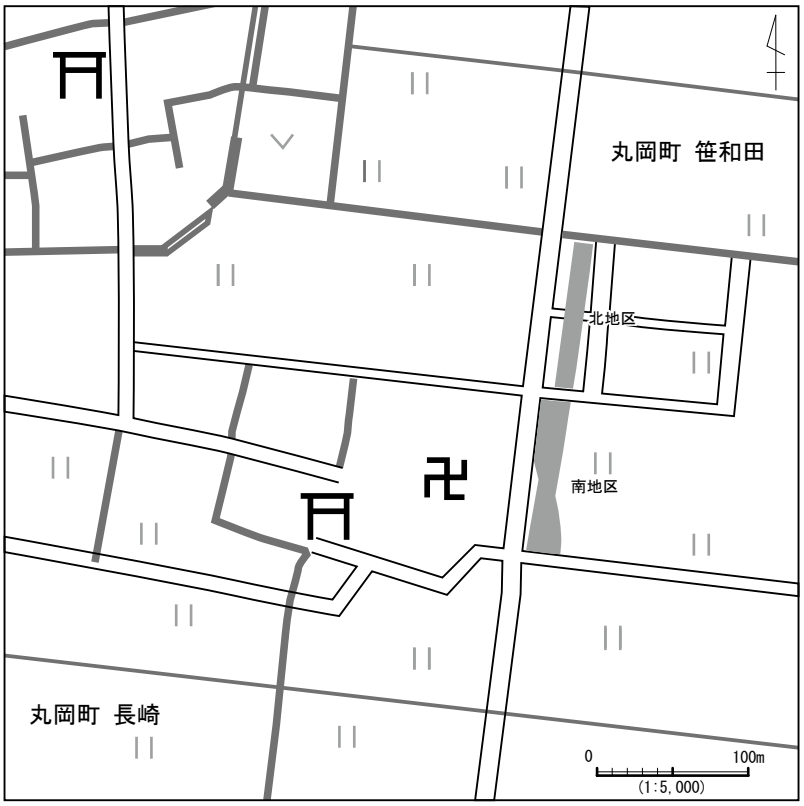
## 第２節　調査の経過

### １　現地調査

調査区は舗装農道を挟み南北長約 160 ｍである。調査は農道を挟み南調査区と北調査区に分けて実施した。北調査区が幅約 10 ｍで延びるのに対し、南調査区は北側と南側が横に広がる歪な形である。

調査区の区割りは北・南調査区で統一し、国土座標に沿い一辺 10 ｍとし、南北方向は北から順にアラビア数字１～ 22、東西方向は西から順にアルファベットＡ～Ｇを用いて表示させた。

調査は平成 28 年９月～平成 29 年３月まで実施した。調査は９月 15 日から開始し、３月 21 日の期間で行ったが、12 月 27 日～２月 26 日の間は冬季のために調査を休止した。調査は表土はぎ、遺構検出と遺構掘削、写真測量の工程で実施した。また平成 29 年３月 25 日には現地説明会を行った。




**第２図**　調査区位置図

なお、調査の結果、北調査区北端と南調査区南半部には遺構が存在しないことが判明した。ただ南調査区の同箇所近辺は１次調査の結果、堀跡とも想定され、越前焼や中国陶磁器等が出土しているためトレンチを任意に設定して調査を行った。結果、旧河川と判明したが、同河川は令和２年度実施の福井港丸岡インター連絡道路改良事業の発掘調査でもみられ、南西へ延びることが判明した。調査でこの旧河川より東側では遺構が確認できない点から、ここが称念寺を中心とする寺内町の東側の境になるものと思われる。また本調査区は遺跡の西端部付近と考える。

### ２　遺物整理

出土遺物の整理作業は､北陸新幹線建設事業に伴う多数の遺物整理作業と並行して実施せざるを得ず、平成 29 年４月～令和５年３月にわたり継続して実施した。

平成 29 年度は珪藻分析と花粉分析、大型および微細植物遺体分析など自然科学分析も行った。

平成 30 年度は出土遺物の洗浄と注記作業、令和元年度に接合、復元作業、令和２年度に土器・陶磁器の遺物実測とトレースと写真撮影、石製品と金属製品のトレース作業を行った。

令和３年度に木製品の保存処理を実施した。

令和４年度には原稿執筆と写真図版作成、編集作業を実施した。

以上の作業と令和５年度３月の報告書刊行をもって長崎遺跡の発掘調査を完了した。

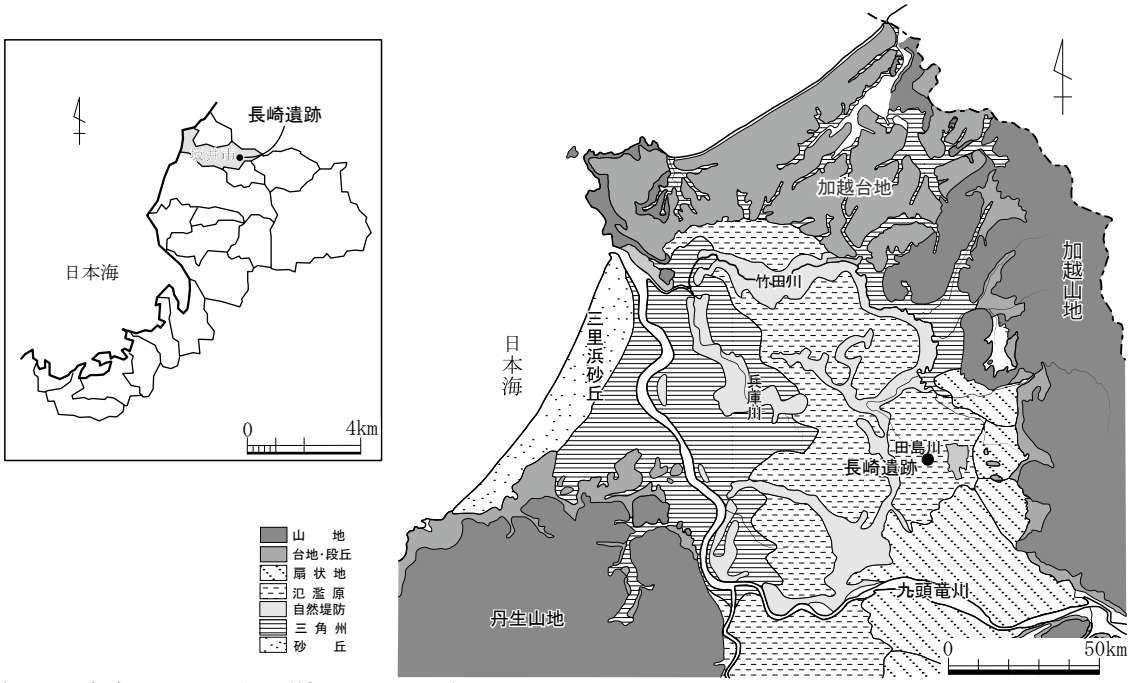
# 第２章　遺跡の位置と周辺の地理的・歴史的環境

## 第１節　地理的環境

長崎遺跡が所在する坂井市は、福井県北部に位置する。福井県北部の地形は、九頭竜川・竹田川・兵庫川等で形成された沖積平野が多くを占める。この沖積平野は坂井平野と呼ばれ、東側を加越山地、北側を加越台地、西側を日本海に囲まれ、南側は九頭竜川を挟み福井平野へと続く。九頭龍川をはじめとする各河川の流域は、山地から平野への流入部が扇状地、中央部が氾濫原、中央部から下流域が広大な三角州となる。氾濫原上には自然堤防と後背湿地が形成されている。長崎遺跡南側には兵庫川が南東方向から北西方向へ蛇行して流れ、北側には田島川が東西方向に流れている。田島川は遺跡南側を幾筋にも分岐して流れていたと思われ、当遺跡内の長崎城跡と北方にある舟寄館が、自然堤防に立地するように、おおむね自然堤防と氾濫原に地形区分される（第３図）。

しかし、過去に行われた土地改良事業により自然堤防の掘削と後背湿地への盛土、同様に河川改修事業によって流域の変更が行われ、現在では景観上・地図上で旧地形が容易に判断できない状況である。また、坂井平野に広がる沖積平野は丘陵地と比べ河川の氾濫による地形変動が起きやすく、こうした状況変化が当平野における遺跡分布の特徴を示す要因である。このため坂井平野内の各遺跡の旧地形の把握は、発掘調査や試掘調査の成果が重要となる。

発掘調査の結果、長崎遺跡の調査区は北・南部が低湿地であると判断され、北側に位置する舟寄本廟遺跡の南側でも明確な遺構・遺物は広がらず、長期にわたり低湿地が広がっていたと考えられる。しかし調査区は東西幅が狭く、南北の低湿地を除いた自然堤防の全形や規模は明確ではない。ただ、令和２年に行われた福井港丸岡インター連絡道路改良事業に伴う発掘調査により、称念寺南側で遺構が検出されており、南西方向には延びていたと考えられる。




**第３図**　遺跡周辺の地形図（縮尺 1/250,000）

## 第２節　歴史的環境

長崎遺跡（１）周辺における遺跡の様相について時代別に概観する（第４図）。

**縄文時代**　発掘調査を行った遺跡は、舟寄遺跡（31）・舟寄福島通遺跡（30）・若宮遺跡（７）・沖布目北遺跡（13）がある。このうち舟寄遺跡では中期の竪穴建物 19 棟に土坑 96 基等を検出しており、短期間に営まれた集落の存在が明らかにされた。建物の配置から環状集落の可能性がある。土器を除く遺物は翡翠と瑪瑙の玉が出土している。舟寄遺跡近隣の沖布目北遺跡は中期～晩期と時間幅があるが、多くの埋設土器と土器だまりがみられ、土製耳飾りも出土している。

晩期には集落が北方に移動し、若宮遺跡では当期の土器を含む土坑等が確認され、舟寄福島通遺跡では埋設土器と住居と思われる柱穴群を検出している。

**弥生時代**　弥生時代前期の遺跡は不明確だが、中・後期には舟寄福島通遺跡で方形周溝墓と平地住居がみられる。若宮遺跡や高柳・下安田遺跡（50）でも集落が営まれ、後者では銅鐸片３点や発泡した土器が出土しており、集落内で青銅器の鋳造を行っていたと思われる。舟寄福島通遺跡や高柳・下安田遺跡では玉作関連遺物が出土しており、集落の性格を反映していよう。

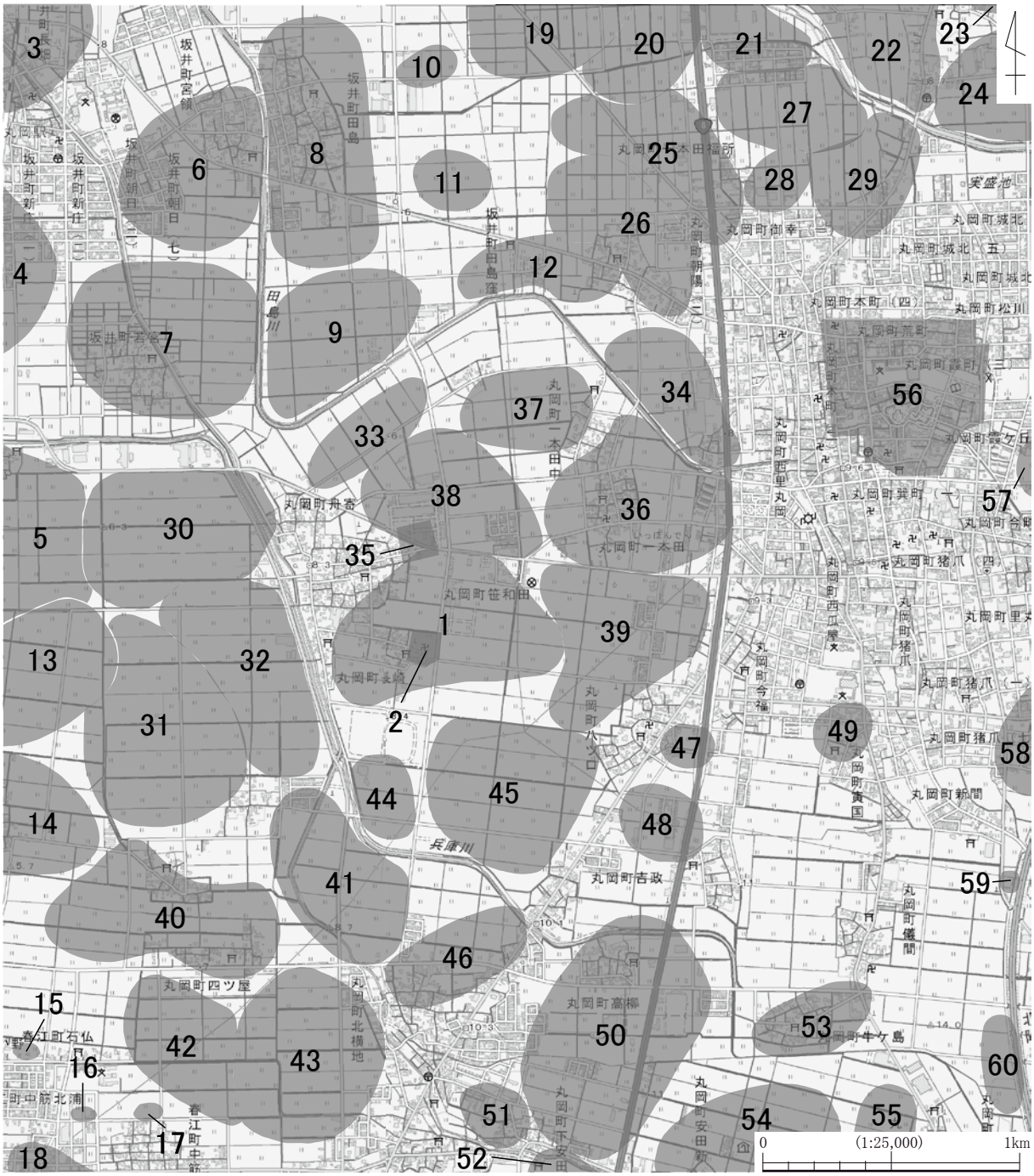
**古墳時代**　この時代の遺跡は少ないが、舟寄福島通遺跡では中期～後期の井戸が検出され、５世紀中葉の須恵器坏蓋が１点のみ出土している。若宮遺跡では後期の旧河川上層で土師器・須恵器が多く出土している。このほか舟寄本廟遺跡、高柳・下安田遺跡、上安田向出遺跡、北横地森里遺跡（46）で土器が出土しているものの明確な遺構はない。

**奈良・平安時代**　若宮遺跡で古代の可能性のある溝等がみられ、縄文時代晩期からの集落の継続が窺える。長崎遺跡の北方の舟寄本廟遺跡・舟寄築山遺跡（37・38）では、井戸から年輪年代測定で８～９世紀とされる墨書の曲物の底と赤彩暗文土師器坏が出土している。須恵器には古墳時代後期頃の有蓋高坏のほか７～９世紀の須恵器と土師器が定量ある。調査区に明確な古代の遺構はないが、周辺に遺構の広がる可能性がある。また北横地中才遺跡（41）の井戸から玉縁口縁の白磁碗が出土し、同時期の掘立柱建物もあるなど平安時代末頃の集落もみられる。なお舟寄集落には幕末建立の北陸道の道標が、北横地集落には一里塚の跡がある。

**中世**　若宮遺跡では中世の全時期にわたって 210 基の井戸が築かれており、村落における共同水場的な利用がなされたと考えられている。長崎遺跡と隣接する舟寄本廟遺跡・舟寄築山遺跡では掘立柱建物と井戸・区画溝が検出され、溝からは 13 世紀後半頃の土師質皿が大量に出土している。北横地中才遺跡でもほぼ同時期の掘立柱建物と井戸・区画溝等が検出され、この時期の遺跡が多く存在するものと考えられる。高柳・下安田遺跡では中・近世の井戸が５基みられる。

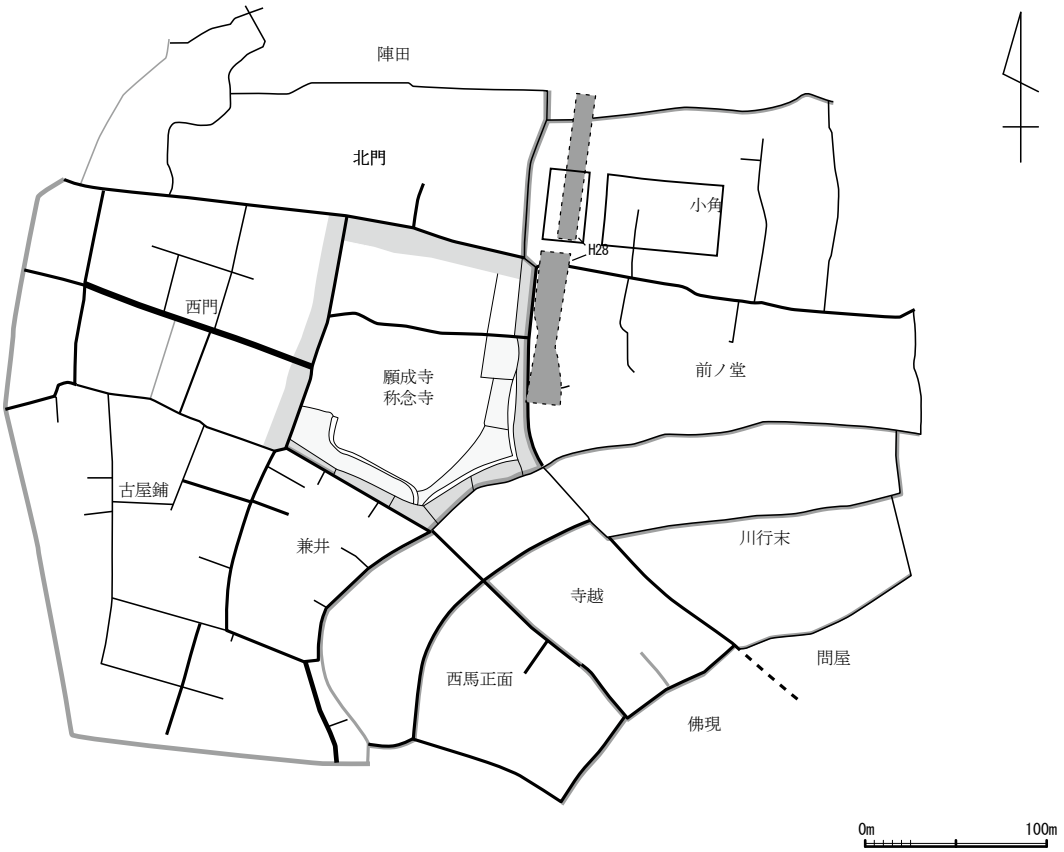
中世城館は長崎城跡（２）・舟寄城跡（35）がある。長崎城跡は長崎遺跡内に立地し、現称念寺に位置する。北方に文明 13（1481）年築城の朝倉氏家臣黒坂備中上景久の居館である舟寄城跡があるが、調査は行われておらず詳細は不明である。ただ、領主景久が姉川の戦いに元亀元（1570）年に出陣する際、領民が領主の武運長久を祈願した舟寄踊りが舟寄地区に今も伝わる。

字名に注目すると長崎遺跡内には門前町と関係するものがみられ、現称念寺に「願成寺」、西側に「西門」、北側に「北門」、東側に「前ノ堂」の名が残る。長崎城跡は南北朝時代頃には存在し、南朝方の重要な拠点であり、文明４（1472）年には甲斐・朝倉両氏の合戦の折にも重要視されている。なお、当城跡の規模は東西約 110 m、南北約 140 m程で南と東に突出した五角形を呈する。東側と南側に土塁が築かれ、周囲に堀が巡っている。




| No. | 遺跡番号 | 遺跡名 | No. | 遺跡番号 | 遺跡名 | No. | 遺跡番号 | 遺跡名 | No. | 遺跡番号 | 遺跡名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 13035 | 長崎遺跡 | 16 | 12045 | 中筋水久保遺跡 | 31 | 13027 | 舟寄遺跡 | 46 | 13044 | 北横地森里遺跡 |
| 2 | 13036 | 長崎城跡 | 17 | 12046 | 中筋高場遺跡 | 32 | 13028 | 舟寄正堺遺跡 | 47 | 13045 | 八ツ口中樋爪遺跡 |
| 3 | 11055 | 長畑・定旨遺跡 | 18 | 12048 | 中筋遺跡 | 33 | 13029 | 舟寄蜘地袋遺跡 | 48 | 13046 | 八ツ口南平遺跡 |
| 4 | 11064 | 上新庄遺跡 | 19 | 13007 | 宇田遺跡 | 34 | 13031 | 一本田野中遺跡 | 49 | 13047 | 寅国遺跡 |
| 5 | 11065 | 福島遺跡 | 20 | 13008 | 玄女遺跡 | 35 | 13033 | 舟寄城跡 | 50 | 13048 | 高柳・下安田遺跡 |
| 6 | 11067 | 宮領遺跡 | 21 | 13009 | 千田遺跡 | 36 | 13034 | 一本田遺跡 | 51 | 13049 | 下安田岸ノ下遺跡 |
| 7 | 11068 | 若宮遺跡 | 22 | 13010 | 長畝西遺跡 | 37 | 13030 | 舟寄築山遺跡 | 52 | 13051 | 下安田高ノ下遺跡 |
| 8 | 11069 | 田島遺跡 | 23 | 13011 | 長畝館跡 | 38 | 13032 | 舟寄本廟遺跡 | 53 | 13053 | 牛ケ島遺跡 |
| 9 | 11070 | 田島狐畑遺跡 | 24 | 13019 | 女形谷・長畝遺跡 | 39 | 13037 | 一本田清水ケ上遺跡 | 54 | 13054 | 安田新遺跡 |
| 10 | 11071 | 宮領京政遺跡 | 25 | 13021 | 福所旧戸遺跡 | 40 | 13038 | 四ツ屋舟寄遺跡 | 55 | 13056 | 高瀬熊尾遺跡 |
| 11 | 11072 | 田島窪五ケ遺跡 | 26 | 13022 | 一本田福所遺跡 | 41 | 13039 | 北横地中才遺跡 | 56 | 13062 | 丸岡城跡 |
| 12 | 11073 | 田島窪遺跡 | 27 | 13023 | 福所河田遺跡 | 42 | 13040 | 四ツ屋南遺跡 | 57 | 13072 | 八ケ郷遺跡 |
| 13 | 12042 | 沖布目北遺跡 | 28 | 13024 | 福所大坪遺跡 | 43 | 13041 | 北横地石橋遺跡 | 58 | 13073 | 里丸岡遺跡 |
| 14 | 12043 | 沖布目遺跡 | 29 | 13025 | 千田鈍田遺跡 | 44 | 13042 | 長崎佐羅栄遺跡 | 59 | 13089 | 新間安永遺跡 |
| 15 | 12044 | 石仏遺跡 | 30 | 13026 | 舟寄福島通遺跡 | 45 | 13043 | 八ツ口・吉政遺跡 | 60 | 13092 | 高瀬中郡遺跡 |

**第４図**　周辺の遺跡分布図（縮尺1/25,000）




**第５図**　調査地周辺の字名（縮尺 1/5,000）

引用・参考文献

国土地理院 2004『１：25000 土地条件図　福井』
坂井市教育委員会 2017『長崎遺跡』
坂井町誌編纂委員会 1973『坂井町誌』
福井県教育委員会 1987『福井県の中・近世城郭跡』
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2010『高柳・下安田遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第 112 集
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2011『舟寄福島通遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第 120 集
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2012『若宮遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第 127 集
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2012『舟寄本廟遺跡・舟寄築山遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第 179 集
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2012『北横地中才遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第 180 集
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2020「長崎遺跡」『第 35 回福井県発掘調査報告会資料』
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2021「長崎遺跡」『第 36 回福井県発掘調査報告会資料』
福井県編 1994『福井県史　通史編２ 中世』
丸岡町誌編集委員会 1989『丸岡町誌』

# 第３章　遺跡の概要

## 第１節　基本層序

調査区の現況は水田で、水田面から 0.3 ～ 0.7 ｍ下位で遺構確認面となる。遺構確認面は北・南調査区とも同一である。水田面下に試掘調査で包含層とされた灰褐色土が 0.1 ｍ程堆積するが、遺物の出土量が少なく、両調査区の遺構深度が浅いことから、圃場整備に関わる土壌と考えられる。なお、その下位には遺構確認面の黄褐色土を認める。

## 第２節　遺構の分布状況

北調査区で検出・認定した遺構には、掘立柱建物と雨落ち溝を伴う建物と判断される建物２棟、柵列２基、道路遺構１基、井戸４基、土坑 48 基、溝 42 条に柱穴・ピット 340 基程がある。

全体の分布は北端部を除いて密に広がる。遺構の種別分布のうち 10 列に掘立柱建物と８列に柵列および雨落ち溝の巡る建物があり、周囲に土坑が密にある。井戸は南調査区と異なり散在し、溝は２～５列に集中する。土坑・柱穴・ピットは４列、６・８列に密に認める。

南調査区で検出・認定した遺構には、井戸 13 基、土坑 18 基、溝 29 条、柱穴・ピット 80 基程がある。

全体の分布は北半部に集中する。遺構の種別分布は 12 列に井戸や溝が集中し、それ位南にそれらが散在する傾向を認める。井戸の形態は多様で規模の大きいものを２基認める。溝は多くが東西に延び、軸も概ね揃っている。土坑は井戸や溝とまとまるが､ピットも含めると 13 列西側や 14 列東側に広がる。

両調査区は遺構深度から圃場整理の影響を考慮すべきながら、土地利用の様相を一定程度反映していると思われる。

## 第３節　遺物の出土状況

今回の調査区で出土した土器・陶磁器は接合したものを１点と数える総数は破片数で 11,839 点を数える。その内訳は第１表に示したが、その大半は中世に属する。なお出土遺物の多くは細片であり、器形を把握し難いものも含むため、いずれも大分類で提示しており、産地毎の器種は、その様相を述べるに留めた。また北・南調査区別の出土遺物と遺構別の比率も示した。

調査区内の遺物密度は 2,850㎡に対し破片数 11,839 点で、１㎡で 41 点程である。

器種別では越前焼と土師質皿が大半で瀬戸焼・瓦質土器が続く。越前焼は細片が多く、法量の大きな甕・壺類が大半を占め、鉢類では片口鉢が擂鉢を凌駕する。瀬戸焼には天目茶碗や皿・鉢類が目立つ。皿類は緑釉小皿や卸皿、鉢類は折縁深皿が多い。輸入陶磁器は約 17％を占める。白磁が青磁より多く、前者は皿、後者は碗が目立つ。

北・南調査区別では、南調査区が遺構密度は低いものの越前焼の甕・壺と片口鉢の出土量が多く、北調査区より数量は多い。また北調査区のみ信楽焼があり、珠洲焼も目立つ。

遺構別にみると溝・井戸・土坑等の順で多い。調査区別では溝出土遺物がいずれも多いが、南調査区は井戸の数が多いため井戸・土坑の順、北調査区ではその逆の数値を示す。

以上の数値は遺物の時期を反映していないが、遺跡の大まかな様相を示すものといえよう。

この在り方は地元で生産が可能な土師質皿と貯蔵・調理具以外を他の産地で補う様相を示している。

## **第１表**　出土遺物一覧表

総数

| 品種 | | 器種 | 破片数 | % |
|---|---|---|---|---|
| 国産陶磁器 | 越前焼 | 甕・壺 | 3,074 | 25.90 |
| | | 片口鉢 | 691 | 5.82 |
| | | 擂鉢 | 82 | 0.68 |
| | | 計 | 3,847 | 32.40 |
| | 珠洲焼 | 甕・壺・鉢 | 48 | 0.40 |
| | 加賀焼 | 甕・壺 | 13 | 0.12 |
| | 信楽焼 | 甕・壺 | 14 | 0.12 |
| | 常滑焼 | 甕・壺 | 3 | 0.04 |
| | 土師質皿 | | 7,274 | 61.32 |
| | 瓦質土器 | 風炉・火鉢 | 133 | 1.12 |
| | 瀬戸焼 | 碗・皿・鉢 | 174 | 1.48 |
| | 山茶碗 | | 13 | 0.12 |
| | 古代 | | 84 | 0.72 |
| | その他 | | 37 | 0.32 |
| | 計 | | 7,793 | 65.76 |
| 中国品 | 白磁 | 碗・皿 | 129 | 1.08 |
| | 青磁 | 碗・皿 | 80 | 0.68 |
| | 青白磁等 | 碗・皿 | 8 | 0.08 |
| | 計 | | 217 | 1.84 |
| 計 | | | 11,857 | 100.0 |

北調査区総数

| 品種 | | 器種 | 破片数 | % |
|---|---|---|---|---|
| 国産陶磁器 | 越前焼 | 甕・壺 | 1,280 | 22.76 |
| | | 片口鉢 | 235 | 4.18 |
| | | 擂鉢 | 45 | 0.80 |
| | | 計 | 1,560 | 27.74 |
| | 珠洲焼 | 甕・壺・鉢 | 45 | 0.80 |
| | 加賀焼 | 甕・壺 | 3 | 0.04 |
| | 信楽焼 | 甕・壺 | 14 | 0.25 |
| | 常滑焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 土師質皿 | | 3,690 | 65.60 |
| | 瓦質土器 | 風炉・火鉢 | 69 | 1.22 |
| | 瀬戸焼 | 碗・皿・鉢 | 105 | 1.86 |
| | 山茶碗 | | 6 | 0.10 |
| | 古代 | | 25 | 0.44 |
| | その他 | | 13 | 0.24 |
| | 計 | | 3,970 | 70.55 |
| 中国品 | 白磁 | 碗・皿 | 24 | 0.44 |
| | 青磁 | 碗・皿 | 63 | 1.12 |
| | 青白磁等 | 碗・皿 | 8 | 0.14 |
| | 計 | | 95 | 1.70 |
| 計 | | | 5,625 | 100.0 |

| 品種 | | 器種 | 破片数 | % |
|---|---|---|---|---|
| 国産陶磁器 | 越前焼 | 甕・壺 | 1,794 | 28.84 |
| | | 片口鉢 | 446 | 7.18 |
| | | 擂鉢 | 37 | 0.58 |
| | | 計 | 2,277 | 36.60 |
| | 珠洲焼 | 甕・壺・鉢 | 3 | 0.05 |
| | 加賀焼 | 甕・壺 | 10 | 0.16 |
| | 信楽焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 常滑焼 | 甕・壺 | 3 | 0.05 |
| | 土師質皿 | | 3,584 | 57.61 |
| | 瓦質土器 | 風炉・火鉢 | 64 | 1.02 |
| | 瀬戸焼 | 碗・皿・鉢 | 69 | 1.12 |
| | 山茶碗 | | 7 | 0.12 |
| | 古代 | | 59 | 0.95 |
| | その他 | | 23 | 0.36 |
| | 計 | | 3,822 | 61.44 |
| 中国品 | 白磁 | 碗・皿 | 56 | 0.90 |
| | 青磁 | 碗・皿 | 66 | 1.06 |
| | 青白磁等 | 碗・皿 | 0 | 0.00 |
| | 計 | | 122 | 1.96 |
| 計 | | | 6,221 | 100.0 |

北調査区溝出土遺物

| 品種 | | 器種 | 破片数 | % |
|---|---|---|---|---|
| 国産陶磁器 | 越前焼 | 甕・壺 | 726 | 26.34 |
| | | 片口鉢 | 111 | 4.02 |
| | | 擂鉢 | 27 | 0.98 |
| | | 計 | 864 | 31.34 |
| | 珠洲焼 | 甕・壺・鉢 | 18 | 0.64 |
| | 加賀焼 | 甕・壺 | 2 | 0.08 |
| | 信楽焼 | 甕・壺 | 2 | 0.08 |
| | 常滑焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 土師質皿 | | 1,680 | 60.96 |
| | 瓦質土器 | 風炉・火鉢 | 39 | 1.42 |
| | 瀬戸焼 | 碗・皿・鉢 | 62 | 2.26 |
| | 山茶碗 | | 1 | 0.04 |
| | 古代 | | 15 | 0.54 |
| | その他 | | 11 | 0.40 |
| | 計 | | 1,830 | 66.41 |
| 中国品 | 白磁 | 碗・皿 | 15 | 0.54 |
| | 青磁 | 碗・皿 | 42 | 1.52 |
| | 染付 | 碗・皿 | 5 | 0.18 |
| | 計 | | 62 | 2.25 |
| 計 | | | 2,756 | 100.0 |

北調査区土坑出土遺物

| 品種 | | 器種 | 破片数 | % |
|---|---|---|---|---|
| 国産陶磁器 | 越前焼 | 甕・壺 | 253 | 17.12 |
| | | 片口鉢 | 58 | 3.92 |
| | | 擂鉢 | 3 | 0.20 |
| | | 計 | 314 | 21.24 |
| | 珠洲焼 | 甕・壺・鉢 | 16 | 1.08 |
| | 加賀焼 | 甕・壺 | 1 | 0.08 |
| | 信楽焼 | 甕・壺 | 10 | 0.68 |
| | 常滑焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 土師質皿 | | 1,082 | 73.26 |
| | 瓦質土器 | 風炉・火鉢 | 17 | 1.15 |
| | 瀬戸焼 | 碗・皿・鉢 | 9 | 0.60 |
| | 山茶碗 | | 5 | 0.34 |
| | 古代 | | 5 | 0.34 |
| | その他 | | 2 | 0.14 |
| | 計 | | 1,147 | 77.66 |
| 中国品 | 白磁 | 碗・皿 | 5 | 0.34 |
| | 青磁 | 碗・皿 | 10 | 0.68 |
| | 染付 | 碗・皿 | 1 | 0.08 |
| | 計 | | 16 | 1.10 |
| | | | 1,477 | 100.0 |

| 品種 | | 器種 | 破片数 | % |
|---|---|---|---|---|
| 国産陶磁器 | 越前焼 | 甕・壺 | 151 | 45.48 |
| | | 片口鉢 | 38 | 11.44 |
| | | 擂鉢 | 5 | 1.52 |
| | | 計 | 194 | 58.44 |
| | 珠洲焼 | 甕・壺・鉢 | 7 | 2.12 |
| | 加賀焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 信楽焼 | 甕・壺 | 2 | 0.60 |
| | 常滑焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 土師質皿 | | 101 | 30.42 |
| | 瓦質土器 | 風炉・火鉢 | 8 | 2.42 |
| | 瀬戸焼 | 碗・皿・鉢 | 12 | 3.60 |
| | 山茶碗 | | 0 | 0.00 |
| | 古代 | | 2 | 0.60 |
| | その他 | | 0 | 0.00 |
| | 計 | | 132 | 39.76 |
| 中国品 | 白磁 | 碗・皿 | 1 | 0.30 |
| | 青磁 | 碗・皿 | 5 | 1.50 |
| | 染付 | 碗・皿 | 0 | 0.00 |
| | 計 | | 6 | 1.80 |
| | | | 332 | 100.0 |

南調査区溝出土遺物

| 品種 | | 器種 | 破片数 | % |
|---|---|---|---|---|
| 国産陶磁器 | 越前焼 | 甕・壺 | 1,107 | 35.96 |
| | | 片口鉢 | 197 | 6.40 |
| | | 擂鉢 | 33 | 1.08 |
| | | 計 | 1,337 | 43.44 |
| | 珠洲焼 | 甕・壺・鉢 | 2 | 0.06 |
| | 加賀焼 | 甕・壺 | 7 | 0.22 |
| | 信楽焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 常滑焼 | 甕・壺 | 1 | 0.04 |
| | 土師質皿 | | 1,504 | 48.86 |
| | 瓦質土器 | 風炉・火鉢 | 43 | 1.40 |
| | 瀬戸焼 | 碗・皿・鉢 | 57 | 1.85 |
| | 山茶碗 | | 5 | 0.16 |
| | 古代 | | 32 | 1.04 |
| | その他 | | 13 | 0.42 |
| | 計 | | 1,664 | 54.06 |
| 中国品 | 白磁 | 碗・皿 | 36 | 1.18 |
| | 青磁 | 碗・皿 | 41 | 1.32 |
| | 染付 | 碗・皿 | 0 | 0.00 |
| | 計 | | 77 | 2.50 |
| | | | 3,078 | 100.0 |

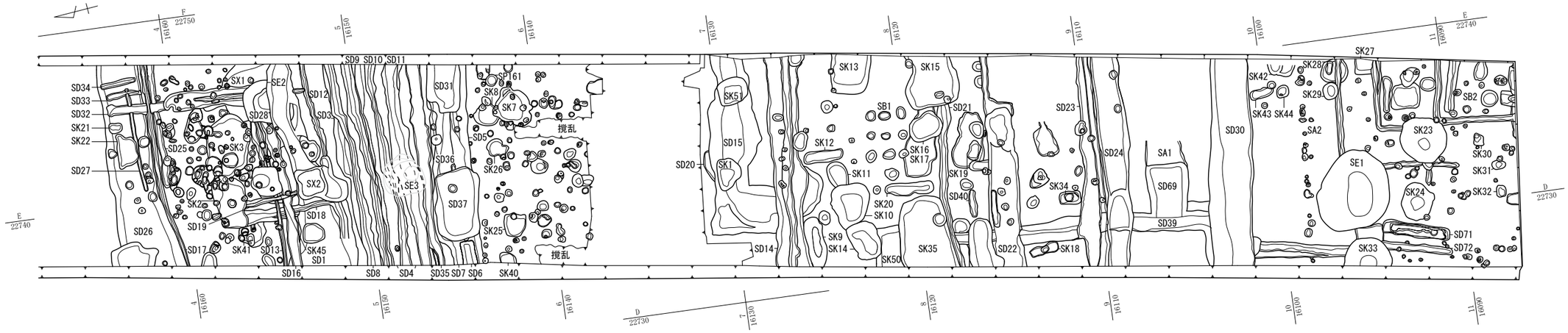
南調査区土坑出土遺物

| 品種 | | 器種 | 破片数 | % |
|---|---|---|---|---|
| 国産陶磁器 | 越前焼 | 甕・壺 | 73 | 14.46 |
| | | 片口鉢 | 34 | 6.76 |
| | | 擂鉢 | 0 | 0.00 |
| | | 計 | 107 | 21.22 |
| | 珠洲焼 | 甕・壺・鉢 | 1 | 0.20 |
| | 加賀焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 信楽焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 常滑焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 土師質皿 | | 383 | 76.00 |
| | 瓦質土器 | 風炉・火鉢 | 1 | 0.20 |
| | 瀬戸焼 | 碗・皿・鉢 | 1 | 0.20 |
| | 山茶碗 | | 0 | 0.00 |
| | 古代 | | 2 | 0.40 |
| | その他 | | 1 | 0.20 |
| | 計 | | 389 | 77.20 |
| 中国品 | 白磁 | 碗・皿 | 3 | 0.60 |
| | 青磁 | 碗・皿 | 5 | 0.98 |
| | 染付 | 碗・皿 | 0 | 0.00 |
| | 計 | | 8 | 1.58 |
| | | | 504 | 100.0 |

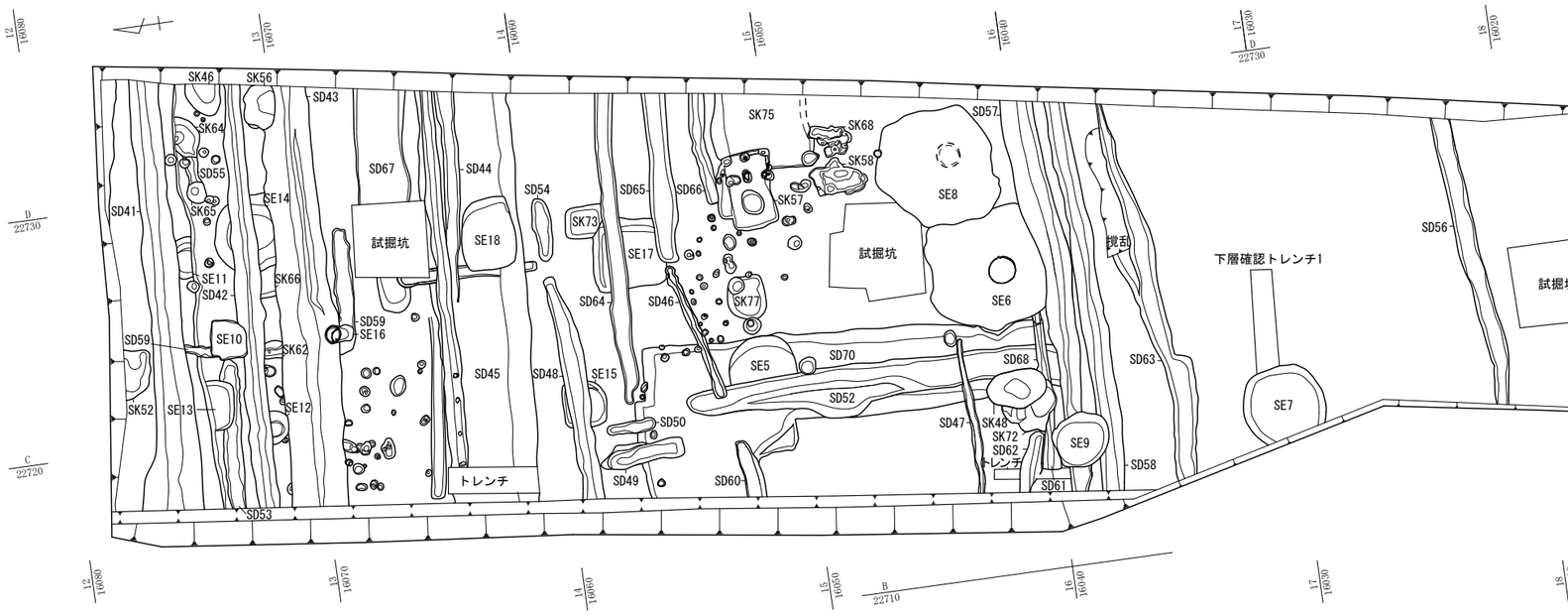
北調査区井戸出土遺物

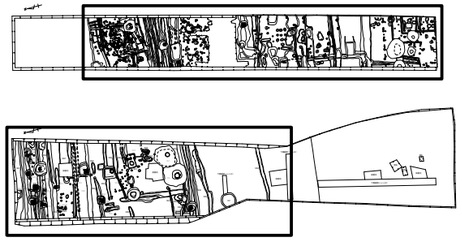
| 品種 | | 器種 | 破片数 | % |
|---|---|---|---|---|
| 国産陶磁器 | 越前焼 | 甕・壺 | 591 | 23.72 |
| | | 片口鉢 | 207 | 8.30 |
| | | 擂鉢 | 4 | 0.16 |
| | | 計 | 802 | 32.18 |
| | 珠洲焼 | 甕・壺・鉢 | 0 | 0.00 |
| | 加賀焼 | 甕・壺 | 3 | 0.12 |
| | 信楽焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 常滑焼 | 甕・壺 | 0 | 0.00 |
| | 土師質皿 | | 1,583 | 63.52 |
| | 瓦質土器 | 風炉・火鉢 | 20 | 0.80 |
| | 瀬戸焼 | 碗・皿・鉢 | 11 | 0.44 |
| | 山茶碗 | | 2 | 0.08 |
| | 古代 | | 25 | 1.00 |
| | その他 | | 9 | 0.36 |
| | 計 | | 1,653 | 66.33 |
| 中国品 | 白磁 | 碗・皿 | 17 | 0.68 |
| | 青磁 | 碗・皿 | 20 | 0.80 |
| | 染付 | 碗・皿 | 0 | 0.00 |
| | 計 | | 37 | 1.49 |
| | | | 2,492 | 100.0 |

北調査区




南調査区



0.00m　10.00m　20.00m
(S=1/250)

**第６図**　全体図（縮尺1/250）

# 第４章　遺構

今回の調査で検出・認定した遺構は掘立柱建物、井戸・土坑・溝・柱穴・ピットや旧河川等がある。遺構は同一面で検出しており、出土遺物に基づく所属時期は 13 世紀後半～ 15 世紀代に収まる。以下、主要な遺構について説明する。説明は北・南調査区に区別して行う。

## 第１節　北調査区

検出した主な遺構には掘立柱建物・井戸・土坑・溝等がある。ただ圃場整備の際に掘削されており、多くの遺構の深度は極めて浅い。

### １　掘立柱建物・柵列

SB2 は柱穴の並びは不明確だが、雨落ち溝と考える溝が方形に巡るため建物跡と認定した。雨落ち溝内にある土坑 10 基も建物に伴う遺構と捉えたため同様に扱う。

**SB1**（第７図）　Ｅ７に位置する。規模は桁行 2.8 ｍ（２間）×梁行 2.4 ｍ（２間）程である。柱穴の掘方は平面型が楕円形、断面形態は弧状で 0.4 ～ 0.5 ｍ、深さは 0.2 ｍに収まる。柱穴間の寸法は、桁行で 0.5 ～ 0.7 ｍ程、梁行で 0.2 ～ 0.4 ｍ程と統一性を認めない。

**SB2**（第８図）　E10 に位置する。規則的に並ぶ柱穴は存在しないが、方形状に巡る雨落ち溝と考えられる溝が巡るため建物として扱う。溝は SD1・2・4 とも幅 0.3 ～ 0.5 ｍ、深さ 0.2 ～ 0.3 ｍ程を測る。溝内に幅 0.2 ～ 0.45 ｍ程の小規模なピットが 26 基みられるが、その内の 10 基に柱の痕跡を認める。規模からは仮設的な小屋の可能性がある。なお SK23 に切られる SD1 から越前焼の片口鉢等が出土した。

このほか SB2 の敷地内には以下の土坑がある。

**SB2-SK1**（第 10 図）　E10 に位置する。平面型は直径 0.9 ｍ程の円形状を呈する。断面方は箱状で、深さ 1.1 ｍ程で達する床面は平坦で、覆土は水平に堆積する。小型の瓦質鉢（第 32 図 16）を認める。

**SB2-SK2～4**（第 10 図）　E11 に位置する。SK4 を SK2・SD1 が切り、SK2 を SK5 が切る。SK4 は深さ 0.4 ｍ、SK2 は幅 0.8 ｍ以上で深さ 0.6 ｍ、SK5 は幅 1.8 ｍ、深さ 0.5 ｍを測る。

**SB2-SK6・7**（第 10 図）　E10 に位置する。平面型は SK6 は長軸 1.2 ｍ、SK7 は長軸 1.6 ｍ程の楕円形で深さは 0.15 ～ 0.3 ｍ程を測る。遺物には未図化の越前焼の片口鉢や瀬戸焼を認める。

**SB2-SK8**（第 10 図）　E10 に位置する。幅 0.75 ｍ、深さ 0.2 ｍ程を測り、楕円形を呈する。

**SB2-SK9**（第 10 図）　E11 に位置する。幅 0.45 ｍ、深さ 0.2 ｍ程を測り、SD1 沿って東西にびる。

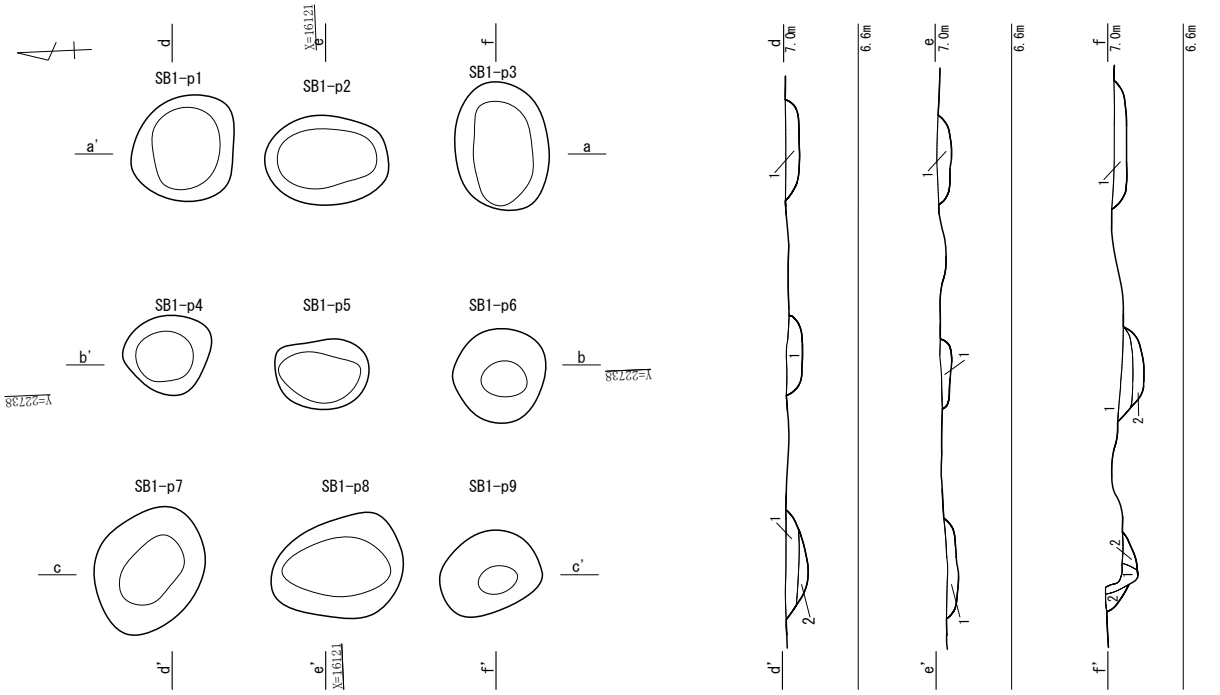
**SB2-SK10**（第 10 図）　E10 に位置する。幅は調査区外にでるため不明だが、深さ 0.1 ｍ程を測る。

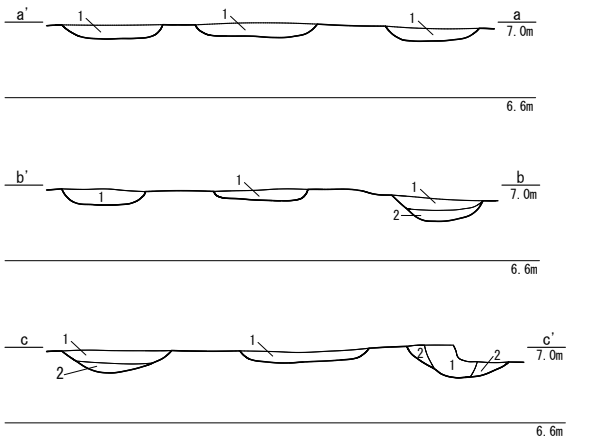
### ２　柵列

**SA1**（第７図）　D・E10 に位置する。柱穴の掘方は円形か楕円形である。直径 0.2 ～ 0.4 ｍ、深さ 0.3 ｍまでに収まる。１つを構成する柱穴数は２～３個で、その間は 0.8 ～１ｍ程を測る。

### ３　道路状遺構

**SS1**（第 11 図）　Ｄ～Ｅ９に位置する。SD23・24・30 を含めた規模は幅 9.1 ｍ程で、溝を除く幅は 4.2 ～ 5.0 ｍを測る。道を構成する溝は、SD23 が幅 0.9 ～ 1.6 ｍ、SD24 が 1.4 ～ 1.7 ｍ、SD30 は 2.0 ～ 2.5 ｍと幅があり、深さはそれぞれ 0.3 ｍまでに収まる。SD23 内部に等間隔にピット SA1 があり SD39 を切る。連弁文の青磁皿（第 34 図 39）等がある。




SB1-p1, p2, p3

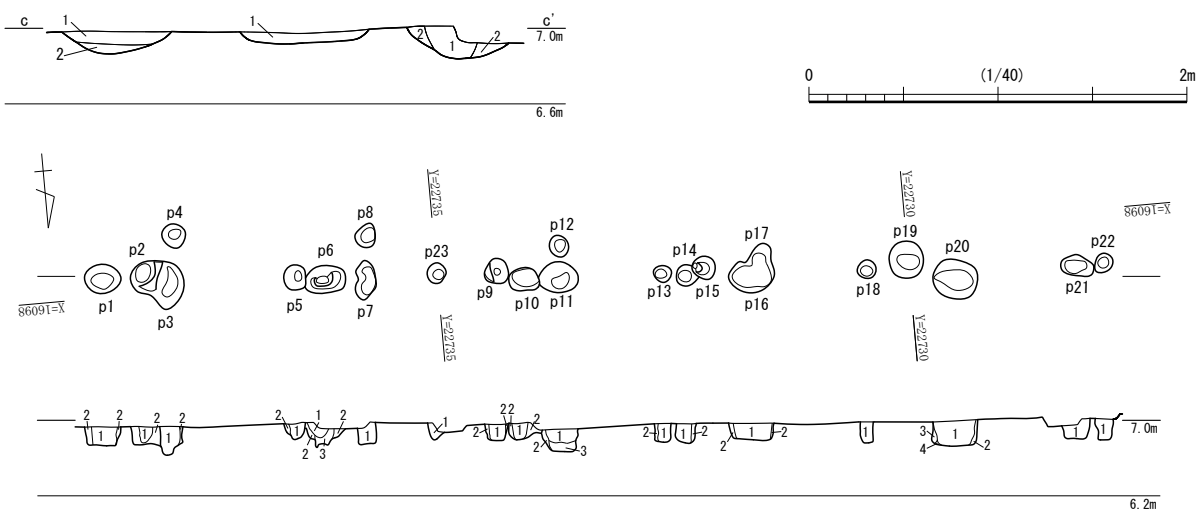
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | 少 | |

SB1-p4, p5, p6

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | 少 | |
| 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | 少 | |

SB1-p7, p8, p9

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | 少 | |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | － | |

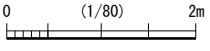



SA2　p20以外

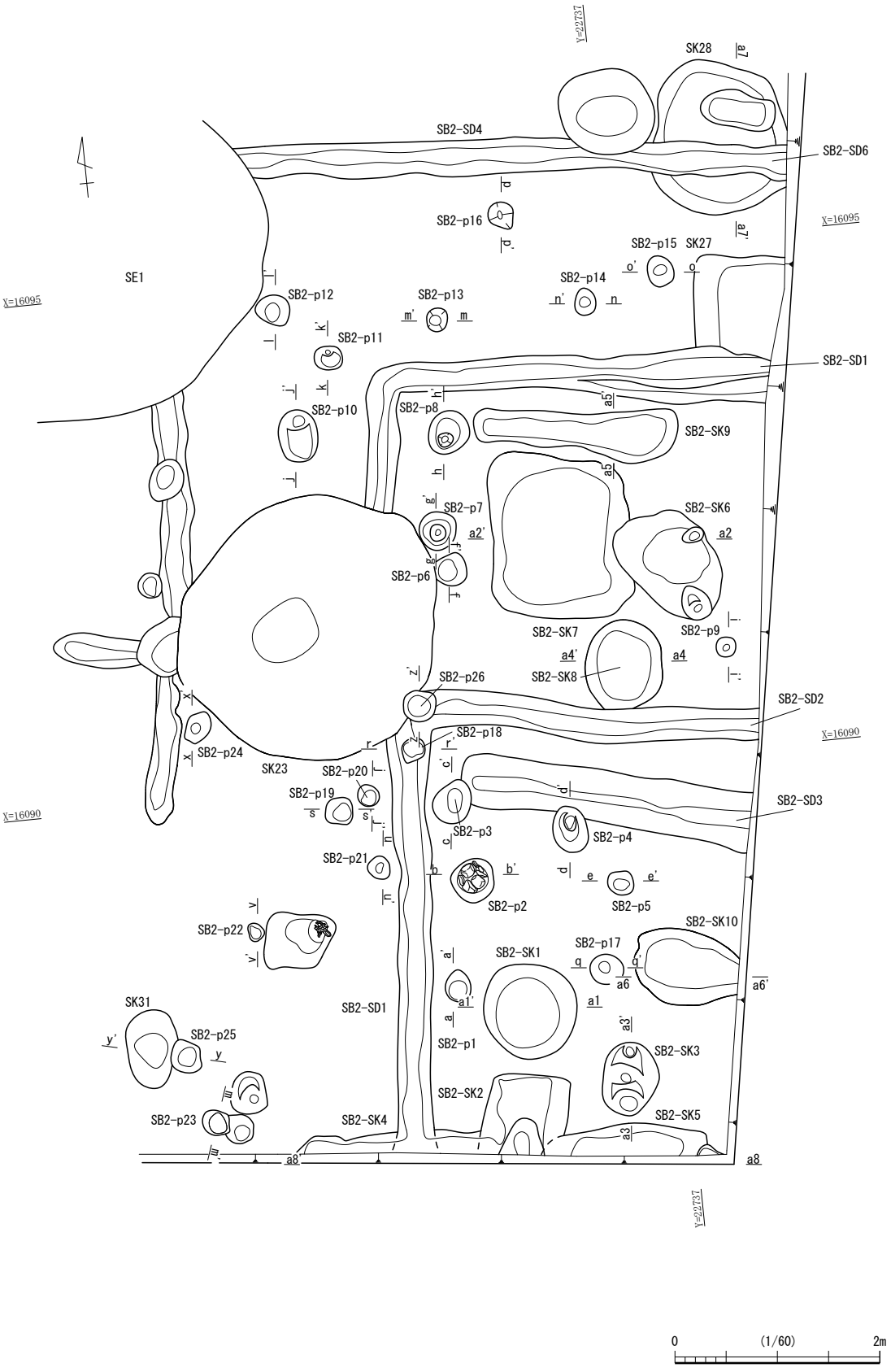
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | 柱抜痕 |
| 2 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | 少 | |

SA2-p20

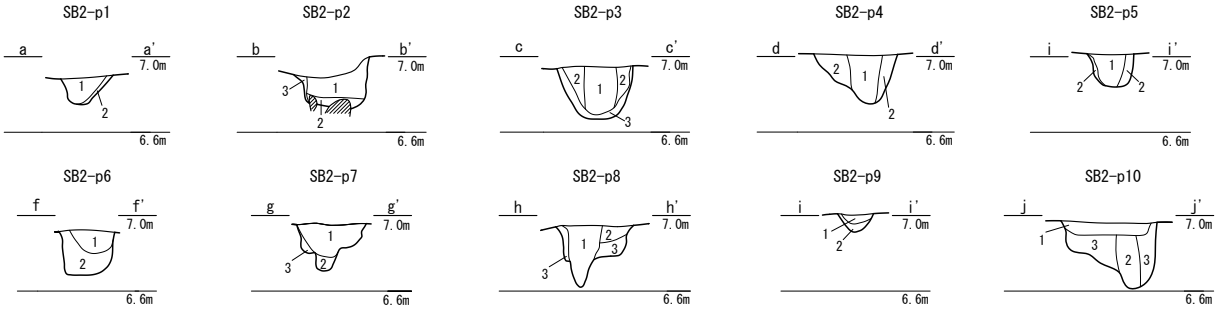
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | 柱抜痕 |
| 2 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | 置土 |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | 弱 | やや強 | － | － | － | |
| 4 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 弱 | やや強 | － | － | － | |




**第７図**　北調査区建物（SB1）・木柵列（SA2）実測図（縮尺1/40・1/80）




**第８図**　北調査区建物（SB2）実測図（縮尺1/60）




SB2-p1

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p2

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | 根固め |
| 3 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p3

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 3 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p4

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p5

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR5/6 | 黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p6

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p7

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 多 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p8

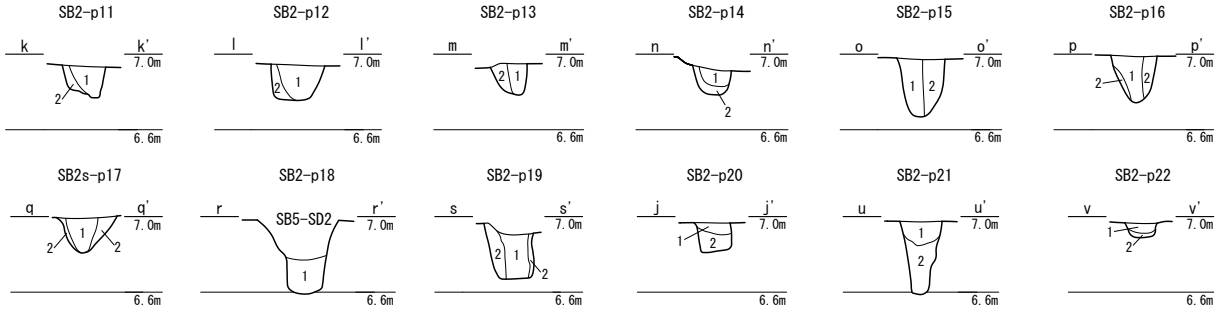
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 10YR4/6 | 褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p9

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p10

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |




SB2-p11

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 多 | 多 | － | |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |

SB2-p12

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p13

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p14

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p15

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p16

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 10Y4/4 | 褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p17

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p18

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |

SB2-p19

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | 地山ブロックが入る |

SB2-p20

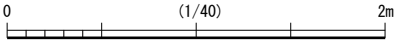
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 少 | － | |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p21

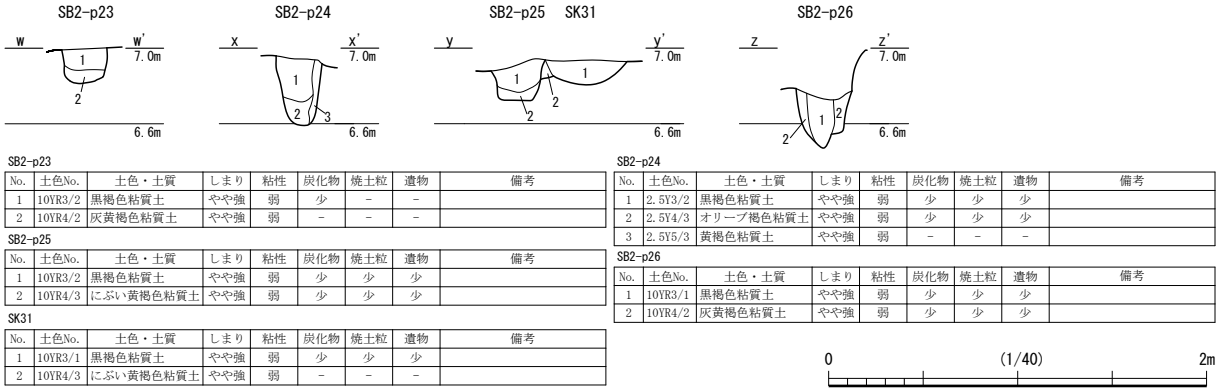
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |

SB2-p22

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |




**第９図**　北調査区建物（SB2）柱穴実測図（縮尺1/40）




SB2-p23

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p25

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |

SK31

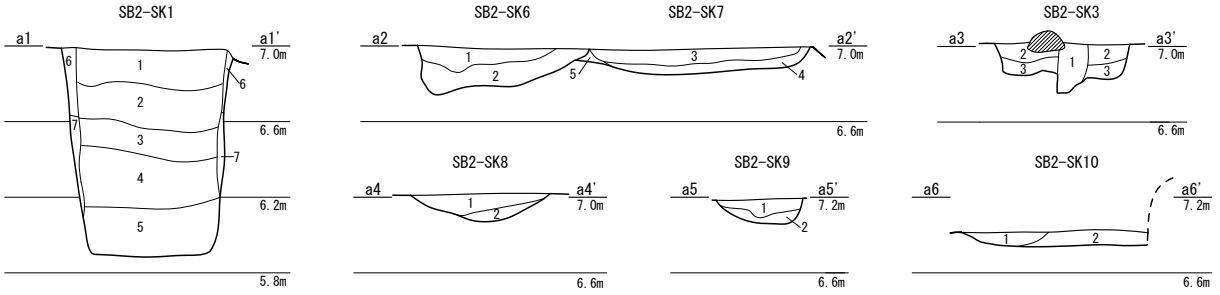
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p24

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

SB2-p26

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |




SB2-SK1

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 2 | 2.5Y2/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色粘土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |
| 5 | 7.5Y4/2 | 灰オリーブ粘質土 | 弱 | 強 | － | － | － | |
| 6 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |
| 7 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | 弱 | やや強 | － | － | － | |

SB2-SK6, SB2-SK7

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 5 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | SK7埋土 |

SB2-SK3

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 多 | － | |
| 3 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | － | |

SB2-SK8

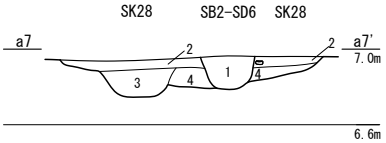
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |

SB2-SK9

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |

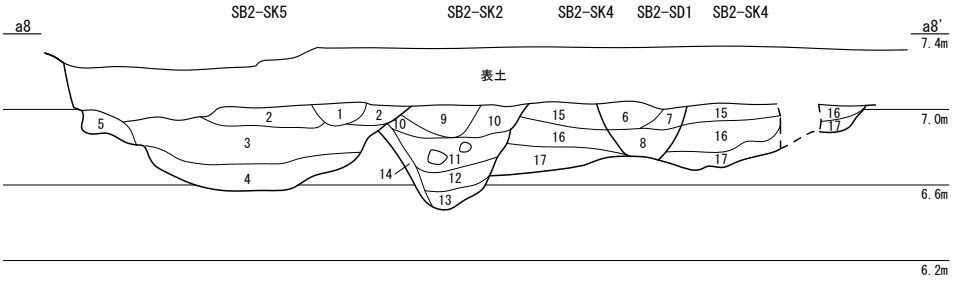
SB2-SK10

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |




SB2-SD6, SK28

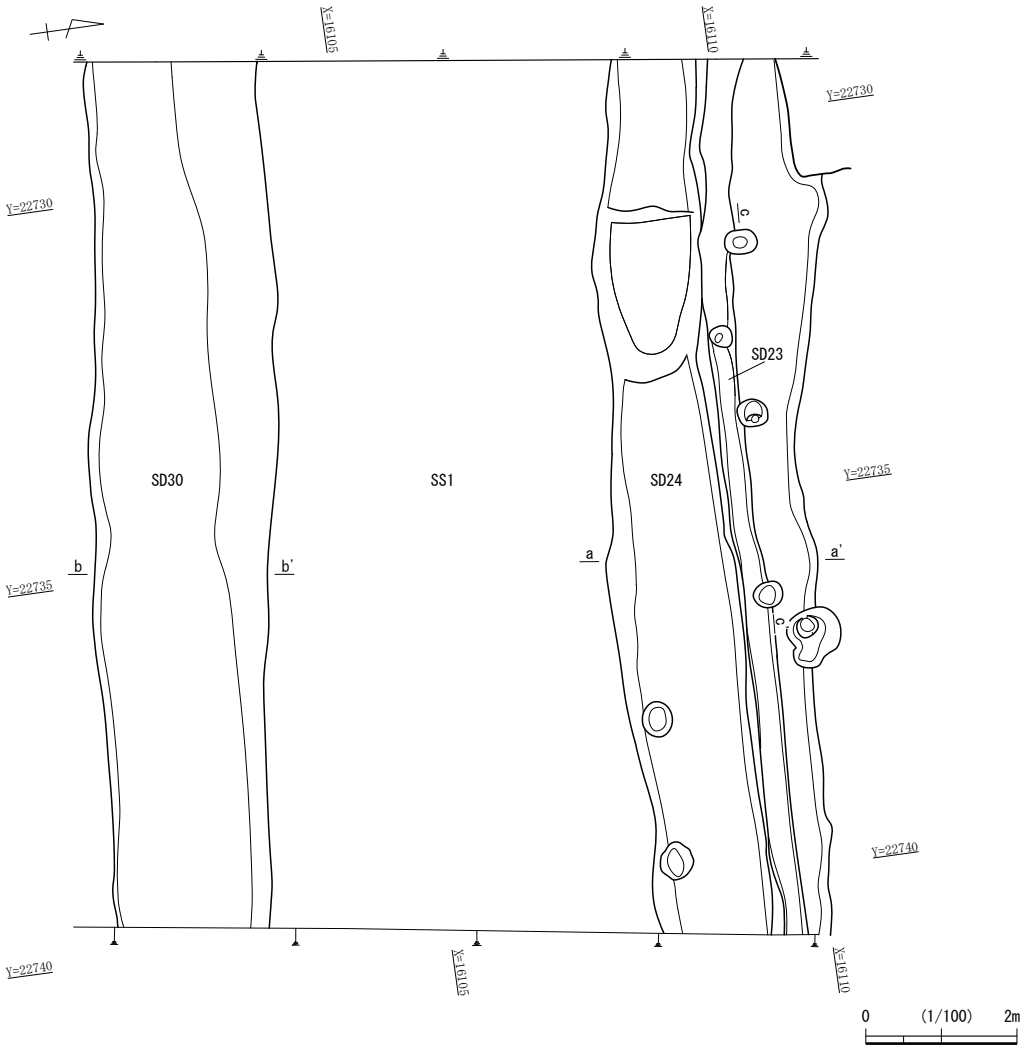
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | SB2-SD6埋土 |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | SK28埋土 |
| 3 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 4 | 10YR4/4 | 褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |

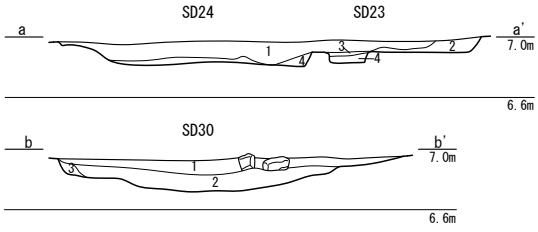



SB2-SK5, SK2, SK4, SD1

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | － | SK5埋没後ピット |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 少 | 少 | SK5埋土 |
| 3 | 7.4YR2/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 多 | 少 | SK5埋土 |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | SK5埋土 |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | SK5埋土 |
| 6 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | SD1埋土 |
| 7 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | SD1埋土 |
| 8 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | 少 | SD1埋土 |
| 9 | 10YR3/4 | 暗褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | SK2埋土 |
| 10 | 10YR5/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | SK2埋土 |
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | SK2埋土 |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | SK2埋土 |
| 3 | 10YR5/6 | 黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | SK2埋土 |
| 4 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | SK2埋土 |
| 5 | 10YR4/2 | 灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | 少 | SK4埋土 |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | SK4埋土 |
| 7 | 10YR6/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | SK4埋土 |

**第10図**　北調査区建物（SB2）土坑実測図（縮尺1/40）



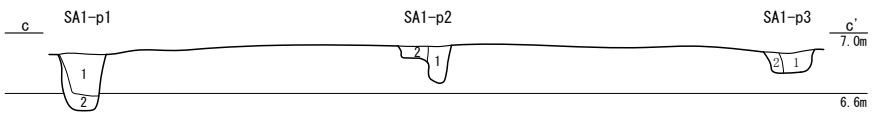




SD23, SD24

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |

SD30

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 多 | |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 10YR4/2 | にぶい黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | 少 | － | － | |




SA1-p1

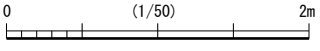
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | 少 | |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | 少 | |

SA1-p2

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |

SA1-p3

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |




**第11図**　北調査区道路（SS1）・柵列（SA1）実測図（縮尺1/50・1/100）

４　井戸

SE1（第 12 図）　D10 に位置する。平面型は長軸 4.4 ｍ、短軸４ｍ程の楕円形である。断面形は台形状で深さ 2.3 ｍ程を測り SB2 - SD1 を切る。土層観察から本来は内部に何らかの構築物が存在したと考える。灰黄褐色土の１・２層は埋め戻し土で６層で遺物が多く出土した。遺物は土師質皿と 14 世紀中頃以降の越前焼の擂鉢や青磁香炉（第 32 図 10）等がある。

SE2（第 12 図）　Ｅ４に位置する。平面型は長軸 2.5 ｍ、短軸 2.1 ｍ程の楕円形で、SD1 等複数の溝で切られる。地震で南北にずれた井戸側は段数が不明だが、西側に留め具と考える２本の断面円形の木材を認める。遺物は 15 世紀中頃の青磁碗と白磁碗（第 32 図 11・12）がある。

SE3（第 12 図）　Ｅ５に位置する。平面型は長軸 2.5 ｍ、短軸 2.2 ｍ程の楕円形で、SD4 等複数の溝で切られる。地震の影響で 11 層以下が南方にずれる。井戸側は曲物で段数は不明だが 0.5 ｍ程を測る。２～９層には曲物の痕跡がある。遺物は越前焼の甕と片口鉢がある。

SE4（第 13 図）　Ｅ７に位置する。平面型は長軸 1.5 ｍ、短軸 1.4 ｍ程の楕円形で SD15 を切る。井戸側は残りが悪いが 0.9 ｍ四方の方形で、端部に凹部と凸部を持つ桟木２本と隅柱と考える方形に近い木材を認めることから縦板積と考えられ、井戸底に水溜と思われる凹部がある。井戸枠四隅に押さえの石組があり、内部から五輪塔が出土した。灰黄褐色土の１～５層は締まりが強い埋め戻し土である。遺物は 15 世紀後半の越前焼の甕（第 32 図 19）がある。

SE3 出土遺物は年代は不確定だが、他の井戸は出土遺物で同時期と考えられる。

５　土坑

SK1（第 14 図）　Ｄ６・７に位置する。平面型は長軸 1.8 ｍ、短軸 1.4 ｍ程の不正形を呈する。断面形は台形で深さ 0.4 ｍ程を測る。SD15 を切る。遺物は珠洲焼の鉢（第 32 図 23）や瓦質火鉢のほか、15 世紀初頭を下限とする瀬戸焼の卸皿（第 32 図 24）がある。

SK2（第 16 図）　Ｄ・Ｅ４に位置する。平面型は長軸 2.8 ｍ、短軸 1.8 ｍ程の楕円形を呈する。断面形は弧状で深さ 0.1 ｍ程を測る。SK3・SD18・19 を切る。遺物に笏谷石製の石臼（第 67 図５）がある。

SK3（第 16 図）　Ｄ・Ｅ４に位置する。平面型は長軸 3.6 ｍ、短軸 2.4 ｍ程の楕円形を呈する。断面形は弧状で深さ 0.2 ｍ程を測る。SX1 を切る。遺物は同安窯の白磁皿（第 31 図 27）等がある。

SK4（第 16 図）　Ｄ・Ｅ４に位置する。平面型は長軸 2.1 ｍ、短軸 1.6 ｍ程の長正形を呈する。断面形はＵ字状で深さ 0.4 ｍを測る。SK45・SD15・16・28 を切る。

SK7･8（第 14 図）　Ｅ５に位置する。SK7 は平面型が長軸 2.4 ｍ､短軸 2.1 ｍ程を測る楕円形で､深さ 0.4 ｍ程を測る。長軸・短軸 1.3 ｍ程の不正形の SK8 を切る。断面形はＵ字状である。SK7 から青白磁の小型壺（第 31 図 30）等が出土した。

SK9～11（第 14 図）　Ｄ７に位置する。SK9 は SK10､SK10 は SK11 を切る。SK9 は長軸 2.1 ｍ､短軸 1.6 ｍ程である。平面型は SK ９・10・11 ともに楕円形で､深さは SK9・10 は 0.2 ｍ程と SK11 よりも深い。覆土がＵ字状に堆積する。遺物は未図化の瀬戸の灰釉皿がある。

SK13（第 15 図）　Ｅ７に位置する。西側は調査区外だが、長軸 2.3 ｍ以上、短軸 2.2 ｍ程を測るため平面型は長方形と考える。断面型は弧状で深さは 0.15 ｍ程を測る。

SK15（第 15 図）　Ｄ８に位置する。東側は調査区外だが、長軸 3.1 ｍ以上、短軸 3.1 ｍ程を測るため平面型は長方形と考える。断面型は弧状で深さは 0.25 ｍ程を測り、SK17・SD21 等を切る。遺物は青磁碗や未図化の山茶碗がある。

**SK16・17**（第 15 図）　Ｄ８に位置する。SK16 は平面型が長軸 1.8 ｍ、短軸 1.5 ｍ程を測る楕円形で、深さ 0.4 ｍ程を測る。短軸 1.8 ｍ、深さ 0.2 ｍ程を測る SK17 を切り、SD21 に切られる。遺物は土師質皿や土師質鍋、越前焼の片口鉢と東濃型の山茶碗（第 32 図 39）等がある。

**SK23**（第 13 図）　D10 に位置する。平面型は直径 2.7 ｍ程の円形状を呈し、深さ 0.7 ｍ程を測る。覆土はレンズ状堆積で６層に木材・８層に炭化材を含む。遺物は信楽焼の壺（第 32 図 47）等がある。

**SK24**（第 13 図）　D10 に位置する。平面型は長軸 2.2 ｍ程の円形状を呈し、深さ 0.3 ｍ程を測る。

**SK33**（第 13 図）　C10 に位置する。平面型は直径 2.7 ｍ程の円形状を呈する。断面形はＶ字型で、2.1 ｍ程で丸みを帯びる底面に達する。締まりが強く水平に堆積する１・２は埋め戻し土で、４・６層には微細の焼土塊を含む。遺物は未図化の 14 世紀中頃以降の端反りの青磁碗等がある。

**SK35**（第 15 図）　Ｄ７に位置する。西側は調査区外だが、長軸 4.0 ｍ以上、短軸 3.0 ｍ程を測るため、平面型は長方形と考える。断面型は弧状で深さは 0.3 ｍ程を測る。遺物は未図化の山茶碗がある。

**SK45**（第 16 図）　Ｄ４に位置する。平面型は長軸 4.3、短軸 2.9 ｍ程の不正形を呈し、深さ 0.4 ｍ程を測る。SK4・SD1・18・19 等に切られる。珠洲焼の甕の体部片が多く出土した。

**SK50**（第 13 図）　Ｄ７に位置する。西側が調査区外だが、長軸 2.4 ｍ以上、短軸 2.1 ｍ程を測るため、平面型は長方形と考える。深さ 1.2 ｍ程で達する床面は平坦で、底面には布状か板状の材がある。SK9・35・SD39 等を切る。遺物は土師質皿のみである。

**SX2**（第 16 図）　Ｄ・Ｅ４に位置する。平面型は長軸 2.4 ｍ、短軸 1.2 ｍ程で不正形を呈する。深さ 0.3 ｍ程を測り、底面上の５層に焼土を含む。SD1 を切る。遺物は越前焼の擂鉢と瓦質土器の火鉢がある。

６　溝

**SD1**（第 17 図）　Ｄ・Ｅ４に位置する。幅 3.7 ｍ、断面形は台形で深さ 0.9 ｍ程を測る。SE2・SK45 を切り、SX2・SD18・29 に切られる。覆土は最下層がほぼ水平で、上はレンズ状堆積である。遺物は土師質皿、15 世紀中頃の瀬戸焼の緑釉小皿（第 33 図 28）や白磁皿（第 33 図 29・30）がある。

**SD15**（第 19 図）　Ｄ・Ｅ７に位置する。幅 2.4 ｍ、断面形は台形で深さ 1.0 ｍ程を測る。南方に向けて直角に曲がり SE4・SK1・SD14 に切られる。遺物は 15 世紀後半頃の越前焼の甕・壺、瀬戸焼の天目茶碗や青磁碗（第 34 図 11 ～ 13）、漆器椀（第 42 図１・２）・下駄（第 45 図１）等がある。

**SD22**（第 20 図）　Ｄ・Ｅ８に位置する。幅 1.7 ｍ、断面形は弧状で深さ 0.3 ｍ程を測る。SD39 を切る。SD30 と別の道路跡を成す可能性もある。遺物は 15 世紀中頃の白磁皿（第 34 図 20）等がある。

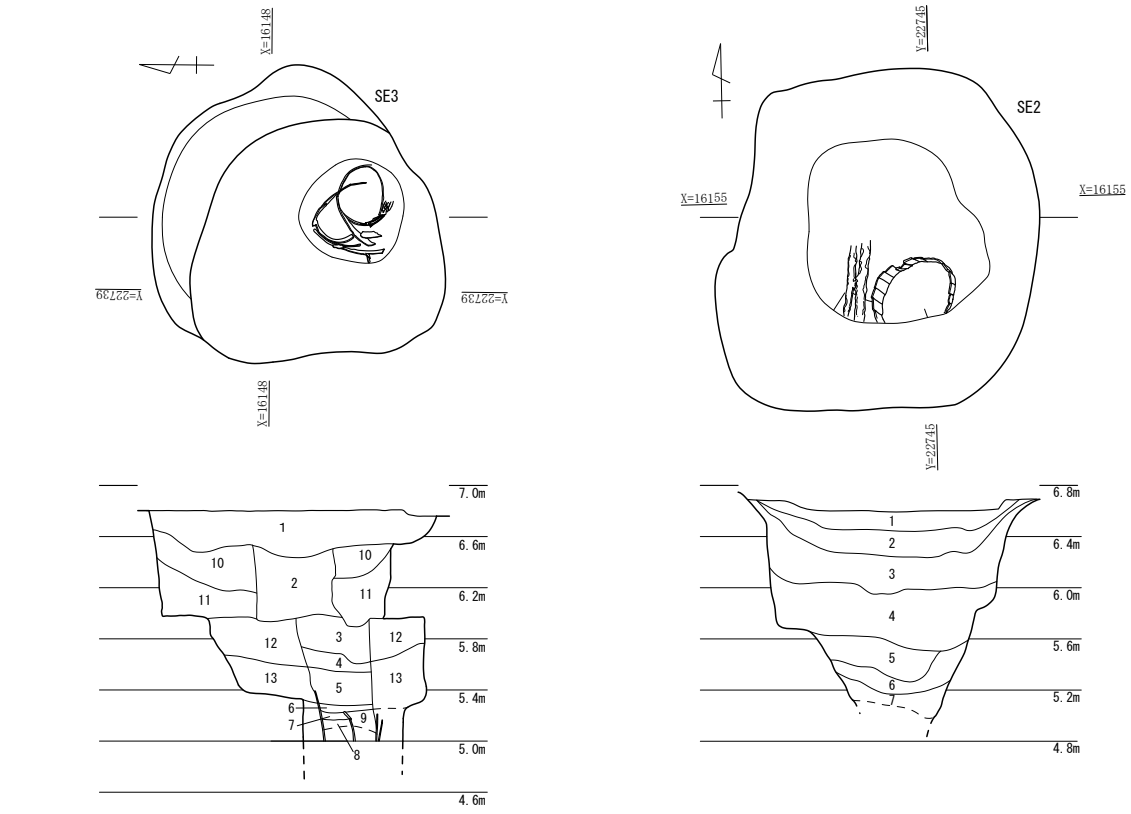
**SD26**（第 20 図）　Ｄ・Ｅ３に位置する。調査区北端にあり、それより以北に遺構はない。遺物は土師質皿や中国の天目茶碗（第 34 図 30）、15 世紀中頃の瀬戸焼の皿や青磁碗（第 34 図 30・32）等がある。

**SD29**（第 17 図）　Ｅ４に位置する。幅 0.9 ｍ、断面型はＵ字状で深さ 0.4 ｍ程を測る。SE2 を切り、SX1 を切る。遺物は土師質皿や 15 世紀後半の越前焼の鉢（第 34 図 35）、土錘等がある。

**SD36**（第 17 図）　Ｄ・Ｅ５に位置する。幅 2.2 ｍ程を測る。SD31・37 を切る。SD31 は幅 1.8 ｍ、深さ 0.8 ｍを測る。SD37 は幅 2.6 ｍ、断面形は台形で深さ 0.8 ｍ程を測る。年代は不明確だが、北側にある数条の溝を覆う SD4 から 15 世紀中頃～後半の遺物が出土し、ほぼ同時期に稼働した可能性が高い。

**SD39**（第 19 図）　Ｄ８・９に位置する。幅 2.1 ｍ、深さ 0.63 ｍ程を測る。東方で北方へ屈曲する。SK35・49・50、SD22・23・24・30 に切られる。幅 2.3 ｍ、断面形は台形で深さ 0.5 ｍ程を測る SD69 と繋がる。遺物は 15 世紀中頃の瀬戸焼の深鉢（第 35 図 11）、青磁碗や白磁皿（第 35 図 12・13）等がある。

**SD71**（第 20 図）　D10 に位置する。幅、深さとも 0.7 ｍを測る。SD72 と並行して南北へと伸びる。




SE1

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 多 | 多 | 少 | |
| 2 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 多 | 多 | 少 | |
| 3 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | 弱 | 弱 | 少 | 少 | 多 | |
| 4 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘土 | 弱 | やや強 | 多 | 少 | 多 | |
| 5 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘土 | 弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 6 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | 弱 | 強 | 少 | － | 多 | 遺物集中 |
| 7 | 5Y5/2 | 灰オリーブ粘土 | 弱 | 強 | 少 | － | － | |
| 8 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | 弱 | 強 | － | － | － | |

SE2

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 4 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | 有機物有り |
| 5 | 5Y6/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 6 | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや強 | 強 | － | － | － | |
| 7 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | 有機物有り |

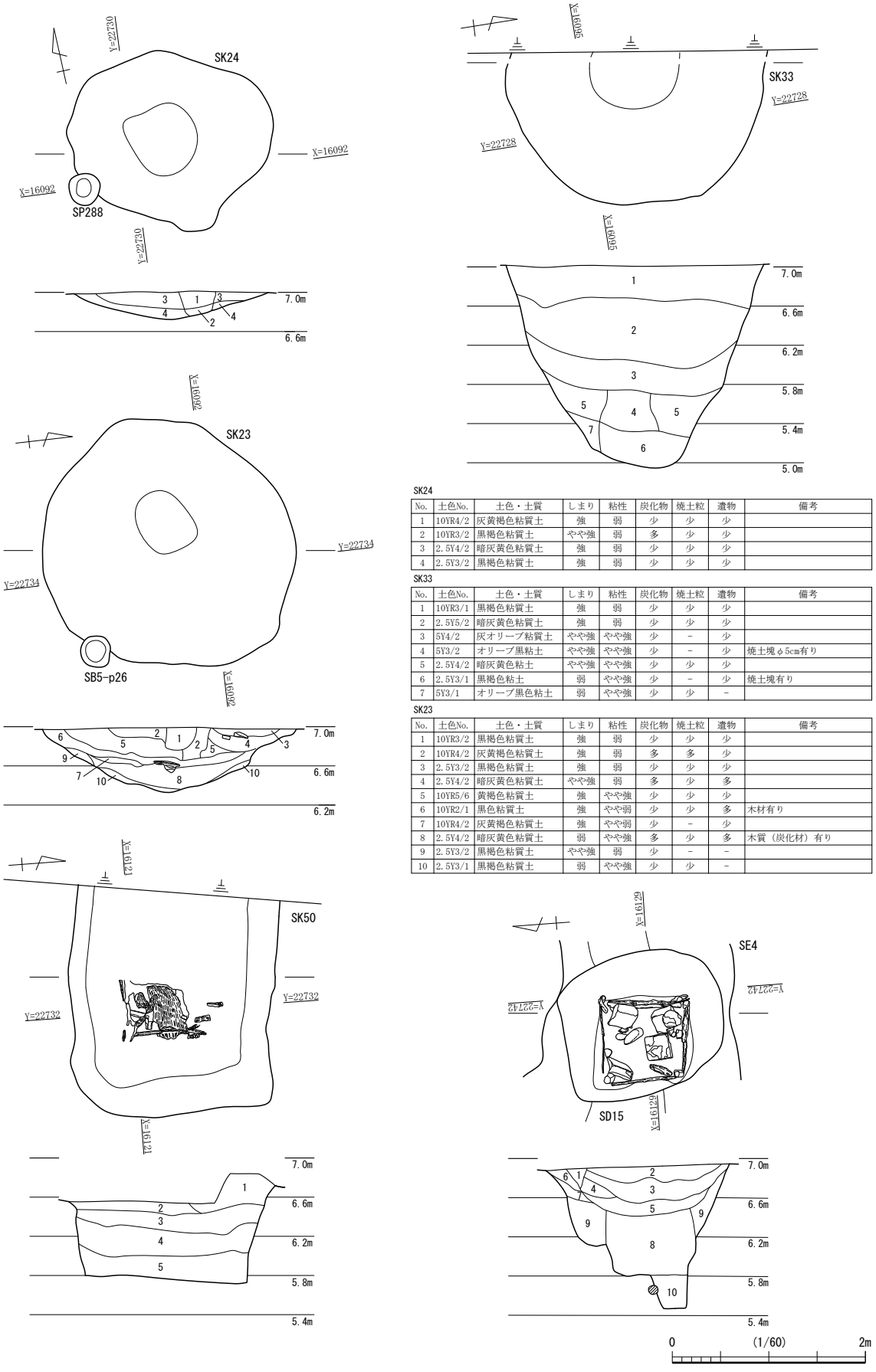
SE3

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 普 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 普 | － | － | |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 普 | － | － | |
| 4 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 多 | － | － | 炭化物有り |
| 5 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 細粒砂少量 |
| 6 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 普 | － | － | |
| 7 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 普 | － | － | 植物遺体有り |
| 8 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | 強 | － | － | － | |
| 9 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |
| 10 | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 11 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 12 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 13 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |

0　(1/80)　2m

0　(1/60)　2m

**第12図**　北調査区井戸実測図（縮尺1/60・1/80）




SK24

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 少 | 少 | |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |

SK33

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 5Y4/2 | 灰オリーブ粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 4 | 5Y3/2 | オリーブ黒粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | 焼土塊φ5cm有り |
| 5 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 6 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘土 | 弱 | やや強 | 少 | － | 少 | 焼土塊有り |
| 7 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘土 | 弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |

SK23

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 多 | 多 | 少 | |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 少 | 多 | |
| 5 | 10YR5/6 | 黄褐色粘質土 | 強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色粘質土 | 強 | やや弱 | 少 | 少 | 多 | 木材有り |
| 7 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | やや弱 | 少 | － | 少 | |
| 8 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 弱 | やや強 | 多 | 少 | 多 | 木質（炭化材）有り |
| 9 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 10 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |

**第13図**　北調査区井戸・土坑実測図（縮尺1/60）

SK50

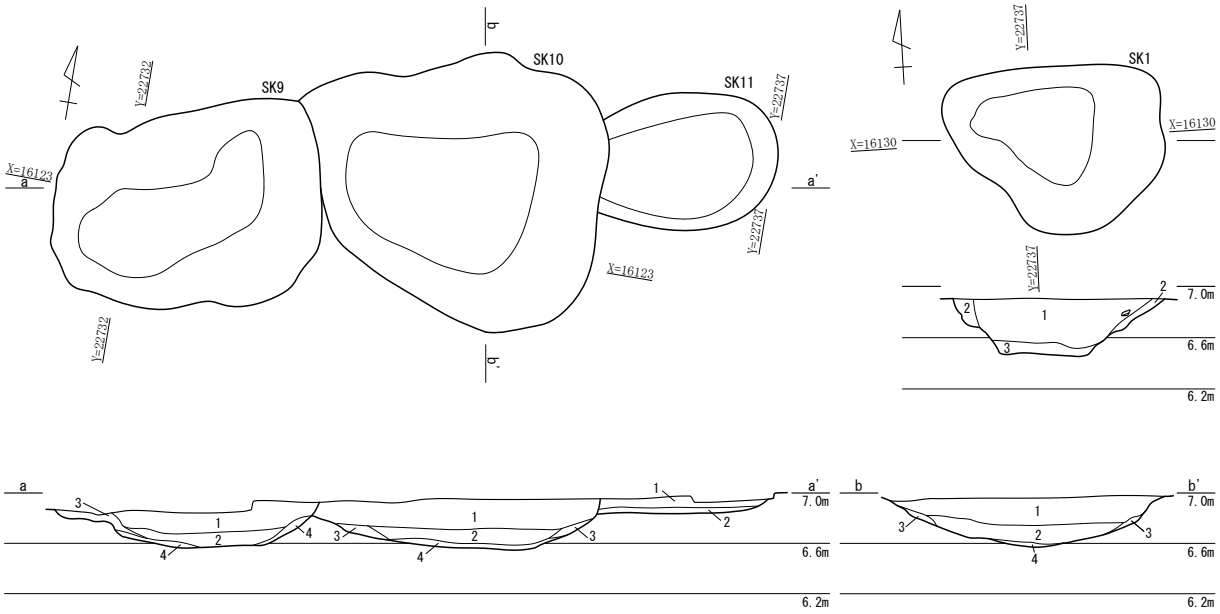
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR6/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | やや強 | 多 | － | 少 | |
| 2 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | 強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 多 | － | 少 | |
| 4 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | やや強 | 多 | － | 少 | |
| 5 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |

SK1

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 2 | 2.5Y4/2 | 褐灰色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | 弱 | 強 | 少 | － | － | |

SK51

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 多 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 多 | 多 | 少 | |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |
| 5 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 6 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 7 | 2.5Y6/2 | 灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |
| 8 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 多 | 五輪塔出土 |
| 9 | 5Y6/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |
| 10 | 5Y3/1 | オリーブ黒粘質土 | 弱 | 強 | 少 | － | 少 | |




SK9

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | 弱 | 多 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 2.5Y5/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | 弱 | － | － | － | |

SK11

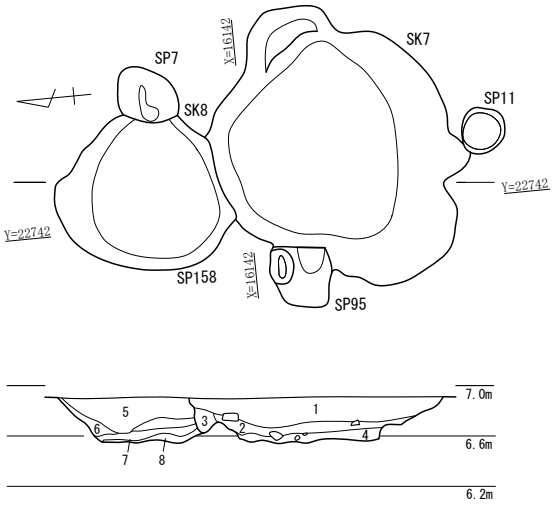
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |

SK10南北セクション

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | － | |
| 4 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | － | |

SK10東西セクション

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | － | |
| 4 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | － | |

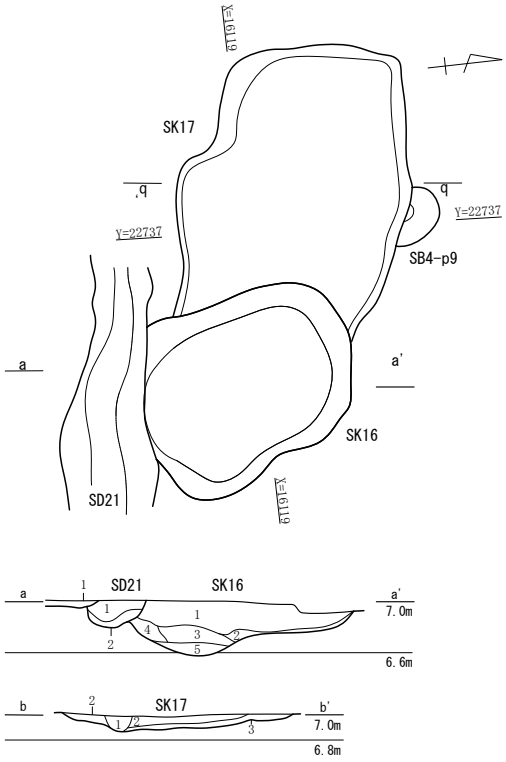


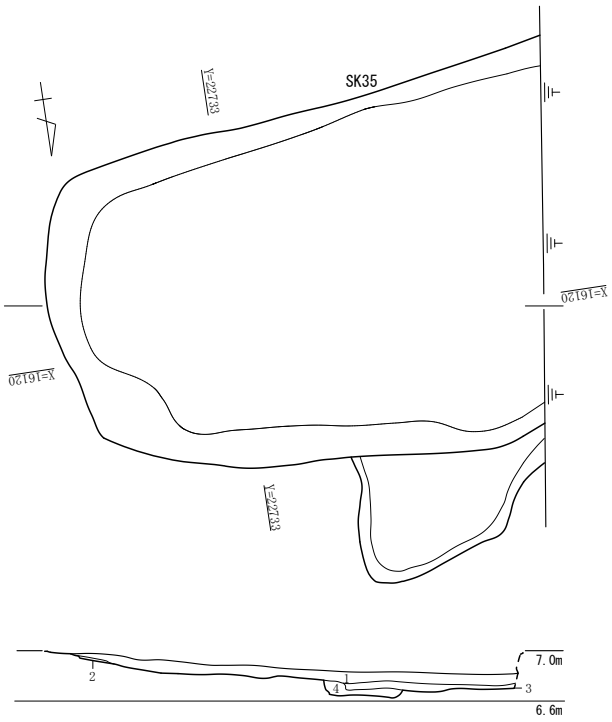

SK7, SK8

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | SK7埋土 |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | SK7埋土 |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | SK7埋土 |
| 4 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 鉄分少 |
| 5 | 2.5Y5/6 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | SK8埋土 |
| 6 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SK8埋土 |
| 7 | 10YR6/6 | 明黄褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SK8埋土 |
| 8 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SK8埋土 |

0　(1/60)　2m

**第14図**　北調査区・土坑実測図１（縮尺1/60）




SK16

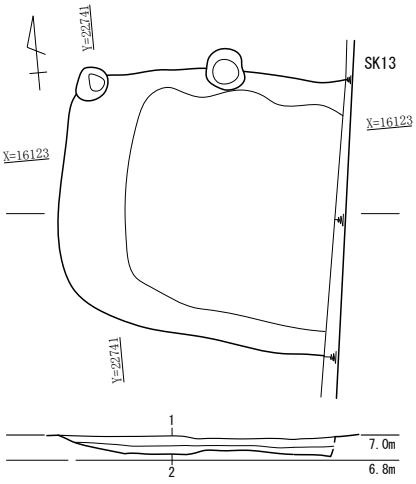
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色土 | 弱 | 弱 | － | － | － | |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 弱 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 2.5Y5/3 | 黄褐色土 | 弱 | 弱 | － | － | － | |
| 5 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色土 | 弱 | 弱 | － | － | － | |

SD21

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | － | 多 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | 弱 | － | 少 | － | 少 | |

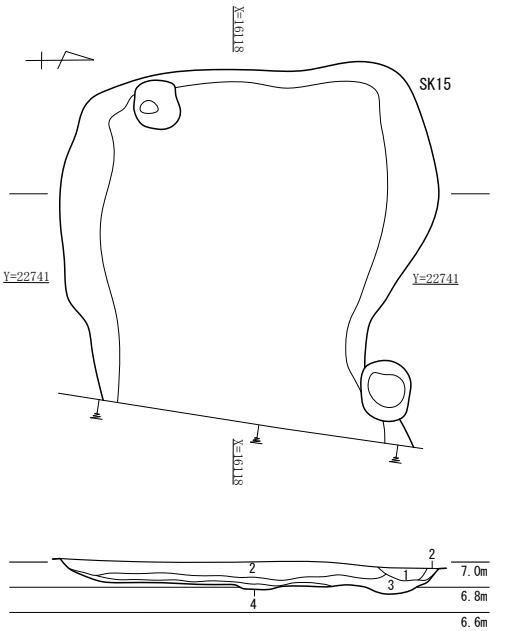
SK17

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | 少 | |




SK13

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |

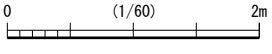



SK35

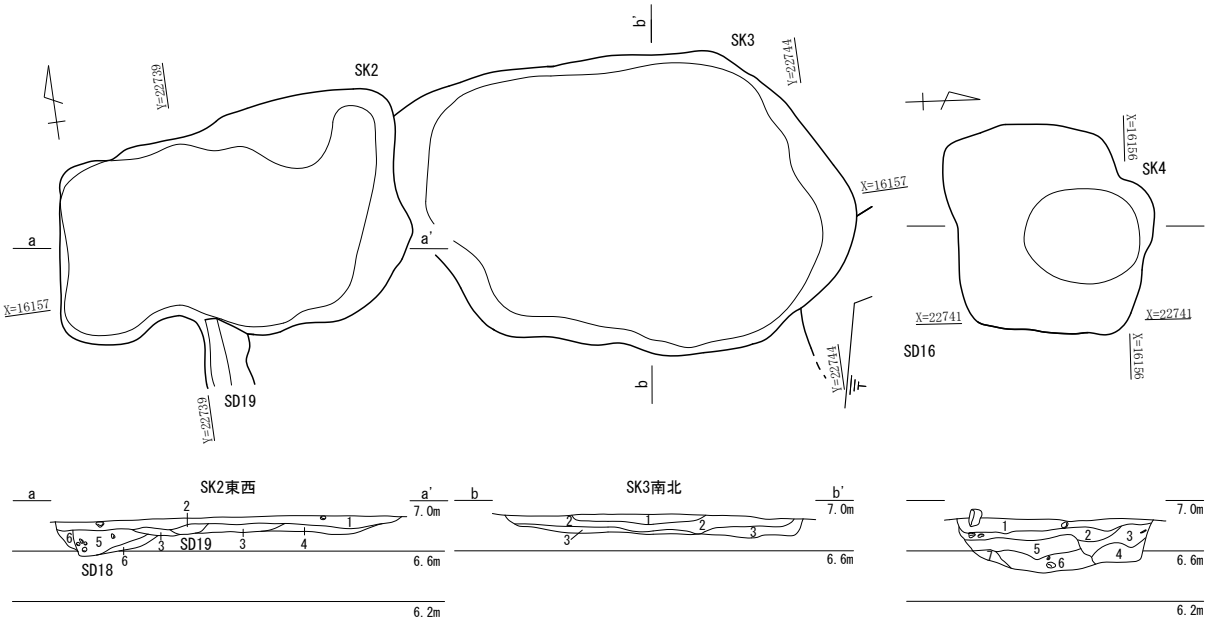
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 多 | 少 | 多 | |
| 2 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 多 | 少 | 多 | SD39埋土 |
| 4 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 多 | SD39埋土 |

SK15

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | 少 | － | 少 | ピット状掘り込み |
| 2 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 多 | ピット状掘り込み |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | 少 | |
| 4 | 10YR6/2 | 灰黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | － | |




**第15図**　北調査区・土坑実測図２（縮尺1/40・1/60）




SK2東西

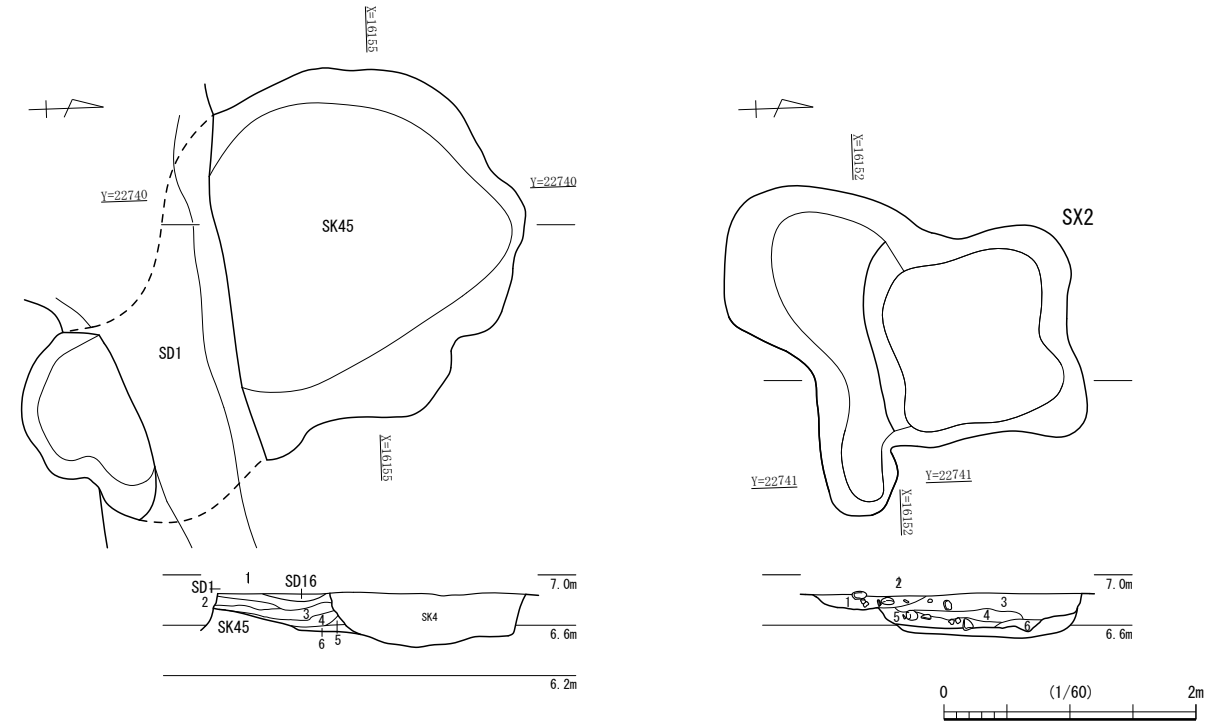
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 普通 | 少 | － | |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD19埋土 |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 4 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 5 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD18埋土 |
| 6 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや強 | － | 少 | － | SD18埋土 |

SK3南北

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | SK3埋土 |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | 褐鉄鋼少　SK3埋土 |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SK3埋土 |

SK4

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | SK4埋土 |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 5 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 普通 | － | |
| 7 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | 少 | － | |



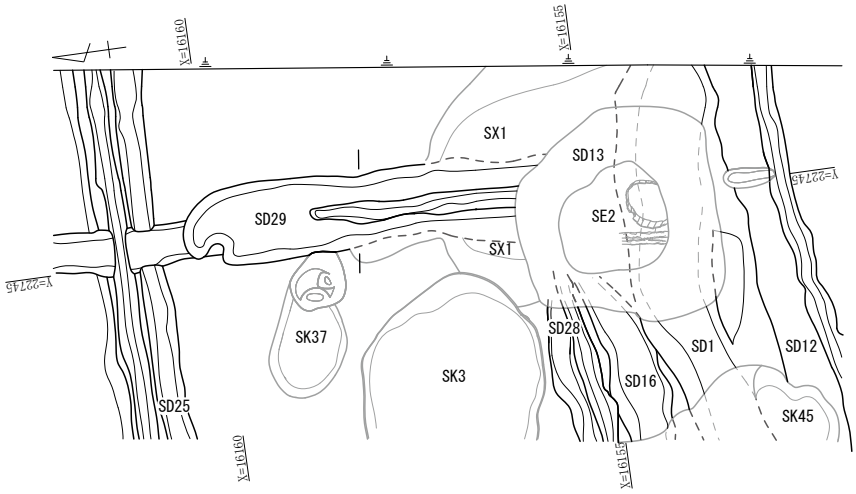

SK45

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | SK45埋土 |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | SK45埋土 |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SK45埋土 |
| 4 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | 越前焼破片有り<br>SK45埋土 |
| 5 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SK45埋土 |
| 6 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | SK45埋土 |

SX2

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 5 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | 越前焼破片有り<br>被熱粘土塊有り |
| 6 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |

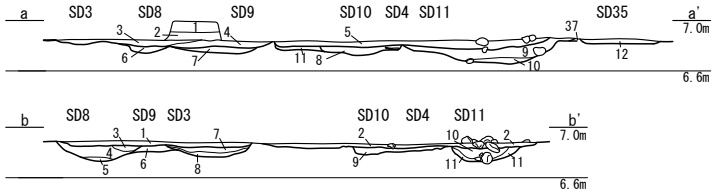
**第16図**　北調査区・土坑実測図３（縮尺1/60）




SD29

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 3 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 5 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | 強 | 少 | － | － | |

**第17図**　北調査区溝実測図１（縮尺1/50・1/100）

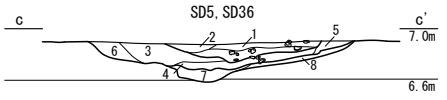


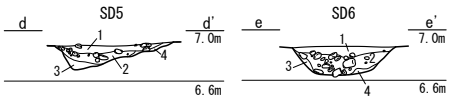


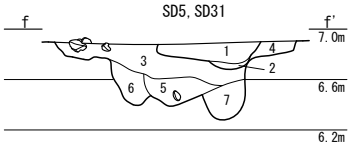


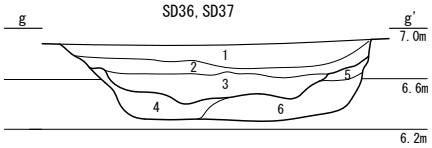
a-a'

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD2埋土 |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SD3埋土 |
| 4 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD3埋土 |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | SD4埋土 |
| 6 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | － | 少 | － | SD8埋土 |
| 7 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD9埋土 |
| 8 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD10埋土 |
| 9 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD11埋土 |
| 10 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SD11埋土 |
| 11 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 12 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD35埋土 |




b-b'

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SD3埋土 |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | SD4埋土 |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD8埋土 |
| 4 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | － | 少 | － | SD8埋土 |
| 5 | 2.5YR5/3 | 黄褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | SD8埋土 |
| 6 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 7 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD9埋土 |
| 8 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや強 | － | 少 | － | SD9埋土 |
| 9 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD10埋土 |
| 10 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | SD11埋土 |
| 11 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD11埋土 |

SD5, SD7, SD36

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD5埋土 |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD5埋土 |
| 3 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SD36埋土 |
| 4 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SD36埋土 |
| 5 | 2.5Y5/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD36埋土 |
| 6 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | － | 少 | － | SD36埋土 |
| 7 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SD36埋土 |
| 8 | 2.5Y5/4 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | SD36埋土 |

SD5

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや強 | － | 少 | － | 炭化物が縞状に混じる |
| 4 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |

SD6

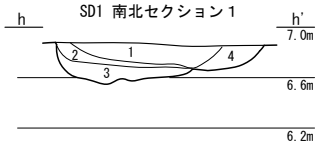
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |

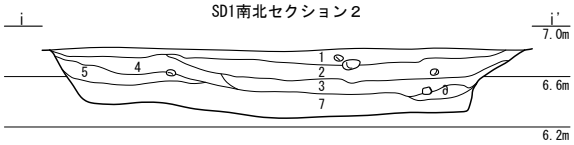
SD5・SD31

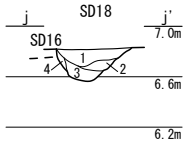
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD5埋土 |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD5埋土 |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | SD31埋土 |
| 4 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | 少 | SD31埋土 |
| 5 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | SD31埋土 |
| 6 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | SD31埋土 |
| 7 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SD31埋土 |

SD36・SD37

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD36埋土 |
| 2 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SD36埋土 |
| 3 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD36埋土 |
| 4 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SK37埋土 |
| 5 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | SK37埋土 |
| 6 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | SK37埋土 |




SD1　南北セクション１

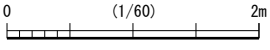
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD1埋土 |
| 3 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | SD1埋土 |
| 4 | 2.5Y5/4 | 褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | － | － | － | SD1埋土 |

SD18

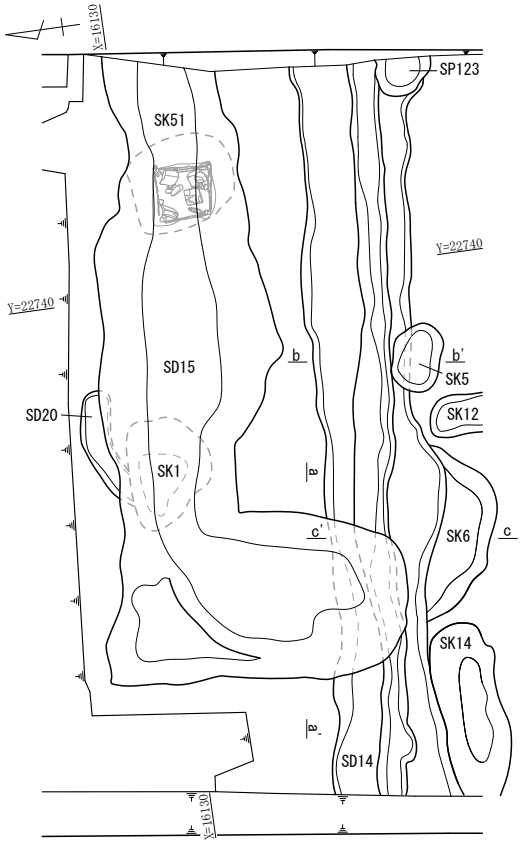
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色粘質土 | 強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |

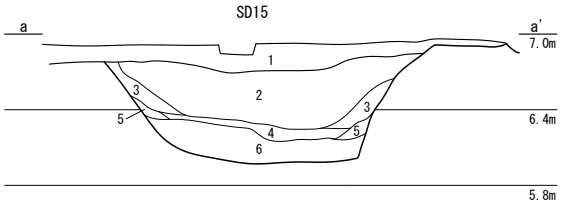
SD1西端 南北セクション２

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | 中 | 少 | － | |
| 5 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | － | 少 | － | |
| 6 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |
| 7 | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |



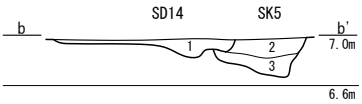

**第18図**　北調査区溝実測図２（縮尺1/60）

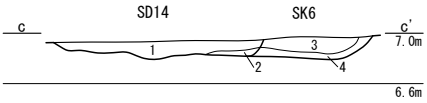



SD15

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 多 | － | 多 | |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色粘質土 | 弱 | 強 | 多 | － | 少 | |
| 5 | 7.5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | 弱 | 強 | 少 | － | － | |
| 6 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | 弱 | 強 | 少 | － | － | |



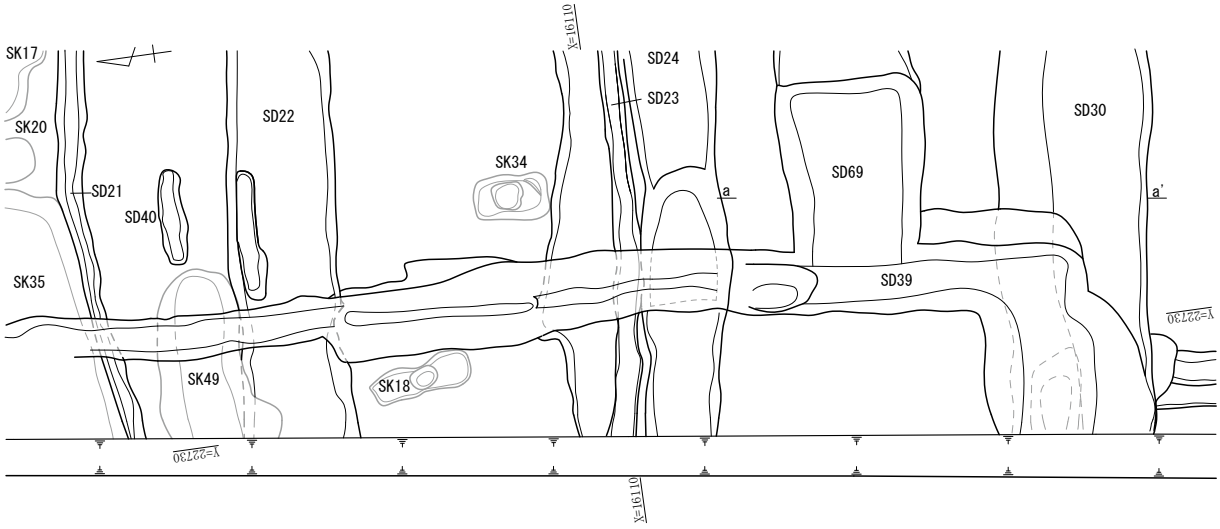



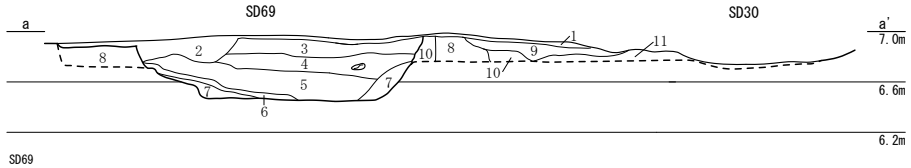

SD14, SK5

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | 少 | |
| 3 | 10YR4/4 | 褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |

SD14, SK6

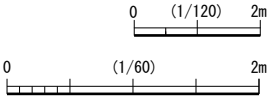
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | SD14埋土 |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 弱 | 弱 | － | － | 少 | SD14埋土 |
| 3 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | SK6埋土 |
| 4 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | SK6埋土 |



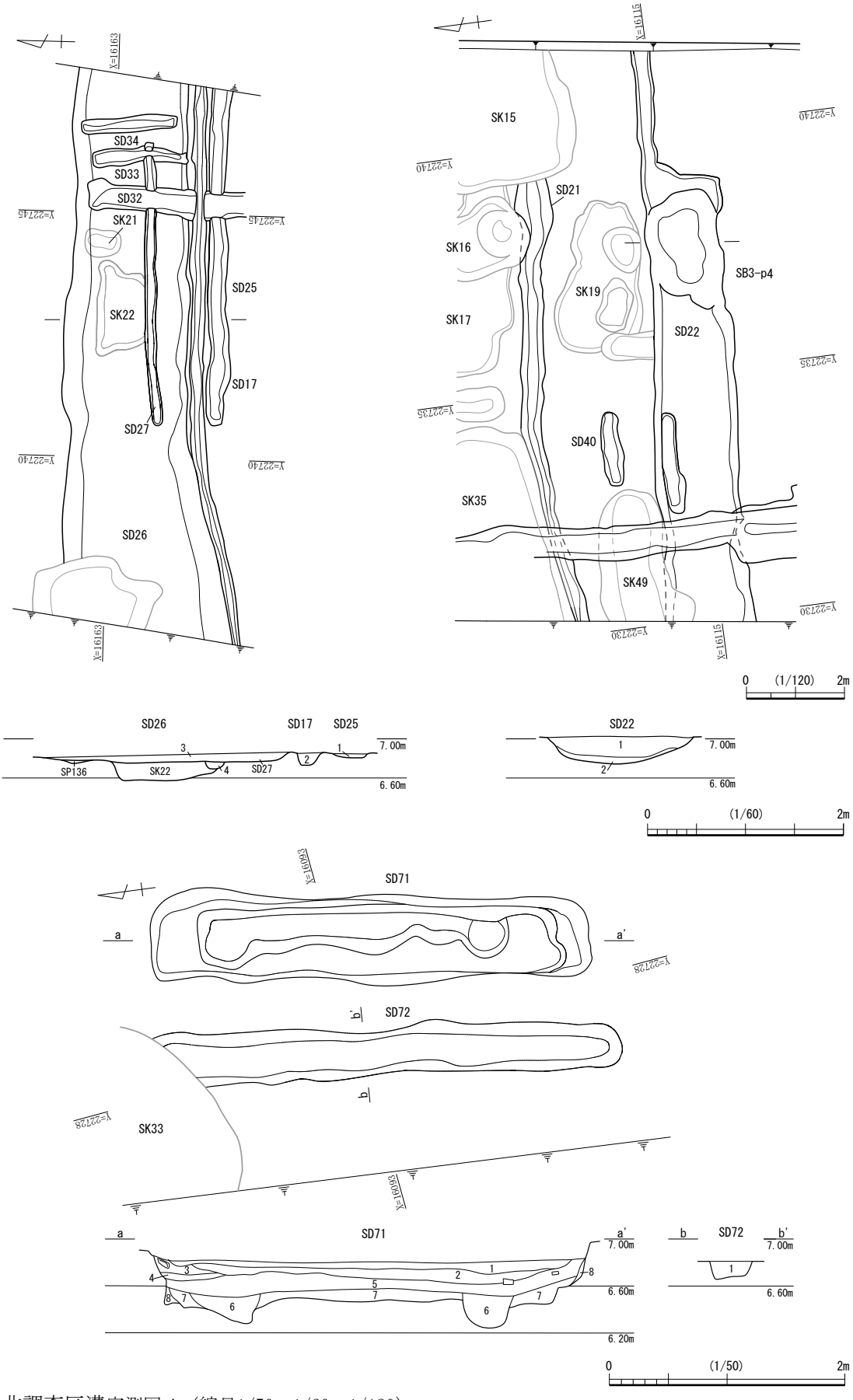




SD69

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 7.5YR4/4 | 褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 多 | 多 | |
| 2 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 4 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 5 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 多 | |
| 6 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 7 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 8 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 9 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 10 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 11 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |




**第19図**　北調査区溝実測図３（縮尺1/60・1/120）




**第20図**　北調査区溝実測図４（縮尺1/50・1/60・1/120）

SD25, SD17, SD26

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | SD25埋土 |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | SD17埋土 |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD26埋土 |
| 4 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | SD27埋土 |

SD22

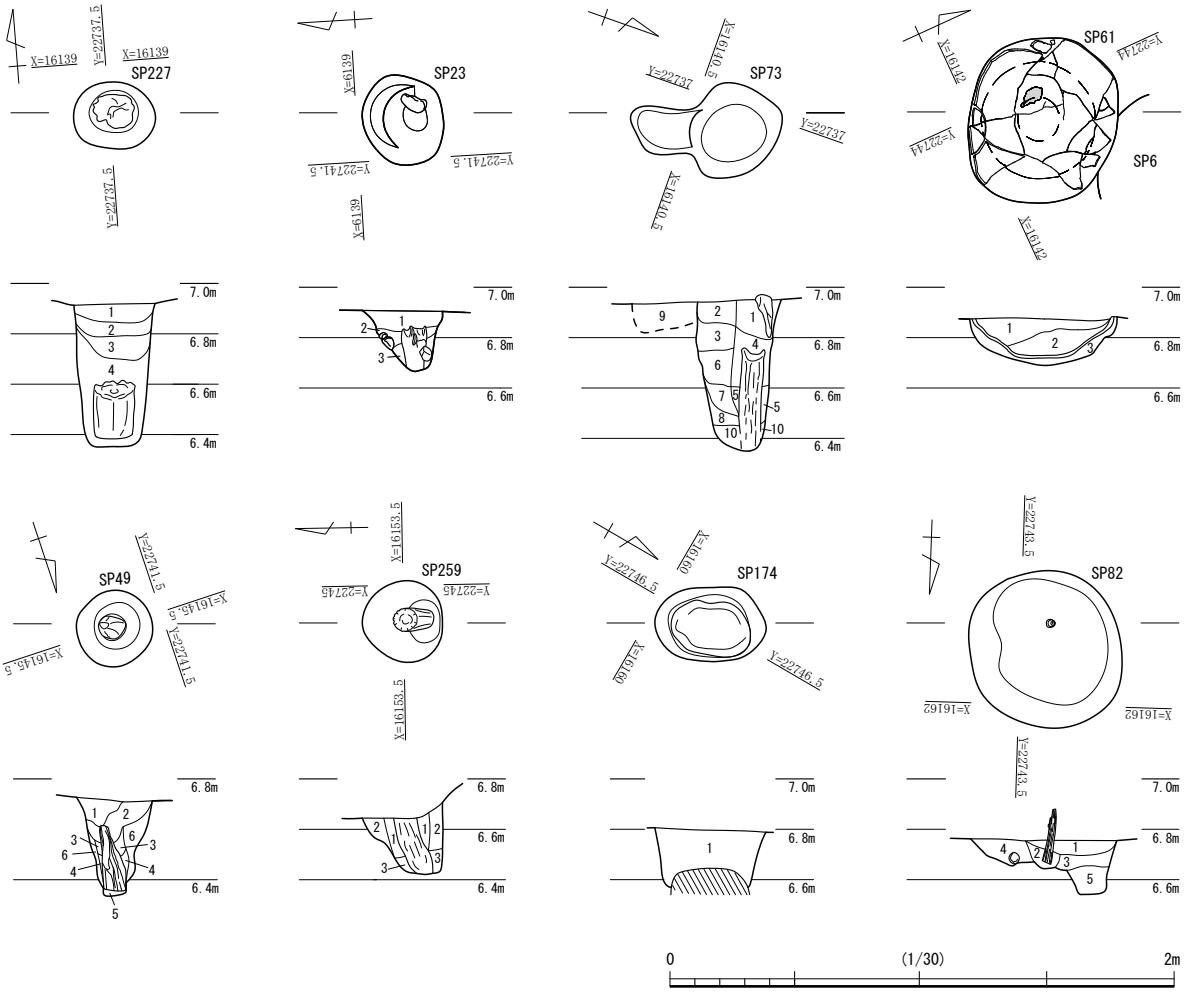
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 多 | 少 | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |

SD71

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | やや強 | － | － | － | |
| 4 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ色粘質土 | 弱 | やや強 | － | － | － | |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 6 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘土 | 弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 7 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 弱 | やや強 | － | － | － | |
| 8 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | 弱 | やや強 | － | － | － | |

SD72

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/4 | 褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |




SP227

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 4 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |

SP73

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | 柱根残存 |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 4 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | － | － | － | 柱根残存 |
| 6 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 7 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | － | － | － | |
| 8 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |
| 9 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 10 | 2.5GY4/1 | 暗オリーブ灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |

SP49

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 3 | 2.5Y5/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 5 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | － | － | － | |
| 6 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |

SP23

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 3 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |

SP259

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | 強 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |

SP61

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 10YR4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 3 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |

SP174

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | |

SP82

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 5 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |

**第21図**　北調査区ピット実測図（縮尺1/30）

### ７　柱穴

**SP23・49・73・82・179・227・259**（第 21 図）

平面型は全てのピットが直径 0.3 ｍ程を測り円形である。断面形は SP23・49・174・259 がＵ字状、ほかはＶ字状である。深さは SP23・174・259 が 0.2 ｍ、SP49 が 0.4 ｍ程であるのに対して SP73・227 は 0.6 ｍ程と深い。柱材は様々な形状を呈するが、断面を８角形にした SP73 出土材（第 66 図３）が最も大きく、SP277 出土材（第 66 図４）がそれに続く。これらのピットと異なり直径 0.6 ｍ程を測る SP82 中央に杭と考える木材（第 66 図６）が直立している。調査区の東西幅が狭いためか建物は復元できない。

**SP161**（第 21 図）　Ｅ５に位置する埋甕遺構で直径 0.6 ｍを測る。越前焼の法量が不明なため断定出来ないが、大甕ならば直径、深さともに 0.8 ｍ程を測る正円状の土坑と想定できる。埋甕遺構は県内では一乗谷朝倉氏遺跡で認めるが、何らかを生産した遺構と指摘されており、当遺跡における生産活動の一端を示す可能性も想定できる。

## 第２節　南調査区

検出した主な遺構には井戸・土坑・溝等がある。

### １　井戸

平面形態は円形状と楕円形と方形状に区別できる。ただ井戸の調査は底を検出できなかったものや、諸事情で実測と完掘に時期差が生じたものもみられ、説明文章と実測図が一致しない場合も数例ある。

**SE5**（第 24 図）　Ｂ・C14 に位置する。平面型は直径 3.0 ｍ程を測り円形状を呈する。地震の影響で 12 層以下が南方にずれ、掘方の 13・17 層に植物遺体を含む。土層観察から内部に井戸側として何らかの構築物が存在したと考える。遺物は土師質皿や越前焼の甕、未図化の瀬戸焼の平碗がある。平碗は 14 世紀中頃以降のものだが、埋め戻し時に伴う混入品の可能性もある。

**SE6**（第 25 図）　C15 に位置する結桶積型井戸側の井戸である。平面型は長軸 5.1 ｍ、短軸 4.8 ｍ程で楕円形を呈する。掘方は 31 ～ 36 層を 21 ～ 30 層が掘り込み、なかに植物遺体を認める。井戸側は直径 1.1 ｍ程で２段の桶が確認されたが、１段目は桶材 48 本を樹皮を外側にして据え、竹製の箍で固定している。下面径が上面径より狭いため、桶の径差で被せて積み上げたものと思われる。遺物は土師質皿や 13 世紀後半頃の越前焼の甕や片口鉢を認めるが、井戸側と掘方から瓦質擂鉢（第 36 図 15・16）がみられ 15 世紀に築かれたと考える。常滑焼の甕（第 35 図 11・12）もある。

**SE8**（第 25 図）　C15 に位置する。平面型は長軸 4.8 ｍ程で円形状を呈する。土層観察で直径 0.9 ｍの円筒状の井戸側の痕跡１～９層を認めるが、その規模から桶材か曲物であったと思われ、１・２層に炭化物、４～９層に植物遺体がみられる。遺物は土師質皿や土師質鍋、瀬戸焼の卸皿（第 36 図 21・22）と瓦質火鉢（第 36 図 24)、漆器椀（第 42 図８）等がある。漆器椀は 14 世紀前半のものだが、瀬戸焼が 15 世紀前半に降るため、一定期間存続した可能性もある。

SE8 は SE6 に切られるが、平面型と規模が類似するため時期差はあまりないと考える。

**SE9**（第 22 図）　B16 に位置する。平面型は長軸 2.4 ｍ、短軸 2.1 ｍ程で楕円形を呈する。地震の影響で井戸側が西方にずれる。井戸側は縦材の上に横材を配する約 0.8 ｍ四方の枠内に曲物を設けるが、曲物は直径 0.3 ｍ程で３段構造である。掘方の底面より底に曲物が続くため、井戸底に水溜と思われる凹部をもつと考えられる。井戸枠内の６～８層に木片、掘方の各層に植物遺体を含む。遺物は土師質皿や 13 世紀前半の青磁碗（第 36 図 34）と、未図化の加賀焼の甕と墨書を記す荷札（第 45 図７）がある。

SE10（第 23 図） C12 に位置する。平面型は長軸 1.7 ｍ、短軸 1.5 ｍ程の方形状を呈する。井戸側は縦板組で四隅に隅柱をもち、臍穴で横桟を連結させる。桟木は凹部と凸部が組で、縦材には SE6 の桶材と同じく下部に筏穴を認める。桟木は長さ 80㎝程で、井戸側の値ともほぼ一致する。掘方の１～４層は水平堆積で、その上の灰黄褐色土は締まりが強い埋め戻し土がある。遺物は土師質皿と 13 世紀後半の越前焼の甕や片口鉢、土師質羽釜、下駄の歯（第 45 図３・４）等がある。

SE11（第 22 図） C12 に位置する。平面型は長軸 1.7 ｍ、短軸 1.5 ｍ程の楕円形を呈する。断面型は台形で深さ 1.6 ｍ程を測る。井戸側は直径 0.3 ｍ程の曲物で３段構造である。１～３層は締まりが強い埋め戻し土で、黒褐色土の５層に河原石と木片等を含む。遺物は土師質皿と口禿の白磁皿（第 37 図２）と考えられる底部片がある。

SE12（第 22 図） B・C12 に位置する。平面型は南側に向け細くなる楕円形で、長軸 1.7 ｍ、短軸 1.4 ｍ、深さ 1.5 ｍ程を測る。井戸側はないが、長軸 0.9 ｍ、短軸 0.7 ｍ程の落ち込みがあるため、同規模の曲物を設けたと思われる。掘り込みの北側に東西方向の緩斜地があり、そこに沿うように足場材と思われる断面円形の木材を数本並べる。１～３層は埋め戻し土で、底面には人頭大の河原石がある。遺物は未図化の土師質皿や越前焼、年代が不明の瀬戸焼の鉄釉壺がある。

SE13（第 23 図） C12 に位置する。平面型は長軸 2.0 ｍ程の方形状である。地震の影響で全体的に西側にずれる。井戸側は縦板組で、臍穴で横桟で連結させる。桟木は凹部と凸部が組だが、縦材の下部に筏穴はなく、約 1.0 ｍ四方の枠内に曲物を設ける。曲物は地表面から 2.5 ｍで検出された。遺物には土師質鍋や越前焼の片口鉢、青磁碗や白磁皿（第 36 図 45・46）と 13 世紀代の古い様相のものもあるが、SE6 と同様、瓦質擂鉢（第 36 図 44）のほか、漆器椀（第 42 図６）がある。

SE14（第 24 図） C12 に位置する。平面型は長軸 3.2 ｍ、短軸 2.9 ｍ程の楕円形を呈する。断面型は台形で深さ 2.2 ｍ程を測る。地震の影響の激しい井戸側は縦板を横桟で留めたものと考える。下部では桶を２段目まで認めたため、枠内に設けられたものと考える。井戸側の東側と西側は覆土が違うが、５つの層は水平堆積が明瞭で、上に締まりが強い埋め戻し土を認める。遺物は 13 世紀後半の土師質羽釜や越前焼の甕と片口鉢、産地不明の鉢（第 37 図６）等がある。

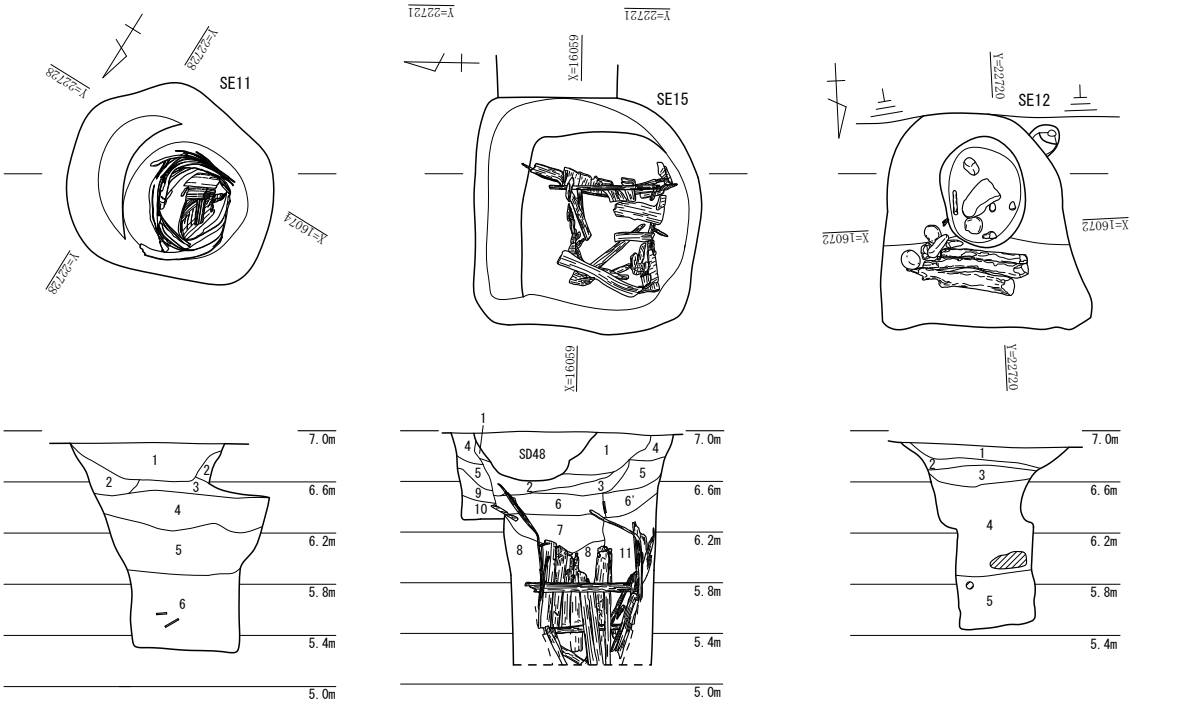
SE15（第 22 図） D14 に位置する。平面型は長軸 1.8 ｍ程の方形状である。地震の影響で７層以下が南方にずれる。井戸側は縦板を横桟で留め、約 0.5 ｍ四方を測る。遺物は 13 世紀後半の土師質鍋や越前焼の甕と片口鉢、産地不明の鉢（第 37 図 16）等、SE14 とほぼ同じ様相である。

SE16（第 23 図） C13 に位置する。平面型は長軸 1.2 ｍ、短軸 0.8 ｍ程の楕円形を呈する。断面型はＵ字状である。井戸側は曲物で４段構造で、径の差のあるものを被せ構築する。

SE17（第 23 図） D14 に位置する。平面型は約 2.9 ｍ四方の方形状である。井戸側は長さ 2.3 ｍ程の板材からなる１段の桶である。板材の表面は割り裂いた状態のままで、左右２箇所に結合のための四角い抉りがある。遺物は土師質皿や越前焼の甕と片口鉢、15 世紀の青磁碗や鉢（第 37 図 25・26）がある。

SE18（第 24 図） D13 に位置する。平面型は長軸 2.9 ｍ、短軸 2.3 ｍ程の楕円形を呈する。地震の影響により井戸側が大きく歪み、北東角にのみ隅柱が残り、東側では桟木のない側板が３重に折り重なる。覆土は３～５層が地震後の流入土で、１・２層は締まりが強い埋め戻し土である。遺物は越前焼の甕や片口鉢、青磁碗（第 37 図 30）のほか、未図化の口禿の白磁皿等、13 世紀代と古い様相のものも認めるが、15 世紀の青磁皿（第 37 図 31）がある。

南地区の井戸の大半は、後記する SD41 ～ 43・45・48・51・52・57 ～ 59・61・64 に切られる。




SE11

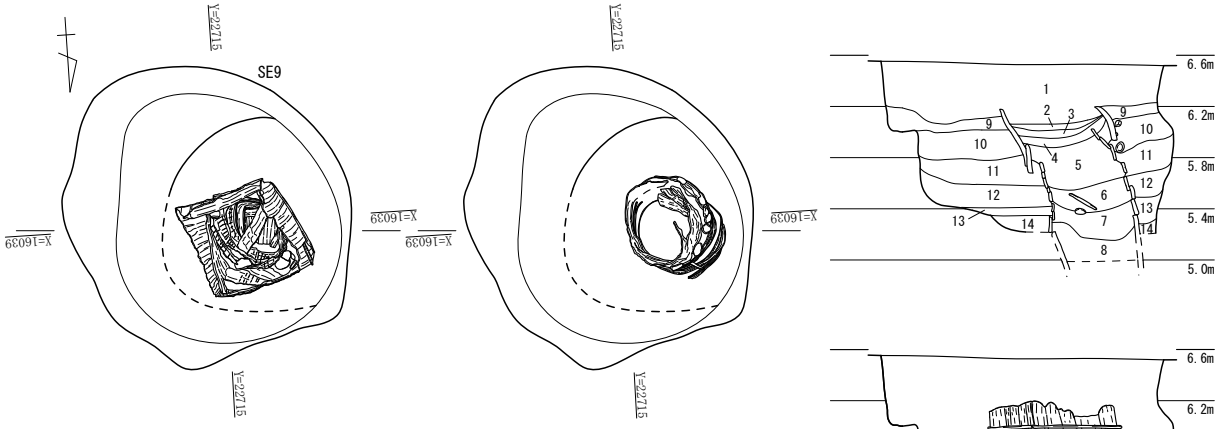
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | 炭化物有り（全層） |
| 2 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | 地山の崩落層 |
| 3 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 4 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 多 | － | 少 | |
| 5 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | 人頭大河原石・木質出土 |
| 6 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘土 | 弱 | 強 | 少 | － | 少 | |

SE12

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 4 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | 下層に石組 |

SE15

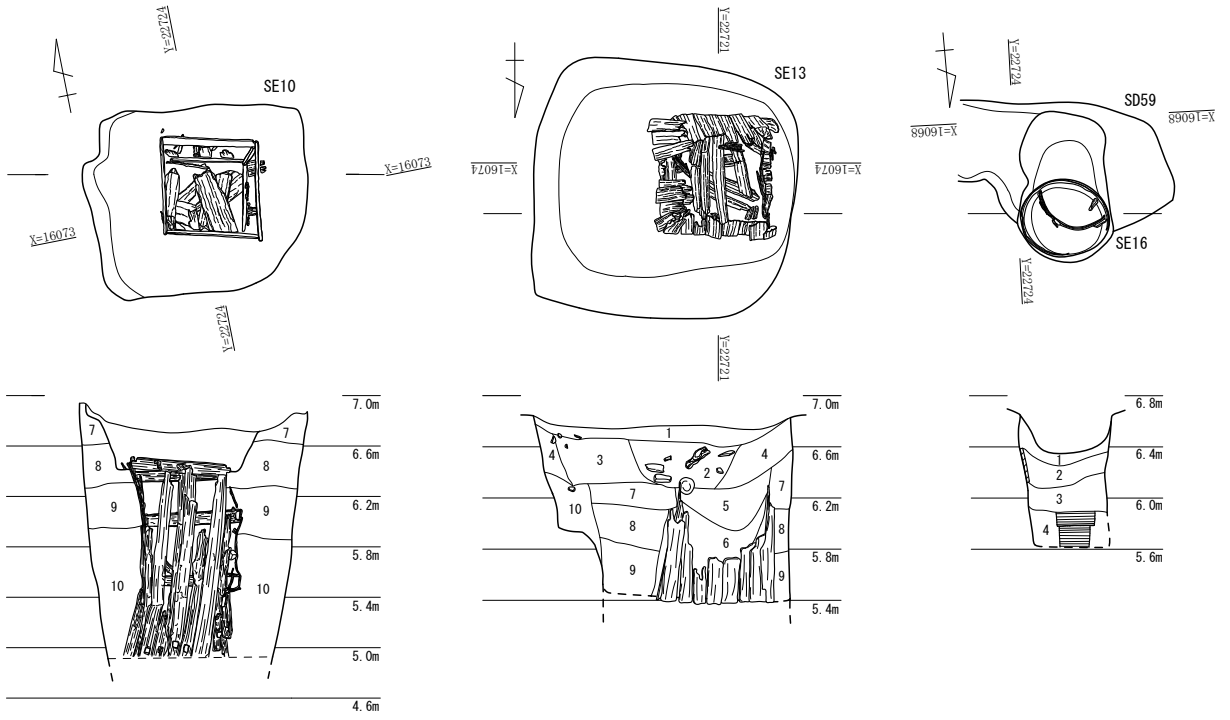
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y5/4 | 黄褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | － | － | － | |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | 地山 |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 地山 |
| 6 | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 6' | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | 掘方の土が地震で流入 |
| 7 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | 木質遺体有り |
| 8 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | 植物遺体有り |
| 9 | 2.5Y5/6 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 10 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 11 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | 植物遺体有り |

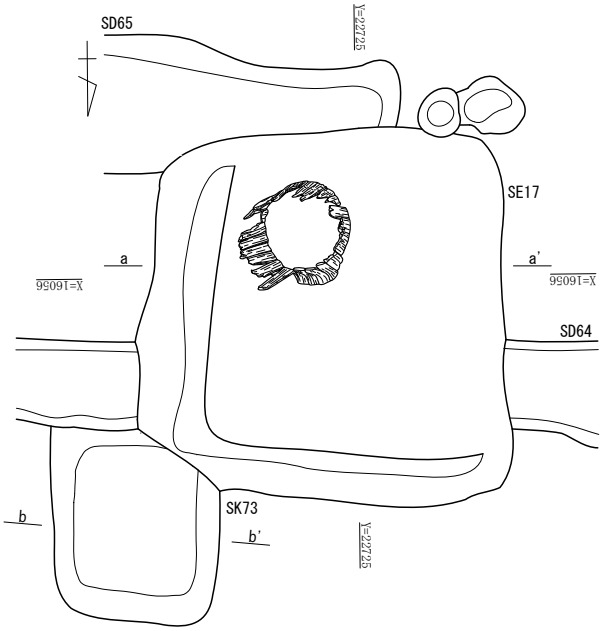


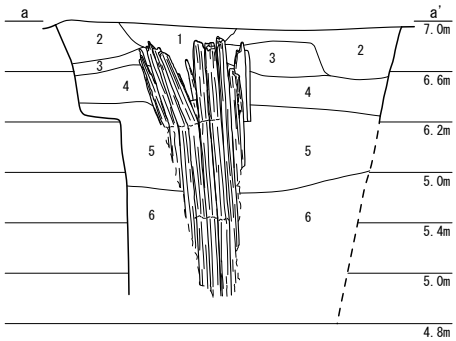

SE9

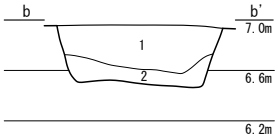
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 4 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 5 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | 普 | 少 | － | 少 | |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色砂質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 普 | 木片有り |
| 7 | 5Y3/2 | オリーブ黒色砂質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | 木片有り |
| 8 | 7.5Y2/1 | 黒色砂質土 | 普 | やや弱 | － | － | 少 | 木片有り |
| 9 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 10 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | 植物遺体有り |
| 11 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 12 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | 植物遺体有り |
| 13 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | 弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | 植物遺体有り |
| 14 | 7.5Y3/1 | オリーブ黒色細粒砂 | 弱 | 弱 | 少 | － | － | |

**第22図**　南調査区井戸実測図１（縮尺1/60）




SE10

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 8 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 9 | 5Y4/3 | 暗オリーブ色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 10 | 5Y4/1 | 灰色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |

SE13

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 多 | |
| 3 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 4 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 5 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 6 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘土 | 弱 | 強 | 少 | － | 少 | |
| 7 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 8 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 9 | 5Y4/3 | 暗オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 10 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | － | － | 地震ズレ後の流入埋没土 |

SE16

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 多 | － | 多 | |
| 2 | 5Y4/1 | 灰色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | 1段目曲物（推定4段） |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 4 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | 3.4段目曲物 |

SE17

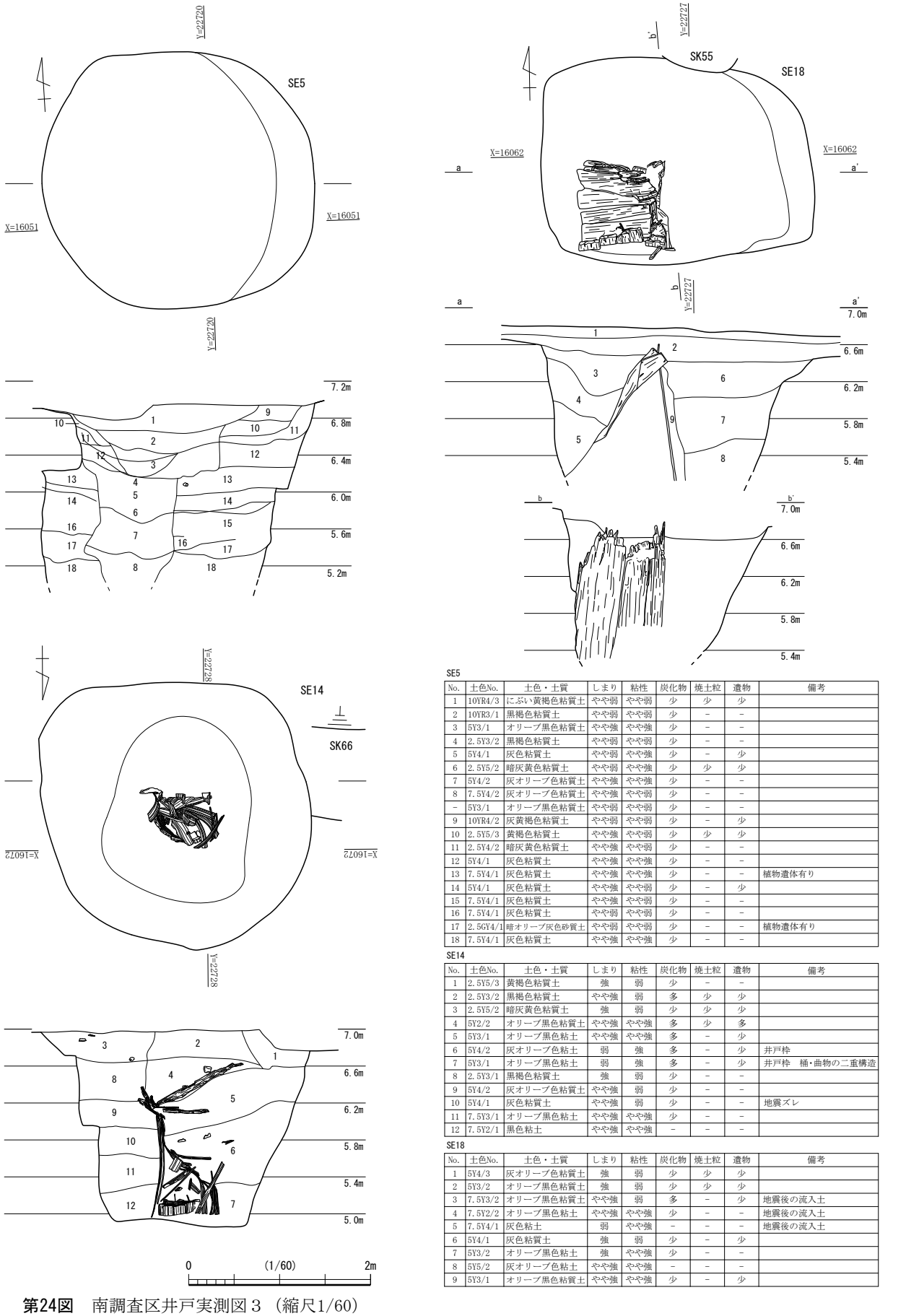
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 多 | － | 多 | |
| 2 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 5Y4/3 | 暗オリーブ色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 4 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 5 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 6 | 5Y4/1 | 灰色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |

SK73

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 2 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | － | － | － | |

0　(1/60)　2m

**第23図**　南調査区井戸実測図２（縮尺1/60）




**第24図**　南調査区井戸実測図３（縮尺1/60）

SE5

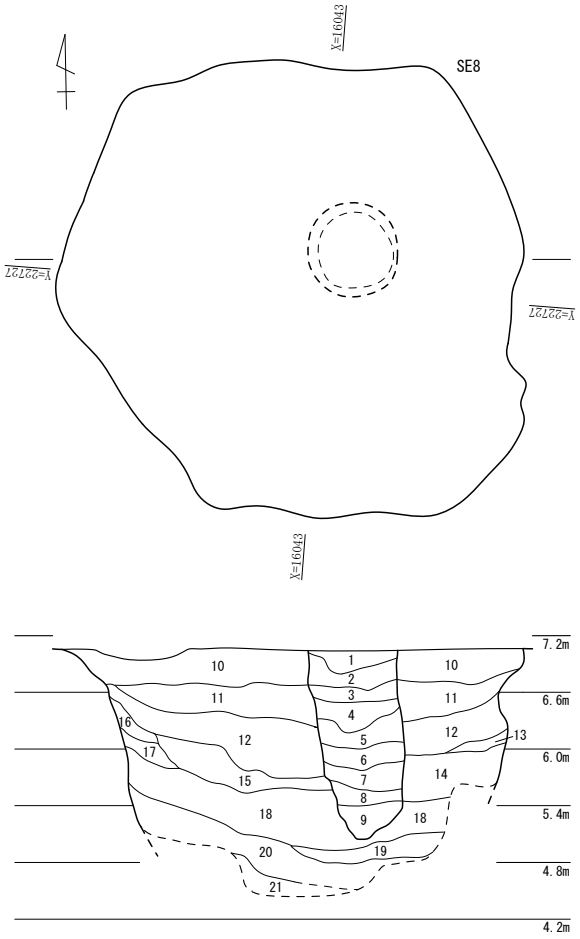
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 3 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 5 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 6 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 7 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 8 | 7.5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | |
| － | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 9 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | |
| 10 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 11 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 12 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 13 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 14 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | 少 | |
| 15 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 16 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 17 | 2.5GY4/1 | 暗オリーブ灰色砂質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 18 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |

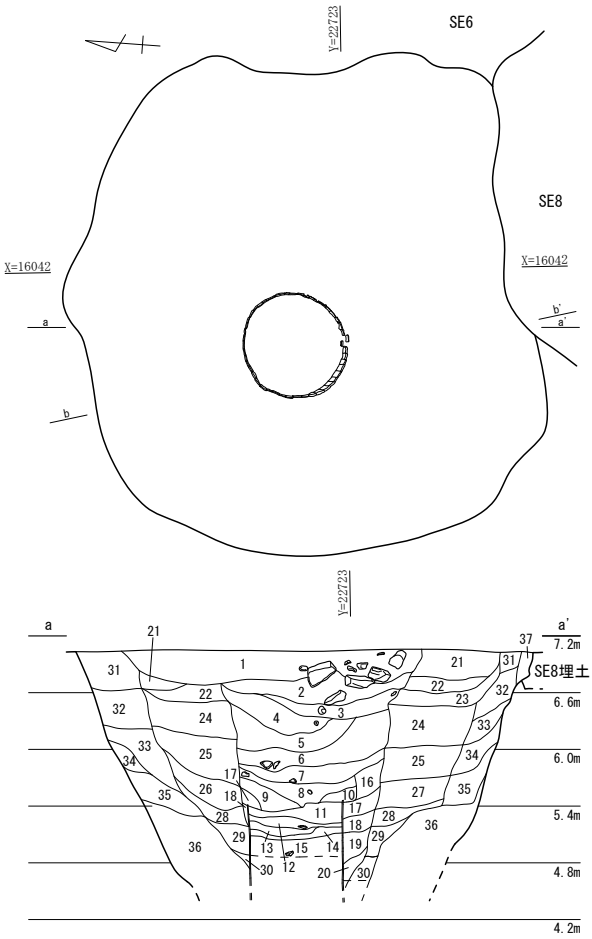
SE14

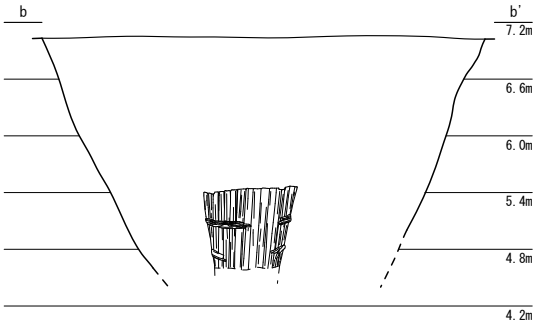
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 少 | 少 | |
| 3 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 5Y2/2 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 多 | 少 | 多 | |
| 5 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘土 | やや強 | やや強 | 多 | － | 少 | |
| 6 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘土 | 弱 | 強 | 多 | － | 少 | 井戸枠 |
| 7 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘土 | 弱 | 強 | 多 | － | 少 | 井戸枠　桶・曲物の二重構造 |
| 8 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 9 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 10 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | 地震ズレ |
| 11 | 7.5Y3/1 | オリーブ黒色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 12 | 7.5Y2/1 | 黒色粘土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |

SE18

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5Y4/3 | 灰オリーブ色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 7.5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | － | 少 | 地震後の流入土 |
| 4 | 7.5Y2/2 | オリーブ黒色粘土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | 地震後の流入土 |
| 5 | 7.5Y4/1 | 灰色粘土 | 弱 | やや強 | － | － | － | 地震後の流入土 |
| 6 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 7 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘土 | 強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 8 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色粘土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |
| 9 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |




SE6

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | |
| 4 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 5 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 6 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | |
| 7 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 8 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | 植物遺体有り |
| 9 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 10 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 11 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | 少 | 植物遺体有り |
| 12 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 13 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 14 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 15 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 16 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 17 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 18 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 19 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 20 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 21 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | |
| 22 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | |
| 23 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | 植物遺体有り |
| 24 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 25 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | 植物遺体有り |
| 26 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | 少 | |
| 27 | 7.5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや弱 | 普 | － | 少 | 植物遺体有り |
| 28 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | 植物遺体有り |
| 29 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | － | － | － | 植物遺体有り |
| 30 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや弱 | やや弱 | － | － | － | |
| 31 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 32 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 33 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | 植物遺体有り |
| 34 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 35 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | － | － | － | |
| 36 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 37 | 2.5Y6/2 | 灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |

SE8

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | 炭化物有り |
| 2 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | やや弱 | 普 | 少 | － | 炭化物有り　ブロック |
| 3 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | 木質遺体有り |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 6 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | 植物遺体有り |
| 7 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 8 | 10YR3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 9 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 10 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | 褐鉄鋼少 |
| 11 | 2.5GY4/1 | 暗オリーブ灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 12 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | 少 | － | |
| 13 | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 14 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 植物遺体有 |
| 15 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | 弱 | やや弱 | 少 | － | － | 植物遺体有 |
| 16 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 17 | 5Y4/1 | 灰色砂質土 | 弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 18 | 7.5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや弱 | － | － | － | 植物遺体有り |
| 19 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 20 | 5Y4/1 | 灰色砂質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 21 | 2.5GY5/2 | オリーブ灰色砂質土 | 弱 | やや弱 | 少 | － | － | |

0　(1/80)　2m

**第25図**　南調査区井戸実測図４（縮尺1/80）

２　土坑・柱穴

**SK57**（第 26 図）　C14 に位置する。平面型は北側の幅 0.5㎝で深さ 20㎝程の張り出しを除くと、長軸 3.2 ｍ、短軸 1.9 ｍ程を測る方形を呈する。内部の中央西寄りに楕円形の掘り込み（P7）があり、東側に６基のピットを認める。P7 は長軸 1.0 ｍ、深さ 0.2 ｍ程を測り、残りの６基は直径 0.4 ～ 0.6 ｍ、深さ 0.2 ｍ程を測る。P5・6 の内部に石がみられるが、これは全てのピットに存在したものと考える。覆土に焼土と炭化物、被熱した礫が含まれ、炭化物が各ピット上の床面に層状に堆積する。遺物は土師質皿や越前焼の片口鉢と成分分析はなされていないが、銑鉄の可能性もある復元径 65㎝程の円盤状鉄製品（第 71 図６・７）がある。金属製品の生産に関わる遺構とも想定できるが鉱滓はなく、類似遺構である越前市徳神遺跡等の火葬遺構のように骨片も未検出のため、その性格は不明確である。当遺構の南方に縞状の炭化物のほか、被熱した礫を含む平面型不正形の SK58・68 があり、両者の関連性も想定できる。

**SK48**（第 27 図）　B15 に位置する。平面型は長軸 1.4 ｍ、短軸 1.3 ｍ程の楕円形を呈する。断面形はＵ字状で深さ 0.8 ｍ程を測る。SK72・SD52 を切る。覆土はレンズ状堆積である。

**SK72**（第 27 図）　B15 に位置する。平面型は長軸 2.8 ｍ、短軸 1.2 ｍ程で楕円形を呈する。南側の壁面は垂直で深さ 1.1 ｍ程を測る。SK48・SD61 に切られ覆土の堆積状況は複雑である。４～７・10 層は有機物、木質遺体を含む。遺物は 15 世紀の土師質皿と 14 世紀前半の瀬戸焼の卸皿（第 37 図 39）等を認める。SK48 出土の土師質皿も同じ特徴を認める。

**SK78**（第 27 図）　B16・17 に位置する。平面型は直径 3.4 ｍ程の円形状を呈する。断面形は台形で深さ 1.1 ｍ程を測る。底面も 1.7 ｍ程と広い。土層観察から内部に何らかの構築物が存在したと思われるが、平面に比べて深度が低いため井戸の可能性は低いものと考える。遺物は土師質皿と越前焼の甕と片口鉢がある。

C・D14・15 に位置し、SK57 に切られる SK75 は東側は調査区外だが、平面型は長方形と思われ、深さ 0.3 ｍ程を測る。

**SP328**（第 27 図）C12 に位置する。長軸 0.4 ｍ程を測る。長さ 11㎝程の柱材が残る。

３　溝

**SD41**（第 28 図）　B ～ D12 に位置する。幅 2.6 ｍ、断面形は台形で深さ 0.7 ｍ程を測る。SE11・13 を切る。覆土は底面に炭化物が集中する１層を除きレンズ状堆積で、４層に植物遺体を含む。遺物は土師質皿や越前焼の甕と擂鉢、瀬戸焼の卸皿（第 38 図 22）や瓦質風炉・火鉢、青磁皿や白磁皿（第 38 図 25 ～ 29）等、15 世紀の遺物を多く認める。

**SD42**（第 28 図）　B ～ D12 に位置する。幅 3.0 ｍ、断面形は台形で深さ 0.6 ｍ程を測る。SE10 ～ 14 を切る。覆土はレンズ状堆積である。遺物は土師質皿や越前焼の甕や片口鉢、瀬戸焼の卸皿（第 38 図 40）、東濃型の山茶碗（第 38 図 41）等がある。

**SD43**（第 28 図）　B ～ D12・13 に位置する。幅 2.4 ｍ、断面形は南側が階段状となる台形で深さ 0.9 ｍ程を測る。SE12・14 を切る。覆土はレンズ状堆積で、底面の４・５層に植物遺体を含む。遺物は土師質皿や越前焼の甕と擂鉢、瀬戸焼の平碗（第 39 図８）、青磁碗や白磁皿（第 39 図 12 ～ 16）のほか、漆器椀（第 42 図５）等の木製品を認める。

**SD44**（第 28 図）　B ～ D13 に位置する。幅 0.8 ｍ、断面形はＵ字状で深さ 1.0 ｍ程を測る。再堆積した SD45 の北側を切る。覆土はレンズ状堆積で、炭化物の塊の多い４層を含む粘質土と砂質土を交互に認める。遺物は 15 世紀後半頃の越前焼の擂鉢（第 39 図 23）と青磁碗（第 39 図 25・26）等がある。

**SD45**（第 28 図）　B ～ D13 に位置する。幅 4.2 m、断面形は台形で深さ 0.9㎝程を測る。底面も 2.2 m と広い。SE18・SD44 に切られる。覆土は砂粒を含む 13 ～ 15 層が底面上に水平に堆積し、その上にある 10 ～ 12 層を埋没後の掘削である３～８層が掘り込む。遺物は土師質皿、15 世紀後半の瓦質擂鉢（第 39 図 29）や、未図化の瀬戸焼の花瓶や白磁皿等がある。

**SD48**（第 29 図）　B・C14 に位置する。幅 0.9 m、断面形はＵ字状で深さ 0.6 m程を測る。溝の先端は丸状で西側で途切れ、SD54 へと続く可能性もある。SE15 を切る。

**SD52**（第 29 図）　B・C14・15 に位置する。幅は西の張り出し部分で 2.1 m、断面形は弧状で深さ 0.3 m程を測る。ほかの溝と異なり南北へ伸びる。SE5・SK48 を切り、SD46・47・51・57・58・61 に切られる。先端は丸状で北側で途切れる。遺物は土師質皿と越前焼の片口鉢、土師質鍋等がある。

**SD51**（第 29 図）　SD57・58 上で検出され、幅 2.1 m、断面形は弧状で深さ 0.3 m程を測る。遺物は越前焼の甕と片口鉢と擂鉢、珠洲焼の鉢、14 ～ 15 世紀前半に収まる瀬戸焼の卸皿や折縁深鉢（第 39 図 41・42）、東濃型の山茶碗（第 39 図 40）、瓦質風炉（第 39 図 43）等がある。

**SD57**（第 29 図）　B・C16 に位置する。SD58 に北接し、幅 1.4 m、断面型はＵ字状で深さ 0.8 m程を測る。SE6・9・SD52 等を切る。覆土はレンズ状堆積である。遺物は土師質皿や 14 世紀前半頃の瀬戸焼の皿（第 40 図５）、瓦質風炉・火鉢（第 40 図６・７）等がある。

**SD58**（第 29 図）　B・C16 に位置する。SD57 に接し、幅 1.1 m、断面形はＵ字状で深さ 0.7 m程を測る。SE9 を切る。SD57 と同様、覆土はレンズ状堆積である。遺物は 15 世紀前半の土師質皿等がある。SD57 との切り合いがなく、ほぼ同時期の溝の可能性もある。

**SD61**（第 29 図）　B15・16 に位置する。幅 1.1 m、断面形はＵ字状で深さ 0.5 m程を測る。SE9・SK72・SD57・62 を切る。遺物は越前焼の片口鉢や瓦質火鉢（第 38 図 21）があるが、小刀や鍋釣金具、錠前や釘、キセルがあるため、近世に降るものと考える。SD62 は切り合い関係で中世の遺構と考える。

**SD63**（第 29 図）　B・C16 に位置する。幅 1.8 m、断面型は弧状で深さ 0.2 m程を測る。

**SD64**（第 29 図）　C・D14 に位置する。幅 0.8 m、断面形は弧状で深さ 0.1 m程を測る。

**SD65**（第 29 図）　C・D14 に位置する。幅 1.1 m、断面形は弧状で深さ 0.1 m程を測る。

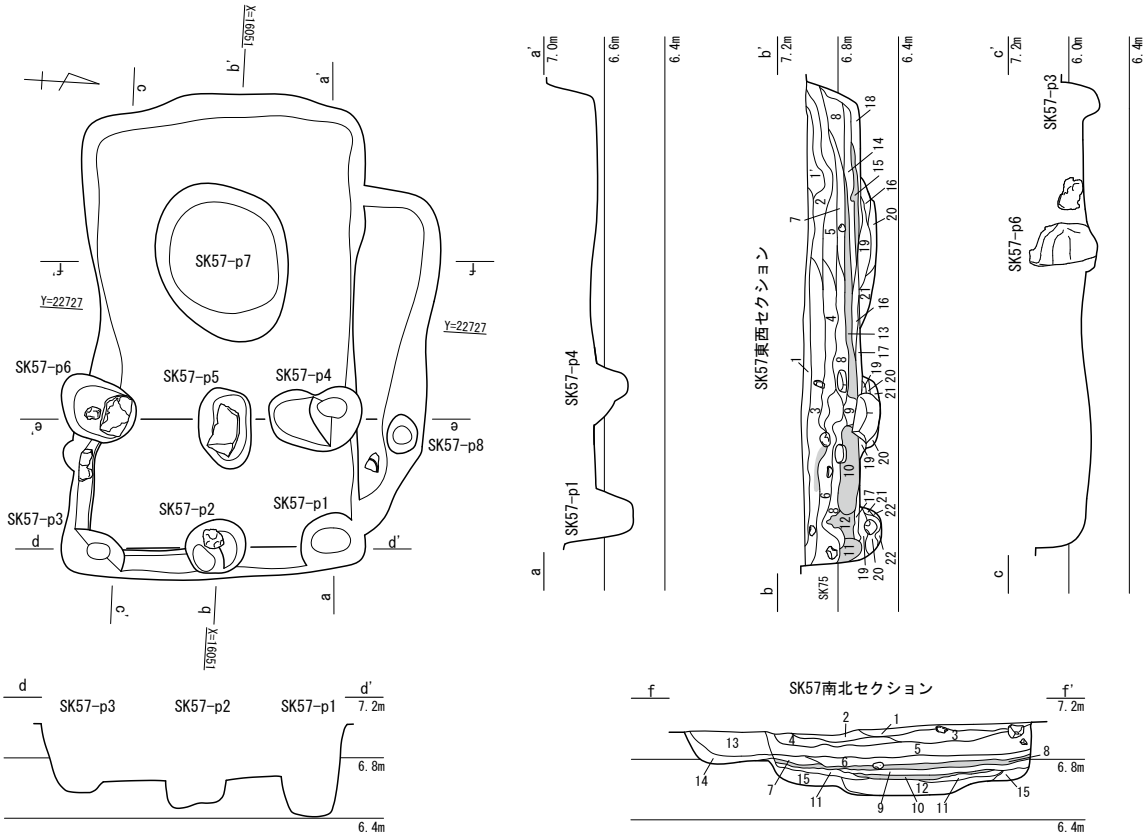
**SD67**（第 29 図）　D・E13 に位置する。幅 2.2 m、断面形は弧状で深さ 0.2 m程を測る。

**SD70**（第 30 図）　B・C14・15 に位置する。幅が 3.5 mと広く、断面形が台形である点は SD45 と似る。SD57・58付近から北方に伸び、西方に向け直角に曲がる。SK48・SD52・61・68等に切られ、SE5 を切る。覆土は水平に堆積する。遺物は皆無である。

ほかに SK64・65 間に SD55、C・D17 に SD56 がある。SD55 からは土師質皿や瓦質火鉢の耳（第 40 図 18）、SD56 からは唐津焼の皿が出土した。

参考文献

宇野隆夫　1982「井戸考」『支林』65-5
北陸中世考古学研究会　2001『中世北陸の井戸』
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2012『若宮遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第 127 集




SK57南北セクション

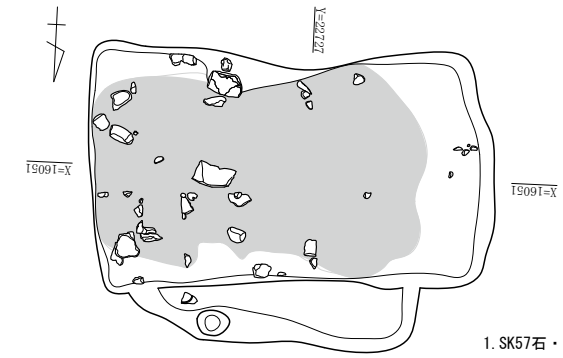
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 普 | 少 | － | 炭化物が底面付近に集中 |
| 2 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 普 | 少 | 少 | |
| 4 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 6 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | 固く締まった褐色粘質土有り |
| 7 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 8 | 10YR2/1 | 黒色粘質土 | 弱 | 弱 | 多 | 少 | － | 90%炭化物 |
| 9 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色粘質土 | 弱 | やや弱 | 多 | － | － | 90%炭化物 |
| 11 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | 固く締まった褐色粘質土有り |
| 12 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 13 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 14 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 15 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | － | － | － | 地山 |

SK57東西セクション

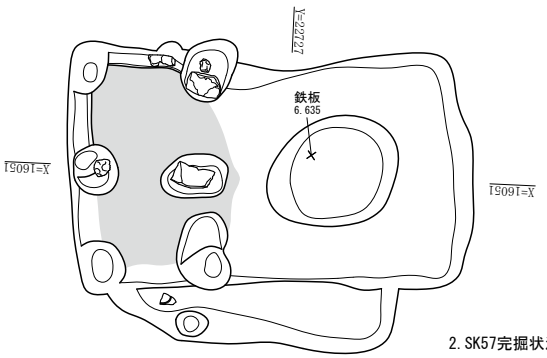
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 普 | 少 | － | 炭化物が底面付近に集中 |
| 1' | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | 部分的に焼土集中 |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | 普 | 少 | － | 部分的に上層に焼土集中<br>部分的に下層に炭化物堆積 |
| 4 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 6 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 7 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | 上層部分に固く締まった褐色粘質土有り |
| 8 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 9 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 普 | 少 | － | |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色粘質土 | 弱 | 弱 | 多 | 少 | － | 90%炭化物 |
| 11 | 10YR2/1 | 黒色粘質土 | 弱 | やや弱 | 多 | 少 | － | |
| 12 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 多 | 少 | － | 80%炭化物 |
| 13 | 10YR2/1 | 黒色粘質土 | 弱 | 弱 | 多 | 少 | － | 90%炭化物 |
| 14 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 15 | 10YR2/1 | 黒色粘質土 | 弱 | やや弱 | 多 | － | － | 90%炭化物 |
| 16 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 17 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 18 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | － | － | － | 地山 |
| 19 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 普 | 少 | － | |
| 20 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 弱 | 強 | 少 | 少 | － | |
| 21 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | － | |
| 22 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |

0　(1/60)　2m

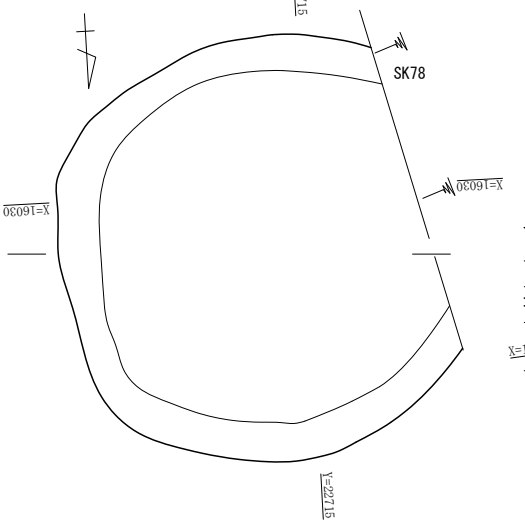
**第26図**　南調査区土坑実測図１（縮尺1/60）

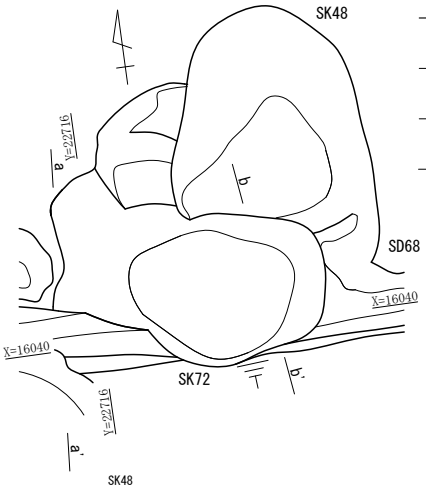


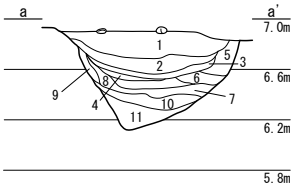

1. SK57石・炭範囲

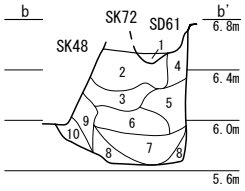


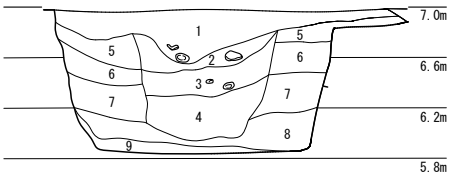

2. SK57完掘状況

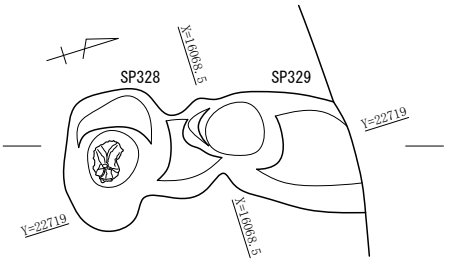


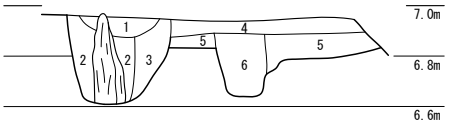



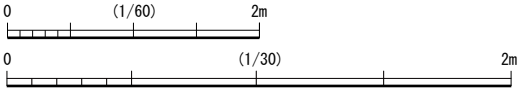




SK48

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | 褐鉄鋼少 |
| 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 鉄分少 |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | 強 | 少 | 少 | － | 鉄分少 |
| 5 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 6 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | 鉄分少 |
| 7 | 2.5Y5/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 鉄分少 |
| 8 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 9 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | 褐鉄鋼少 |
| 10 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 11 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | |
| 12 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや弱 | やや強 | － | － | － | 地山 |

SK72

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SD62埋土 |
| 2 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | 少 | SK72埋土 |
| 3 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | 有機物有り |
| 5 | 7.5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | 有機物有り |
| 6 | 7.5Y5/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | 有機物有り |
| 7 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | 木質遺体有り |
| 8 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | － | － | － | |
| 9 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | 少 | 木質遺体有り |
| 10 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | － | － | 木質遺体有り |

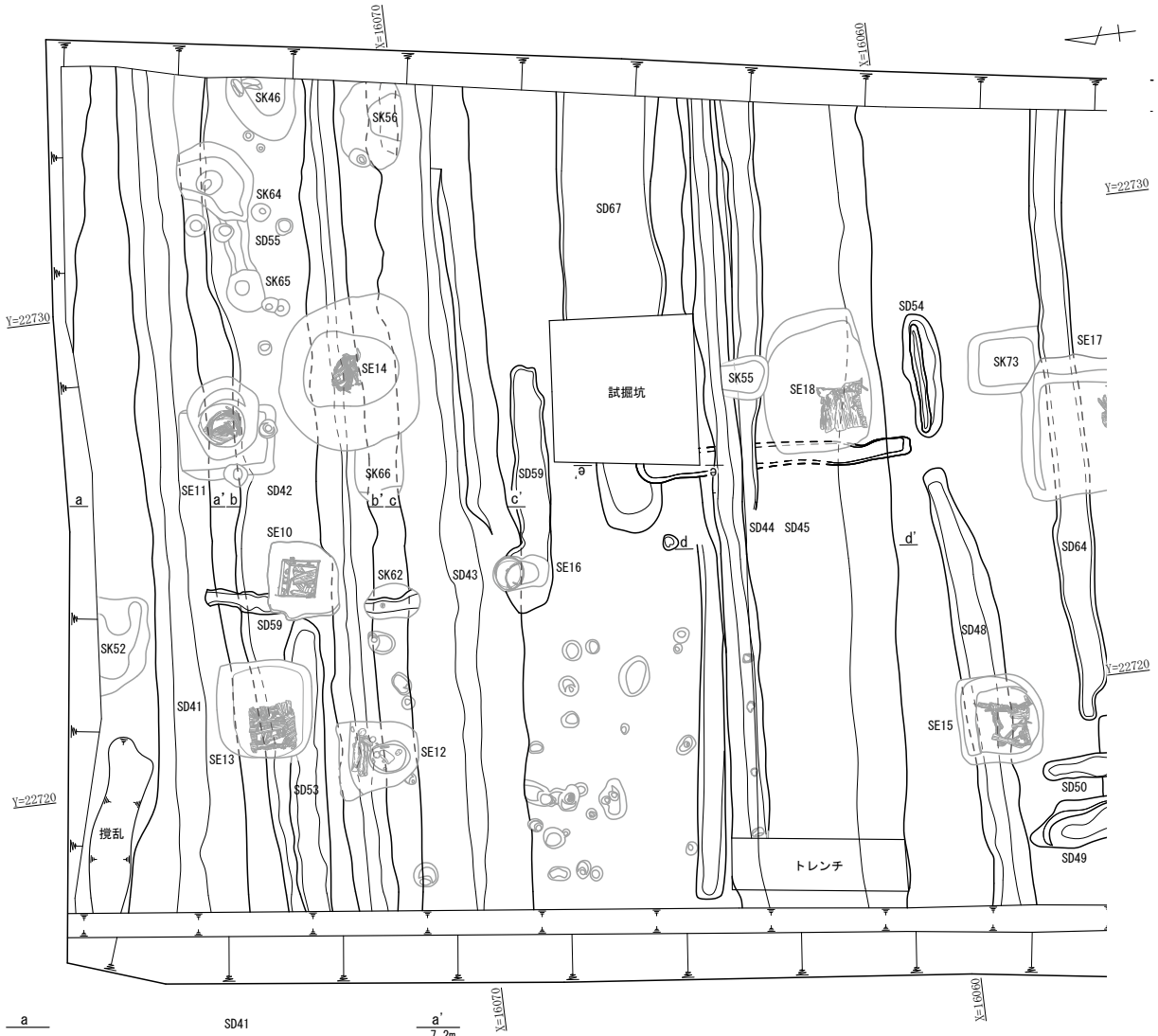
SK78

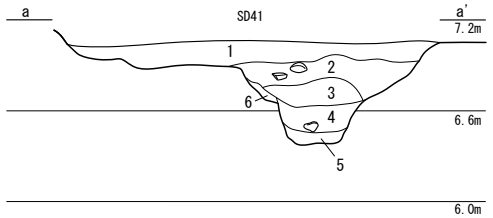
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 2 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 4 | 2.5Y5/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 5 | 7.5Y5/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 6 | 2.5GY5/1 | オリーブ灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 7 | 7.5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 8 | 7.5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | 強 | － | － | － | |

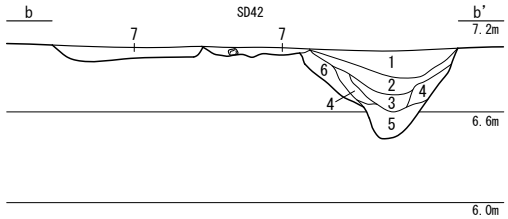
SP328, SP329

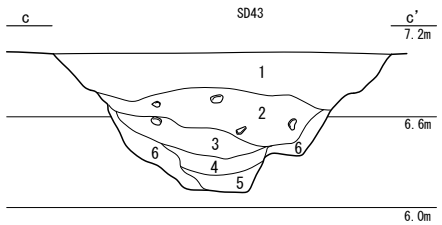
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | 古銭出土 |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |
| 4 | 10YR3/4 | 暗褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 5 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色粘質土 | 強 | 弱 | － | － | － | |
| 6 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | 少 | |

**第27図**　南調査区土坑実測図２（縮尺1/30・1/60）




SD41

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | － | － | 炭化物が底面付近に集中 |
| 2 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 3 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 5 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 7 | 7.5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | |

SD42

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | |
| 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | 褐鉄鋼少 |
| 3 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 4 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 5 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | 強 | 少 | － | － | |
| 6 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | 褐鉄鋼少 |
| 7 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | |

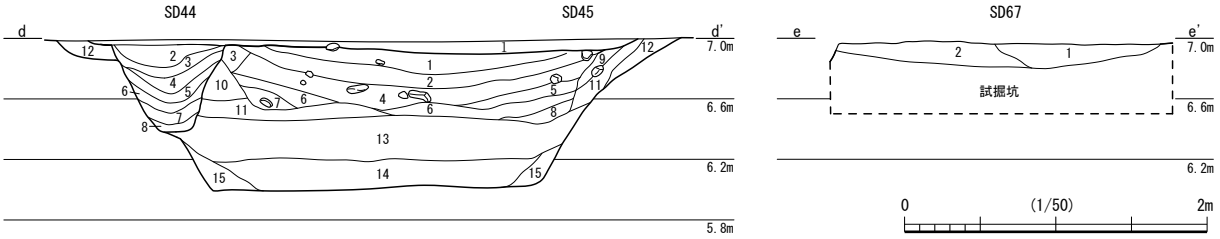
SD43

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | 褐鉄鋼少 |
| 2 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 4 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | 強 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 5 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | 弱 | 強 | 少 | － | － | 植物遺体有り |
| 6 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |

0　(1/150)　2m

0　(1/50)　2m

**第28図**　南調査区溝実測図１（縮尺1/50・1/150）




SD45

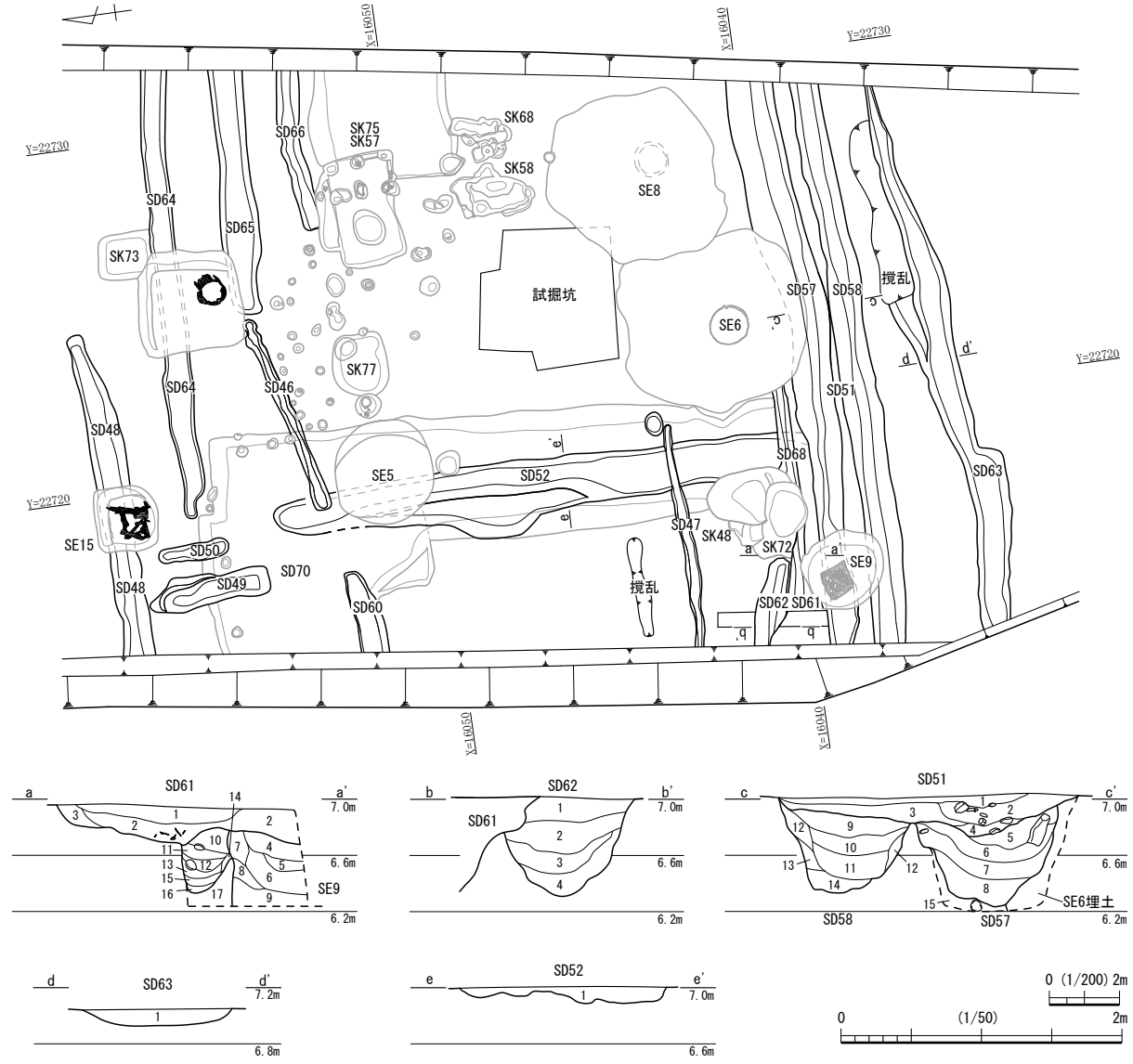
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | 少 | 1～8層が再掘削 |
| 2 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 4 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 5 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 6 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | |
| 7 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 8 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | |
| 9 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | 細砂含む |
| 10 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 11 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | － | － | |
| 12 | 2.5Y5/3 | 黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | － | |
| 13 | 5Y4/2 | 灰オリーブ粘質土 | 弱 | やや強 | 少 | － | 少 | 中砂含む |
| 14 | 5Y5/2 | 灰オリーブ粘質土 | 弱 | 強 | 少 | － | 少 | 粗砂若干混じる |
| 15 | 5Y4/3 | 暗オリーブ粘質土 | 弱 | 強 | 少 | － | － | 粗砂若干混じる |

SD44

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | ゴミ入る |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 4 | 10YR5/2 | 灰黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 多 | 少 | 少 | 炭化物固まる |
| 5 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | 細砂が薄層上に混入 |
| 6 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色砂質土 | やや強 | 弱 | 少 | － | － | |
| 7 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | 頭大河原石有り |
| 8 | 5Y4/2 | 灰オリーブ砂質土 | 弱 | やや強 | 少 | － | － | |

SD67

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色粘質土 | 強 | 弱 | 少 | － | 少 | |




**第29図**　南調査区溝実測図２（縮尺1/50・1/200）

SD61

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | 溝埋没後の堆積層 |
| 2 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | 木質遺体有り<br>溝埋没後の堆積層 |
| 3 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | 強 | やや強 | 少 | － | － | 溝埋没後の堆積層 |
| 4 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SK71埋土 |
| 5 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | 木質遺体有り　SK71埋土 |
| 6 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SK71埋土 |
| 7 | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | 少 | SK71埋土 |
| 8 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SK71埋土 |
| 9 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SK71埋土 |
| 10 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD61埋土 |
| 11 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | － | － | － | SD61埋土 |
| 12 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SD61埋土 |
| 13 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD61埋土 |
| 14 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | SD61埋土 |
| 15 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SD61埋土 |
| 16 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | SD61埋土 |
| 17 | 7.5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | 地山 |

SD62

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | 少 | |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | |
| 4 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | |

SD51, SD57, SD58

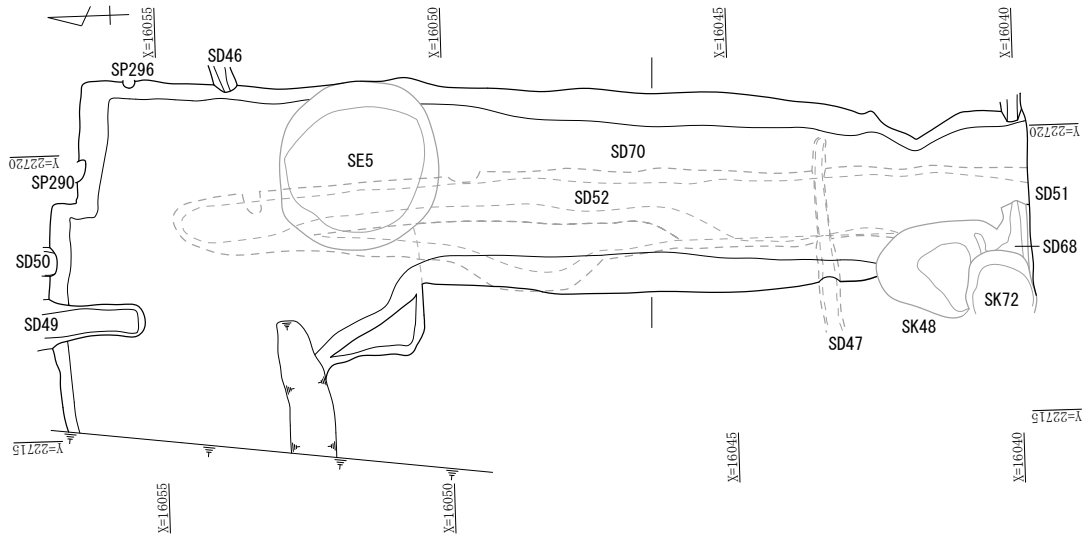
| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや弱 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD51埋土 |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | － | － | SD51埋土 |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや強 | やや弱 | 少 | 少 | － | SD51埋土 |
| 4 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD51埋土 |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SD57埋土 |
| 6 | 2.5Y5/1 | 黄灰色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SD57埋土 |
| 7 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SD57埋土 |
| 8 | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SD57埋土 |
| 9 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | 弱 | 少 | 少 | － | SD58埋土 |
| 10 | 5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SD58埋土 |
| 11 | 5Y3/1 | オリーブ黒色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | 少 | － | SD58埋土 |
| 12 | 7.5Y4/1 | 灰色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SD58埋土 |
| 13 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや強 | やや強 | 少 | － | － | SD58埋土 |
| 14 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | － | － | SD58埋土 |
| 15 | 2.5Y5/4 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや弱 | － | － | － | SE6埋土 |

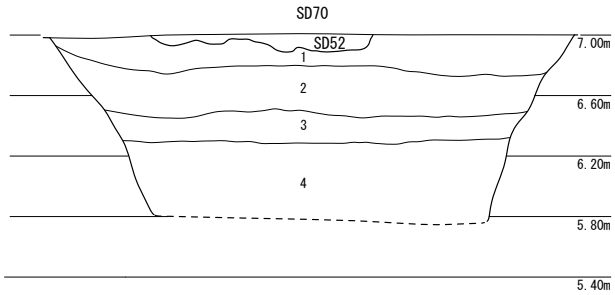
SD52

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | 少 | 少 | － | |

SD63

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色粘質土 | やや弱 | やや弱 | － | － | － | |




SD70

| No. | 土色No. | 土色・土質 | しまり | 粘性 | 炭化物 | 焼土粒 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色粘質土 | やや弱 | やや強 | － | － | － | |
| 2 | 10YR5/6 | 黄褐色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |
| 3 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粘質土 | やや弱 | やや強 | － | － | － | |
| 4 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粘質土 | やや強 | やや強 | － | － | － | |

0　(1/150)　2m

0　(1/50)　2m

**第30図**　南調査区溝実測図３（縮尺1/50・1/150）

## 第２表　掘立柱建物・柵列計測表

| 遺構名 | 位置 | 種類 | 柱間 | 規模 | | 柱間隔 | | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長辺 | 短辺 | 長辺側 | 短辺側 | | | |
| SB1 | D7 | 総柱 | 2 間× 2 間 | 2.90 | 2.40 | P1～P4･0.60　P4～P7･1.20<br>P2～P5･0.75　P5～P6･0.50<br>P3～P6･0.62　P6～P9･0.54 | P1～P2･0.16　P2～P3･0.36<br>P4～P5･0.34　P5～P6･0.44<br>P7～P8･0.36　P8～P9･0.20 | >SK17 | | |

SB1 柱穴

| 遺構名 | 位置 | 径（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB1-p1 | D7 | 0.55 | 0.07 | 弧状 | | | |
| SB1-p2 | D7 | 0.48 | 0.09 | 弧状 | | | |
| SB1-p3 | D7・D8 | 0.51 | 0.08 | 弧状 | | | |
| SB1-p4 | D7 | 0.44 | 0.08 | 弧状 | | | |
| SB1-p5 | D7 | 0.38 | 0.06 | 弧状 | | | |

| 遺構名 | 位置 | 径（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB1-p6 | D7・D8 | 0.50 | 0.14 | 弧状 | | | |
| SB1-p7 | D7 | 0.56 | 0.12 | 弧状 | | | |
| SB1-p8 | D7 | 0.54 | 0.09 | 弧状 | | | |
| SB1-p9 | D7・D8 | 0.43 | 0.18 | 弧状 | <SK17 | | |

SB2 柱穴

| 遺構名 | 位置 | 径（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB2-p1 | D11 | 0.25 | 0.17 | U字状 | | | |
| SB2-p2 | D11 | 0.42 | 0.28 | 箱状 | | | |
| SB2-p3 | D11 | 0.36 | 0.28 | U字状 | >SB2-SD3 | | |
| SB2-p4 | D11 | 0.35 | 0.26 | U字状 | >SB2-SD3 | | |
| SB2-p5 | D11 | 0.24 | 0.16 | U字状 | | | |
| SB2-p6 | D10 | 0.30 | 0.24 | 箱状 | >SK23 | | |
| SB2-p7 | D10 | 0.37 | 0.24 | 漏斗状 | | | |
| SB2-p8 | D10 | 0.39 | 0.34 | 漏斗状 | | | |
| SB2-p9 | D10 | 0.20 | 0.11 | U字状 | | | |
| SB2-p10 | D10 | 0.38 | 0.36 | 漏斗状 | | | |
| SB2-p11 | D10 | 0.24 | 0.18 | 箱状 | | | |
| SB2-p12 | D10 | 0.28 | 0.20 | 箱状 | | | |
| SB2-p13 | D10 | 0.21 | 0.17 | U字状 | | | |

| 遺構名 | 位置 | 径（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB2-p14 | D10 | 0.22 | 0.16 | U字状 | | | |
| SB2-p15 | D10 | 0.26 | 0.31 | U字状 | | | |
| SB2-p16 | D10 | 0.25 | 0.25 | U字状 | | | |
| SB2-p17 | D11 | 0.29 | 0.20 | U字状 | | | |
| SB2-p18 | D10 | 0.23 | 0.22 | 漏斗状 | <SB5-SD2 | | |
| SB2-p19 | D11 | 0.28 | 0.29 | 箱状 | | | |
| SB2-p20 | D11 | 0.21 | 0.16 | 箱状 | | | |
| SB2-p21 | D11 | 0.21 | 0.40 | U字状 | | | |
| SB2-p22 | D11 | 0.16 | 0.09 | 箱状 | | | |
| SB2-p23 | D11 | 0.24 | 0.19 | 箱状 | | | |
| SB2-p24 | D10 | 0.23 | 0.37 | U字状 | | | |
| SB2-p25 | D11 | 0.30 | 0.22 | 箱状 | >SK31 | | |
| SB2-p26 | D10 | (0.32) | 0.30 | 漏斗状 | <SB5-SD2 | | |

SB2 関連土坑

| 遺構名 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長軸（m） | 短軸（m） | 深さ（m） | 切り合い | 主な遺物 | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB2-SK1 | D11 | 円形 | 箱型 | 0.93 | 0.92 | 1.11 | | 越】片口鉢（Ⅱ）・擂鉢 | | |
| SB2-SK2 | D11 | − | U字状 | (0.80) | (0.80) | 0.56 | >SB2-SK4.<SB2-SK5 | | | |
| SB2-SK3 | D11 | 楕円形 | 漏斗状 | 0.72 | 0.56 | 0.26 | | | | |
| SB2-SK4 | D11 | − | - | (1.80) | (0.18) | 0.40 | <SB2-SD1 | | | |
| SB2-SK5 | D11 | − | 半円状 | (1.62) | (0.32) | 0.48 | >SB2-SK2 | | | |
| SB2-SK6 | D10 | 楕円形 | 弧状 | 1.2 | 0.83 | 0.26 | | 越】片口鉢（Ⅱ） | | |
| SB2-SK7 | D10 | 楕円形 | 弧状 | 1.6 | (1.68) | 0.16 | <SB2-SK6 | 越】片口鉢（Ⅱ） | | |
| SB2-SK8 | D10 | 楕円形 | 弧状 | (0.88) | 0.76 | 0.15 | | | | |
| SB2-SK9 | D10 | − | 弧状 | (2.0) | 0.47 | 0.14 | | 越】甕（Ⅱ3） | | |
| SB2-SK10 | D11 | 楕円形 | 弧状 | (1.0) | 0.73 | 0.08 | | 瀬】天目茶碗 | | |

SA1 柱穴

| 遺構名 | 位置 | 径（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SA1-p1 | D・E9 | | 0.4 | | | | |
| SA1-p2 | D・E9 | | 0.31 | | | | |

| 遺構名 | 位置 | 径（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SA1-p3 | D・E9 | | 0.17 | | | | |

SB2 関連溝

| 遺構名 | 位置 | 幅（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB2-SD1 | D10・11 | 0.53 | 0.31 | | | | |
| SB2-SD2 | D10 | 0.33 | 0.24 | | >SB2-SP18.26 | | |

| 遺構名 | 位置 | 幅（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB2-SD3 | D10・11 | 0.52 | 0.3 | | | | |
| SB2-SD4 | D10・11 | 0.52 | 1.80 | | | | |

SA2 柱穴

| 遺構名 | 位置 | 径（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SA2-p1 | D10 | 0.32 | 0.21 | 箱状 | | | |
| SA2-p2 | D10 | (0.27) | 0.23 | 箱状 | | | |
| SA2-p3 | D10 | (0.29) | 0.30 | 漏斗状 | | | |
| SA2-p4 | D10 | 0.26 | 0.12 | | | | |
| SA2-p5 | D10 | 0.24 | 0.18 | U字状 | | | |
| SA2-p6 | D10 | 0.30 | 0.27 | U字状 | | | |
| SA2-p7 | D10 | 0.21 | 0.24 | 箱状 | | | |
| SA2-p8 | D10 | 0.21 | 0.12 | | | | |
| SA2-p9 | D10 | 0.27 | 0.20 | 箱状 | | | |
| SA2-p10 | D10 | 0.18 | 0.18 | 箱状 | | | |
| SA2-p11 | D10 | 0.33 | 0.24 | 箱状 | | | |
| SA2-p12 | D10 | 0.20 | 0.12 | | | | |

| 遺構名 | 位置 | 径（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SA2-p13 | D10 | 0.18 | 0.21 | 箱状 | | | |
| SA2-p14 | D10 | 0.24 | 0.21 | 箱状 | | | |
| SA2-p15 | D10 | 0.24 | 0.33 | | | | |
| SA2-p16 | D10 | (0.33) | 0.18 | 箱状 | | | |
| SA2-p17 | D10 | (0.24) | 0.15 | 箱状 | | | |
| SA2-p18 | D10 | 0.21 | 0.21 | 箱状 | | | |
| SA2-p19 | D10 | 0.36 | 0.26 | | | | |
| SA2-p20 | C10 | 0.42 | 0.30 | 箱状 | | | |
| SA2-p21 | C10 | 0.21 | 0.24 | 箱状 | | | |
| SA2-p22 | C10 | 0.20 | 0.24 | 箱状 | | | |
| SA2-p23 | C10 | 0.20 | − | U字状 | | | |

## 第３表　井戸計測一覧表

北地区

| 遺構 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長軸（m） | 短軸（m） | 深さ（m） | 切り合い | 主な遺物（土器・陶磁器） | 備考 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SE1 | D10 | 楕円形 | 箱状 | 4.38 | 4.05 | 2.33 | >SB5 − SD4 | 土】(D･L) 越】甕(Ⅱ2) 鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅲ1) 信】壺<br>青磁碗(B) 青磁香炉　白磁皿(A) | | 15C |
| SE2 | E4 | 楕円形 | 台形状 | 2.52 | 2.08 | 1.71 | <SD1.11.13.16.28.29 | 珠】甕 青磁碗(E)　白磁皿 | 桶物設置（段数不明） | 15C |
| SE3 | E5 | 楕円形 | − | 2.48 | 2.17 | (1.81) | <SD4.10.11.35 | 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ)　珠】甕 | 曲物設置（段数不明） | |
| SE4 | E7 | 楕円形 | 漏斗状 | 1.64 | 1.44 | (1.48) | >SD15 | 土】皿(O) 越】甕(Ⅲ1･2･Ⅳ) 擂鉢(Ⅲ1) 珠】甕 | | 15C |

南地区

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SE5 | B・C14 | 円形状 | | 2.96 | 2.80 | 1.89 | <SD52 | 土】皿(D･L)　越】甕(Ⅱ2) 鉢(Ⅱ) 瀬】碗(中Ⅲ～) | | |
| SE6 | C15 | 楕円形 | | 5.22 | 4.80 | 2.64 | >SE8.SD68.<SD51.57 | 土】皿(B･E･F･G･L･N)　鍋 越】甕(Ⅱ2) 鉢(Ⅱ)<br>常】甕 瀬】灰釉碗 瓦】擂鉢 火鉢 青磁碗(B･D) | 桶物設置（段数不明） | 15C |
| SE8 | C15 | 楕円形 | | 4.84 | 4.79 | 2.64 | <SE6.SK59 | 土】皿(L)　鍋 越】鉢(Ⅱ)　瀬】卸皿(後Ⅲ) 瓦】火鉢 | | 15C |
| SE9 | B16 | 楕円形 | | 2.38 | 2.14 | (1.41) | >SD57.58.61 | 土】皿(A･D･E･F･G･L)　越】鉢(Ⅱ) 加】甕 青磁碗(B) | 井戸枠方形<br>曲物設置（段数不明） | |
| SE10 | C12 | 方形状 | | 1.66 | 1.48 | (2.01) | <SD42 | 土】皿(D･E･G) 鍋 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) | 井戸枠方形<br>曲物設置（段数不明） | 13C |
| SE11 | C12 | 楕円形 | 台形状 | 1.66 | 1.50 | 1.64 | <SD41.42 | 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) 白磁皿(A) | 曲物設置（段数不明） | |
| SE12 | B・C12 | 楕円形 | U 字状 | 1.67 | 1.36 | 1.47 | <SD42.43 | 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) 瀬】鉄釉壺 | 足場設置 | |
| SE13 | C12 | 方形状 | | 2.03 | 1.99 | (1.54) | <SD41.42.53 | 土】鍋 越】鉢(Ⅱ) 山茶碗 瓦】擂鉢 青磁碗(B) 白磁皿(A) | 井戸枠方形<br>曲物設置（段数不明） | 15C |
| SE14 | C12 | 楕円形 | 台形状 | 3.15 | 2.92 | 2.14 | <SK66.SD42.43 | 土】羽釜　越】甕(Ⅱ2) 鉢(Ⅱ) | 桶物設置（段数不明） | 13C |
| SE15 | B14 | 方形状 | 台形状 | 1.86 | 1.80 | 1.83 | <SD48 | 土】皿(A･B･C) 鍋 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) | 井戸枠方形 | 13C |

| 遺構 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長軸（m） | 短軸（m） | 深さ（m） | 切り合い | 主な遺物（土器・陶磁器） | 備考 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SE16 | C13 | 楕円形 | U字状 | 1.17 | 0.75 | 1.05 | <SD59 | 越】鉢（Ⅱ） | 曲物設置（段数不明） | |
| SE17 | C14 | 方形状 | | 3.02 | 2.95 | (2.20) | <SD64 | 土】皿（F） 越】甕（Ⅱ2）鉢（Ⅱ）青磁碗 鉢 | 桶物設置（段数不明） | 15C |
| SE18 | C13 | 長方形 | | 2.98 | 2.26 | 1.64 | >SD45 <SK55 | 土】皿（Ⅰ）越】甕（Ⅱ2）鉢（Ⅱ）青磁碗(B･DⅡ）白磁皿(A) | 井戸枠方形<br>曲物設置（段数不明） | 15C |

## 第４表　土坑計測一覧表

北地区

| 遺構 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 長軸（m） | 短軸（m） | 深さ（m） | 切り合い | 主な遺物（土器・陶磁器） | 備考 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK1 | D6・7 | 楕円形 | 台形状 | 1.82 | 1.43 | 0.45 | >SD15 | 土】皿(L）珠】鉢 瀬】卸皿(後Ⅱ）瓦】火鉢 | | 15C |
| SK2 | D・E4 | 長方形 | 弧状 | 2.82 | 1.82 | 0.16 | >SK3.SD18.19 | 土】皿(H) | | |
| SK3 | D・E4 | 楕円形 | 弧状 | (3.60) | 2.40 | 0.25 | >SX1、<SK2 | 越】鉢（Ⅱ）瓦】火鉢 白磁皿 | | |
| SK4 | D・E4 | 長方形 | U字状 | 2.12 | 1.60 | 0.44 | >SK45 <SD15.16.28 | | | |
| SK5 | D7 | 楕円形 | | 1.08 | 0.78 | 0.32 | <SD14 | | | |
| SK6 | D7 | | | (2.70) | (0.93) | 0.17 | <SD14 | | | |
| SK7 | E5 | 楕円形 | 台形状 | 2.40 | 2.10 | 0.38 | >SK8 | 土】皿(E) 青白磁壺 | | |
| SK8 | E5 | 不正形 | 台形状 | (1.32) | (1.29) | 0.36 | <SK7 | | | |
| SK9 | D7 | 楕円形 | 弧状 | 2.15 | 1.64 | 0.38 | >SK10.SK50 | | | |
| SK10 | D7 | 楕円形 | 弧状 | (2.32) | 2.22 | 0.40 | >SK11 <SK9 | 越】鉢（Ⅱ）瀬】灰釉皿 | | |
| SK11 | D7 | 楕円形 | 弧状 | (1.35) | 1.10 | 0.14 | <SK10 | | | |
| SK12 | D7 | | 弧状 | 2.23 | 0.68 | 0.12 | <SK10 | 土】皿(F) | | |
| SK13 | E７ | 長方形 | 弧状 | (2.27) | (2.27) | 0.15 | | 越】鉢（Ⅱ） | | |
| SK14 | D7 | | U字状 | (2.82) | 0.97 | 0.44 | | | | |
| SK15 | D8 | 長方形 | 弧状 | (3.05) | 2.18 | 0.25 | >SK17・SD21 | 土】皿(E） 越】甕（Ⅱ3）鉢（Ⅱ）山茶碗 青磁碗(B･D) | | 15Cか |
| SK16 | D8 | 楕円形 | 弧状 | 1.84 | 1.55 | 0.45 | >SK17・SD21 | 土】皿（D）鍋 越】鉢（Ⅱ）山茶碗 | | |
| SK17 | D8 | | 弧状 | (2.31) | (1.85) | 0.17 | <SK16 | 土】皿(C･F） 山茶碗 | | 15Cか |
| SK18 | D8 | | U字状 | 1.63 | 0.61 | 0.22 | >SK19 | | | |
| SK19 | D8 | | | 1.08 | 0.60 | 0.10 | | 瓦】火鉢 | | |
| SK20 | D7・8 | | 箱状 | 2.68 | 0.54 | 0.24 | | 土】皿(F) | | |
| SK21 | E3 | 楕円形 | 箱状 | 0.73 | 0.54 | 0.24 | <SD26 | | | |
| SK22 | E3 | 不正形 | 弧状 | 1.95 | 1.08 | 0.22 | <SD26 | | | |
| SK23 | D10 | 円形状 | U字状 | 2.73 | 2.53 | 0.67 | >SB5-SD1.4 | 土】皿(C･N）越】甕（Ⅱ3）鉢（Ⅱ）信】壺 | 水溜桝の可能性あり | 15C |
| SK24 | D10 | 円形状 | 弧状 | 2.07 | 1.89 | 0.30 | | 越】鉢（Ⅱ）信】壺 | 水溜桝の可能性あり | 15C |
| SK25 | D5 | 楕円形 | 弧状 | 1.32 | 1.22 | 0.16 | | | | |
| SK26 | D・E5 | 不正形 | | 1.24 | 0.96 | 0.20 | | | | |
| SK27 | D10 | 方形状 | | (1.00) | (0.88) | 0.36 | | | | |
| SK28 | D10 | 円形状 | | (1.53) | (1.43) | 0.22 | <SB5-SD6 | | | |
| SK29 | D10 | 楕円形 | 弧状 | 0.99 | 0.87 | 0.26 | | 越】鉢（Ⅱ） | | |
| SK30 | D11 | 円形状 | U字状 | 0.77 | 0.65 | 0.14 | | | | |
| SK31 | D11 | 不正形 | U字状 | 0.77 | 0.50 | 0.14 | <SB5-SP25 | 越】甕（Ⅱ2） | | |
| SK32 | D11 | 楕円形 | U字状 | 0.68 | 0.60 | 0.28 | | | | |
| SK33 | C10 | 円形状 | U字状 | (2.69) | (1.49) | 2.10 | >SD72 | 越】鉢（Ⅱ） 青磁碗(BⅡ）白磁碗 | | 15Cか |
| SK34 | D8 | 方形状 | 台形状 | 1.20 | 0.70 | 0.42 | | 越】甕（Ⅱ3） | | |
| SK35 | D7 | 長方形 | 弧状 | (3.98) | 3.08 | 0.36 | >SD39 | 土】皿(L･G）越】甕（Ⅱ3）山茶碗 | | 15Cか |
| SK36 | E3 | | | (2.00) | 0.72 | 0.52 | <SD25 | | | |
| SK37 | E4 | 楕円形 | U字状 | (1.52) | 0.98 | 0.45 | | | | |
| SK38 | E4 | 円形状 | 箱状 | (1.24) | (1.20) | 0.28 | | | | |
| SK40 | D5 | | 箱状 | 0.90 | (0.58) | 0.38 | | | | |
| SK41 | D4 | | 台形状 | (1.50) | (1.24) | 0.37 | | | | |
| SK42 | D10 | | 弧状 | (1.40) | (0.64) | 0.29 | | 越】鉢（Ⅱ） | | |
| SK43 | D9・10 | | 箱状 | (1.33) | 0.54 | 0.09 | | | | |
| SK44 | D10 | 円形状 | 弧状 | 0.78 | 0.67 | 0.21 | | | | |
| SK45 | E4 | 不整形 | | 4.29 | 2.88 | 0.34 | <SK4.SD1.13.16.18.19 | 土】皿(C･G）越】鉢（Ⅱ）珠】甕 | | |
| SK49 | D8 | | U字状 | (2.69) | (1.88) | 0.48 | <SD39 | 越】鉢（Ⅱ）擂鉢(Ⅲ1）瀬】皿 青磁碗(CⅡ) | | |
| SK50 | D7 | 長方形 | 弧状 | (2.31) | (2.09) | 1.12 | <SK9.35.SD39 | 土】皿(D･F）越】甕（Ⅱ3） 鉢（Ⅱ） | 底面に布か板材 | |
| SX1 | E4 | | | 2.70 | (3.18) | 0.18 | >SD1.29 | 越】甕（Ⅳ3） 鉢（Ⅳ3）珠】甕 | | |
| SX2 | D・E4 | 不整形 | U字状 | 2.76 | 2.04 | 0.36 | >SD1 | 土】皿(F･L）越】鉢（Ⅱ）擂鉢(Ⅲ2）瓦】火鉢 | | 15C |

南地区

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK46 | D12 | | | (1.40) | (1.32) | – | >SD42 | 越】鉢（Ⅱ） | | |
| SK48 | B15 | 楕円形 | U字状 | 2.46 | 1.60 | 0.81 | >SK72 <SD52 | 土】皿(L）越】鉢（Ⅱ） | | |
| SK52 | C12 | | 弧状 | 1.81 | (1.06) | 0.37 | >SD52 | 土】皿(D）越】甕（Ⅱ3）鉢（Ⅱ）白磁皿(A) | | |
| SK55 | C13 | | 台形状 | (1.00) | 0.92 | 0.56 | >SE18.SD44 | 越】鉢（Ⅱ） | | |
| SK56 | D12･13 | | 弧状 | (1.80) | (1.23) | 0.40 | <SD43 | 越】鉢（Ⅱ） | | |
| SK57 | C14 | 長方形 | 箱状 | 3.20 | 2.49 | 0.48 | >SK75.SD66 | 土】皿(D）越】甕（Ⅱ3）鉢（Ⅱ） | 被熱礫・炭化物多数 | |
| SK58 | C15 | 不正形 | 弧状 | 2.43 | 1.02 | 0.19 | | | 被熱礫・炭化物多数 | |
| SK59 | C15 | 楕円形 | 弧状 | 1.34 | 1.08 | 0.14 | >SE8 | 越】鉢（Ⅱ） | | |
| SK62 | C12 | | | (1.17) | (0.69) | 0.24 | <SD42.43 | | | |
| SK64 | D12 | | 弧状 | (2.00) | 1.28 | 0.32 | <SD41.42 | 越】鉢（Ⅱ） | | |
| SK65 | C・D12 | 正円形 | 弧状 | (0.89) | (0.77) | 0.17 | <SD42 | | | |
| SK66 | C12 | | 弧状 | (2.26) | (0.96) | 0.27 | >SE5 <SD42.43 | | | |
| SK68 | C15 | 不正形 | 弧状 | 1.74 | 0.74 | 0.20 | >SK75 | | 被熱礫・炭化物多数 | |
| SK72 | B15･16 | | | (2.08) | (1.22) | 1.07 | <SK48.SD61 | 土】皿(L）瀬】卸皿(中) | | |
| SK73 | C14 | 長方形 | 台形状 | (1.52) | 1.32 | 0.50 | >SE17 | | | 15Cか |
| SK75 | D14･15 | 長方形 | | (4.00) | (3.08) | 0.24 | <SK57.68 | 越】鉢（Ⅱ） | | |
| SK77 | C14 | 楕円形 | 弧状 | (1.83) | 1.58 | 0.19 | | | | |
| SK78 | B16･17 | 正円形 | 台形状 | 3.38 | 2.86 | 1.14 | | 土】皿(F) 越】甕（Ⅱ2）鉢（Ⅱ） | | 15Cか |

## 第５表　溝計測一覧表

北地区

| 遺構名 | 位置 | 幅（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 主な遺物(土器･陶磁器) | 備考 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SD1 | D・E4 | 1.35 | 0.57 | 台形状 | >SE2.SK45 <SX2.SD18 | 土】皿(E･H･N）越】甕（Ⅱ2･Ⅲ2）鉢（Ⅱ）擂鉢(Ⅳ）<br>珠】甕 瀬】緑釉小皿(後）鉄釉皿 白磁皿(D) | | 15C |
| SD3 | D・E4・5 | 1.88 | 0.06 | 弧状 | >SD8.9 | 越】鉢（Ⅲ2）瀬】卸皿 石鍋 | | |
| SD4 | D・E5 | 2.40 | 0.08 | 弧状 | >SD10.11 | 越】甕（Ⅱ3･Ⅳ3）鉢（Ⅱ）擂鉢(Ⅳ）珠】甕<br>瀬】天目茶碗(後）灰釉皿 白磁皿(D) | | 15C |
| SD5 | D・E5 | 0.12 | 0.24 | U字状 | >SD36 | 土】皿(D･G･L）羽釜 越】甕（Ⅱ3）鉢（Ⅱ）珠】鉢 | | |
| SD6 | D5 | 0.98 | 0.26 | U字状 | >SD36 | 土】皿(M）越】鉢（Ⅱ2）青磁碗 | | |

| 遺構名 | 位置 | 幅（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 主な遺物(土器･陶磁器) | 備考 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SD8 | D・E4・5 | 0.64 | 0.16 | 弧状 | <SD3 | 越】鉢(Ⅱ) | | |
| SD9 | D・E4・5 | 0.70 | (0.08) | 弧状 | <SD3 | | | |
| SD10 | D・E5 | 0.64 | (0.08) | 弧状 | <SD4 | 瀬】灰釉碗 鉄釉香炉(中Ⅱ～) | | |
| SD11 | D・E5 | 1.36 | 0.20 | 弧状 | <SD4 | 越】鉢(Ⅱ) 珠】甕 瓦】火鉢 | | |
| SD12 | E4 | 0.24 | 0.09 | U字状 | <SX2 | | | |
| SD13 | D・E4 | (0.33) | 0.09 | U字状 | >SE2.SK4.SD18.19 | | | |
| SD14 | D・E7 | (1.94) | 0.15 | 弧状 | >SK5.6.SD15 | 土】Ⅲ(O) 甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) 青磁碗(D) 青磁稜花Ⅲ | | |
| SD15 | D6・7<br>E6・7 | (4.80) | 1.01 | 台形状 | >SE4.SD14.20 | 土】Ⅲ(C･L･N) 越】甕(Ⅱ2･Ⅲ2･Ⅳ3) 鉢(Ⅱ)<br>擂鉢(Ⅳ1) 瀬】天目茶碗 山茶碗 青磁碗(D) | | 15C |
| SD16 | D・E4 | (0.82) | 0.12 | 弧状 | >SE2.SK45 <SD18.19 | 土】Ⅲ(L) 珠】甕 | | |
| SD17 | D・E3 | 0.32 | 0.12 | U字状 | >SD32.33 | | | |
| SD18 | D4 | (0.94) | 0.32 | 弧状 | >SK2.SD1.13 <SD16 | 土】Ⅲ(M) | | |
| SD19 | D4 | (0.38) | 0.14 | U字状 | >SK2.SD1.13 <SD16 | | | |
| SD20 | D6 | 0.45 | 0.14 | 箱状 | >SD15 | | | |
| SD21 | D8 | 0.77 | 0.22 | U字状 | >SK16.SD39 | | | |
| SD22 | D・E8 | (1.74) | 0.29 | U字状 | >SD39 | 土】Ⅲ(I) 越】甕(Ⅱ2) 鉢(Ⅱ2) 青磁碗･白磁Ⅲ(D) | | 15C |
| SD23 | D・C9 | (1.65) | 0.18 | | >SD39 | 瓦】火鉢 | | |
| SD24 | C・D9 | (1.71) | 0.15 | 弧状 | >SD23.39 | 土】Ⅲ(Ⅰ)越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅳ1･3)<br>瀬】天目茶碗 青磁碗(CⅡ) 青磁稜花Ⅲ | | 15C |
| SD25 | D・E3 | 0.48 | 0.05 | 弧状 | <DS32 | 土】Ⅲ(N) | | |
| SD26 | D・E3 | 2.58 | 0.09 | 弧状 | >SK21.22.SD27.32～34 | 土】Ⅲ(L･I･N) 越】甕(Ⅱ3) 瀬】天目茶碗(後Ⅳ)<br>折縁小Ⅲ(後Ⅲ) 瓦】火鉢 青磁碗(CⅡ) 白磁Ⅲ | | 15C |
| SD27 | E3 | 0.24 | 0.06 | U字状 | >SK22 <SD26.32.33 | | | |
| SD28 | E4 | 0.38 | 0.06 | 弧状 | | | | |
| SD29 | E3・4 | (1.08) | 0.39 | U字状 | >SE2 <SX1.SD32 | 土】Ⅲ(L) 越】鉢(Ⅳ3) 鉢 | | 15C |
| SD30 | C・D9 | (2.51) | 0.24 | 弧状 | >SD39 | 越】甕(Ⅱ2) 鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅳ3) 信】壺 青磁碗 | | 15C |
| SD31 | D・E5 | 1.86 | 0.62 | | >SD36 | 越】鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅲ2･Ⅳ1) 珠】甕 鉢 | | |
| SD32 | E3 | 0.65 | – | | <SD26.27 | | | |
| SD33 | E3 | 0.33 | – | | <SD26.27 | | | |
| SD34 | E3 | 0.33 | – | | <SD26 | | | |
| SD35 | D・E5 | 0.84 | 0.04 | | <SD4.11 | | | |
| SD36 | D・E5 | 2.16 | 0.30 | | >SD31.37 | 越】甕(Ⅱ2) 鉢(Ⅱ) | | |
| SD37 | D・E5 | 2.60 | 0.70 | 台形状 | <SD36 | 越】鉢(Ⅱ) | | |
| SD38 | C9・10 | 0.90 | 0.18 | U字状 | <SK33.SD30 | | | |
| SD39 | D8・9 | 1.63 | 0.87 | U字状 | <SK35.49<br>SD21.22.23.24.30 | 土】Ⅲ(D･K･L･N) 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅳ1)<br>瀬】卸Ⅲ 緑釉小Ⅲ(後Ⅰ) 折縁深Ⅲ(後Ⅲ)<br>青磁碗(B･DⅡ) 白磁Ⅲ(D) | | 15C |
| SD40 | D8 | 0.42 | 0.08 | 弧状 | | | | |
| SD69 | C・D9 | (2.36) | 0.54 | 台形状 | | | | |
| SD71 | C10 | (0.69) | 0.74 | | | 土】Ⅲ(E･I･L) 越】鉢(Ⅱ) 瀬】入子 | | |
| SD72 | C10 | 0.36 | 0.16 | | >SK33 | | | |

南地区

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SD41 | B～D12 | 2.60 | 0.70 | 台形状 | >SE11.13.SK64 | 土】Ⅲ(B･D･I･L･O) 越】甕(Ⅱ2･Ⅲ2･Ⅳ1･2･3)<br>鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅳ2) 珠】甕 瀬】卸Ⅲ 緑釉小Ⅲ(後Ⅱ)<br>折縁深Ⅲ(中Ⅱ) 瓦】風呂 青磁碗･Ⅲ 白磁Ⅲ(D) | | 15C |
| SD42 | B～D12 | 2.96 | 0.62 | 台形状 | >SE10.11.12.13.14<br>SK56.62.66 | 土】Ⅲ(F･G･I･L) 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅳ3)<br>瀬】平碗(中Ⅱ～) 山茶碗 瓦】火鉢 青磁碗(B) | | 15C |
| SD43 | B～D<br>12・13 | 2.42 | 0.94 | 台形状 | >SE12.14.SK56.62.66 | 土】Ⅲ(F･L･O･P) 越】甕(Ⅱ3･Ⅳ2･3) 壺 鉢(Ⅱ)<br>擂鉢(Ⅲ2･Ⅳ1･2) 常】甕 瀬】天目茶碗 瓶子<br>浅碗(後Ⅱ) 大平碗(後Ⅱ) 卸Ⅲ(中Ⅳ) 瓦】火鉢<br>青磁碗(BⅢ･DⅡ･CⅡ) 白磁Ⅲ(D) | | 15C |
| SD44 | B～D13 | 0.78 | 0.62 | U字状 | >SD45 | 土】Ⅲ(F･I･L) 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅳ2)<br>瀬】天目茶碗 山茶碗 青磁碗(D) | | 15C |
| SD45 | B～D13 | 4.18 | 1.00 | 台形状 | <SE18.SD44 | 土】Ⅲ(C･J) 越】鉢(Ⅱ) 瓦】擂鉢 | | 15C |
| SD46 | B・C14 | 0.32 | 0.28 | U字状 | >SD52.70 | 土】Ⅲ(F) | | |
| SD47 | B15 | (0.33) | 0.08 | | >SD52.70 | | | |
| SD48 | B・C14 | 0.99 | 0.39 | U字状 | >SE15 | 土】Ⅲ(B) 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) | | |
| SD49 | B14 | 0.51 | 0.09 | U字状 | >SD70 | 越】鉢(Ⅱ) 瀬】卸Ⅲ(中Ⅱ) 白磁Ⅲ(A) | | |
| SD50 | B14 | 0.71 | 0.60 | U字状 | >SD70 | | | |
| SD51 | B・C16 | 2.68 | 0.28 | 弧状 | >SE6.9.SD52.70 | 越】甕(Ⅱ2･3) 鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅲ1) 珠(鉢) 山茶碗<br>瀬】卸Ⅲ(中Ⅱ) 折縁深Ⅲ(後3) 瓦】風炉 | | 15C |
| SD52 | B14・15 | 2.13 | 0.21 | 弧状 | >SE5.SK48.70<br><SD46.47.51.57.68 | 土】Ⅲ(D) 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) 瓦(火鉢) | | |
| SD53 | B・C12 | (0.70) | 0.26 | U字状 | >SD42 <SE13 | 白磁Ⅲ(A) | | |
| SD54 | C13・14 | 0.66 | 0.24 | 台形状 | | 土】Ⅲ(F) 越】鉢(Ⅱ) | | |
| SD55 | D12 | 0.48 | | | <SD42 | 土】Ⅲ(K･I) 瓦】火鉢 | | |
| SD56 | B・C17 | 0.84 | 0.09 | 弧状 | | | | |
| SD57 | B・C16 | 1.42 | 0.78 | U字状 | >SE6・9 <SD51 | 土】Ⅲ(D･F) 越】甕(Ⅱ3) 鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅲ2)<br>瀬】折縁小Ⅲ(中Ⅲ) 卸Ⅲ(中Ⅲ) 瓦】火鉢 | | |
| SD58 | B・C16 | 1.10 | 0.68 | U字状 | >SE9 <SD51 | 土】Ⅲ(M) 越】鉢(Ⅱ) | | 15C |
| SD59 | C13 | 0.96 | 0.50 | | >SE16 | | | |
| SD60 | B14 | (0.80) | 0.57 | | >SD70 | | | |
| SD61 | B15・16 | 1.13 | 0.63 | U字状 | >SE9.SK72.SD57 | 越】鉢(Ⅱ) 瓦】火鉢 | | 近世 |
| SD62 | B15 | 0.86 | 0.72 | U字状 | <SD61 | | | |
| SD63 | B・C16 | 1.76 | 0.12 | 弧状 | | | | |
| SD64 | B・C14 | 0.84 | 0.06 | 弧状 | >SE17 | | | |
| SD65 | C・D14 | 1.08 | | | >SE17 | | | |
| SD66 | C14 | (0.50) | 0.09 | 弧状 | <SK57 | | | |
| SD67 | C・D13 | 2.14 | 0.18 | | | 越】鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅲ2) | | |
| SD68 | B15・16 | | 0.19 | | >SE6.SD52 <SK48.72 | | | |
| SD70 | B･C14･15 | 3.50 | 0.91 | 台形状 | | | | |

## 第６表　道路計測一覧表

| 遺構名 | 位置 | 幅（m） | 深さ（m） | 断面形 | 切り合い | 主な遺物(土器･陶磁器) | 備考 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SA1 | D・E9 | 8.86 | 0.24 | 弧状 | >SD39 | 土】Ⅲ(Ⅰ)越】甕(Ⅱ2･3) 鉢(Ⅱ) 擂鉢(Ⅳ1･3)<br>信】壺 瀬】天目茶碗 青磁碗(CⅡ) 青磁稜花Ⅲ | 溝を含めた数値 | 15C |
| | | 5.20 | – | | | | 溝を除いた数値 | |

# 第５章　遺物

## 第１節　土器・陶磁器

### １　中世土師質皿の分類

出土した遺物の大半は中世の土師質皿である。土師質皿は残存状況が良好といえないが、遺構出土品が多いのに加え、出土量に比べて形態的な特徴が多く、比較的長期間の様相を示している。土師質皿は形態的な変化が短期間にみられることから遺構の時期差を捉えるうえで、その変化を把握するのは重要な作業といえる。そこで遺構の年代を想定するために、成形方法や形態を基に土師質皿の分類を行う。なお分類基準は、永平寺町諏訪間興行寺遺跡と福井市中角遺跡に主に依拠している。

Ａ類　底部は平坦である。体部内外面の回しナデにより口縁部を上に摘み上げる。器高は低く、ナデの強さが弱いため、腰部の屈強が不明瞭である。見込に回しナデを認めない。

Ｂ類　やや丸い底部から緩やかに立ち上がる。Ｃ類同様に腰部に稜を形成する。口縁部と端部を２度ナデ回し、断面台形状の面取り口縁を作りだす。端面中央部に弱い沈線の巡るものもある。

Ｃ類　底部は平坦である。内面の立ち上がり部を強く押さえつつナデ回すために、腰部に稜を形成するものが多い。直立気味に立ち上がり内面の屈曲も明瞭である。Ａ類同様に見込に回しナデを認めない。

Ｄ類　底部は平坦なものと丸みを帯びるものの両者がある。Ｂ・Ｃ類に認める内面の立ち上がり部の回しナデは弱まり、腰部の稜のないものが多い。内面の屈曲は弱く他類同様見込の回しナデは認めない。

Ｅ類　やや丸みのある底部から緩やかに立ち上がる。内面の立ち上がり部を指で押さえた後に回しナデを施すため、腰部に稜を形成する。見込はほかの大皿より深く、口縁部に不明瞭な面がある。

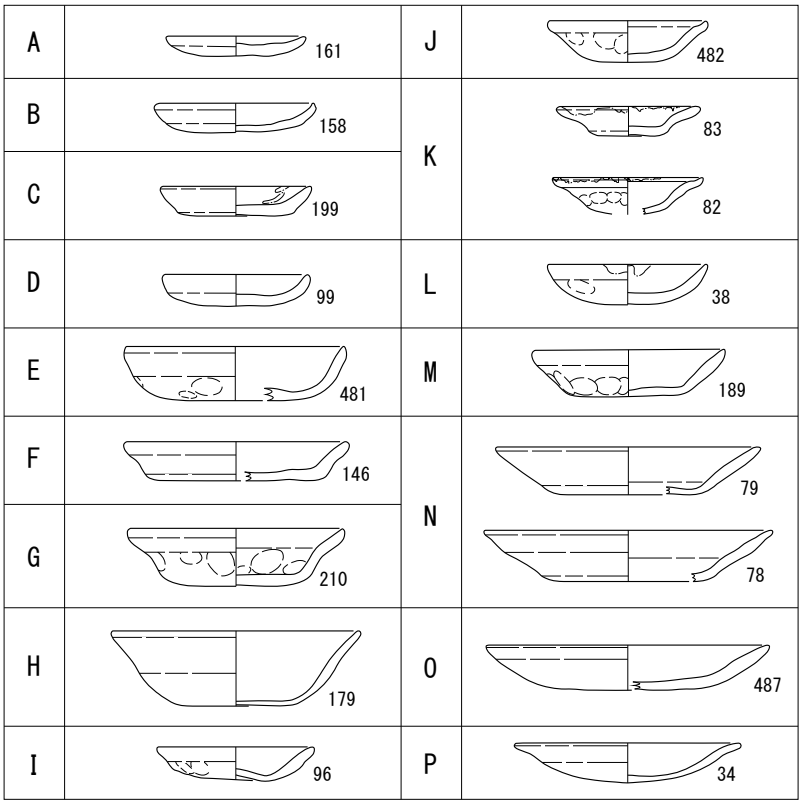
Ｆ類　底部は平坦で広い。内面の立ち上がり部を指で押さえるが、回しナデは弱まり腰部の稜は認めない。口縁部を面取るものも少ない。

Ｇ類　狭いやや丸みのある底部から外反して立ち上がる。内面を指で押さえ、強い回しナデを施す。外面中間部付近に明瞭な段がある。

Ｈ類　底部は平坦で広い。内面の立ち上がり部を指で押さえるため、見込は他類より深い。回しナデにより外面中程から緩やかに外反する。

なおＥ～Ｈ類の見込も回しナデを認めない点はＡ～Ｄ群の小皿と共通する。

Ｉ類　狭い底部から斜め上方




**第31図**　土師質皿分類図

に立ち上がる。外面は回しナデで口縁部に稜を形成するものがあり、内面は見込を除く強いナデ回しによりやや窪む。上げ底風で、いわゆるへそ皿となるものである。

Ｊ類　狭い底部から斜め上方に底部径程の長さで立ち上がり、口縁部を上方に僅かに摘み上げる。

Ｋ類　底部は平坦で広いものと上げ底風のものの両者がある。体部内外は強い回しナデのため、Ｉ類と異なり腰部に稜を形成する。内面の立ち上がり部も強く窪む。

Ｌ類　やや丸みのある厚めの底部から碗上に立ち上がり、口縁に向かい細くなる。外面と内面の立ち上がり部を広く挟んでナデる。内面には明瞭な屈曲を認めない。

Ｍ類　底部はほぼ平坦で広く、見込の径の半分の長さ程で斜め上方に立ち上がる。外面は回しナデで口縁部に稜を形成するものがみられ、内面も立ち上がり部を強く押さえてナデ回す。

Ｎ類　底部はほぼ平坦で広く、外反気味に広がりながら立ち上がる。内面の立ち上がり部上方に不明瞭だが直線的な稜のあるものもある。外面に２段ナデを施すものもある。

Ｏ類　底部から腰部付近まで厚く、やや丸みのある底部から緩やかに立ち上がる。内外面とも明瞭な立ち上がりはなく、口縁部に向けて細くなる。

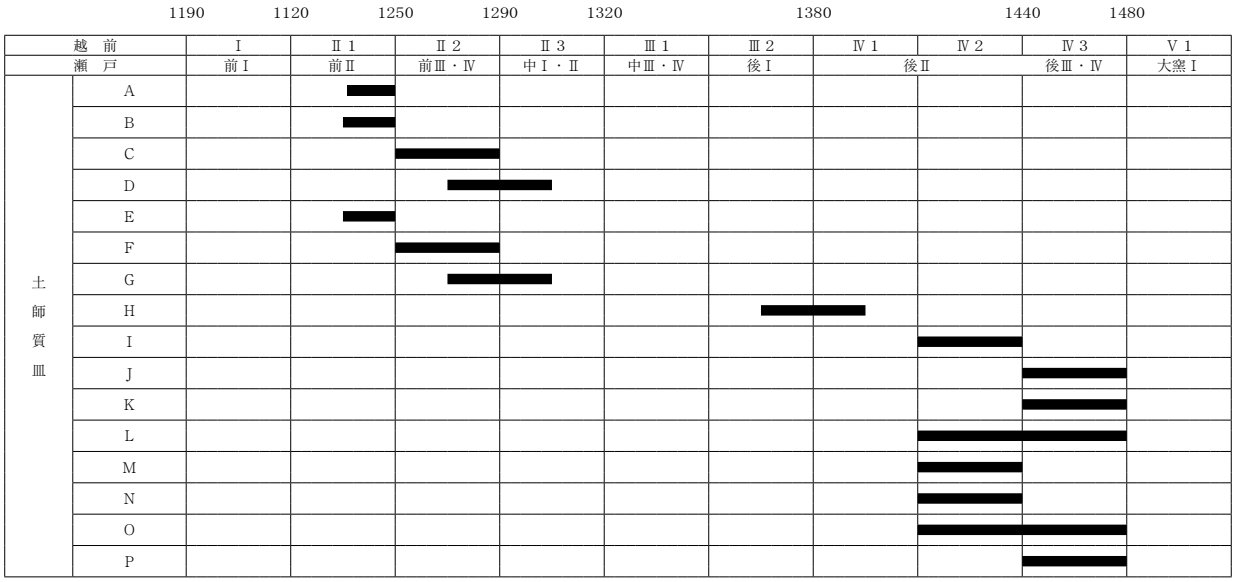
Ｐ類　丸みのある底部から強く外反して立ち上がり、端反り状になる。回しナデで腰部が屈曲する。

以上の土師質皿の成形技法は全て手づくねである。同器種からみた調査地の存続期間は、13 世紀前半の京都系土師質皿に認める口縁部の面取りが顕著にみられるＢ類は僅かで、中国製染付が１点のみのため 13 世紀後半～ 15 世紀末葉に収まるものと考える。各類の年代を県内の調査事例から導き出すと、扁平なＣ・Ｄ類の場合、口縁端部の面取りは認めないが、体部の成形技法と形態がＢ類と似る。Ｃ類は次型式であり、腰部に稜を認めないＤ類がそれに継ぐものと想定する。大皿は内面の立ち上がり部を指で押さえた後、外面をナデ回すＥ～Ｇ類をみると、口縁端部に不明瞭な面取りを有するものを含むＥ・Ｆ類を認める。この両者の新旧関係は不明瞭だが、Ｆ類は体部が外反し腰部に稜を認める点がＧ類と共通し、Ｇ類に口縁部を面取るものがない点から、Ｆ類からＧ類へ変遷するものと思われる。これらＡ～Ｇ類は諏訪間興行寺遺跡第Ⅰ期出土遺物にあり、Ｂ類が僅かである点を考えると、13 世紀後半代に収まると想定できる。Ⅱ２・３期の越前焼の甕と片口鉢を多く認めることと矛盾しない。なお１点のみ出土したＫ類は特異なものだが、見込の深さがＧ類を越えるため、それより年代は降るものと思われる。

続いてＡ～Ｄ類に比べて器高の高いＩ～Ｌ類の小皿をみると、一定量出土しているへそ皿のＩ類は、14・15 世紀頃の京都系土師質皿の影響を受けたものと思われる。同系譜と考えるＪ類は口縁端部を摘み上げる特徴が一乗谷朝倉氏遺跡Ｃ類と似て、Ｍ類は底部が縮小してＪ類へ変化する可能性がある。両者とも京都系土師質皿の影響を受けて出現した可能性があり、特にＪ類は一乗谷朝倉氏遺跡Ｃ類の前型式と考える。Ｌ類は出土数が多く本調査区の存続期間の基準資料である。Ｎ～Ｐ類の大皿のうちＮ類は形態的にＧ類と系譜が同じもので、14 世紀に収まる福井市伝安楽寺遺跡、南越前町杣山城跡出土遺物の次型式であり、Ｏ類は「ボテタイプ」とされるもので、Ｌ類同様在地色が強い。器壁が薄く白色の胎土を持つＰ類は京都系の色彩が強い。このうちＬ類とＯ類は 15 世紀中頃の諏訪間興行寺遺跡第Ⅲ期炭化物層出土遺物に多く、Ｎ・Ｐ類も含まれる。さらにＪ類は一乗谷朝倉氏遺跡Ｃ類の前型式であり、16 世紀初頭頃を下限とする諏訪間興行寺遺跡第Ⅳ層出土遺物に認めるため、Ｉ～Ｐ類はほぼ 15 世紀に収まると考える。これらにⅣ期の越前焼の甕と擂鉢が共伴することは、南調査区 SD41・43 出土遺物から理解でき、ほかの遺構での古瀬戸や貿易陶磁器の共伴事例とも矛盾しない。

以上の点から国産土器・陶磁器等の時間軸を示したのが第７表であり、これに基づき遺物を述べる。

**第７表**　本書における土器・陶磁器の時間軸




遺物の検討には、越前焼は『越前焼総合調査事業報告』、瀬戸焼は藤沢良裕、青磁碗は上田秀夫、白磁皿は森田勉の編年、青磁碗・白磁皿の年代は水澤幸一の論考も参照にした。

## ２　土器・陶磁器の概要

遺物が一定量出土した主要な遺構出土遺物を取り上げる。

### １）北調査区出土遺物（第 32 ～ 35・図版第 10 ～ 12）

**SB2-SK10 出土遺物**（第 32 図 16）

16 は小型の瓦質瓶で、体部外面の上下２段に雷文帯を持ち、その間に渦巻文を施す。

**SE1 出土遺物**（第 32 図１～ 10）

土師質皿は１のＤ類を除くと２～５のＬ類が多い。４は器高が低く底部中央が窪む。３・４には燈明痕を認める。６～９は越前焼である。６・７はそれぞれⅡ３期の越前焼の甕と片口鉢で、７は口縁部上面に深い沈線を持つ。８はⅢ１期の擂鉢で形骸化した高台を持ち、粗い擂目がみられる。９は底部に筋状の成形痕を認める。内面の擂目の過密さからⅣ３期と思われる。10 の筒型青磁香炉は内面に伸びる口縁部上面がやや窪む。長石の吹き出しが顕著な信楽焼の壺もある。

**SE2 出土遺物**（第 32 図 11・12）

11 は見込に印花文を認める体部が無文の上田Ｅ類の青磁碗で、高台内面の釉を拭う。12 は白磁皿で腰部で強く屈曲し口縁部に至る。腰部以下は露胎で、見込を蛇の目状に釉剥ぎする。高台内面を含む露胎部分の成形が鋭く、内外面端部を斜めに削る。高台内面中央に漆の付着物がある。

**SE3 出土遺物**（第 32 図 13 ～ 15）

13 ～ 15 はⅡ３期頃の越前焼の甕と片口鉢である。15 は体部内面に「十」字形の刻線文がある。

**SE4 出土遺物**（第 32 図 17 ～ 19・第 35 図 37）

17・18 はＯ類の土師質皿である。19 はⅣ３期頃の越前焼の甕で、方形の口縁部上面が外傾する。第 35 図 37 は、正方形の格子目文が縦横４段の越前焼の押印文である。

**SK1 出土遺物**（第 32 図 20 ～ 25）

20 ～ 22 はＬ類の土師質皿で、21・22 は燈明痕を認める。23 は珠洲焼の鉢で、口縁部上面に波状文を施す。24 は瀬戸焼の卸皿で、口縁内側に水平な突起を形成し口縁部上面は窪む。口縁内外面に灰釉を施す。後期様式Ⅱ期頃のものである。25 は脚部を持つ瓦質火鉢の底部で凸帯文が巡る。

**SK2 出土遺物**（第 32 図 26）

26 はＨ類の土師質皿で、回しナデにより外面中程から緩やかに外反する。内面立ち上がり部を指で押さえつつ成形するため見込は深い。

**SK3 出土遺物**（第 32 図 27 ～ 30）

29 の見込に緻密な刻文を施す底面露胎の同安窯の白磁皿のほか、Ｄ類の土師質皿と瓦質火鉢がある。

**SK7 出土遺物**（第 32 図 31・32）

31 はＥ類の土師質皿である。32 は直立気味に僅かに伸びる口縁部を持つ内面露胎の青白磁小壺である。型作りで、縦に伸びる茎と内部に３条以上の葉脈が左右に分かれる文様を形成する。

**SK15 出土遺物**（第 32 図 34・35）

34 はＥ類の土師質皿である。35 は高台内面が露胎で、見込を蛇の目状に釉剥ぎする青磁碗である。

**SK16 出土遺物**（第 32 図 36 ～ 40・第 35 図 31）

36・37 はＤ類の土師質皿である。38 はⅡ２期の越前焼の片口鉢で、口縁部が外側に直線気味に伸び、口縁部外面に不明瞭な指押さえ痕、体部内面には刷毛目を認める土師質鍋は同時期のものである。39 は形骸化した高台に籾殻痕のある山茶碗で、体部が内湾気味に立ち上がる。正方形の格子目文が縦横５段の越前焼の押印文もある。

**SK23 出土遺物**（第 32 図 43 ～ 48）

Ｍ類の土師質皿で占める。やや法量が小さい 41 は、口縁外面の回しナデが強く口縁部に面を認める。47 は信楽焼の壺で長石の吹き出しを認める。48 は脚部を持つ瓦質火鉢で、体部外面を縦方向に磨く。

**SK35 出土遺物**（第 33 図２～４）

４を除きＬ類の土師質皿である。東濃型の山茶碗も出土している。

**SK45 出土遺物**（第 33 図６～８）

６はＣ類、７はＧ類の土師質皿、８はⅡ２期の越前焼の片口鉢である。珠洲焼の甕もある。

**SK49 出土遺物**（第 33 図９・10）

９は瀬戸焼の平碗である。内面は全体に灰釉を施し、扁平な体部外面は腰部以下露胎で高台が低い。後期様式Ⅱ期のものである。10 は口縁部外面に雷文帯を持つ上田ＣⅡ類の青磁碗である。

**SK50 出土遺物**（第 33 図 11 ～ 13）

11・12 はＤ類、13 はＦ類の土師質皿である。ほかにはⅡ３期頃の越前焼の甕等がある。

**SX1 出土遺物**（第 33 図 14・15）

14 はⅣ３期の越前焼の甕で、方形の口縁部上面が外反する。15 は珠洲焼の甕で口縁端部を欠くが、上面に狭い面があり、口縁・頸部内外面に轆轤ナデを施す。外面の頸部下に叩き成形痕がある。

**SX2 出土遺物**（第 33 図 16 ～ 22）

20 はＦ類、16 ～ 19 はＬ類の土師質皿である。21 はⅣ２期の越前焼の擂鉢で、10 ～ 12 条程の粗い擂目を施す。22 は瓦質火鉢で、口縁部外面に巡る２条の凸帯間に菱形文を認める。

**SD1 出土遺物**（第 33 図 23 ～ 30・第 35 図 34）

23はⅠ類、24・25はＬ類、26はＮ類の土師質皿で、24は燈明痕があり、26は体部に２段ナデを施す。27・28は瀬戸焼で、27は見込に灰釉を施し、底面に回転糸切り痕がある。28は外反する口縁部に灰釉を施す緑釉小皿で、後期様式Ⅲ期頃のものである。29・30は森田Ｄ群の白磁皿で、29は高台から直線的に伸びる。30は高台内面に墨書を記す。第35図34は菊花文を密に施す越前焼の押印文もある。

**SD3出土遺物**（第33図31～33）

31はⅢ２期の越前焼の擂鉢である。摩耗が著しいため擂目がほぼ確認できない。瀬戸焼の卸皿のほかに33の石鍋がある。口縁部上面に面を持ち、外面下部に突起が巡る。

**SD4出土遺物**（第33図34～38）

34はⅡ２期の越前焼の甕で、36の片口鉢を伴う。方形の口縁部上面が水平で、内面に一条の沈線の巡る35はⅤ１期の越前焼の甕である。37は珠洲焼の甕で、外面に綾杉文を認める。内面の叩き調整痕はナデ消している。38は抉り高台を持ち、見込に重ね焼き痕がある森田Ｄ群の白磁皿である。ほかにはⅣ期頃の越前焼の擂鉢と瀬戸の天目茶碗がある。

**SD5出土遺物**（第33図39～46）

39・40はＤ類、41・42はＬ類、43はＧ類の土師質皿である。44はⅡ３期の越前焼の甕、45は底面に静止糸切り痕のある珠洲焼の鉢で、内面に成形痕がある。46は瓦質羽釜で、内湾気味に向け立ち上がる口縁部上面は水平である。器壁は厚く羽部の上下部は窪む。

**SD10出土遺物**（第33図50）

50は内外面に僅かに鉄釉が垂れ流れ、底面に回転糸切り痕のある中期様式Ⅳ期の平底末広碗である。

**SD11出土遺物**（第34図１～３）

１・２はⅡ３期の越前焼の片口鉢である。３は瓦質火鉢で､直線的に伸びる口縁部の上面が水平である。Ｕ字型に窪み横に伸びる平面６か８弁の輪花型のもので脚を持つと考える。体部外面に菊花文を施す。

**SD14出土遺物**（第33図51・52）

51はＯ類の土師質皿、52は見込に印花文、露胎の高台内に兜布のある青磁碗である。このほか同時期の青磁の稜花皿がある。

**SD15出土遺物**（第34図４～13・第35図35・38）

４はＢ類、５はＬ類、６はＮ類の土師質皿で、６は体部に２段ナデを施す。７・８はⅣ３期の越前焼の甕・壺、９・10はⅢ２期は擂鉢である。９は口縁部上面が水平で沈線がない。11は口縁部が直立気味な瀬戸焼の天目茶碗で､後期様式Ⅳ期のものである。12は口縁部が外反する上田ＤⅡａ類の青磁碗で、13はビロースクタイプの白磁碗である。このほか第35図35・38の越前焼の押印文を認める。正方形や長方形の格子目文を持ち、38は縦横４段ある。押印文様左側に施文具の持ち手の痕跡がある。

**SD18出土遺物**（第34図14・15）

14はＬ類、15はＪ類の土師質皿である。15は口縁端部を摘み上げる特徴を持つ。

**SD21出土遺物**（第34図16）

16は外反する口縁を持つ染付皿である。体部外面に宝相華唐草文を描く。

**SD22出土遺物**（第34図17～20）

17はⅠ類の土師質皿、18はⅡ２期頃の越前焼の片口鉢である。19は白磁碗か皿の底部で、直立気味に立ち上がり、平坦な底面に不明瞭な成形痕がある。20は抉り高台を持つ森田Ｄ群の白磁皿で、見込に重ね焼き痕がある。このほか上田Ｄ類の青磁碗がある。

**SD23 出土遺物**（第 34 図 21）

21 は瓦質火鉢で、２条の凸帯間に菱形文を認める。

**SD24 出土遺物**（第 34 図 22・第 35 図 40）

24 はⅠ類の土師質皿、第 35 図 40 は方形の格子目文と陰刻の「本」で成る越前焼の押印文で、15 世紀後半の釜屋谷窯跡群出土遺物に類例がある。

**SD26 出土遺物**（第 34 図 25 ～ 32）

25 はＬ類、26 はⅠ類、27・28 はM類の土師質皿である、27 は 28 と比べて口縁外面の回しナデが顕著で、口縁部に面を形成する。29 は折縁小皿で口縁内外面に灰釉を施す。後期様式Ⅲ期のものである。30 は中国の天目茶碗である。体部が直線気味に立ち上がり、口縁部の屈曲が不明瞭である。31 は口縁部外面に雷文帯を持つ上田ＣⅡ類の青磁碗である。32 は腰部以下露胎の器高の低い白磁皿で、やや外反する口縁部に向けて細くなる。見込の釉調が体部内外と異なる。

**SD29 出土遺物**（第 36 図 33 ～ 36）

33・34 はＬ類の土師質皿である。35 は方形の口縁下に段を認めるⅣ３期の越前焼の鉢で、水平な口縁上面にやや古い属性を示す沈線があり、見込に成形時の指の痕跡が放射状に残る。

**SD30 出土遺物**（第 34 図 37 ～ 39）

37・38 は青磁碗で、両者とも見込に印花文を持つ。37 は高台内面が露胎で兜布がある。38 は 37 と異なり腰部以下露胎で、高台内の成形が粗く明瞭な兜布が残る。39 は青磁の小皿で、外に伸びる口縁部の上面がやや窪み体部に連弁文を持つ。このほか信楽焼の壺や産地不明の鉢がある。

**SD31 出土遺物**（第 34 図 40 ～ 42）

40・41 は越前焼である。40 はⅡ２期の片口鉢、41 はⅢ２期の擂鉢で 11 条の擂目を引く。口縁部上面が水平で張り出しが明瞭な片口を持つ 42 は珠洲焼の鉢で、９条の擂目を引く。

**SD71 出土遺物**（第 34 図 43 ～ 49）

43・44 はＬ類、45 はⅠ類、46 はＥ類の土師質皿、47・48 はⅡ２期頃の越前焼の片口鉢である。49 は平面８弁の輪花型の瀬戸焼の入れ子状容器である。

**SD39 出土遺物**（第 35 図１～ 13・30・33・39）

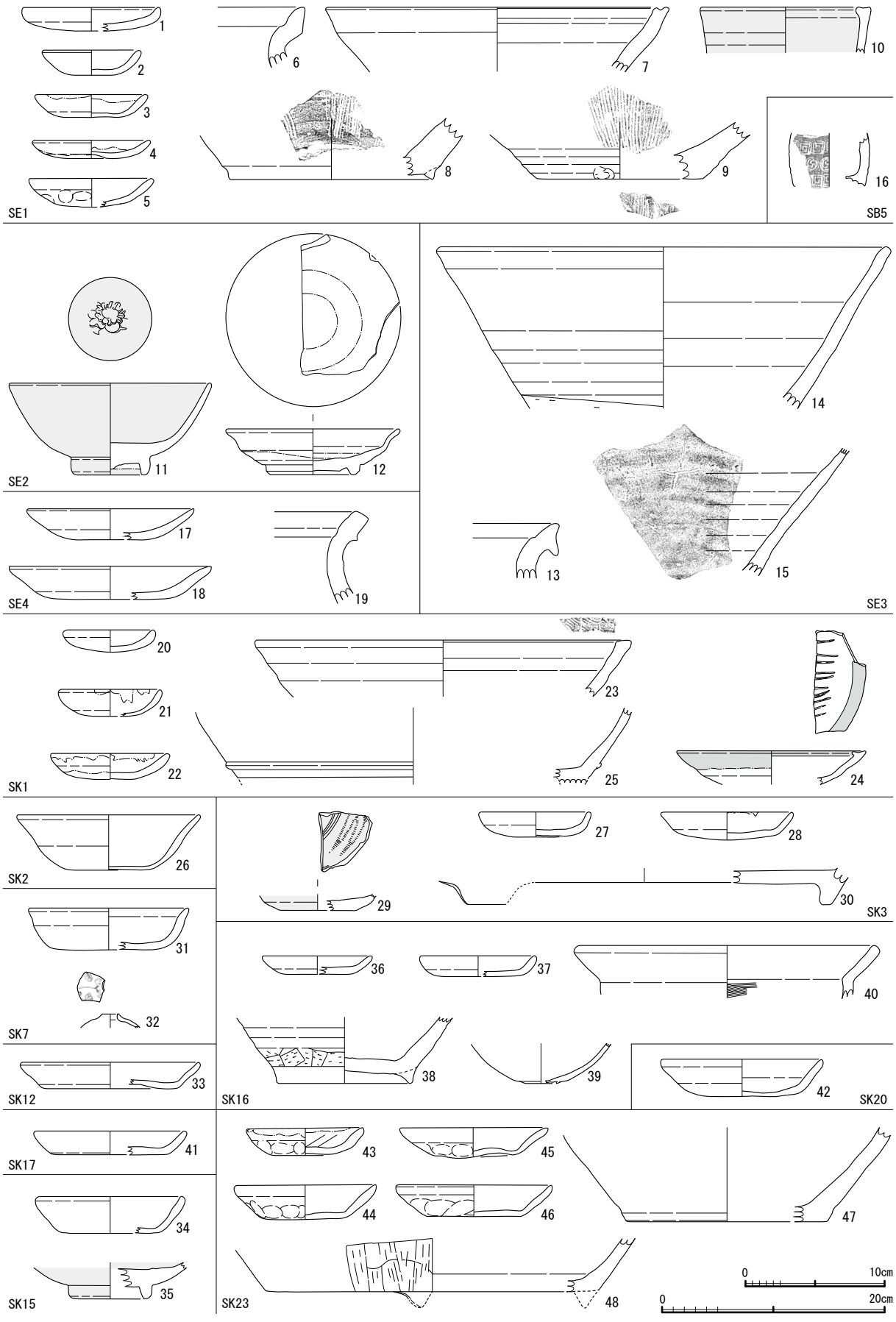
１・２はＤ類、３・４はＫ類、５はＬ類、６・７はＮ類の土師質皿である。４は口縁端部を摘み上げ、７は体部に２段ナデを施す。８～ 11 は瀬戸焼である。８は緑釉小皿で口縁部に灰釉を施す。後期様式Ⅰ期のものである。９は卸皿、10 は容器の底部である。11 は後期様式Ⅲ期の折縁深皿である。外に伸びる口縁部上面と口縁下が窪み、体部内外面に灰釉を施す。12 は口縁部が外反する上田ＤⅡａ類の青磁碗、13 は森田Ｄ群の白磁皿である。正方形・長方形の格子目文で成る 30・33・39 の越前焼の押印文もある。

**SP161 出土遺物**（第 35 図 14）

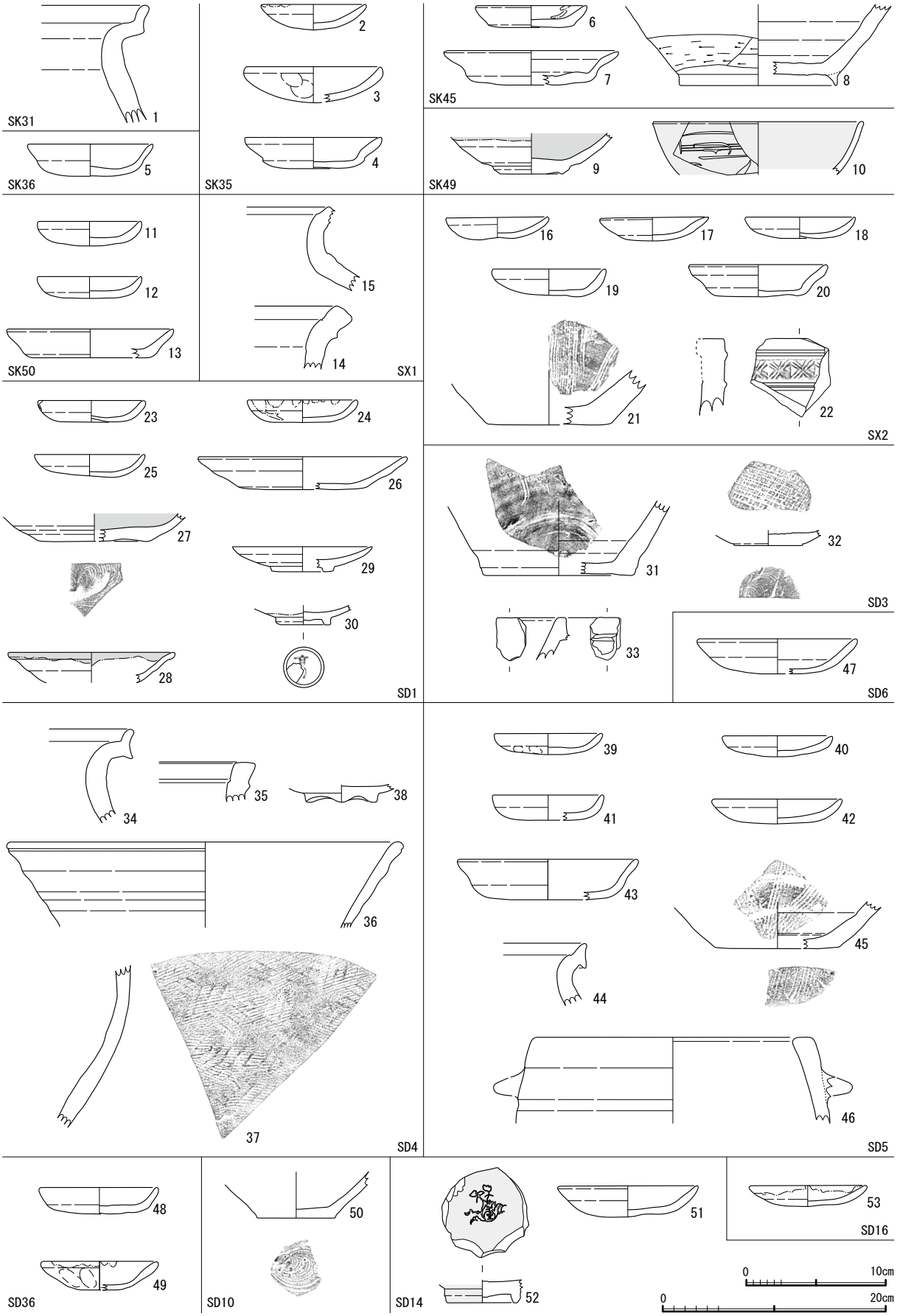
14 は越前焼の甕で底部が大きく焼き歪む。成形時の指押さえの痕が明瞭で、内面に多くの窯糞が付着する。大甕か中甕か不明である。

**遺構外出土遺物**（第 35 図 15 ～ 29）

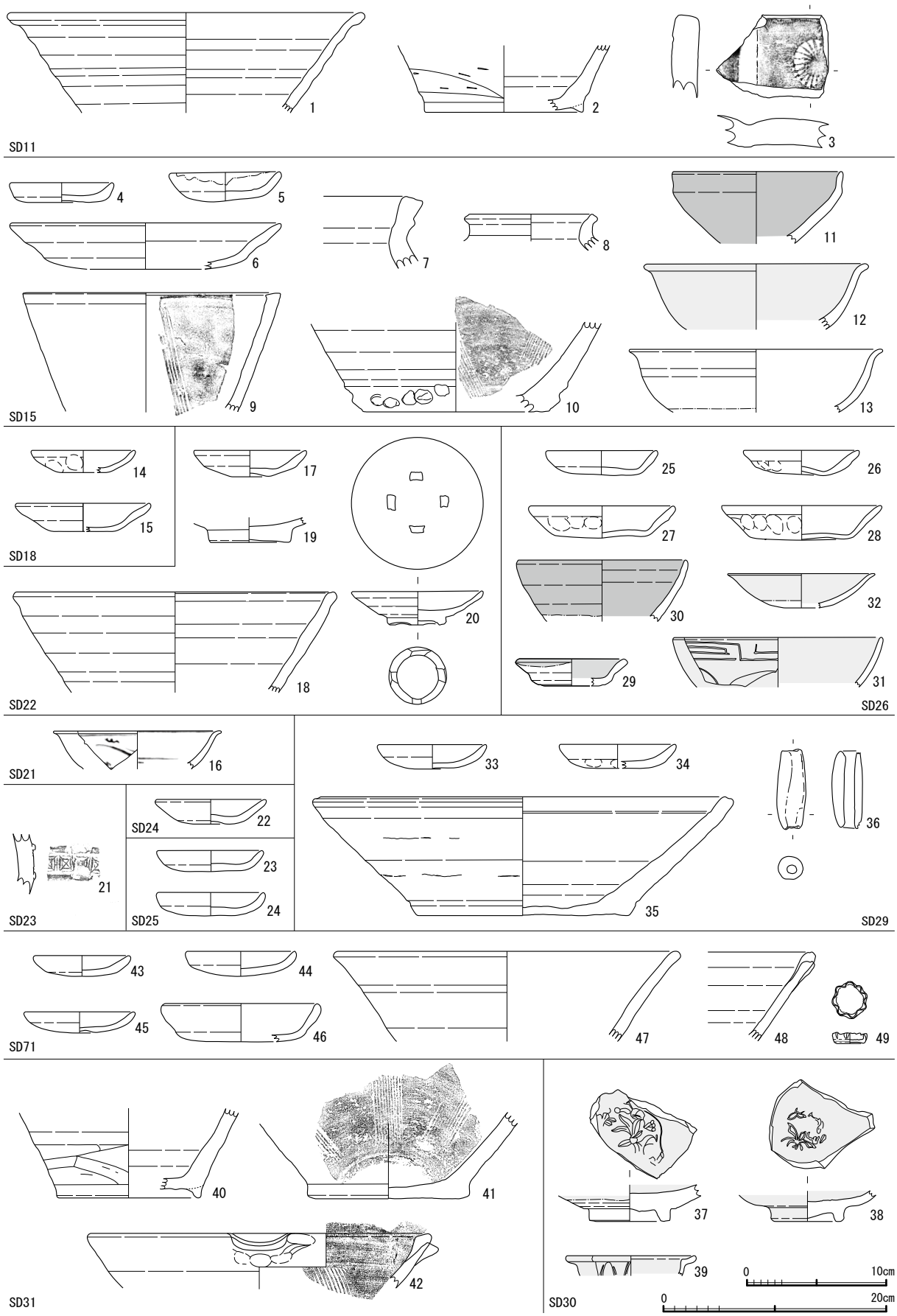
15 はＤ類、16 はⅠ類、17 はＬ類、18・19 はＥ類、20 はＯ類の土師質皿である。越前焼には 21 のⅢ２期の甕や、23・24 のⅣ３期の擂鉢のほか、27 ～ 29 の押印文がある。25 は体部に連弁文を持つ青磁の瓶で、底面中央を円錐状に削ることで高台状の底部を作り出す。26 は高台内面の端部が露胎の白磁碗である。森田Ｃ群であろう。



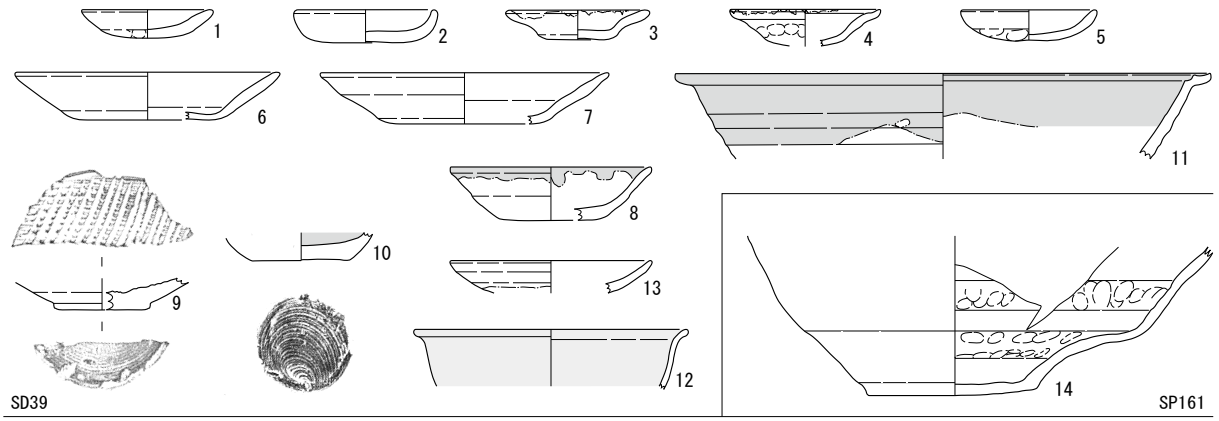

**第32図**　土器・陶磁器実測図１　（縮尺1/4、1/2：30、1/5：6～9・13～15・19・23・25・30・38・47・48）

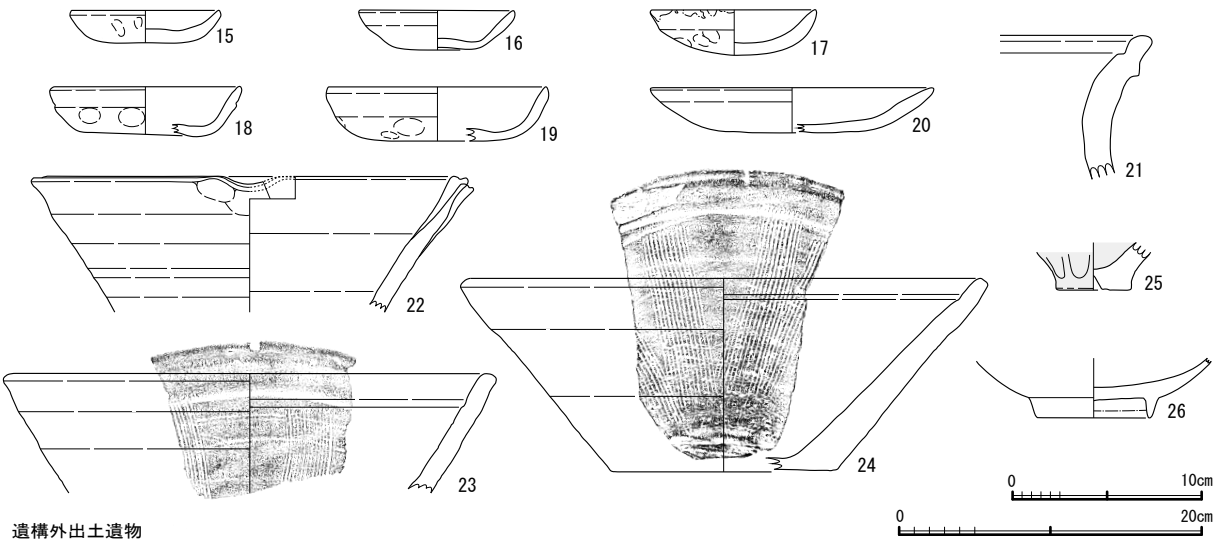


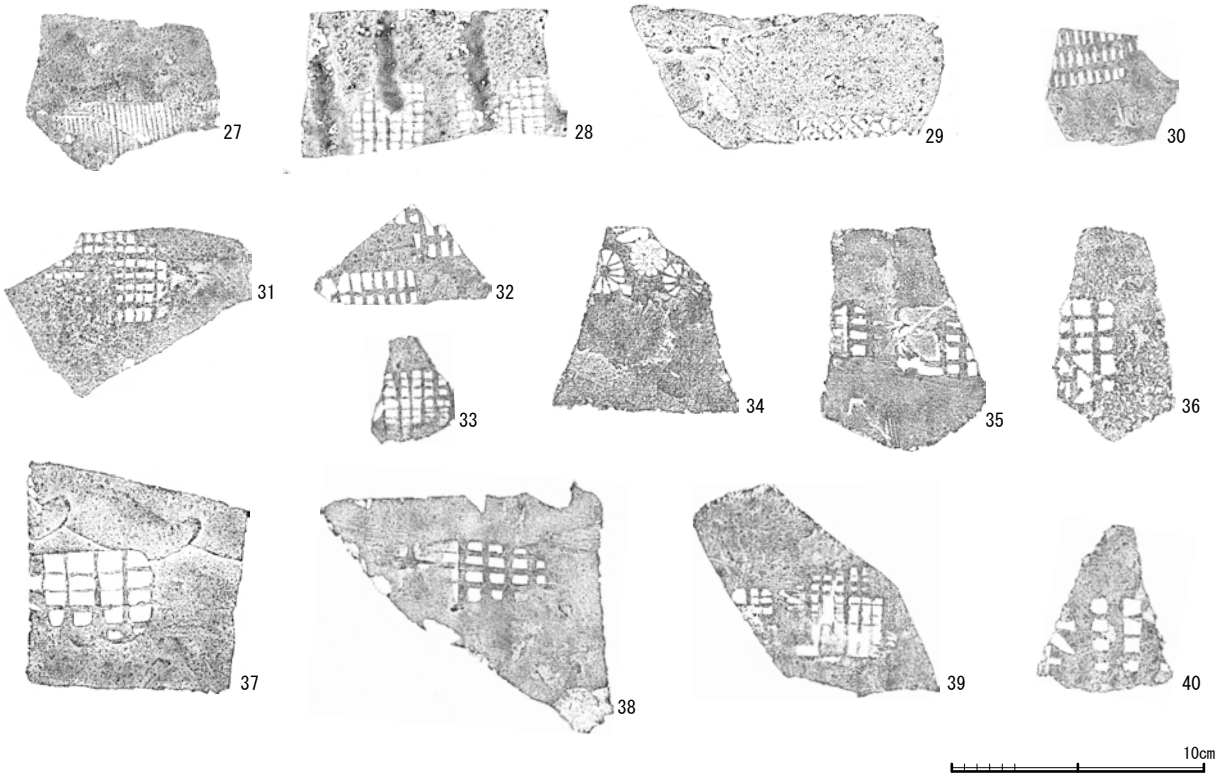

**第33図**　土器・陶磁器実測図２　（縮尺1/4、1/5：1・8・14・15・21・31・36～40）




**第34図**　土器・陶磁器実測図３　（縮尺1/4、1/2：36、49、1/5：1・2、7～10・18・35・40～42・47・48）




**第35図**　土器・陶磁器実測図４　（縮尺1/4、1/3：27～40、1/5：11、21～24）

**２）南調査区出土遺物**（第 36 ～ 40・図版第 13 ～ 16）

**SE5 出土遺物**（第 36 図１・２・第 40 図 34）

１はＤ類の土師質皿、２はⅡ２期の越前焼の甕である。正方形の格子目文で成る押印文もある。

**SE6 出土遺物**（第 36 図３～ 18・第 40 図 27）

土師質皿は形態が豊富で、Ⅱ２期の越前焼の甕や片口鉢と同時期である。片口鉢は沈線をＬ字状に３重に交差させる刻文がある。11・12 は常滑焼の甕である。口縁部がＮ字状で内側の屈曲部が窪む第６型式のものである。口縁端部の作りは異なり、口縁部上面が水平なものと内傾するものがある。13・14 は土師質鍋である。口縁部が強く内湾する 13 に対して 14 は直線気味に伸びる。瓦質土器には擂鉢と火鉢の２器種を認める。17 の火鉢は口縁下の外面に菊花文、内面に波状文を施す。18 は内から外に穿孔する。第 40 図 27 の長方形の格子目文でなる越前焼の押印文である。

**SE8 出土遺物**（第 36 図 19 ～ 24）

19・20 はＬ類の土師質皿である。21・22 は瀬戸焼の卸皿で、扁平な体部を持つ。口縁内側に水平な突起を形成し注口を持つ 22 は、外面中程と口縁部内面に灰釉を施し、底面に回転糸切り痕がある。後期様式Ⅲ期のものである。23 は口縁部が外側に直線気味に伸びる土師質鍋で、口縁部外面に不明瞭な指押さえ痕、口縁・体部内面に刷毛目を施す。24 は瓦質火鉢で、直立気味に伸びる体部を持つ。口縁部下の外面に菊花文を接するように横に連続して施す。

**SE9 出土遺物**（第 36 図 25 ～ 34）

土師質皿は形態が多岐に富む。25 はＡ類、26・27 はＤ類、28・29 はＬ類、30 はＥ類、31 ～ 33 はＦ類である。34 は体部外面に縞連弁文を持つ上田Ｂ類の青磁碗である。

**SE10 出土遺物**（第 36 図 35 ～ 41）

35 はＤ類、36 はＥ類、37 はＧ類の土師質皿である。38 ～ 40 は越前焼のⅡ２期の甕と片口鉢である。41 は口縁上面が水平な土師質羽釜で、羽部上面が下方に下がる。体部内面に刷毛目を認める。

**SE11 出土遺物**（第 37 図１・２）

１はＦ類の土師質皿、２は平底で体部内面屈曲部が沈線状に窪む森田Ａ群の口禿の皿である。

**SE13 出土遺物**（第 36 図 42 ～ 46）

42 はⅡ２期の越前焼の片口鉢である。43 は口縁部が外側に直線気味に伸びる土師質鍋である。口縁と煮炊き時の煤の顕著な体部外面に不明瞭な指押さえ痕、口縁・体部内面に刷毛目を認める。44 は瓦質擂鉢で、５条の擂目を間隔を空けて引く。45・46 は青磁碗と白磁皿である。青磁碗は体部外面に縞連弁文を持つ上田Ｂ類、SE11 出土遺物と同じ特徴を認める 46 は、森田Ａ群の口禿の皿である。

**SE14 出土遺物**（第 37 図３～８）

３～５は越前焼である。３の甕はくの字状の頸部を持ち、広い受け部を持つ口縁部の端部を薄く摘み上げる。Ⅱ３期頃の４・５よりも古いⅡ１期のものである。６の片口鉢は丸みを帯びる口縁部を持つ。越前焼に通常認めない口縁形態であり、産地は不明である。７・８は土師質羽釜で、７は８と異なり内湾気味に口縁部に至る。羽部は鋭角で上部に穿孔がある。胎土が緻密で堅緻に焼き締まる。

**SE15 出土遺物**（第 37 図９～ 17）

９はＡ類、10 はＢ類、11・12 はＣ類の土師質皿である。13 ～ 15 は越前焼である。Ⅱ３期の甕とⅡ２期の片口鉢がある。16 は SE14 出土遺物と同形態の片口鉢である。17 は土師質鍋で、ほかの鍋と異なり、口縁外面が丸みを帯び、上面に浅い沈線を認める。

**SE17 出土遺物**（第 37 図 18 ～ 26）

18 はＤ類、19 ～ 21 はＦ類、22 はＬ類の土師質皿で、22 は内外面に墨書を記す。23・24 は越前焼である。くの字状の頸部を持ち口縁端部を摘み上げる 23 はⅡ１期の甕で、片口鉢よりも古い様相を持つ。26 は口縁部が内湾気味に伸びる青磁鉢、25 は見込に印花文を持つ高台露胎の青磁碗である。

**SE18 出土遺物**（第 37 図 27 ～ 31）

27 はⅠ類の土師質皿、28・29 は越前焼の甕と片口鉢で、Ⅱ２期の甕はくの字状の頸部を持つため古く位置付けられる。30 は体部外面に鎬連弁文を持つ上田Ｂ類の青磁碗である。31 は口縁部が外反する青磁皿である。体部内面に連弁文を持ち高台内面の釉を拭う。

**SK48 出土遺物**（第 37 図 32・33）

32 はＬ類の土師質皿、33 は体部内面に刻線文を持つⅡ２期頃の越前焼の片口鉢である。

**SK57 出土遺物**（第 37 図 36・37）

36 はＧ類の土師質皿、37 はⅡ３期頃の越前焼の片口鉢である。

**SK72 出土遺物**（第 37 図 38・39）

38 はＬ類の土師質皿、41 は口縁部上面に面を持ち、体部に灰釉を施す中期様式Ⅱ期の卸皿である。

**SK78 出土遺物**（第 37 図 40 ～ 43）

40・41 はＦ類の土師質皿ある。42 はⅡ２期の越前焼の甕で、43 の片口鉢を伴う。

**SD41 出土遺物**（第 38 図１～ 30・第 40 図 34・35）

土師質皿はＣ類・Ｄ類・Ｆ類も含むが、６～ 13 のＬ類が多く、４・５のⅠ類、15・16 のＯ類も認める。越前焼は甕と擂鉢がある。18・19 はⅣ２期の甕で、20 の口縁上面に沈線を持ち擂目の間隔が狭いⅣ２期の擂鉢を伴う。瀬戸焼は、高台を持ち口縁部内面に灰釉を施す扁平な皿と、口縁内側に水平に小突起を形成する後期様式Ⅲ期の卸皿がある。23・24 は瓦質風呂と火鉢で、23 は口縁と頸部の凸帯間に菱形文を施し、体部上端部をＵ字状に抉る。24 の底部外面の凸帯間にも同じ菱形文がある。25 は見込に印花文を持つ青磁碗で、高台内面中央を除き釉を拭う。26・27 は口縁部が外反する青磁皿で、28・29 は抉り高台を持つ森田Ｄ群の白磁皿である。越前焼の押印文に格子目文と陰刻の「本」で成るものがある。

**SD42 出土遺物**（第 38 図 31 ～ 40・第 40 図 38）

31 はＬ類、32 はⅠ類、33 はＦ類、34 はＧ類の土師質皿である。35 ～ 39 は越前焼である。甕・片口鉢のほかに 36 の壺がある。35・36・39 はⅡ２期で、37・38 を伴う。40 は瀬戸焼の卸皿で底面に回転糸切り痕がある。41 は形骸化した高台に籾殻痕のある東濃型の山茶碗で、体部が内湾気味に立ち上がる。第 40 図 38 の正方形の格子目文で成る越前焼の押印文もある。

**SD43 出土遺物**（第 40 図 42 ～ 64・第 41 図１～ 16）

土師質皿は 57 ～ 58 のＦ類を除き 42 ～ 56・63 のＬ類が多く、60・61 のＯ類と 62 のＰ類を伴う。63 は内側から数個所、穿孔する。64 は土錘である。２～６は越前焼で、２はⅡ３、３はⅣ３、４はⅣ２期の甕、５はⅡ２期頃の片口鉢である。６は口縁部上面に沈線を持ち、４条以上の擂目を粗く引くⅢ１期頃の擂鉢である。１は常滑焼の甕で、Ｎ字状口縁内側が窪む第６型式のものである。８～ 11 は瀬戸焼である。８は体部内外面に灰釉を施す浅碗で、後期様式Ⅲ期のものである。９は卸皿で口縁内側に突起を形成せず、体部内外面に灰釉を施すもので、中期様式Ⅳ期頃と思われる。12 ～ 15 は青磁碗で、口縁部が外反する 12 は上田ＤⅡａ、見込に印花文、口縁外面に雷文帯を持つ 13 はＣⅡ類、体部に線状の連弁文を認める 14 はＢⅣ類で、13・14 は高台内面が露胎である。16 は森田Ｄ群の白磁皿である。

**SD44 出土遺物**（第 39 図 17 ～ 26）

17 はＬ類､18 はⅠ類､19 はＦ類の土師質皿である。20 ～ 23 は越前焼である。20・21 はⅡ２期頃の甕、22 は片口鉢、23 は口縁部上面が水平で、擂目の間隔の狭いⅣ３期の擂鉢である。24 は SE14 出土遺物と同形態の片口鉢、25・26 は青磁碗で見込に印花文を持ち、高台内面は露胎である。このほか瀬戸焼の天目茶碗や他遺構出土遺物と同形態の山茶碗がある。

**SD45 出土遺物**（第 39 図 27 ～ 29）

28 はＢ類、27 はＪ類の土師質皿、24 は瓦質擂鉢で４条以上の擂目を間隔を空けて引く。

**SD51 出土遺物**（第 39 図 35 ～ 43）

35 ～ 38 は越前焼で、35 はⅡ２期、36 はⅡ３期の甕、38 はⅡ２期の片口鉢である。口縁上面の沈線が深く擂目の間隔の狭い 38 はⅢ２期の擂鉢がある。39 は珠洲焼の鉢である。見込に粗い擂目を引き、底面に静止糸切り痕がある。40 は山茶碗の皿で、強く屈曲して口縁部にのびる。瀬戸焼には口縁上面が外傾する 41 の卸皿と、外に伸びる口縁部上面と口縁下が窪み、内外面に灰釉を施す 42 の折縁深皿がある。中期様式Ⅱ期と後期様式Ⅲ期頃のものである。43 は瓦質風炉で、横に伸びる口縁部と凸帯上の頸部外面をＶ字状に抉り、体部上端部に蓮華文を施す。このほか第 40 図 31 の越前焼の押印文がある。

**SD52 出土遺物**（第 40 図 12 ～ 14）

12 はＤ類の土師質皿、13 はⅡ３期の越前焼の片口鉢である。14 は土師質鍋と考える。体部が口縁部付近で屈曲する。内側に僅かに摘み出す口縁部の外面と屈曲部の外面はナデにより窪む。

**SD57 出土遺物**（第 40 図１～８・39）

１・２はＤ類、３はＦ類の土師質皿、４はⅡ２期頃の越前焼の片口鉢である。５は瀬戸焼の折縁小皿で、口縁端部外面と内面に灰釉を施す。底面に回転糸切り痕がある。中期様式Ⅲ期のものである。６は瓦質風炉の底部、７は火鉢で頸部外面に菱形文を施す。８は横に伸びて屈曲し、底面が水平な脚を持つ瓶類と思われる。39 は体部外面に精緻な草花文を描く越前焼である。隣接する SD58 出土遺物に９～ 11 のＭ類の土師質皿を定量認めるが、10 は口縁外面の回しナデが顕著で口縁部に面を形成する。

**SD61 出土遺物**（第 40 図 19 ～ 21）

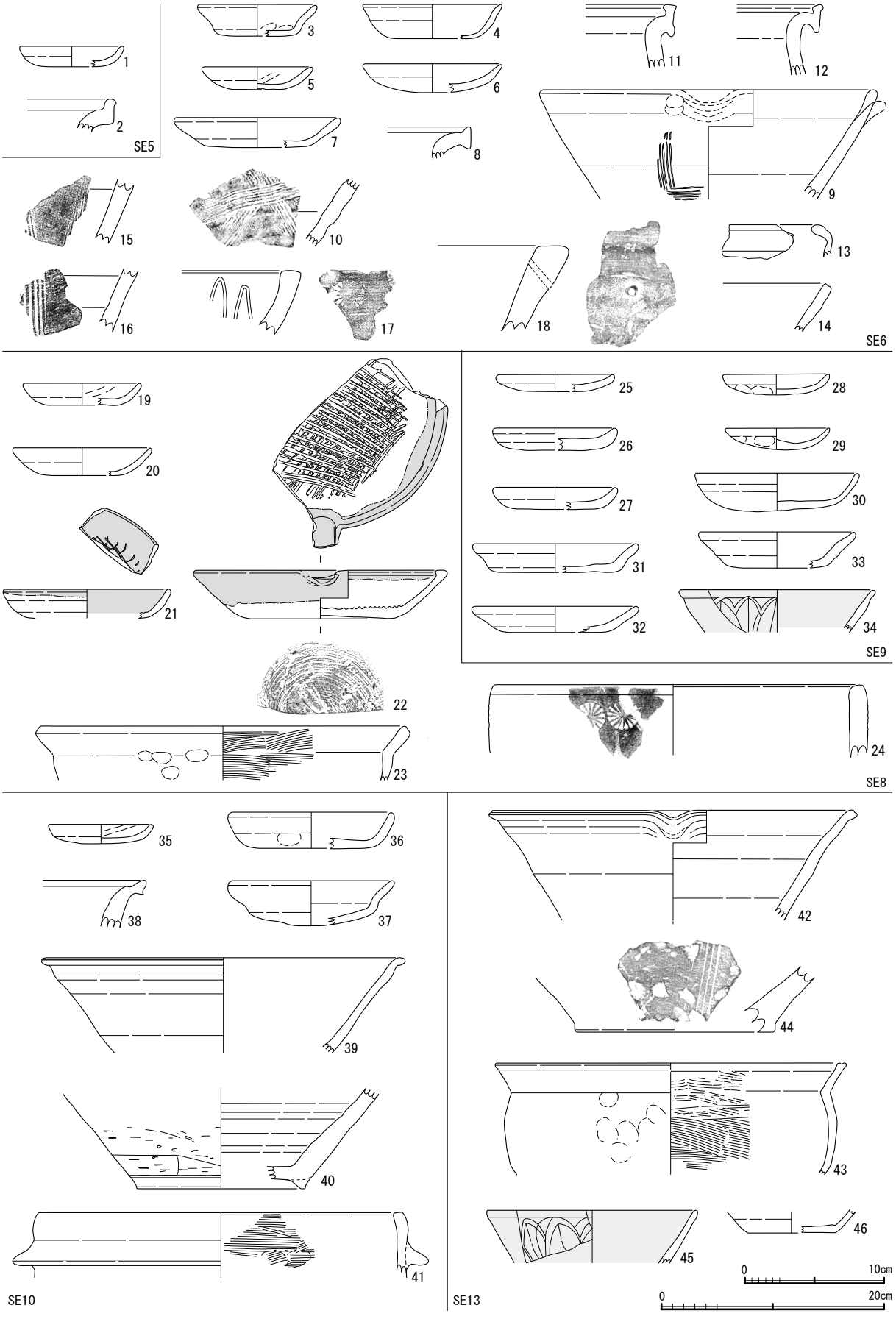
19・20 はⅡ２期頃の越前焼の片口鉢である。20 は口縁部内面に６条の沈線で刻線文を持つ。21 は瓦質火鉢である。外側に直角的に伸びる口縁部上面と、その上下端部の凸帯間に円錐状の突起がある。

**遺構外出土遺物**（第 40 図 24 ～ 26）

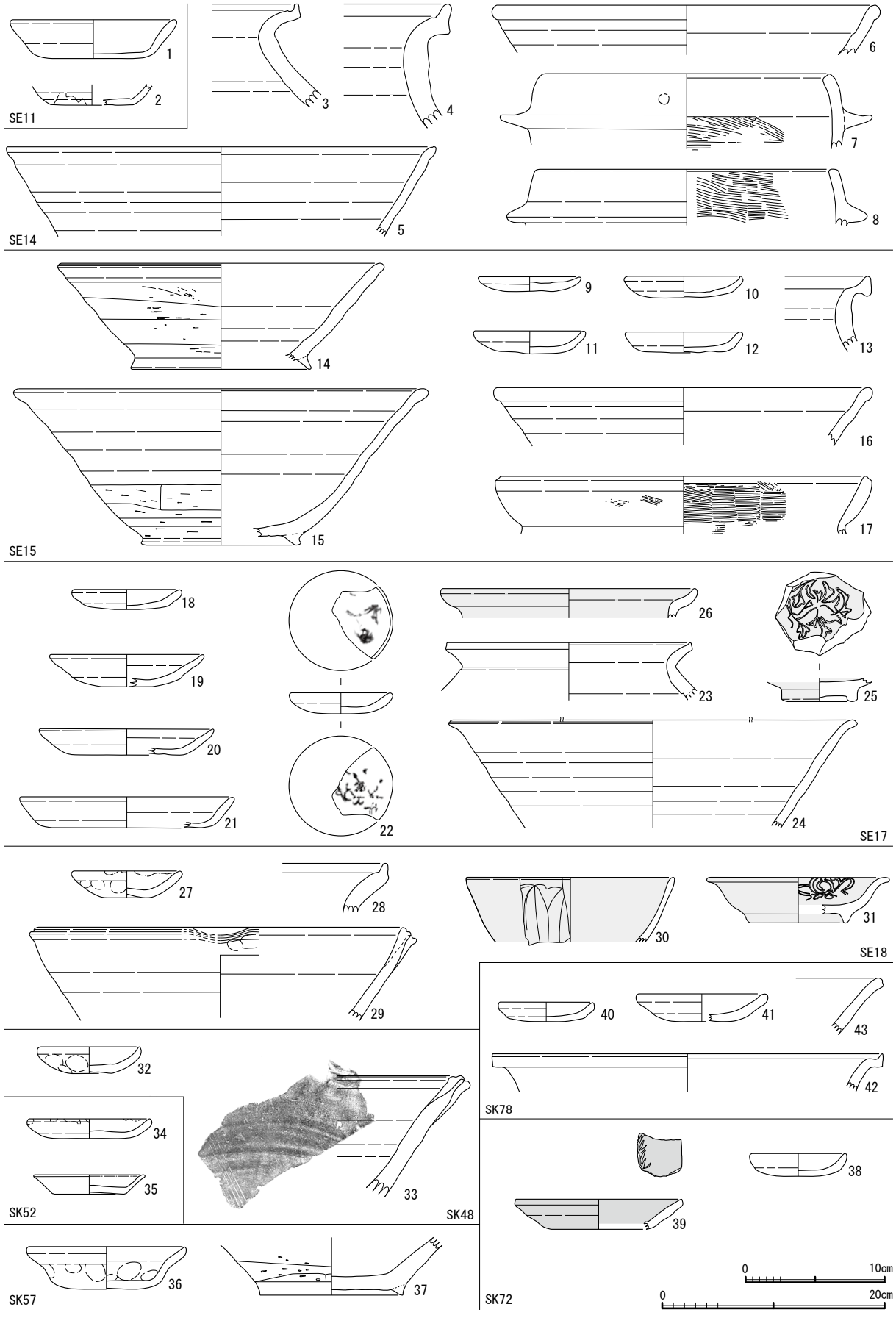
土師質皿、越前焼の甕のほか、見込に魚文を持ち、高台内面の釉を中央を除き拭う青磁碗がある。

参考文献

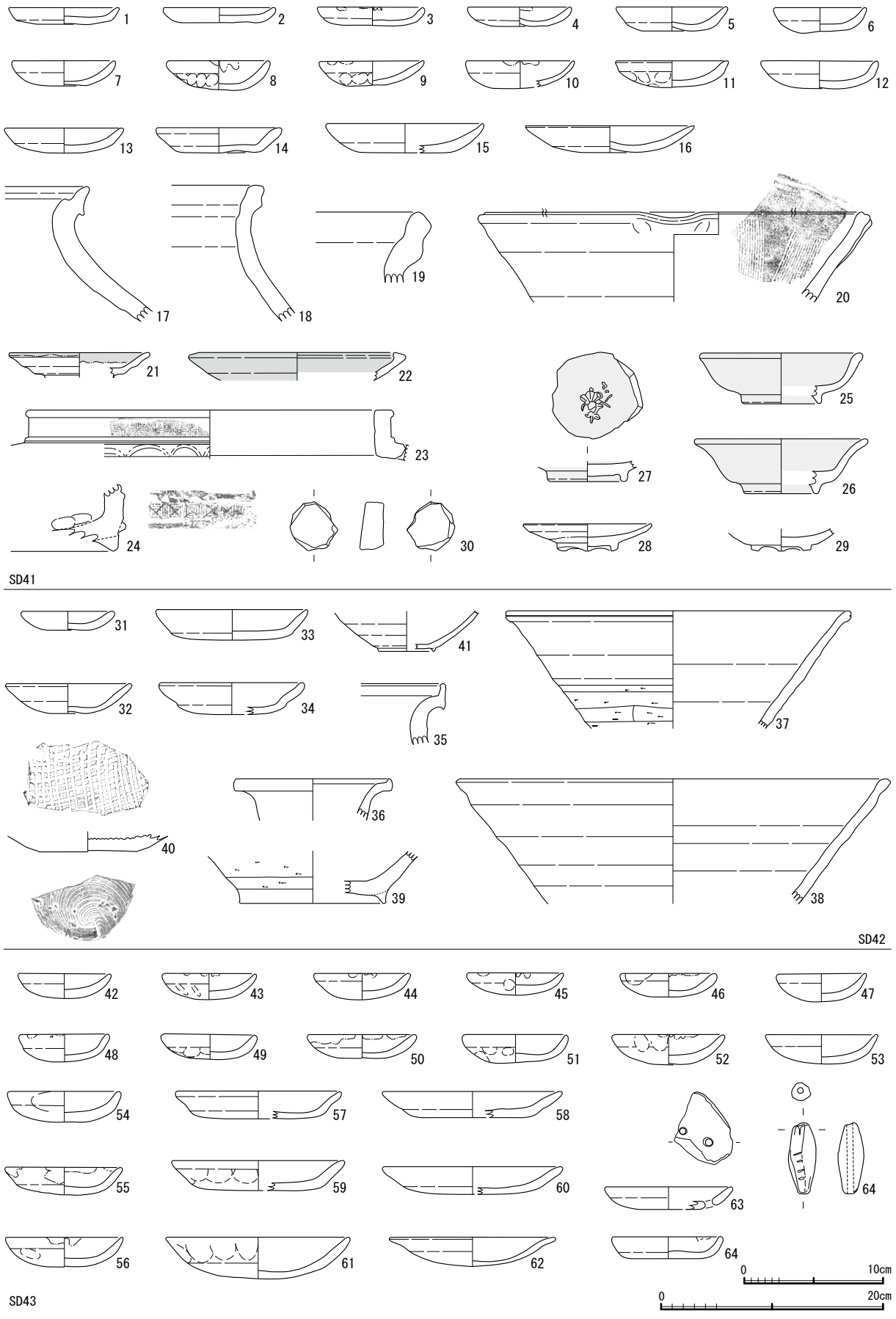
上田秀夫 1982「14 ～ 16 世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 1111『諏訪間興行寺遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第 20 集
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2010『中角遺跡３―Ⅱ・Ⅲ区上層編―』福井県埋蔵文化財調査報告第 110 集
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2016『越前焼総合調査事業報告』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター所報６
藤沢良裕 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
水澤幸一 2004「15 世紀前葉から中葉の貿易陶磁器様相」『貿易陶磁研究』No.24
森田　勉 1982「14 ～ 16 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2



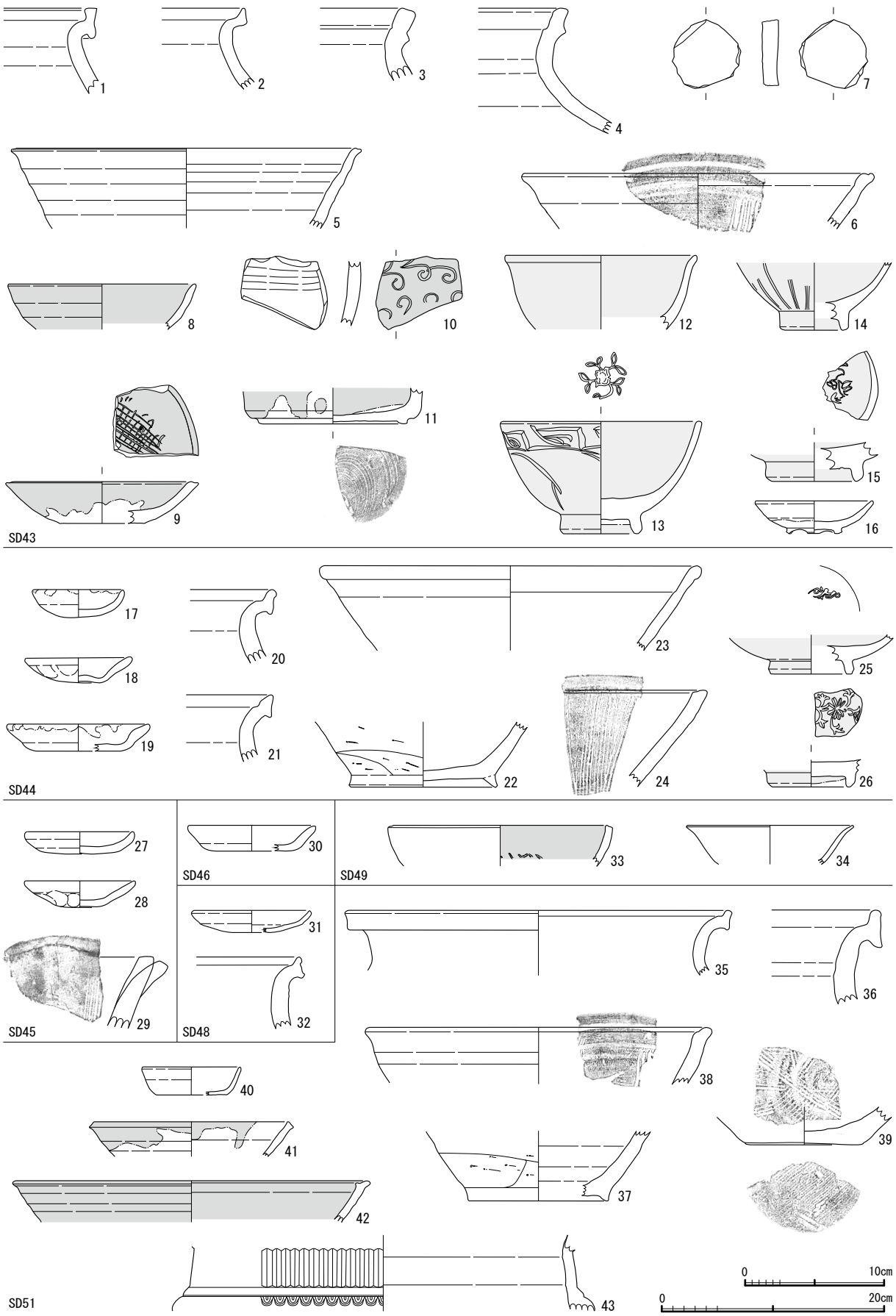

**第36図**　土器・陶磁器実測図５　（縮尺1/4、1/5：9～12・15・16・24・39・40・42・44）



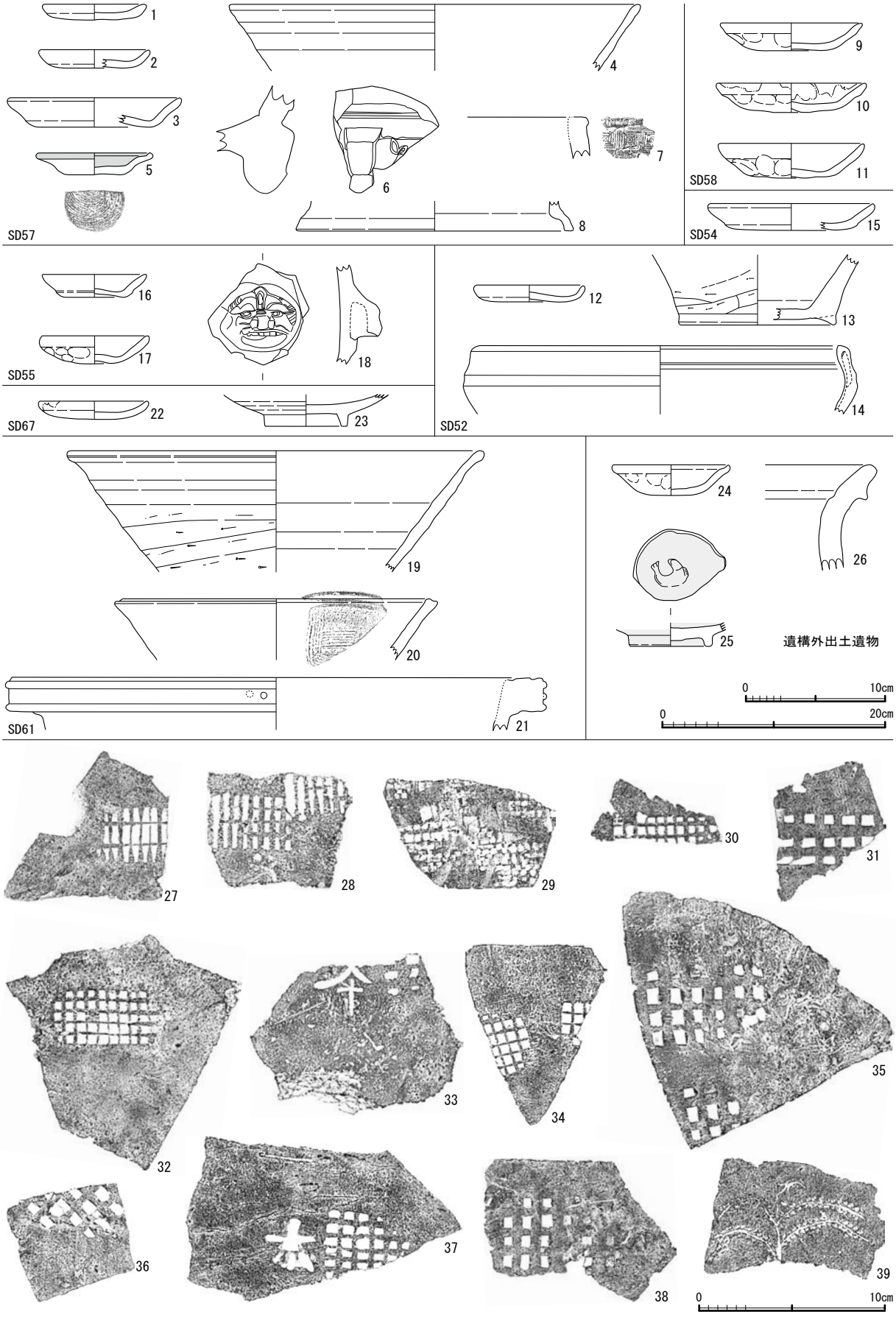

**第37図**　土器・陶磁器実測図６　（縮尺1/4、1/5：3～6・13・16・23・24・28・29・33・37・42・43）




**第38図**　土器・陶磁器実測図７　（縮尺1/4、1/5：17～20・23・36～39）




**第39図**　土器・陶磁器実測図８　（縮尺1/4、1/5：1～6・20～24・32・35～39・42、43）




**第40図**　土器・陶磁器実測図９　（縮尺1/4、1/3：27～39、1/5:4・13・14・19～21・26）

## 第８表　土器・陶磁器観察表

| 図版番号 | 挿図番号 | 地区 | 位置 | 遺構№ | 器種 | 土師質：灯心痕<br>陶磁器：生産地 | 法量（cm）<br>口径 | 底径 | 高さ | 成形･調整 | 土師質:胎土色調<br>陶磁器:釉･装飾 | 時期<br>分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 32 | 1 | 北 | D10 | SE1 | 土師質皿 | × | (9.7) | － | 1.7 | 手づくね成形 | 橙色 | D 類 | |
| 32 | 2 | 北 | D10 | SE1 | 土師質皿 | × | 6.8 | － | 1.8 | 手づくね | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 32 | 3 | 北 | D10 | SE1 | 土師質皿 | ○ | 7.8 | － | 1.6 | 手づくね | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 32 | 4 | 北 | D10 | SE1 | 土師質皿 | ○ | 8.2 | － | 1.3 | 手づくね成形 | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 32 | 5 | 北 | D10 | SE1 | 土師質皿 | × | (8.7) | － | 2.1 | 手づくね成形 | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 32 | 6 | 北 | D10 | SE1 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ 3 | |
| 32 | 7 | 北 | D10 | SE1 | 片口鉢 | 越前 | (30.4) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ 3 | |
| 32 | 8 | 北 | D10 | SE1 | 擂鉢 | 越前 | － | (18.2) | － | 轆轤成形 | | Ⅲ 1 | 擂目 6 条 |
| 32 | 9 | 北 | D10 | SE1 | 擂鉢 | 越前 | － | (15.0) | － | 轆轤成形 | | Ⅳ 3 | |
| 32 | 10 | 北 | D10 | SE1 | 青磁香炉 | 中国 | (12.0) | － | － | ロクロ成形 | | | |
| 32 | 11 | 北 | D・E 5 | SE2 | 青磁碗 | 中国 | (14.4) | 4.8 | 6.7 | ロクロ成形 削出し高台 | 見】印花文 高】露胎 | 上 E | |
| 32 | 12 | 北 | E4 | SE2 | 白磁皿 | 中国 | (12.3) | 6.2 | 3.3 | ロクロ成形 削出し高台<br>見)釉剥ぎ 体】腰部以下露胎 | | | 漆付着 |
| 32 | 13 | 北 | D・E5 | SE3 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅲ 1 | |
| 32 | 14 | 北 | D・E5 | SE3 | 片口鉢 | 越前 | (36.0) | － | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ 2・3 | |
| 32 | 15 | 北 | D・E5 | SE3 | 片口鉢 | 越前 | － | － | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ 2・3 | 刻線文 |
| 32 | 16 | 北 | D8 | SB5-SK1 | 瓦質瓶 | － | － | － | － | 轆轤成形 体】指押さえ | 体】雷文 渦巻文 | | |
| 32 | 17 | 北 | E7 | SE4 | 土師質皿 | ○ | (11.9) | － | 2.2 | 手づくね | 橙色 | O 類 | |
| 32 | 18 | 北 | E7 | SE4 | 土師質皿 | × | (14.4) | － | 2.4 | 手づくね | 橙色 | O 類 | |
| 32 | 19 | 北 | E7 | SE4 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅳ 3 | |
| 32 | 20 | 北 | D7 | SK1 | 土師質皿 | × | 6.1 | － | 1.6 | 手づくね | 灰黄褐色 | L 類 | |
| 32 | 21 | 北 | D7 | SK1 | 土師質皿 | ○ | (7.1) | － | (1.9) | 手づくね | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 32 | 22 | 北 | D7 | SK1 | 土師質皿 | ○ | 8.2 | － | 1.9 | 手づくね | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 32 | 23 | 北 | D7 | SK1 | 鉢 | 珠洲 | (34.0) | － | － | 轆轤成形 | 口】波状文 | | |
| 32 | 24 | 北 | D7 | SK1 | 卸皿 | 瀬戸 | (13.6) | － | － | 轆轤成形 見】卸目 | 口】灰釉 | 後Ⅱ | |
| 32 | 25 | 北 | D7 | SK1 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | - | 腰】凸帯文 | | |
| 32 | 26 | 北 | E5 | SK2 | 土師質皿 | × | (13.0) | － | 3.9 | 手づくね | 淡灰褐色 | H 類 | |
| 32 | 27 | 北 | E4 | SK3 | 土師質皿 | × | 7.7 | － | 1.8 | 手づくね | 橙色 | D 類 | |
| 32 | 28 | 北 | E4 | SK3 | 土師質皿 | × | 9.2 | － | 3.0 | 手づくね | 橙色 | F 類 | |
| 32 | 29 | 北 | E4 | SK3 | 白磁皿 | 中国 | － | (5.0) | － | ロクロ成形 | 見】箆刻み | | 同安窯 |
| 32 | 30 | 北 | E4 | SK3 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | - | | | |
| 32 | 31 | 北 | E5 | SK7 | 土師質皿 | × | (11.4) | － | 2.0 | 手づくね | 浅黄橙色 | E 類 | |
| 32 | 32 | 北 | E5 | SK7 | 青白磁壺 | 中国 | － | － | － | 型押し成形 | | | |
| 32 | 33 | 北 | D7 | SK12 | 土師質皿 | × | (12.6) | － | 1.9 | 手づくね | 橙色 | F 類 | |
| 32 | 34 | 北 | E8 | SK15 | 土師質皿 | × | (10.2) | － | 2.7 | 手づくね | 浅黄橙色 | E 類 | |
| 32 | 35 | 北 | E8 | SK15 | 青磁碗 | 中国 | － | (6.0) | － | 轆轤成形 削出し高台 | 見･高】露胎 | | |
| 32 | 36 | 北 | D8 | SK16 | 土師質皿 | × | (7.8) | － | 1.3 | 手づくね | 浅黄橙色 | D 類 | |
| 32 | 37 | 北 | D8 | SK16 | 土師質皿 | ○ | (8.1) | － | 1.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | D 類 | |
| 32 | 38 | 北 | D8 | SK16 | 片口鉢 | 越前 | － | (11.8) | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ 2 | |
| 32 | 39 | 北 | D8 | SK16 | 山茶碗 | 瀬戸 | － | (4.0) | － | 轆轤成形 | | | 東濃型 |
| 32 | 40 | 北 | D8 | SK16 | 土師質鍋 | － | (21.2) | － | － | 轆轤成形 体】刷毛 | | | |
| 32 | 41 | 北 | D8 | SK17 | 土師質皿 | × | (10.6) | － | 1.7 | 手づくね | 浅黄橙色 | F 類 | |
| 32 | 42 | 北 | D8 | SK20 | 土師質皿 | × | 11.4 | － | 2.7 | 手づくね | 橙色 | F 類 | |
| 32 | 43 | 北 | D10 | SK23 | 土師質皿 | ○ | 8.2 | － | 2.0 | 手づくね | 橙色 | M 類 | |
| 32 | 44 | 北 | D10 | SK23 | 土師質皿 | × | 10.0 | － | 2.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | M 類 | |
| 32 | 45 | 北 | D10 | SK23 | 土師質皿 | × | 10.4 | － | 2.1 | 手づくね | 橙色 | M 類 | |
| 32 | 46 | 北 | D10 | SK23 | 土師質皿 | × | 10.9 | － | 2.3 | 手づくね | 橙色 | M 類 | |
| 32 | 47 | 北 | D10 | SK23 | 壺 | 信楽 | － | (14.4) | － | ねじたて成形 | | | |
| 32 | 48 | 北 | D10 | SK23 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | - | | | |
| 33 | 1 | 北 | D11 | SK31 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ 2 | |
| 33 | 2 | 北 | D7・8 | SK35 | 土師質皿 | × | 7.3 | － | 1.8 | 手づくね | 橙色 | L 類 | |
| 33 | 3 | 北 | D7・8 | SK35 | 土師質皿 | × | (9.5) | － | (2.6) | 手づくね | 灰白色 | L 類 | |
| 33 | 4 | 北 | D7・8 | SK35 | 土師質皿 | × | 9.7 | － | 2.2 | 手づくね | 橙色 | G 類 | |
| 33 | 5 | 北 | E3 | SK36 | 土師質皿 | × | 8.8 | － | 2.3 | 手づくね | 淡灰褐色 | F 類 | |
| 33 | 6 | 北 | E4 | SK45 | 土師質皿 | ○ | 7.8 | － | 1.6 | 手づくね | 橙色 | C 類 | |
| 33 | 7 | 北 | E4 | SK45 | 土師質皿 | × | (12.2) | － | 2.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | G 類 | |
| 33 | 8 | 北 | E4 | SK45 | 片口鉢 | 越前 | － | (13.9) | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ 2 | |
| 33 | 9 | 北 | D8 | SK49 | 平碗 | 瀬戸 | － | 4.5 | － | 轆轤成形 削出し高台 | 灰釉 腰部以下露胎 | 後Ⅱ | |
| 33 | 10 | 北 | D8 | SK49 | 青磁碗 | 中国 | (14.9) | － | － | 轆轤成形 削出し高台 | 体】連弁文 | 上 C Ⅱ | |
| 33 | 11 | 北 | D7 | SK50 | 土師質皿 | × | 7.2 | － | 1.8 | 手づくね | 黄橙色 | D 類 | |
| 33 | 12 | 北 | D7 | SK50 | 土師質皿 | × | 7.4 | － | 1.6 | 手づくね | 黄橙色 | D 類 | |
| 33 | 13 | 北 | D7 | SK50 | 土師質皿 | × | (11.8) | － | 2.1 | 手づくね | 黄橙色 | F 類 | |
| 33 | 14 | 北 | E4 | SX1 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅳ 3 | |
| 33 | 15 | 北 | E4 | SX1 | 甕 | 珠洲 | － | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 33 | 16 | 北 | E4 | SX2 | 土師質皿 | × | 7.2 | | 1.4 | 手づくね | 灰白色 | L 類 | |
| 33 | 17 | 北 | E4 | SX2 | 土師質皿 | ○ | 7.6 | | 1.7 | 手づくね | 灰白色 | L 類 | |
| 33 | 18 | 北 | E4 | SX2 | 土師質皿 | × | 7.7 | | 1.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 33 | 19 | 北 | E4 | SX2 | 土師質皿 | × | 8.0 | | 1.9 | 手づくね | 灰白色 | L 類 | |
| 33 | 20 | 北 | E4 | SX2 | 土師質皿 | × | 9.7 | | 2.3 | 手づくね | 浅黄橙色 | F 類 | |
| 33 | 21 | 北 | E4 | SX2 | 擂鉢 | 越前 | － | (8.7) | － | 轆轤成形 | 擂目15条 | Ⅳ 2 | 擂目 15 条 |
| 33 | 22 | 北 | E4 | SX2 | 瓦質火鉢 | | － | － | － | | 口】菱形文 | | |
| 33 | 23 | 北 | E4 | SD1 | 土師質皿 | ○ | 7.5 | － | 1.6 | 手づくね | 浅黄橙色 | I 類 | |
| 33 | 24 | 北 | E4 | SD1 | 土師質皿 | ○ | 7.7 | － | 1.6 | 手づくね | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 33 | 25 | 北 | E4 | SD1 | 土師質皿 | ○ | 7.6 | － | 1.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 33 | 26 | 北 | D4 | SD1 | 土師質皿 | × | (14.8) | － | 2.4 | 手づくね | 灰白色 | N 類 | |
| 33 | 27 | 北 | D4 | SD1 | 皿 | 瀬戸 | － | (7.5) | － | 轆轤成形 底】回転糸切り | 内】灰釉 | 後Ⅲ | |
| 33 | 28 | 北 | D4 | SD1 | 縁釉小皿 | 瀬戸 | (11.7) | － | － | 轆轤成形 | 口】灰釉 | 後Ⅲ | |
| 33 | 29 | 北 | D4 | SD1 | 白磁皿 | 中国 | (9.9) | (4.4) | 1.8 | 轆轤成形 削出し高台 | 高】露胎 | 森 D | |
| 33 | 30 | 北 | D4 | SD1 | 白磁皿 | 中国 | － | 3.5 | － | 轆轤成形 削出し高台 | 高】露胎 | 森 D | 墨書 |
| 33 | 31 | 北 | E4 | SD3 | 擂鉢 | 越前 | － | (13.6) | － | 轆轤成形 | | Ⅲ 2 | |
| 33 | 32 | 北 | E4 | SD3 | 卸皿 | 瀬戸 | － | 4.8 | － | 轆轤成形。底】回転糸切り | 灰釉 | | |
| 33 | 33 | 北 | E4 | SD3 | 石鍋 | － | － | － | － | | | | |
| 33 | 34 | 北 | E5 | SD4 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ 2 | |
| 33 | 35 | 北 | E5 | SD4 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅴ 1 | |
| 33 | 36 | 北 | E5 | SD4 | 片口鉢 | 越前 | (34.7) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ 2・3 | |
| 33 | 37 | 北 | E5 | SD4 | 甕 | 珠洲 | － | － | － | | | | |

| 図版番号 | 挿図番号 | 地区 | 位置 | 遺構№ | 器種 | 土師質：灯心痕<br>陶磁器：生産地 | 法量（cm）<br>口径 | 底径 | 高さ | 成形・調整 | 土師質：胎土色調<br>陶磁器：釉・装飾 | 時期<br>分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 38 | 北 | D5 | SD4 | 白磁皿 | 中国 | － | (4.9) | － | 轆轤成形 抉り高台 | 白磁 | 森Ｄ | |
| 33 | 39 | 北 | E5 | SD5 | 土師質皿 | × | 7.6 | － | 1.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｄ類 | |
| 33 | 40 | 北 | D5 | SD5 | 土師質皿 | × | 7.7 | － | 1.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｄ類 | |
| 33 | 41 | 北 | E5 | SD5 | 土師質皿 | × | (7.8) | － | 1.8 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｌ類 | |
| 33 | 42 | 北 | E5 | SD5 | 土師質皿 | × | 9.0 | － | 1.8 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｌ類 | |
| 33 | 43 | 北 | E5 | SD5 | 土師質皿 | × | (12.7) | － | 2.9 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｇ類 | |
| 33 | 44 | 北 | E5 | SD5 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ３ | |
| 33 | 45 | 北 | E5 | SD5 | 擂鉢 | 珠洲 | － | (11.2) | － | 轆轤成形 底】停止糸切り | | | 擂目６条 |
| 33 | 46 | 北 | E5 | SD5 | 瓦質羽釜 | － | (19.2) | － | － | | | | |
| 33 | 47 | 北 | D5 | SD6 | 土師質皿 | × | (11.2) | － | 2.5 | 手づくね | 黄橙色 | Ｏ類 | |
| 33 | 48 | 北 | D5 | SD36 | 土師質皿 | × | 8.3 | － | 1.9 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｄ類 | |
| 33 | 49 | 北 | D5 | SD36 | 土師質皿 | ○ | (8.1) | － | 2.1 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｊ類 | |
| 33 | 50 | 北 | D5 | SD10 | 平底末広碗 | 瀬戸 | － | (5.5) | － | 轆轤成形 底】回転糸切り | | 中Ⅳ | |
| 33 | 51 | 北 | D7 | SD14 | 土師質皿 | × | 9.8 | － | 2.2 | 手づくね | 黄橙色 | Ｏ類 | |
| 33 | 52 | 北 | D7 | SD14 | 青磁碗 | 中国 | － | (5.0) | － | 轆轤成形 | 見】印花文 高】露胎 | | |
| 33 | 53 | 北 | D4 | SD16 | 土師質皿 | ○ | 8.2 | － | 1.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｌ類 | |
| 34 | 1 | 北 | D5 | SD11 | 片口鉢 | 越前 | (31.4) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ３ | |
| 34 | 2 | 北 | D5 | SD11 | 片口鉢 | 越前 | － | (14.0) | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ３ | |
| 34 | 3 | 北 | D5 | SD11 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | | 口】菊花文 | | |
| 34 | 4 | 北 | D6・7 | SD15 | 土師質皿 | × | 7.2 | － | 1.4 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｂ類 | |
| 34 | 5 | 北 | D7 | SD15 | 土師質皿 | ○ | 7.7 | － | 2.0 | 手づくね | 黄橙色 | Ｌ類 | |
| 34 | 6 | 北 | D7 | SD15 | 土師質皿 | × | (19.2) | － | 3.3 | 手づくね | 灰白色 | Ｎ類 | |
| 34 | 7 | 北 | D6・7 | SD15 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅳ３ | |
| 34 | 8 | 北 | D6・7 | SD15 | 壺 | 越前 | (10.9) | － | － | ねじたて成形 | | Ⅳ３ | |
| 34 | 9 | 北 | D6・7 | SD15 | 擂鉢 | 越前 | (22.5) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅲ２ | |
| 34 | 10 | 北 | D7 | SD15 | 擂鉢 | 越前 | － | (16.6) | － | 轆轤成形 | | Ⅲ２ | |
| 34 | 11 | 北 | D6・7 | SD15 | 天目茶碗 | 瀬戸 | (12.0) | － | － | 轆轤成形 | 鉄釉 | 後Ⅳ | |
| 34 | 12 | 北 | D6・7 | SD15 | 青磁碗 | 中国 | (15.7) | － | － | 轆轤成形 | | 上ＤⅡ | |
| 34 | 13 | 北 | D7 | SD15 | 白磁碗 | 中国 | (17.9) | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 34 | 14 | 北 | D4 | SD18 | 土師質皿 | × | (7.3) | － | 1.6 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｌ類 | |
| 34 | 15 | 北 | D4 | SD18 | 土師質皿 | × | (9.5) | － | 2.0 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｊ類 | |
| 34 | 16 | 北 | D8 | SD21 | 染付皿 | 中国 | (11.8) | － | － | 轆轤成形 | 染付 外】宝相華唐草文 | 小Ｂ1 | |
| 34 | 17 | 北 | D8 | SD22 | 土師質皿 | × | 7.9 | － | 1.9 | 手づくね | 橙色 | Ｉ類 | |
| 34 | 18 | 北 | D8 | SD22 | 片口鉢 | 越前 | (28.4) | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 34 | 19 | 北 | D8 | SD22 | 白磁碗 | 中国 | － | (5.6) | － | ロクロ成形 | 腰部以下露胎 | | |
| 34 | 20 | 北 | D8 | SD22 | 白磁皿 | 中国 | 9.3 | 3.8 | 2.5 | ロクロ成形 抉り高台 重焼き | 腰部以下露胎 | 森Ｄ | |
| 34 | 21 | 北 | D9 | SD23 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | | 体】菱形文 | | |
| 34 | 22 | 北 | D9 | SD24 | 土師質皿 | × | 7.7 | － | 1.8 | 手づくね | 橙色 | Ｉ類 | |
| 34 | 23 | 北 | E3 | SD25 | 土師質皿 | × | 7.4 | － | 1.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｄ類 | |
| 34 | 24 | 北 | E3 | SD25 | 土師質皿 | ○ | 7.5 | － | 1.7 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｄ類 | |
| 34 | 25 | 北 | D3 | SD26 | 土師質皿 | × | 7.8 | － | 1.7 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｌ類 | |
| 34 | 26 | 北 | D3 | SD26 | 土師質皿 | × | 8.1 | － | 1.7 | 手づくね | 橙色 | Ｉ類 | |
| 34 | 27 | 北 | D3 | SD26 | 土師質皿 | × | 10.2 | － | 2.3 | 手づくね | 橙色 | Ｍ類 | |
| 34 | 28 | 北 | D3 | SD26 | 土師質皿 | × | 11.3 | － | 2.4 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｍ類 | |
| 34 | 29 | 北 | D3 | SD26 | 折縁小皿 | 瀬戸 | (7.5) | (4.0) | 1.9 | 轆轤成形 | 口・内】灰釉 | 後Ⅲ | |
| 34 | 30 | 北 | E3 | SD26 | 天目茶碗 | 中国 | (12.0) | － | － | 轆轤成形 | 鉄釉 | 中Ⅳ | |
| 34 | 31 | 北 | E3 | SD26 | 青磁碗 | 中国 | (14.8) | － | － | 轆轤成形 | 口】雷文 | 上ＣⅡ | |
| 34 | 32 | 北 | E3 | SD26 | 青白磁皿 | 中国 | (10.2) | － | － | 轆轤成形 | 腰部以下露胎 | | |
| 34 | 33 | 北 | E3・4 | SD29 | 土師質皿 | × | 7.6 | － | 1.8 | 手づくね | 橙色 | Ｌ類 | |
| 34 | 34 | 北 | E4 | SD29 | 土師質皿 | × | (8.2) | － | 1.7 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｌ類 | |
| 34 | 35 | 北 | E4 | SD29 | 鉢 | 越前 | (36.4) | 19.0 | 10.7 | 轆轤成形 | | Ⅳ３ | |
| 34 | 36 | 北 | E4 | SD29 | 土錘 | － | － | － | － | 手づくね | | | |
| 34 | 37 | 北 | D9 | SD30 | 青磁碗 | 中国 | － | (5.7) | － | 轆轤成形 | 見】印花文 高】露胎 | | |
| 34 | 38 | 北 | D9 | SD30 | 青磁碗 | 中国 | － | 4.7 | － | 轆轤成形 | 見】印花文 腰部以下露胎 | | |
| 34 | 39 | 北 | D9 | SD30 | 青磁皿 | 中国 | (11.3) | － | － | 轆轤成形 | 体】連弁文 | 上ＢⅡ | |
| 34 | 40 | 北 | E5 | SD31 | 片口鉢 | 越前 | － | (12.5) | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ２ | |
| 34 | 41 | 北 | E5 | SD31 | 擂鉢 | 越前 | － | (12.9) | － | 轆轤成形 | | Ⅲ２ | |
| 34 | 42 | 北 | E5 | SD31 | 鉢 | 珠洲 | (30.3) | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 34 | 43 | 北 | C10 | SD71 | 土師質皿 | × | 6.7 | － | 1.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｌ類 | |
| 34 | 44 | 北 | C10 | SD71 | 土師質皿 | × | 7.7 | － | 1.8 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｌ類 | |
| 34 | 45 | 北 | C10 | SD71 | 土師質皿 | × | 7.7 | － | 1.5 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｉ類 | |
| 34 | 46 | 北 | C10 | SD71 | 土師質皿 | × | (10.9) | － | 2.7 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｅ類 | |
| 34 | 47 | 北 | C10 | SD71 | 片口鉢 | 越前 | (30.3) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 34 | 48 | 北 | C10 | SD71 | 片口鉢 | 越前 | － | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 34 | 49 | 北 | C10 | SD71 | 花形小皿 | 瀬戸 | 2.2 | 2.2 | 0.8 | ロクロ成形後変形 | | | |
| 35 | 1 | 北 | D9 | SD39 | 土師質皿 | × | 6.7 | － | 1.5 | 手づくね | 灰白色 | Ｄ類 | |
| 35 | 2 | 北 | D9 | SD39 | 土師質皿 | × | 7.2 | － | 1.7 | 手づくね | 橙色 | Ｄ類 | |
| 35 | 3 | 北 | D8 | SD39 | 土師質皿 | ○ | (7.8) | － | (1.9) | 手づくね | 褐色 | Ｋ類 | |
| 35 | 4 | 北 | D8 | SD39 | 土師質皿 | ○ | 7.2 | － | 1.6 | 手づくね | 灰白色 | Ｋ類 | |
| 35 | 5 | 北 | D8 | SD39 | 土師質皿 | × | 7.0 | － | 1.6 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｌ類 | |
| 35 | 6 | 北 | D8 | SD39 | 土師質皿 | × | (13.8) | 8.0 | 2.5 | 手づくね | 灰白色 | Ｎ類 | |
| 35 | 7 | 北 | D8 | SD39 | 土師質皿 | × | (15.1) | 8.5 | 2.7 | 手づくね | 灰白色 | Ｎ類 | |
| 35 | 8 | 北 | D9 | SD39 | 緑釉小皿 | 瀬戸 | (10.6) | (5.5) | (2.8) | 轆轤成形 底】回転糸切り | 口】灰釉 | 後Ｉ | |
| 35 | 9 | 北 | D9 | SD39 | 卸皿 | 瀬戸 | － | (5.0) | － | 轆轤成形 底】回転糸切り | | | |
| 35 | 10 | 北 | D8 | SD39 | 灰釉皿 | 瀬戸 | － | － | 5.2 | 轆轤成形 底】回転糸切り | 内】灰釉 | | |
| 35 | 11 | 北 | D8 | SD39 | 折縁深皿 | 瀬戸 | (33.0) | － | － | 轆轤成形 | 口】灰釉 | 後Ⅲ | |
| 35 | 12 | 北 | D8 | SD39 | 青磁碗 | 中国 | (14.4) | － | － | 轆轤成形 | 口】雷文 | 上ＤⅡ | |
| 35 | 13 | 北 | D9 | SD39 | 白磁皿 | 中国 | (10.6) | － | (1.7) | 轆轤成形　腰部以下露胎 | | 森Ｄ | |
| 35 | 14 | 北 | E5 | SP161 | 大甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | | |
| 35 | 15 | 北 | D7 | 遺構外 | 土師質皿 | × | 8.5 | － | 1.9 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｄ類 | |
| 35 | 16 | 北 | D3 | 遺構外 | 土師質皿 | × | 8.1 | － | 2.0 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｉ類 | |
| 35 | 17 | 北 | D9 | 遺構外 | 土師質皿 | ○ | 8.6 | － | 2.4 | 手づくね | 灰白色 | Ｌ類 | |
| 35 | 18 | 北 | D3 | 遺構外 | 土師質皿 | × | (9.8) | － | 2.7 | 手づくね | 灰白色 | Ｅ類 | |
| 35 | 19 | 北 | C10 | 遺構外 | 土師質皿 | × | (11.5) | － | 2.9 | 手づくね | 浅黄橙色 | Ｅ類 | |
| 35 | 20 | 北 | D9 | 遺構外 | 土師質皿 | × | (14.7) | － | 2.4 | 手づくね | 灰白色 | Ｏ類 | |
| 35 | 21 | 北 | E4 | 遺構外 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅲ２ | |
| 35 | 22 | 北 | D5 | 遺構外 | 片口鉢 | 越前 | (28.9) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |

| 図版番号 | 挿図番号 | 地区 | 位置 | 遺構№ | 器種 | 土師質：灯心痕<br>陶磁器：生産地 | 法量（cm）<br>口径 | 底径 | 高さ | 成形･調整 | 土師質:胎土色調<br>陶磁器･釉･装飾 | 時期分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | 23 | 北 | E3 | 遺構外 | 擂鉢 | 越前 | (31.2) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅳ３ | |
| 35 | 24 | 北 | D3 | 遺構外 | 擂鉢 | 越前 | (35.0) | (12.7) | 15.0 | 轆轤成形 | | Ⅳ３ | |
| 35 | 25 | 北 | D4 | 遺構外 | 青磁瓶 | 中国 | － | － | － | 轆轤成形 | 体】連弁文 | | |
| 35 | 26 | 北 | E2 | 遺構外 | 白磁碗 | 中国 | － | － | － | 轆轤成形 削出し高台 | | | |
| 36 | 1 | 南 | B14 | SE5 | 土師質皿 | × | (7.3) | － | 1.5 | 手づくね | 橙色 | D 類 | |
| 36 | 2 | 南 | B14 | SE5 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ２ | |
| 36 | 3 | 南 | C15 | SE6 | 土師質皿 | × | (8.3) | － | 2.3 | 手づくね | 橙色 | G 類 | |
| 36 | 4 | 南 | C15 | SE6 | 土師質皿 | × | (9.9) | － | 2.5 | 手づくね | 橙色 | E 類 | |
| 36 | 5 | 南 | C15 | SE6 | 土師質皿 | ○ | 7.7 | － | 1.6 | 手づくね | 浅黄橙色 | C 類 | |
| 36 | 6 | 南 | C15 | SE6 | 土師質皿 | × | (9.8) | － | 2.1 | 手づくね | 灰白色 | C 類 | |
| 36 | 7 | 南 | C15 | SE6 | 土師質皿 | × | (11.6) | － | 2.2 | 手づくね | 淡灰橙色 | F 類 | |
| 36 | 8 | 南 | C15 | SE6 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ２ | |
| 36 | 9 | 南 | C15 | SE6 | 片口鉢 | 越前 | (29.6) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | 刻線文 |
| 36 | 10 | 南 | C15 | SE6 | 片口鉢 | 越前 | － | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | 刻線文 |
| 36 | 11 | 南 | C15 | SE6 | 甕 | 常滑 | － | － | － | ねじたて成形 | | | |
| 36 | 12 | 南 | C15 | SE6 | 甕 | 常滑 | － | － | － | ねじたて成形 | | | |
| 36 | 13 | 南 | C15 | SE6 | 土師質鍋 | － | － | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 36 | 14 | 南 | C15 | SE6 | 土師質鍋 | － | － | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 36 | 15 | 南 | C15 | SE6 | 瓦質擂鉢 | － | － | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 36 | 16 | 南 | C15 | SE6 | 瓦質擂鉢 | － | － | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 36 | 17 | 南 | C15 | SE6 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | | 口】菊花文 | | |
| 36 | 18 | 南 | C15 | SE6 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | | | | 穿孔有 |
| 36 | 19 | 南 | C15 | SE8 | 土師質皿 | × | (8.2) | － | 1.6 | 手づくね | 淡黄橙色 | L 類 | |
| 36 | 20 | 南 | C15 | SE8 | 土師質皿 | × | (9.7) | － | 2.0 | 手づくね | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 36 | 21 | 南 | C15 | SE8 | 卸皿 | 瀬戸 | (11.8) | － | － | 轆轤成形 底】回転糸切り | 口】灰釉 | 前Ⅰ | |
| 36 | 22 | 南 | C15 | SE8 | 卸皿 | 瀬戸 | (17.8) | 9.9 | 3.5 | 轆轤成形 底】回転糸切り | 口】灰釉 | 後Ⅲ | |
| 36 | 23 | 南 | C15 | SE8 | 土師質鍋 | － | (26.1) | － | － | 轆轤成形 体】刷毛 | | | |
| 36 | 24 | 南 | C15 | SE8 | 瓦質火鉢 | － | (32.7) | － | － | | 菊花文 | | |
| 36 | 25 | 南 | B15・16 | SE9 | 土師質皿 | × | (8.1) | － | 1.2 | 手づくね | 橙色 | A 類 | |
| 36 | 26 | 南 | B15・16 | SE9 | 土師質皿 | × | (8.5) | － | 1.6 | 手づくね | 灰黄色 | D 類 | |
| 36 | 27 | 南 | B15・16 | SE9 | 土師質皿 | × | (8.5) | － | 1.6 | 手づくね | 灰白色 | D 類 | |
| 36 | 28 | 南 | B15・16 | SE9 | 土師質皿 | × | 7.3 | － | 1.7 | 手づくね | 橙色 | L 類 | |
| 36 | 29 | 南 | B15・16 | SE9 | 土師質皿 | × | 7.4 | － | 1.5 | 手づくね | 橙色 | L 類 | |
| 36 | 30 | 南 | B15・16 | SE9 | 土師質皿 | × | (11.5) | － | 2.1 | 手づくね | 橙色 | E 類 | |
| 36 | 31 | 南 | B15・16 | SE9 | 土師質皿 | × | (11.0) | － | 2.6 | 手づくね | 橙色 | F 類 | |
| 36 | 32 | 南 | B15・16 | SE9 | 土師質皿 | × | (11.5) | － | 1.9 | 手づくね | 黄橙色 | F 類 | |
| 36 | 33 | 南 | B15・16 | SE9 | 土師質皿 | × | 11.6 | － | 2.7 | 手づくね | 灰白色 | F 類 | |
| 36 | 34 | 南 | B15.16 | SE9 | 青磁碗 | 中国 | (13.8) | － | － | 轆轤成形 | 体】鎬連弁文 | 上ＢⅠ | |
| 36 | 35 | 南 | C12 | SE10 | 土師質皿 | × | 7.3 | － | 1.4 | 手づくね | 灰白色 | D 類 | |
| 36 | 36 | 南 | C12 | SE10 | 土師質皿 | × | (11.4) | － | 2.6 | 手づくね | 黄橙色 | E 類 | |
| 36 | 37 | 南 | C12 | SE10 | 土師質皿 | × | (11.5) | － | (3.2) | 手づくね | 橙色 | G 類 | |
| 36 | 38 | 南 | C12 | SE10 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ３ | |
| 36 | 39 | 南 | C12 | SE10 | 片口鉢 | 越前 | (31.5) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 36 | 40 | 南 | C12 | SE10 | 片口鉢 | 越前 | － | (15.0) | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ２・３ | |
| 36 | 41 | 南 | C12 | SE10 | 土師質羽釜 | － | (26.0) | － | － | 轆轤成形 体】刷毛 | | | |
| 36 | 42 | 南 | C12 | SE13 | 片口鉢 | 越前 | (32.0) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 36 | 43 | 南 | C12 | SE13 | 土師質鍋 | － | (25.0) | － | － | 轆轤成形 体】刷毛 | | | |
| 36 | 44 | 南 | C12 | SE13 | 瓦質擂鉢 | － | － | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 36 | 45 | 南 | C12 | SE13 | 青磁碗 | 中国 | (15.0) | － | － | 轆轤成形 | 体】縞連弁文 | 上ＢⅠ | |
| 36 | 46 | 南 | C12 | SE13 | 白磁皿 | 中国 | － | (6.3) | － | 轆轤成形 | | 森Ａ | |
| 37 | 1 | 南 | C12 | SE11 | 土師質皿 | × | 11.6 | － | 2.8 | 手づくね | 浅黄橙色 | F 類 | |
| 37 | 2 | 南 | C12 | SE11 | 白磁皿 | 中国 | － | (5.9) | － | 轆轤成形 | | 森Ａ | |
| 37 | 3 | 南 | C12 | SE14 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ２ | |
| 37 | 4 | 南 | C12 | SE14 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ３ | |
| 37 | 5 | 南 | C12 | SE14 | 片口鉢 | 越前 | (38.5) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 37 | 6 | 南 | C12 | SE14 | 片口鉢 | － | (34.0) | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 37 | 7 | 南 | C12 | SE14 | 土師質羽釜 | － | (20.4) | － | － | 轆轤成形 体】刷毛 | | | |
| 37 | 8 | 南 | C12 | SE14 | 土師質羽釜 | － | (21.0) | － | － | 轆轤成形 体】刷毛 | | | |
| 37 | 9 | 南 | B14 | SE15 | 土師質皿 | × | (7.1) | － | 1.0 | 手づくね | 黄橙色 | A 類 | |
| 37 | 10 | 南 | B14 | SE15 | 土師質皿 | × | 8.1 | － | 1.5 | 手づくね | 橙色 | B 類 | |
| 37 | 11 | 南 | B14 | SE15 | 土師質皿 | × | 7.8 | － | 1.6 | 手づくね | 浅黄橙色 | C 類 | |
| 37 | 12 | 南 | B14 | SE15 | 土師質皿 | × | 8.1 | － | 1.5 | 手づくね | 淡橙色 | C 類 | |
| 37 | 13 | 南 | B14 | SE15 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ３ | |
| 37 | 14 | 南 | B14 | SE15 | 片口鉢 | 越前 | (28.6) | (13.6) | 8.6 | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ２ | |
| 37 | 15 | 南 | B14 | SE15 | 片口鉢 | 越前 | (36.4) | (13.4) | 14.1 | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ２ | |
| 37 | 16 | 南 | B14 | SE15 | 片口鉢 | － | (33.3) | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 37 | 17 | 南 | B14 | SE15 | 土師質鍋 | － | (26.2) | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 37 | 18 | 南 | C14 | SE17 | 土師質皿 | × | 7.6 | － | 1.4 | 手づくね | 黄橙色 | D 類 | |
| 37 | 19 | 南 | C14 | SE17 | 土師質皿 | × | (10.9) | － | 2.3 | 手づくね | 淡橙色 | F 類 | |
| 37 | 20 | 南 | C14 | SE17 | 土師質皿 | × | 12.3 | － | 1.9 | 手づくね | 浅黄橙色 | F 類 | |
| 37 | 21 | 南 | C14 | SE17 | 土師質皿 | × | (15.2) | － | 2.2 | 手づくね | 橙色 | F 類 | |
| 37 | 22 | 南 | C14 | SE17 | 土師質皿 | × | 7.1 | － | 1.5 | 手づくね | 橙色 | L 類 | 墨書 |
| 37 | 23 | 南 | C14 | SE17 | 甕 | 越前 | (21.8) | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ１ | |
| 37 | 24 | 南 | C14 | SE17 | 片口鉢 | 越前 | (36.0) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 37 | 25 | 南 | C14 | SE17 | 青磁碗 | 中国 | － | 4.6 | － | 轆轤成形 | 見】印花文 高】露胎 | | |
| 37 | 26 | 南 | C14 | SE17 | 青磁鉢 | 中国 | (18.1) | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 37 | 27 | 南 | C13 | SE18 | 土師質皿 | ○ | 7.6 | － | 1.9 | 手づくね | 灰白色 | I 類 | |
| 37 | 28 | 南 | C13 | SE18 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ２ | |
| 37 | 29 | 南 | C13 | SE18 | 片口鉢 | 越前 | (33.0) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 37 | 30 | 南 | C13 | SE18 | 青磁碗 | 中国 | (14.8) | － | － | 轆轤成形 | 体】縞連弁文 | 上ＢⅠ | |
| 37 | 31 | 南 | C13 | SE18 | 青磁皿 | 中国 | (12.6) | (6.8) | 3.3 | 轆轤成形 削出し高台 | 体】連弁文 | | |
| 37 | 32 | 南 | B15 | SK48 | 土師質皿 | × | 7.1 | － | 1.9 | 手づくね | 浅黄橙色 | L 類 | |
| 37 | 33 | 南 | B15 | SK48 | 片口鉢 | 越前 | － | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | 刻線文 |
| 37 | 34 | 南 | C12 | SK52 | 土師質皿 | ○ | 8.6 | － | 1.4 | 手づくね | 橙色 | D 類 | |
| 37 | 35 | 南 | C12 | SK52 | 白磁皿 | 中国 | (8.0) | 5.1 | 1.5 | ロクロ成形 | 口】口禿 | 森Ａ | |
| 37 | 36 | 南 | C14 | SK57 | 土師質皿 | × | 11.2 | － | 3.1 | 手づくね | 橙色 | G 類 | |
| 37 | 37 | 南 | C14 | SK57 | 片口鉢 | 越前 | － | (12.8) | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ３ | |

| 図版番号 | 挿図番号 | 地区 | 位置 | 遺構№ | 器種 | 土師質：灯心痕<br>陶磁器：生産地 | 法量（cm）<br>口径 | 底径 | 高さ | 成形・調整 | 土師質：胎土色調<br>陶磁器：釉・装飾 | 時期<br>分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 38 | 南 | B15・16 | SK72 | 土師質皿 | × | 6.7 | － | 1.6 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 37 | 39 | 南 | B15・16 | SK72 | 卸皿 | 瀬戸 | (11.9) | (6.8) | 2.2 | 轆轤成形 | 内外】灰釉 | 中Ⅱ | |
| 37 | 40 | 南 | B16 | SK78 | 土師質皿 | × | 6.7 | － | 1.4 | 手づくね | 浅黄橙色 | F類 | |
| 37 | 41 | 南 | B16 | SK78 | 土師質皿 | × | (9.0) | － | 2.0 | 手づくね | 橙色 | F類 | |
| 37 | 42 | 南 | B16・17 | SK78 | 甕 | 越前 | | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ２ | |
| 37 | 43 | 南 | B16 | SK78 | 片口鉢 | 越前 | － | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 38 | 1 | 南 | C12 | SD41 | 土師質皿 | × | 7.7 | － | 1.2 | 手づくね | 橙色 | B類 | |
| 38 | 2 | 南 | D12 | SD41 | 土師質皿 | ○ | 7.8 | － | 1.1 | 手づくね | 橙色 | D類 | |
| 38 | 3 | 南 | C12 | SD41 | 土師質皿 | ○ | 7.5 | － | 1.3 | 手づくね | 浅黄橙色 | D類 | |
| 38 | 4 | 南 | D12 | SD41 | 土師質皿 | ○ | 7.9 | － | 1.7 | 手づくね | 橙色 | I類 | |
| 38 | 5 | 南 | C12 | SD41 | 土師質皿 | ○ | 7.3 | － | 1.4 | 手づくね | 浅黄橙色 | I類 | |
| 38 | 6 | 南 | C12 | SD41 | 土師質皿 | × | 6.4 | － | 1.6 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 7 | 南 | C12 | SD41 | 土師質皿 | × | 7.3 | － | 1.8 | 手づくね | 灰色 | L類 | |
| 38 | 8 | 南 | D12 | SD41 | 土師質皿 | ○ | 7.1 | － | 2.1 | 手づくね | 浅黄橙色 | L類 | |
| 38 | 9 | 南 | C12 | SD41 | 土師質皿 | ○ | 7.4 | － | 1.8 | 手づくね | 浅黄橙色 | L類 | |
| 38 | 10 | 南 | D12 | SD41 | 土師質皿 | ○ | 8.0 | － | 1.9 | 手づくね | 浅黄橙色 | L類 | |
| 38 | 11 | 南 | D12 | SD41 | 土師質皿 | ○ | (7.6) | － | 2.1 | 手づくね | 浅黄橙色 | L類 | |
| 38 | 12 | 南 | C12 | SD41 | 土師質皿 | × | 8.3 | － | 2.0 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 13 | 南 | D12 | SD41 | 土師質皿 | × | 8.6 | － | 1.8 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 14 | 南 | D12 | SD41 | 土師質皿 | × | 8.7 | － | 1.8 | 手づくね | 橙色 | F類 | |
| 38 | 15 | 南 | C12 | SD41 | 土師質皿 | × | (11.1) | － | 2.1 | 手づくね | 褐灰色 | O類 | |
| 38 | 16 | 南 | D12 | SD41 | 土師質皿 | × | 12.0 | － | 1.9 | 手づくね | 浅黄橙色 | O類 | |
| 38 | 17 | 南 | C12 | SD41 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅳ１ | |
| 38 | 18 | 南 | C12 | SD41 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅳ２ | |
| 38 | 19 | 南 | C12 | SD41 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅳ２ | |
| 38 | 20 | 南 | D12 | SD41 | 擂鉢 | 越前 | (34.0) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅳ２ | |
| 38 | 21 | 南 | C12 | SD41 | 緑釉小皿 | 瀬戸 | (10.0) | － | － | 轆轤成形 | 口】灰釉 | 後Ⅲ | |
| 38 | 22 | 南 | C12 | SD41 | 卸皿 | 瀬戸 | (14.0) | － | － | 轆轤成形 | 内外】灰釉 | 後Ⅰ | |
| 38 | 23 | 南 | C12 | SD41 | 瓦質風炉 | － | (32.6) | － | － | | 口】四方襷 | | |
| 38 | 24 | 南 | C12 | SD41 | 瓦質風炉 | － | － | － | － | | 体】四方襷 | | |
| 38 | 25 | 南 | D12 | SD41 | 青磁皿 | 中国 | － | － | (5.3) | ロクロ成形 | | | |
| 38 | 26 | 南 | C12 | SD41 | 青磁皿 | 中国 | (11.3) | (5.3) | 3.6 | ロクロ成形 | | | |
| 38 | 27 | 南 | D12 | SD41 | 青磁碗 | 中国 | (12.1) | (5.1) | 3.9 | 轆轤成形 削出し高台 | | | |
| 38 | 28 | 南 | C12 | SD41 | 白磁皿 | 中国 | (9.1) | (3.8) | (2.0) | ロクロ成形　抉り高台 | 高】露胎 | 森Ｄ | |
| 38 | 29 | 南 | D12 | SD41 | 白磁皿 | 中国 | － | － | (4.3) | ロクロ成形　抉り高台 | 見】重ね焼痕 | 森Ｄ | |
| 38 | 30 | 南 | D12 | SD41 | 陶製円盤 | 越前 | － | － | － | 越前焼甕片打ち欠く | | | |
| 38 | 31 | 南 | C12 | SD42 | 土師質皿 | × | 6.4 | － | 1.4 | 手づくね | 浅黄橙色 | L類 | |
| 38 | 32 | 南 | C12 | SD42 | 土師質皿 | × | 8.8 | － | 2.2 | 手づくね | 灰白色 | I類 | |
| 38 | 33 | 南 | C12 | SD42 | 土師質皿 | × | 10.7 | － | 2.2 | 手づくね | 灰褐色 | G類 | |
| 38 | 34 | 南 | C12 | SD42 | 土師質皿 | × | (10.1) | － | 2.3 | 手づくね | 浅黄橙色 | F類 | |
| 38 | 35 | 南 | C12 | SD42 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ３ | |
| 38 | 36 | 南 | B12 | SD42 | 壺 | 越前 | 13.7 | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ２ | |
| 38 | 37 | 南 | C12 | SD42 | 片口鉢 | 越前 | (30.5) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 38 | 38 | 南 | D12 | SD42 | 片口鉢 | 越前 | (36.4) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 38 | 39 | 南 | C12 | SD42 | 片口鉢 | 越前 | － | (12.5) | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ２ | |
| 38 | 40 | 南 | C12 | SD42 | 卸皿 | 瀬戸 | － | (7.1) | － | 轆轤成形 底】回転糸切り | | | |
| 38 | 41 | 南 | C12 | SD42 | 山茶碗 | 瀬戸 | － | (4.0) | － | 轆轤成形　貼付け高台 | | | 東濃型 |
| 38 | 42 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | × | 6.2 | － | 2.0 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 43 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | × | 6.2 | － | 2.0 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 44 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | × | 6.5 | － | 1.8 | 手づくね | 浅黄橙色 | L類 | |
| 38 | 45 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | ○ | 6.6 | － | 1.9 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 46 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | ○ | 6.7 | － | 1.9 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 47 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | ○ | 6.8 | － | 1.6 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 48 | 南 | C13 | SD43 | 土師質皿 | ○ | 6.6 | － | 1.7 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 49 | 南 | C13 | SD43 | 土師質皿 | × | 7.2 | － | 2.0 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 50 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | ○ | 7.5 | － | 1.7 | 手づくね | 浅黄橙色 | L類 | |
| 38 | 51 | 南 | B13 | SD43 | 土師質皿 | × | 7.2 | － | 2.0 | 手づくね | 浅黄橙色 | L類 | |
| 38 | 52 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | ○ | 7.7 | － | 2.2 | 手づくね | 灰白色 | L類 | |
| 38 | 53 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | × | 7.9 | － | 2.1 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 54 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | × | 7.8 | － | 2.1 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 55 | 南 | C13 | SD43 | 土師質皿 | ○ | 8.2 | － | 2.0 | 手づくね | 灰白色 | L類 | |
| 38 | 56 | 南 | D13 | SD43 | 土師質皿 | ○ | 8.3 | － | 1.9 | 手づくね | 橙色 | L類 | |
| 38 | 57 | 南 | C13 | SD43 | 土師質皿 | × | (11.6) | － | 2.0 | 手づくね | 橙色 | F類 | |
| 38 | 58 | 南 | B13 | SD43 | 土師質皿 | × | (12.7) | － | 1.9 | 手づくね | 灰白色 | F類 | |
| 38 | 59 | 南 | B12 | SD43 | 土師質皿 | × | (12.2) | － | 2.2 | 手づくね | 橙色 | F類 | |
| 38 | 60 | 南 | B13 | SD43 | 土師質皿 | × | (12.7) | － | 2.0 | 手づくね | 橙色 | O類 | |
| 38 | 61 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | × | 13.1 | － | 3.0 | 手づくね | 浅黄橙色 | O類 | |
| 38 | 62 | 南 | B13 | SD43 | 土師質皿 | × | 11.7 | － | 2.1 | 手づくね | 浅黄橙色 | P類 | |
| 38 | 63 | 南 | C12 | SD43 | 土師質皿 | × | (9.0) | － | 1.6 | 手づくね | 浅黄橙色 | L類 | 穿孔３ |
| 38 | 64 | 南 | B13 | SD43 | 土師質皿 | | 7.7 | － | 1.5 | 手づくね | 褐灰色 | D類 | |
| 38 | 65 | 南 | C13 | SD43 | 土錘 | － | － | － | － | 手づくね | | | |
| 39 | 1 | 南 | C13 | SD43 | 甕 | 常滑 | － | － | － | ねじたて成形 | | | |
| 39 | 2 | 南 | B12 | SD43 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ３ | |
| 39 | 3 | 南 | C13 | SD43 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅳ３ | |
| 39 | 4 | 南 | B12 | SD43 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅳ２ | |
| 39 | 5 | 南 | C13 | SD43 | 片口鉢 | 越前 | (30.3) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ２・３ | |
| 39 | 6 | 南 | B13 | SD43 | 擂鉢 | 越前 | (31.0) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅲ１ | |
| 39 | 7 | 南 | C12 | SD43 | 陶製円盤 | 越前 | － | － | － | 越前焼甕片打ち欠く | | | |
| 39 | 8 | 南 | C12 | SD43 | 浅碗 | 瀬戸 | (13.4) | － | － | 轆轤成形 | 内外】灰釉 | 後Ⅲ | |
| 39 | 9 | 南 | C13 | SD43 | 卸皿 | 瀬戸 | (12.5) | － | 3.0 | 轆轤成形 | 内外】灰釉 | 中Ⅳ | |
| 39 | 10 | 南 | D13 | SD43 | 瓶子 | 瀬戸 | － | － | － | ロクロ成形 | 外】鉄釉 巴文 | | |
| 39 | 11 | 南 | B13 | SD43 | 筒型容器 | 瀬戸 | － | (10.7) | － | 轆轤成形 底】回転糸切り | 外】灰釉 | 後Ⅲ | |
| 39 | 12 | 南 | C13 | SD43 | 青磁碗 | 中国 | (13.6) | － | － | 轆轤成形 | | 上ＤⅡ | |
| 39 | 13 | 南 | D13 | SD43 | 青磁碗 | 中国 | (14.1) | 5.3 | 8.1 | 轆轤成形 削出し高台 | 口】雷文 見】印花文 高】露胎 | 上ＣⅡ | |
| 39 | 14 | 南 | C12 | SD43 | 青磁碗 | 中国 | － | (4.0) | － | 轆轤成形 削出し高台 | 体】連弁文 高】露胎 | 上ＢⅣ | |
| 39 | 15 | 南 | C13 | SD43 | 青磁碗 | 中国 | － | (6.0) | － | 轆轤成形 削出し高台 | 見】印花文 高】露胎 | | |
| 39 | 16 | 南 | C12 | SD43 | 白磁皿 | 中国 | (8.4) | (4.0) | (2.4) | 轆轤成形　抉り高台 | 腰部以下露胎 | 森Ｄ | |

| 図版番号 | 挿図番号 | 地区 | 位置 | 遺構№ | 器種 | 土師質：灯心痕<br>陶磁器：生産地 | 法量（cm）<br>口径 | 底径 | 高さ | 成形･調整 | 土師質:胎土色調<br>陶磁器:釉･装飾 | 時期<br>分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 39 | 17 | 南 | C13 | SD44 | 土師質皿 | ○ | 6.4 | － | 2.0 | 手づくね | 灰白色 | L 類 | |
| 39 | 18 | 南 | B・C13 | SD44 | 土師質皿 | × | 7.5 | － | 1.8 | 手づくね | 橙色 | I 類 | |
| 39 | 19 | 南 | B13 | SD44 | 土師質皿 | × | (10.1) | － | 2.0 | 手づくね | 浅黄橙色 | F 類 | |
| 39 | 20 | 南 | C13 | SD44 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ 2 | |
| 39 | 21 | 南 | C13 | SD44 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ 2 | |
| 39 | 22 | 南 | B13 | SD44 | 片口鉢 | 越前 | － | (13.0) | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ 2 | |
| 39 | 23 | 南 | C13 | SD44 | 片口鉢 | － | (33.6) | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 39 | 24 | 南 | C13 | SD44 | 擂鉢 | 越前 | － | － | － | 轆轤成形 | | Ⅳ 3 | 擂目 10 条 |
| 39 | 25 | 南 | C13 | SD44 | 青磁碗 | 中国 | － | 5.8 | － | 轆轤成形　削出し高台 | 見】印花文 高】露胎 | | |
| 39 | 26 | 南 | B13 | SD44 | 青磁碗 | 中国 | － | 5.5 | － | 轆轤成形　削出し高台 | 見】印花文 高】露胎 | | |
| 39 | 27 | 南 | B13 | SD45 | 土師質皿 | × | 7.5 | － | 1.6 | 手づくね | 橙色 | B 類 | |
| 39 | 28 | 南 | B13 | SD45 | 土師質皿 | × | 7.8 | － | 1.9 | 手づくね | 浅黄橙色 | J 類 | |
| 39 | 29 | 南 | C13 | SD45 | 瓦質擂鉢 | － | － | － | － | - | | | |
| 39 | 30 | 南 | C14 | SD46 | 土師質皿 | × | (9.0) | － | 1.9 | 手づくね | 橙色 | F 類 | |
| 39 | 31 | 南 | B14 | SD48 | 土師質皿 | × | (8.3) | － | 1.6 | 手づくね | 橙色 | C 類 | |
| 39 | 32 | 南 | B14 | SD48 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ 3 | |
| 39 | 33 | 南 | B14 | SD49 | 卸皿 | 瀬戸・美濃 | (15.3) | － | － | 轆轤成形 | 内外】灰釉 | 中Ⅱ | |
| 39 | 34 | 南 | B14 | SD49 | 白磁皿 | 中国 | (11.8) | － | － | 轆轤成形 | 口】口禿 | 森 A | |
| 39 | 35 | 南 | B16 | SD51 | 甕 | 越前 | (34.0) | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ 2 | |
| 39 | 36 | 南 | B16 | SD51 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅱ 3 | |
| 39 | 37 | 南 | C16 | SD51 | 片口鉢 | 越前 | － | (12.4) | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ 2 | |
| 39 | 38 | 南 | C16 | SD51 | 擂鉢 | 越前 | (30.4) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅲ 2 | |
| 39 | 39 | 南 | C16 | SD51 | 鉢 | 珠洲 | － | 10.6 | － | 轆轤成形 底】停止糸切り | | | |
| 39 | 40 | 南 | B16 | SD51 | 山茶碗 | 瀬戸 | (6.9) | (5.0) | 2.0 | 轆轤成形 | | | 東濃型 |
| 39 | 41 | 南 | B16 | SD51 | 卸皿 | 瀬戸 | (14.0) | － | － | 轆轤成形 | 内外】灰釉 | 中Ⅱ | |
| 39 | 42 | 南 | B16 | SD51 | 折縁深皿 | 瀬戸 | (31.4) | － | － | 轆轤成形 | 内外】灰釉 | 後Ⅲ | |
| 39 | 43 | 南 | C16 | SD51 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | - | | | |
| 40 | 1 | 南 | B16 | SD57 | 土師質皿 | × | 7.1 | － | 1.1 | 手づくね | 黄橙色 | D 類 | |
| 40 | 2 | 南 | B16 | SD57 | 土師質皿 | × | (7.7) | － | 1.3 | 手づくね | 黄橙色 | D 類 | |
| 40 | 3 | 南 | B16 | SD57 | 土師質皿 | × | (12.2) | － | 2.1 | 手づくね | 浅黄橙色 | F 類 | |
| 40 | 4 | 南 | B・C16 | SD57 | 片口鉢 | 越前 | (36.5) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ 2・3 | |
| 40 | 5 | 南 | C16 | SD57 | 折縁小皿 | 瀬戸 | (8.0) | (4.3) | 1.6 | 轆轤成形 底】回転糸切り | 内】灰釉 | 中Ⅲ | |
| 40 | 6 | 南 | C16 | SD57 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | - | | | |
| 40 | 7 | 南 | C16 | SD57 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | - | | | |
| 40 | 8 | 南 | C16 | SD57 | 瓦質瓶 | － | － | － | － | - | | | |
| 40 | 9 | 南 | B16 | SD58 | 土師質皿 | × | 10.0 | － | 2.0 | 手づくね | 橙色 | M 類 | |
| 40 | 10 | 南 | B16 | SD58 | 土師質皿 | ○ | 10.5 | － | 2.1 | 手づくね | 橙色 | M 類 | |
| 40 | 11 | 南 | B16 | SD58 | 土師質皿 | × | 10.2 | － | 2.5 | 手づくね | 橙色 | M 類 | |
| 40 | 12 | 南 | B15 | SD52 | 土師質皿 | × | 7.6 | － | 1.2 | 手づくね | 淡灰褐色 | D 類 | |
| 40 | 13 | 南 | B14 | SD52 | 片口鉢 | 越前 | － | (6.4) | － | 轆轤成形 体】腰部ヘラ削り | | Ⅱ 2 | |
| 40 | 14 | 南 | B14 | SD52 | 土師質鍋 | － | (32.2) | － | － | 轆轤成形 | | | |
| 40 | 15 | 南 | C13・14 | SD54 | 土師質皿 | × | (11.6) | － | 2.0 | 手づくね | 浅黄橙色 | F 類 | |
| 40 | 16 | 南 | D12 | SD55 | 土師質皿 | × | (7.3) | － | 1.6 | 手づくね | 灰白色 | K 類 | |
| 40 | 17 | 南 | D12 | SD55 | 土師質皿 | × | 7.6 | － | 1.9 | 手づくね | 橙色 | I 類 | |
| 40 | 18 | 南 | D12 | SD55 | 瓦質火鉢 | － | － | － | － | - | 獅子頭持ち手 | | |
| 40 | 19 | 南 | B15.16 | SD61 | 片口鉢 | 越前 | (36.8) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ 2・3 | |
| 40 | 20 | 南 | B15.16 | SD61 | 片口鉢 | 越前 | (29.0) | － | － | 轆轤成形 | | Ⅱ 2・3 | 刻線文 |
| 40 | 21 | 南 | B15.16 | SD61 | 瓦質火鉢 | － | (47.5) | － | － | - | | | |
| 40 | 22 | 南 | C13 | SD67 | 土師質皿 | ○ | 7.6 | － | 1.3 | 手づくね | 橙色 | D 類 | |
| 40 | 23 | 南 | C13 | SD67 | 白磁碗 | 中国 | － | (6.0) | － | 轆轤成形 削出し高台 | 高】露胎 | | |
| 40 | 24 | 南 | C14 | 遺構外 | 土師質皿 | × | 8.3 | － | 2.2 | 手づくね | 褐色 | J 類 | |
| 40 | 26 | 南 | C17 | 遺構外 | 甕 | 越前 | － | － | － | ねじたて成形 | | Ⅳ 1 | |
| 40 | 25 | 南 | C13 | 遺構外 | 青磁碗 | 中国 | － | 6.0 | － | ロクロ成形 | 見）双魚文 高】露胎 | | |

## **第９表**　出土押印一覧表

| 図版番号 | 挿図番号 | 地区 | 位置 | 遺構№ | 器種 | 生産地 | 文様構成 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | 27 | 北 | D8 | 包含層 | 甕 | 越前 | 簾文 |
| 35 | 28 | 北 | D8 | 包含層 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 35 | 29 | 北 | E4 | 包含層 | 甕 | 越前 | 菱形文 |
| 35 | 30 | 北 | D7 | SD39 | 甕 | 越前 | 簾文 |
| 35 | 31 | 北 | D8 | SK16 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 35 | 32 | 北 | D9 | SD24 | 甕 | 越前 | 簾文 |
| 35 | 33 | 北 | D9 | SD39 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 35 | 34 | 北 | E4 | SD1 | 甕 | 越前 | 印花文 |
| 35 | 35 | 北 | D6・7 | SD15 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 35 | 36 | 北 | D3 | SD26 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 35 | 37 | 北 | E7 | SE4 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 35 | 38 | 北 | D6・7 | SD15 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 35 | 39 | 北 | D8 | SD39 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 35 | 40 | 北 | D9 | SD24 | 甕 | 越前 | 格子目文＋本 |

| 図版番号 | 挿図番号 | 地区 | 位置 | 遺構№ | 器種 | 生産地 | 文様構成 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | 27 | 南 | B・C15 | SE6 | 甕 | 越前 | 簾文 |
| 40 | 28 | 南 | C12 | SD41 | 甕 | 越前 | 簾文 |
| 40 | 29 | 南 | B13 | SD43 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 40 | 30 | 南 | C13 | SD43 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 40 | 31 | 南 | B16 | SD58 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 40 | 32 | 南 | B16 | SD51 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 40 | 33 | 南 | C12 | SD41 | 甕 | 越前 | 格子目文＋本 |
| 40 | 34 | 南 | B14 | SE5 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 40 | 35 | 南 | C12 | SD41 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 40 | 36 | 南 | C12 | SD41 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 40 | 37 | 南 | B12 | SE12 | 甕 | 越前 | 格子目文＋本 |
| 40 | 38 | 南 | C12 | SD42 | 甕 | 越前 | 格子目文 |
| 40 | 39 | 南 | C16 | SD57 | 甕 | 越前 | 草花文 |

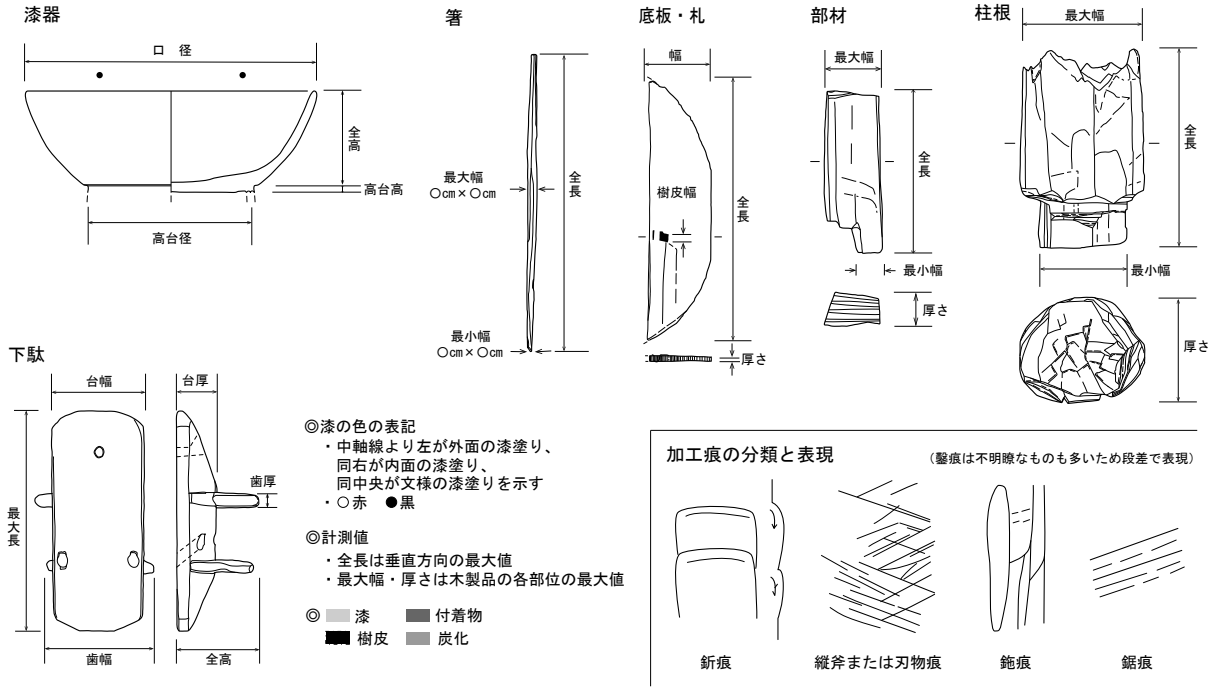
## 第２節　木製品

区画溝から出土した木製品は漆器椀や箸といった生活用品が多くを占めるが、器種に多様性はなく限定的である。南調査区で多数検出された井戸からも、北方の区画溝と同様に漆器、箸、曲物等の生活用具が多く出土しているが、井戸側を残す井戸が多いため井戸材を多く認める。建築部材も井戸からの出土が大半で、区画溝と異なった様相を呈する。以下に種別順に記載する。

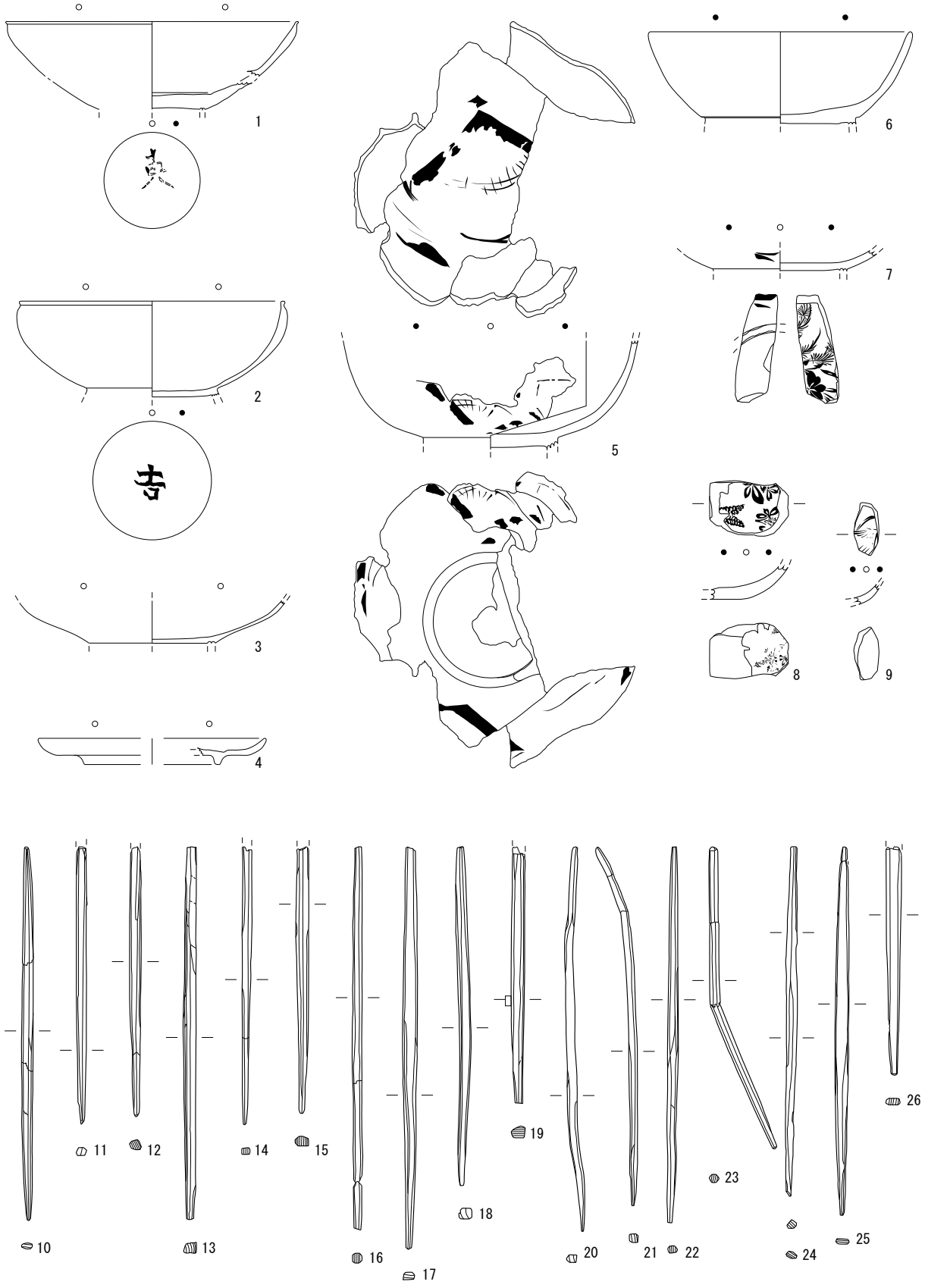
**漆器**（第 42 図１～９）　両調査区とも溝から漆器が出土した。SD15 から椀が２点出土した（１・２）。内外面とも赤漆が塗られ、高台内面のみ黒色である。２の高台内には赤色で「東」、３には高台内に赤色で「吉」の文字が書かれる。２点ともほかの漆器に比べて薄手で、口縁部を丸く削り出している。素材にそれぞれケヤキ、ニレ属が用いられているほか、口縁部内面に布着せが施されていることから、高級品と考えられる。SD31 からは椀（３）が出土した。土圧により大きく歪むが、両面に赤漆が塗られている。SD37 出土の皿（４）は内外面とも赤色で、高台内面のみ黒色である。SD43 からも椀（５）が出土した。内外面とも黒色地で赤色で内面中央に扇、外面２か所に扇が描かれる。両面ともに柿渋下地を用いる。１・２といった両面赤漆の椀に比べ大型で深く、器壁にも厚みがある。また、素材にもブナ属が用いられることから、普及品であることが想定される。

南調査区の井戸からは少数だが漆器碗が出土した。SE17 出土の皿（７）は内外面とも柿渋下地に透明漆を重ねる黒色で、その上に赤漆で植物文様を描く。破損により全体の形状は不明だが、立ち上がりはやや浅い。SE13 出土の６は内外面とも下地の上に透明漆を２層重ねており、文様は描かれない。見込に黒色漆が付着しており、漆のパレットとして二次利用されたと考えられる。６・７とも高台が大きくて薄く、13 ～ 14 世紀に属すると考えられる。同じく SE17 出土の９は破片資料で大きさなどは不明だが、７同様に赤漆で絵が描かれる。

SE8 出土の８は、内外面とも赤漆で印判施文により植物文様が施される。文様は途切れているが、桐




**第41図**　木製品計測位置と加工痕の分類




**第42図**　木製品実測図１（縮尺1/3）

と推測する。印判施文は鎌倉時代に漆器の普及に伴い広がったが、鎌倉では 13 世紀後半～ 14 世紀中頃にしかみられない（斉木 1997）。石川県では 14 世紀前半に小松市佐々木アサバタケ遺跡等から出土しており、県内ではあわら市桑原遺跡で印判施文の漆器が出土している。高台を持たず小型品であることが想定されるため、14 世紀前半の小型の皿と推定する。７～９はいずれも柿渋下地に透明漆を重ねた普及品で、１・２のような高級品はみられない。

**箸・楊枝**（第 42 図 10 ～ 26・第 43 図１～ 15）　SD15 から２本出土した（10・11）。10 は両端が細くなる両口箸である。10・11 とも断面は楕円形を呈するが、10 の方がより加工痕が多く平たい。SD52 からは１点出土した（12）。残存部断面は多角形を呈する。

井戸から最も多く出土した器種は箸で 60 点出土し、そのうち 24 点を図化した。北調査区では SE2・３から、南調査区では SE6・８・９・13・15・17・18 からそれぞれ出土している。完形の箸の平均長は 19.1㎝で、江戸時代の福井城下出土の箸に比べて短い傾向にある。完形品は両口箸が大半で、片口箸は第 42 図 23・第 43 図３、SK50 出土の第 43 図 13 の３点に限られる。

断面形状は四角形、５～８角形、楕円形に分かれる。第 42 図 13・14・18・21 の四角形は最も少ないのに対し５～８角形が多く、第 42 図 15・16・19・20・22 ～ 24、第 43 図１～３、５～ 10・13 等がある。特に第 42 図 16、第 43 図５・９は円に近くなるまで削られる。楕円形は厚さが幅の 1/2 以下のものである。第 42 図 17・25・26、第 43 図４・11・12 の６点が該当する。箸としてはやや使用しにくい形状である。なお第 43 図 14・15 は SE14 出土で、先端が尖る形状から楊枝としたが全体の形状は不明である。

**不明材・割裁材・部材・不明部材・不明品**（第 43 図 16 ～ 32）　16・17・25・26 は不明材とした。全面に箸のように丸く削り出す加工が施されるが、箸とするには太く用途は不明である。

18 ～ 24 は割裁材である。いずれも一部分が炭化しており、製品の加工段階で出た破片を燃料材として利用している。

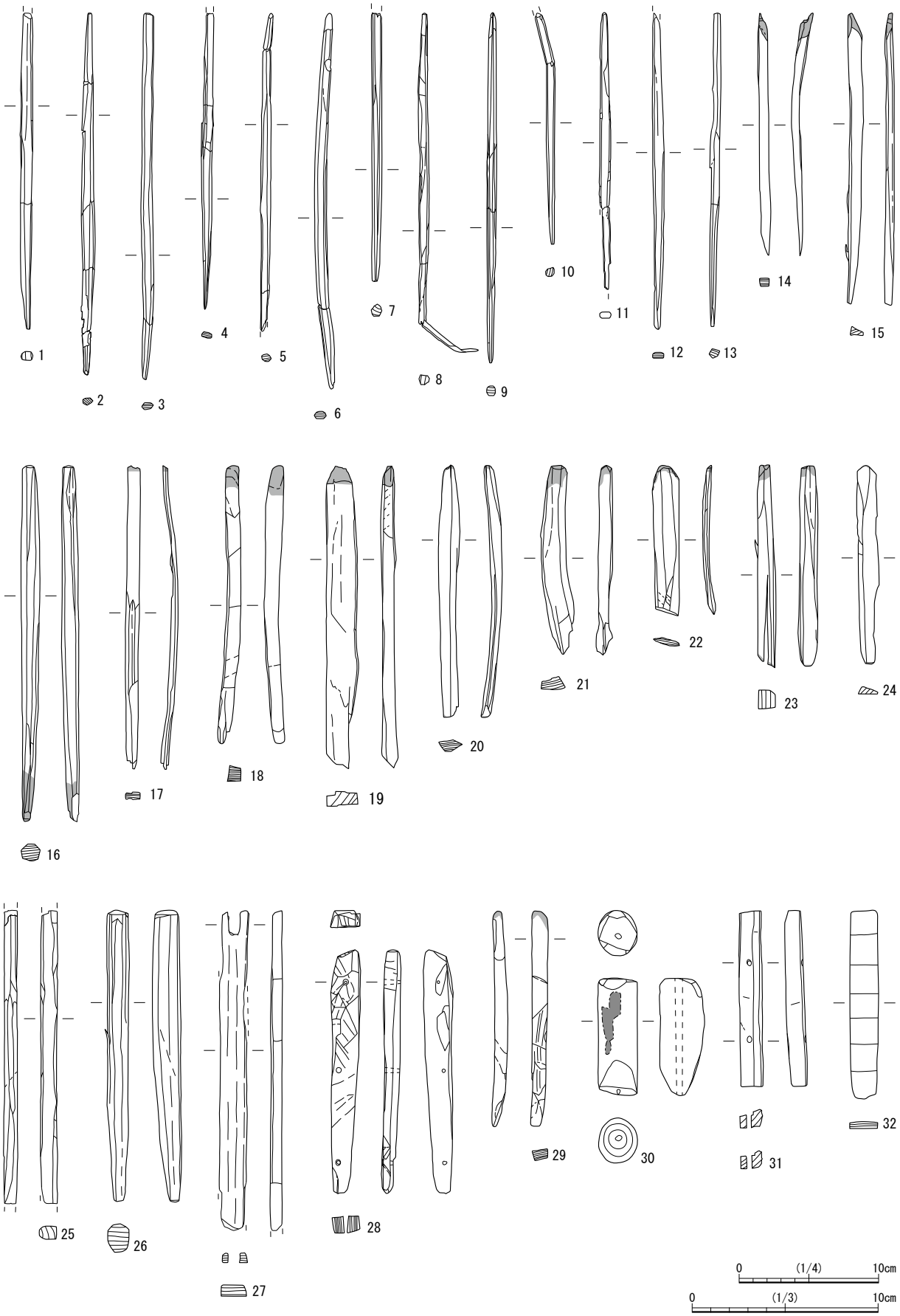
27 は部材で片端が破損するが、先端が凹状に作り出される。

28・29・31 は不明部材である。28 は先端が炭化しており、加工途中で切り取られた部分が燃料材とされたと考えられる。29 は全面に削り痕が認められ、等間隔で３か所に木釘痕があり、中央には木釘が残存する。31 は断面がＬ字に加工され、２か所に穿孔が施される。

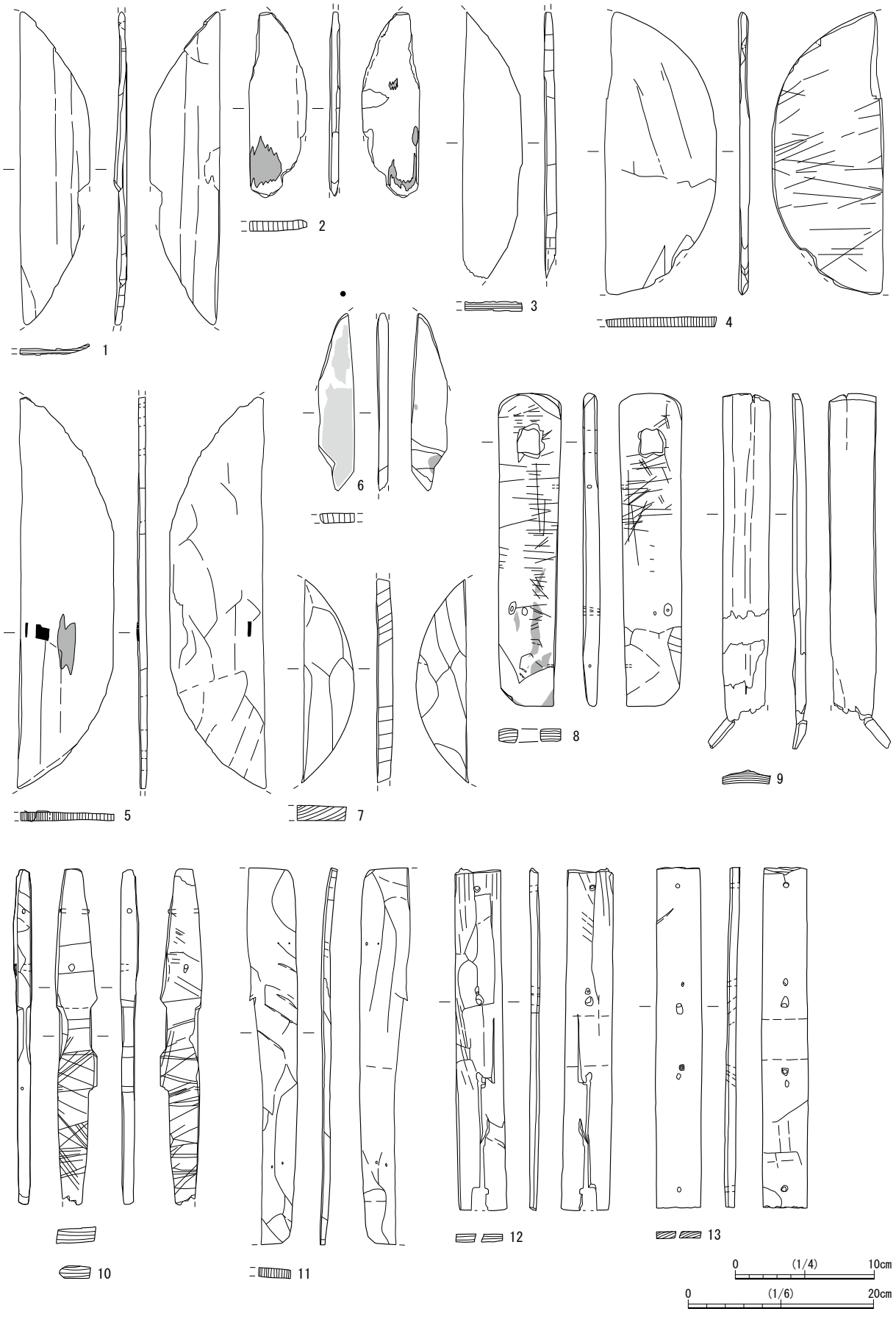
第 43 図 30・32 は不明品である。30 は丸木の中央を直径２㎜の穿孔が貫通する。樹皮が残存しており一端は求心的に加工がされ、中心部が平坦になるよう削り落とされる。もう一端は２方向から斜めに削られ尖る。32 は柾目板の表面に 1.5㎝間隔で６か所切り込みが施される。井戸曲物のケガキに比べ線刻が細く、半寸ごとに刻まれることから定規のような用途で利用されていたのではないかと推測する。

**曲物・桶**（第 44 図１～ 10）　SE18 からは曲物底板が多く出土した。４・６は柾目板が用いられ、１・３は板目板が用いられる。４には片面に複数方向の直線状の刃痕が残り、まな板として再利用されたと考えられる。５は樹皮綴部があり、蓋板である。柾目板を使用し、内面には削り痕が明瞭に残る。６の内面には黒漆が塗られており外面は一部が炭化する。SE18 出土の７は桶底板は、板中心に近い部分を使用し、表面・側面ともに加工痕が明瞭である。なお２は SE2 から出土し、両面ともに付着物が認められる。

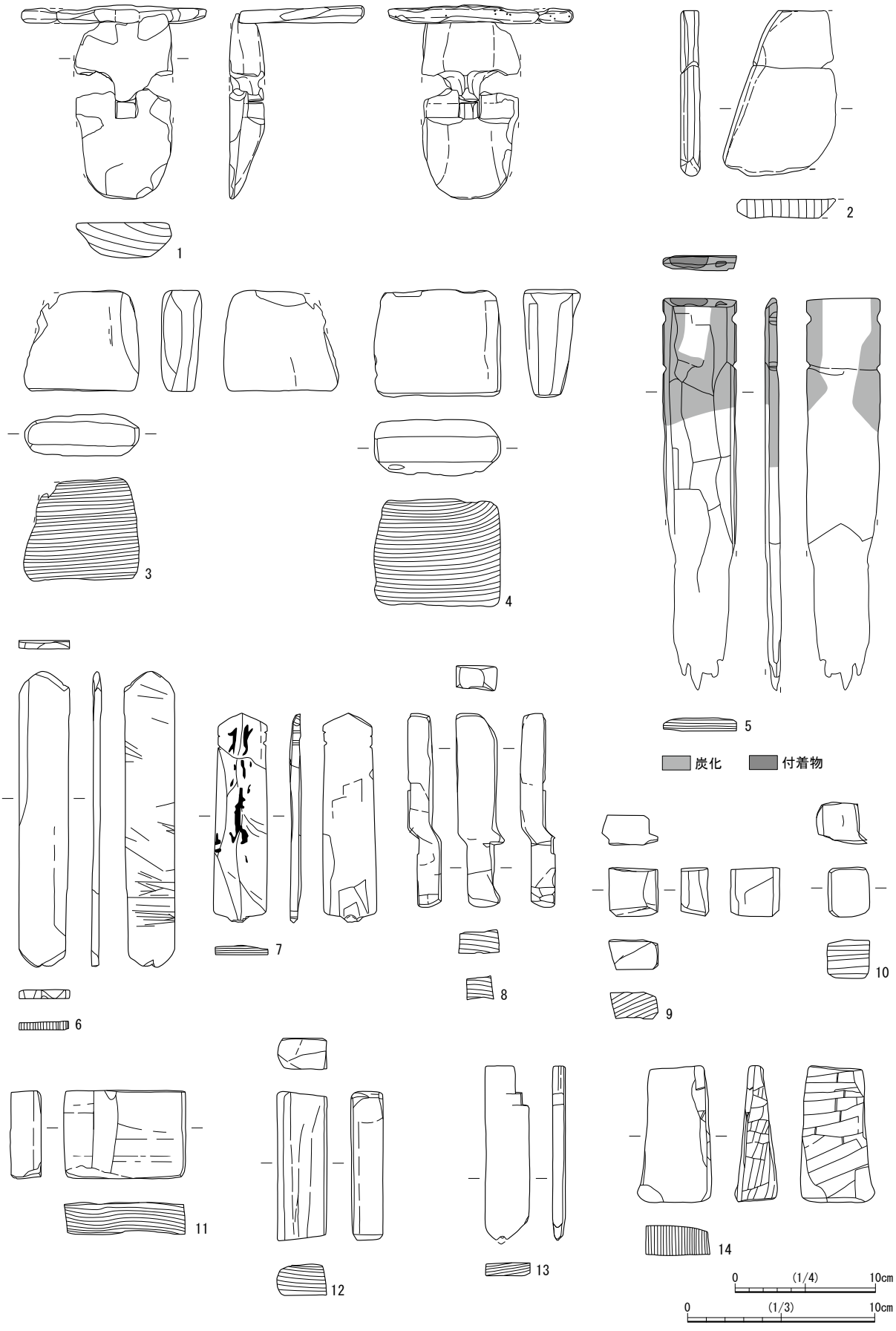
第 44 図８・９は桶側板である。８は持ち手を通すための穿孔があるほか、側面に結合のための木釘穴が２か所残る。表面には多数の刃痕がみられる。９は１点のみの出土で、上端を斜めに削る。10 は桶持ち手とした。側面に木釘が残存しており、抜け防止のためと考えられる。表面に刃痕が多く認められるため何らかに転用材と考える。



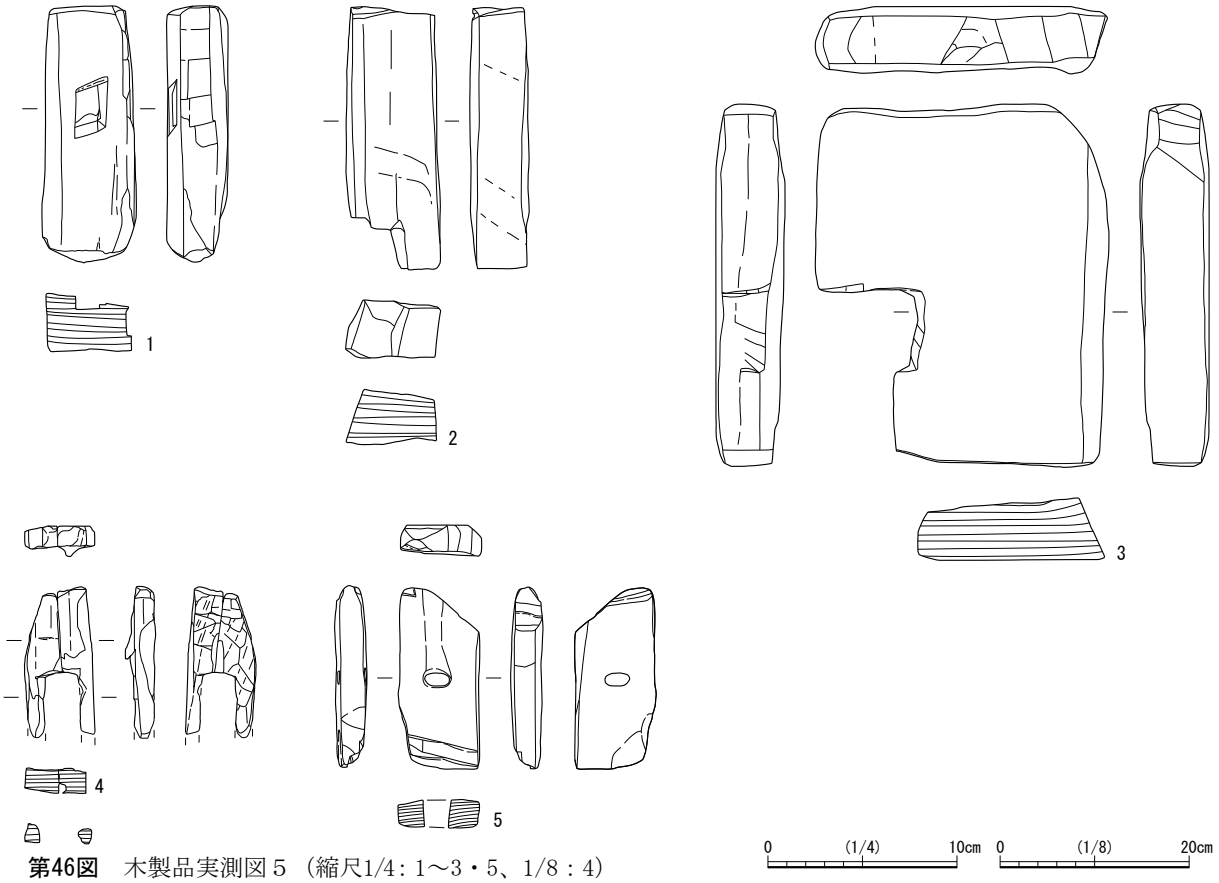

**第43図**　木製品実測図２（縮尺1/3：1～26・30～32、1/4：27～29）




**第44図**　木製品実測図３（縮尺1/3：2～8・10～13、1/6：1・9）




**第45図**　木製品実測図４（縮尺1/3：5・7・11、1/4：1～4・6・8～10・12～14）



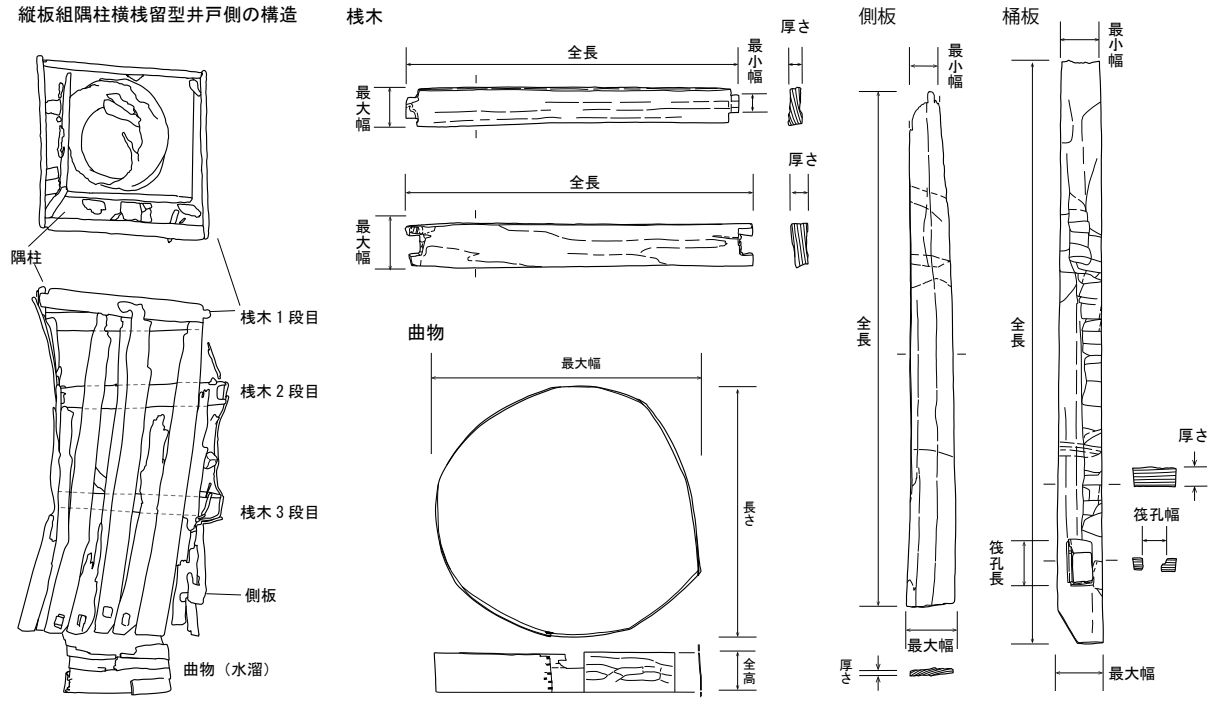

**第46図**　木製品実測図５（縮尺1/4：1～3・5、1/8：4）

**指物**　第 44 図 11 ～ 13 は指物とした。11 は両面に削り痕が認められるほか側面にも加工が施され、角を丸く削る。縁辺付近には２個１対の釘穴が２か所に残存し、脚が付属していた可能性があることから折敷のようなものであったとも考えられる。12・13 は２点とも同じ位置に釘穴が６か所確認でき、13 には木釘が残存している。中央に線状痕がみられることから同一製品の部材であろう。指物の一部と判断した。

**下駄**　第 45 図１は露卯下駄である。台部は前歯より先端が欠損している。２は下駄歯である。差込用の突起が認められないが、半分程度欠損しているため陰卯下駄の歯と言い難い。１の歯と厚さはほぼ同じであり同程度の大きさと思われる。３・４は下駄歯とした。差歯下駄１・２に比べ約３倍の厚さがあるため連歯下駄の歯の部分と推定した。

**札**　第 45 図５は札とした。板目板を用い、表面には削り痕が明瞭に認められる。上端部は斜めに切り落とされ、側面には左右一対の刻み目が２か所に施される。６・７は荷札とした。７の上端付近の両側に抉りが２か所ずつ施される。下端は先端が尖るように削り出され折り取られる。片面に墨書が認められたが、判読不能であった。６は両端を丸く尖らせる。

**端材**　第 45 図９は追柾目材で４側面は切断されており、上下に不明瞭であるが鋸痕がみられる。製品加工の際に切り落とされたと考えられる。11 は２か所に墨線が残る。幅 6.5cm、厚さ 1.5cmで、SE6 井戸側桶材等と同じ規格である。鋸によって切断される。13 は上端部右角に鋸による階段状の加工が認められる。第 46 図３は形状や厚みが SE18 出土の井戸側材（第 63 図１）と類似し、中央の抉りは筏穴とみられる。第 46 図４は SE6 出土で、SE6 井戸側桶材の先端と同じく筏穴をもつ。桶材には筏穴のある端部を切り落として調整した痕跡を残すものが複数みられる。端部の劣化により、接合する材は今回出土しなかったものの、桶を組む際に調整で切り落とされたと推定する。




**第47図**　縦板組隅柱横桟留型井戸側の構造と井戸材の計測位置

**井戸材・建築部材**　井戸側や水溜を残す井戸が多数検出された。井戸材には加工痕が明瞭に残るものが多くあり遺跡での木材利用を反映している。このため遺構ごとの井戸材の特徴を述べる。縦板組隅柱横桟留型井戸側を例に、本項で用いる井戸側の各部分の名称と計測位置を示した（第 47 図）。

**SE4 出土木製品**（第 48 図１～５）　SE4 から出土した木製品は、いずれも井戸に関連する遺物で、１は丸木を素材とし、両端に切断に伴う加工が認められるほか、径の太い部分に連続加工がみられる。これは太さを均一にし表面を平坦にするためのものと考えられる。簡素な加工であることから、足場材として用いられたものと推定する。

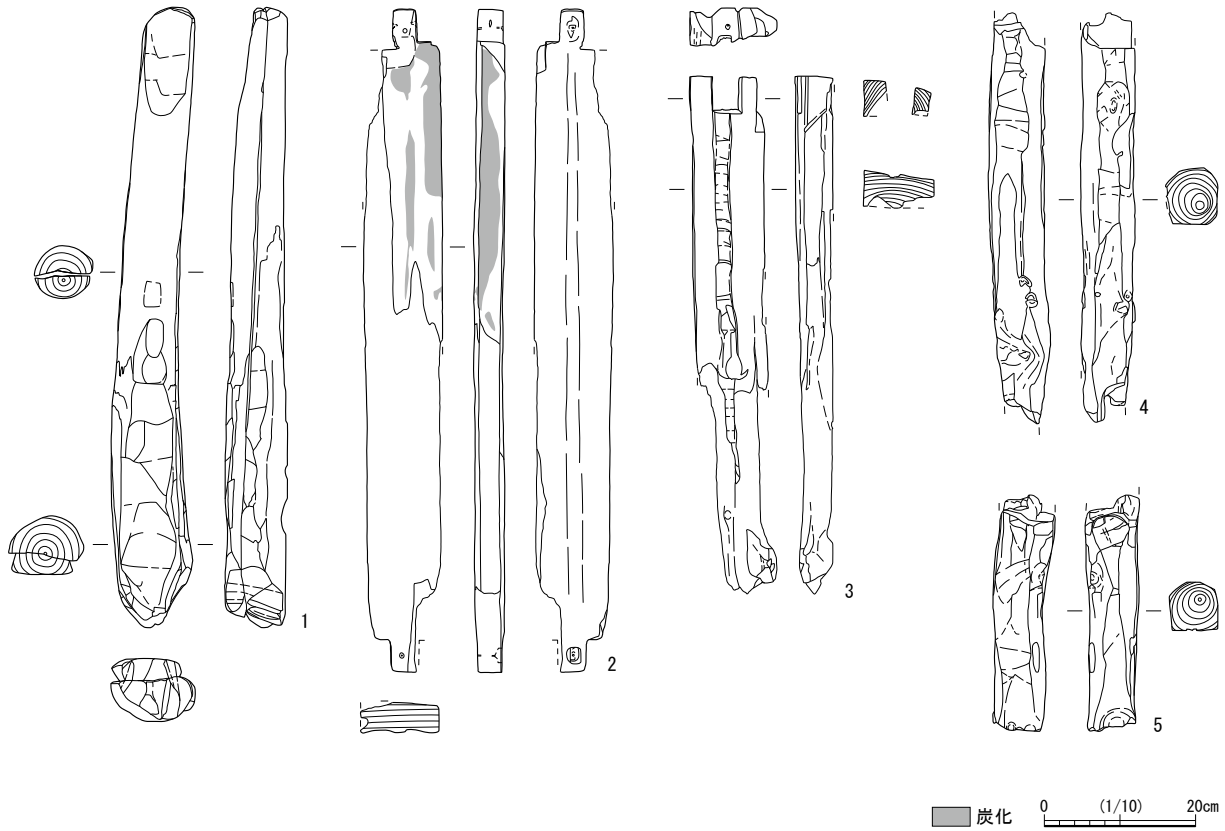
２・３は井戸側桟木である。２の両端の凸部には固定のための鉄釘が残存し、釘周辺に抉りが施される。一端に鉄釘と直行する向きにも釘痕が残る。３の端部の凹部も釘痕が残り、２のような凸部をもつ材と組み合わせた痕跡と考えられる。４・５はともによく似た形状であるものの､両端が破損しており､接合はできなかった。ともに丸木を素材とし、部分的に連続加工することで断面を正方形に近付けている。形状と大きさから井戸側隅柱と判断した。

**SE6 井戸側桶材**（第 49 図～第 54 図）　結桶積型井戸側の桶材である。確認できた２段の桶のうち、上段の１段分を取り上げて図化した。桶材 48 本が樹皮側を外側にして竹製の箍で固定され設置されていた（第 25 図参照）。

大部分の材は下端部に筏穴を有し、さまざまな形状が確認できた。下端部の形状は外面から見て、

１類：左角が斜め・筏穴１か所　　４類：平坦・筏穴２か所
２類：右角が斜め・筏穴１か所　　５類：筏穴の途中で切断
３類：平坦・筏穴１か所　　６類：平坦・筏穴なし

の６形態に分けられる。それぞれ１類 14 点、２類 14 点、３類３点、４類５点、５類５点、６類４点となり、１・２類が半数以上を占める。４類の上部の筏穴は全て端材が埋め込まれ、周囲の砂などが吹き出さないように固定されていた。




**第48図**　SE4井戸材実測図（縮尺1/10）

３・４類の下部の筏穴の位置は１・２類と同じことから、３・４類は下端部の長さを調整していないといえる。左右どちらかの角を斜めにする材と平坦な材があることから、桶材に分割される前の材は第63図１と同様の板状で、両角が斜めに落とされる形状と推測する。

外面は割り裂き面に部分的に釿による連続加工が施される。鉇痕が認められた４点のうち、鉇痕と釿痕を両方もつ材（第50図７・第54図１）の加工痕の切り合いから釿の後に鉇が用いられたとわかる。

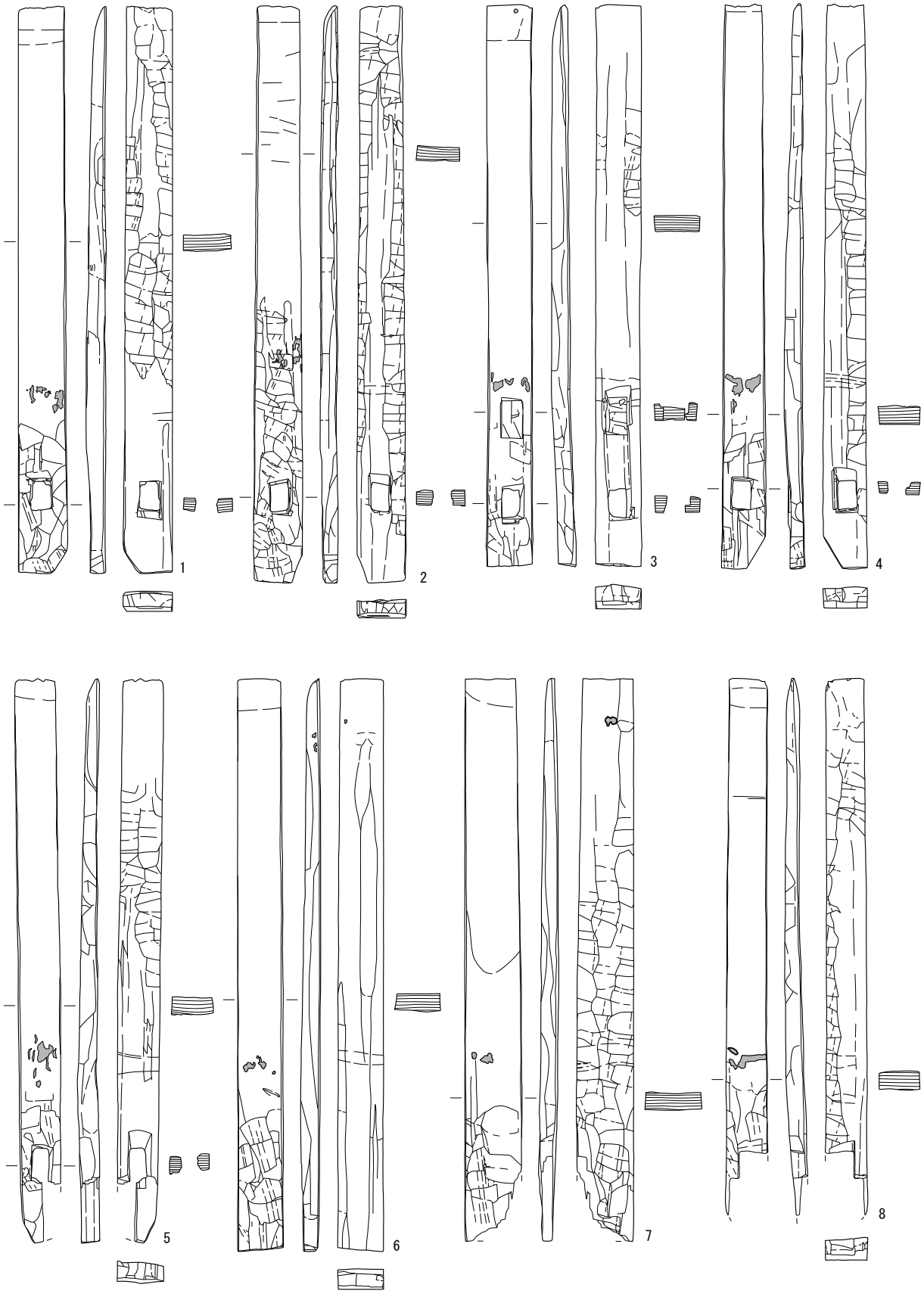
内面の加工は隣接する材で釿痕が一致し、桶を組む際の加工であるとわかる。ただ、外面では大部分の釿痕が合わず製材段階での釿痕とみられる。内面の釿痕と同じ刃こぼれの特徴をもつ釿痕が第53図４・５、第54図の３材にあり、第53図４・５で加工痕が一致するため桶作成時に微調整が行われたと考えられる。

側面の加工には主に鉇が、筏穴と木口面の加工には鑿が使用された。

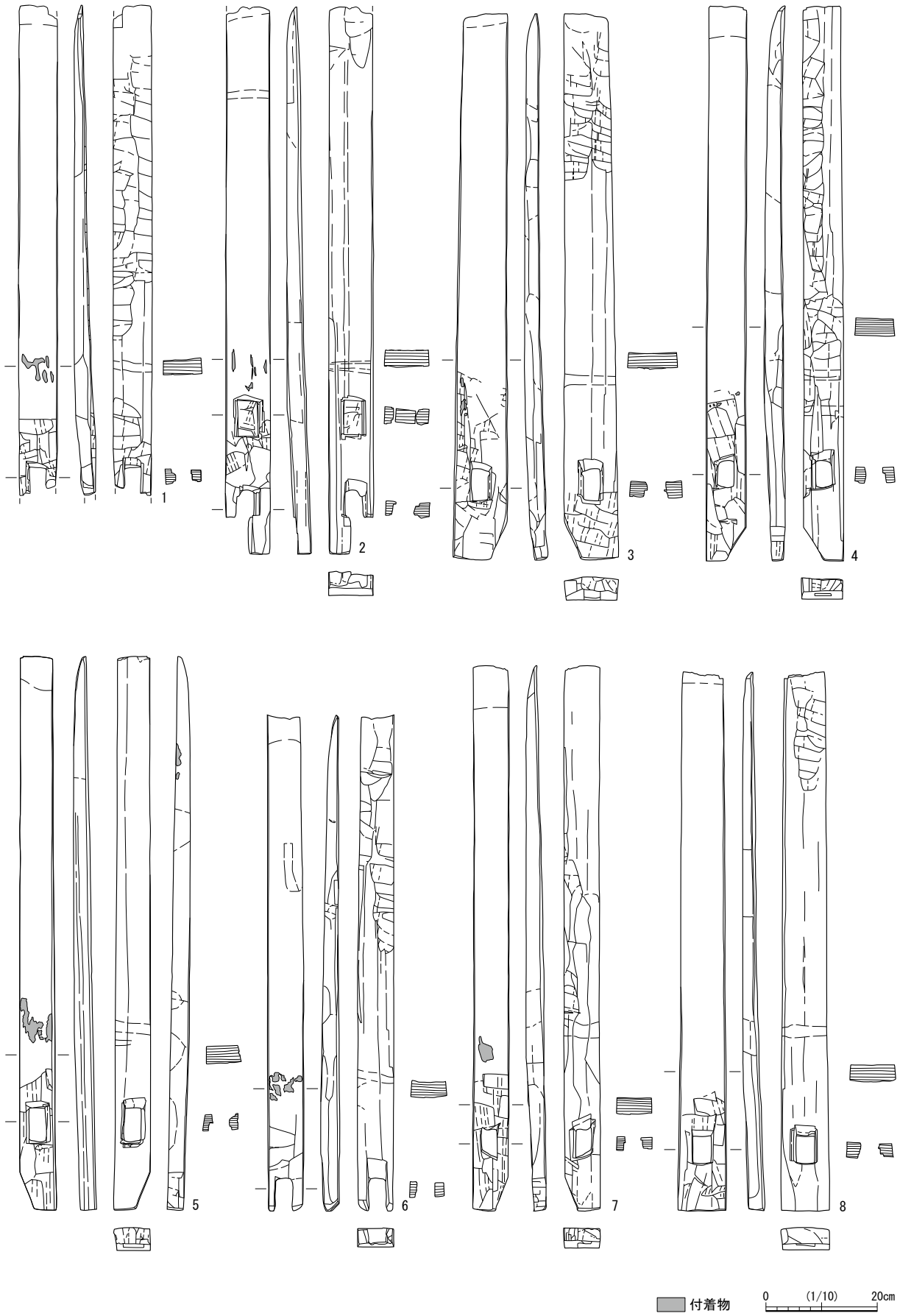
また５類の第51図２・６、第54図１・４・６の下端部に鋸痕が認められ、桶作成時の端部の調整に鋸が使用されたことが分かる。加工としては板材製材の為の加工（釿）の後、搬入・分割を経て、側面加工および内面加工と外面の調整（釿・鉇・鋸）という順序が想定できる。

**SE9 水溜曲物**（第55図）　直径は約32cmの曲物で、３枚の板を重ねて組む三重構造である。転用品かどうかは判別できなかった。１は一番外側の部材で最も薄く削られている。外面は鉇痕が全面に明瞭に残る。内面にはケガキが施される。綴じ部から15cm程度は重ねて巻き、端部に向かい薄く削られる。

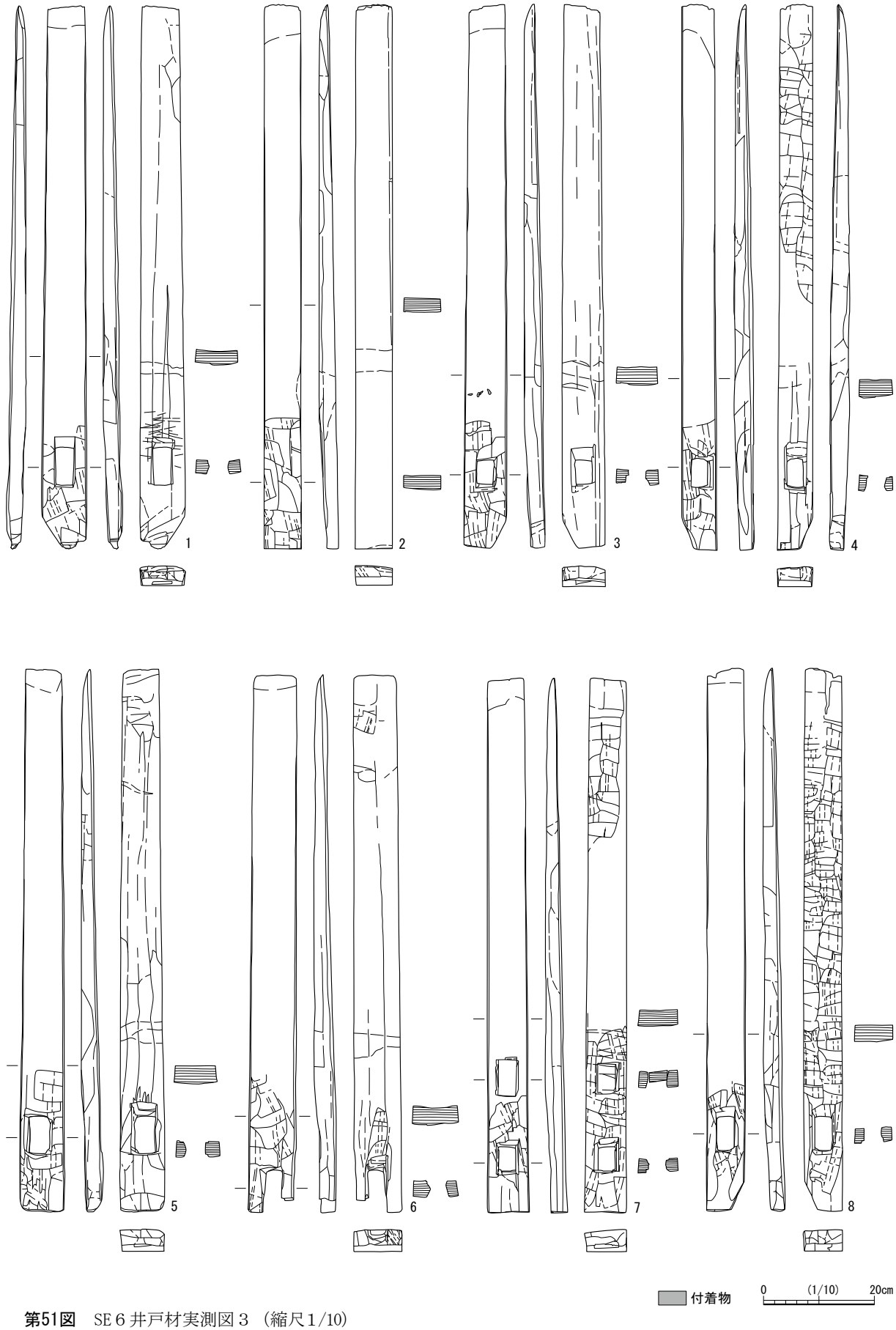
２は中間の材で１に比べて２倍ほど厚い。１と同様に外面に鉇痕が認められるが凹凸がやや明瞭で、加工痕の長さは全体的に短く幅が狭いものが目立つ。これは１が２よりさらに加工が進み、一番外側に当たる部分に仕上げの加工が施されたためと考えられる。



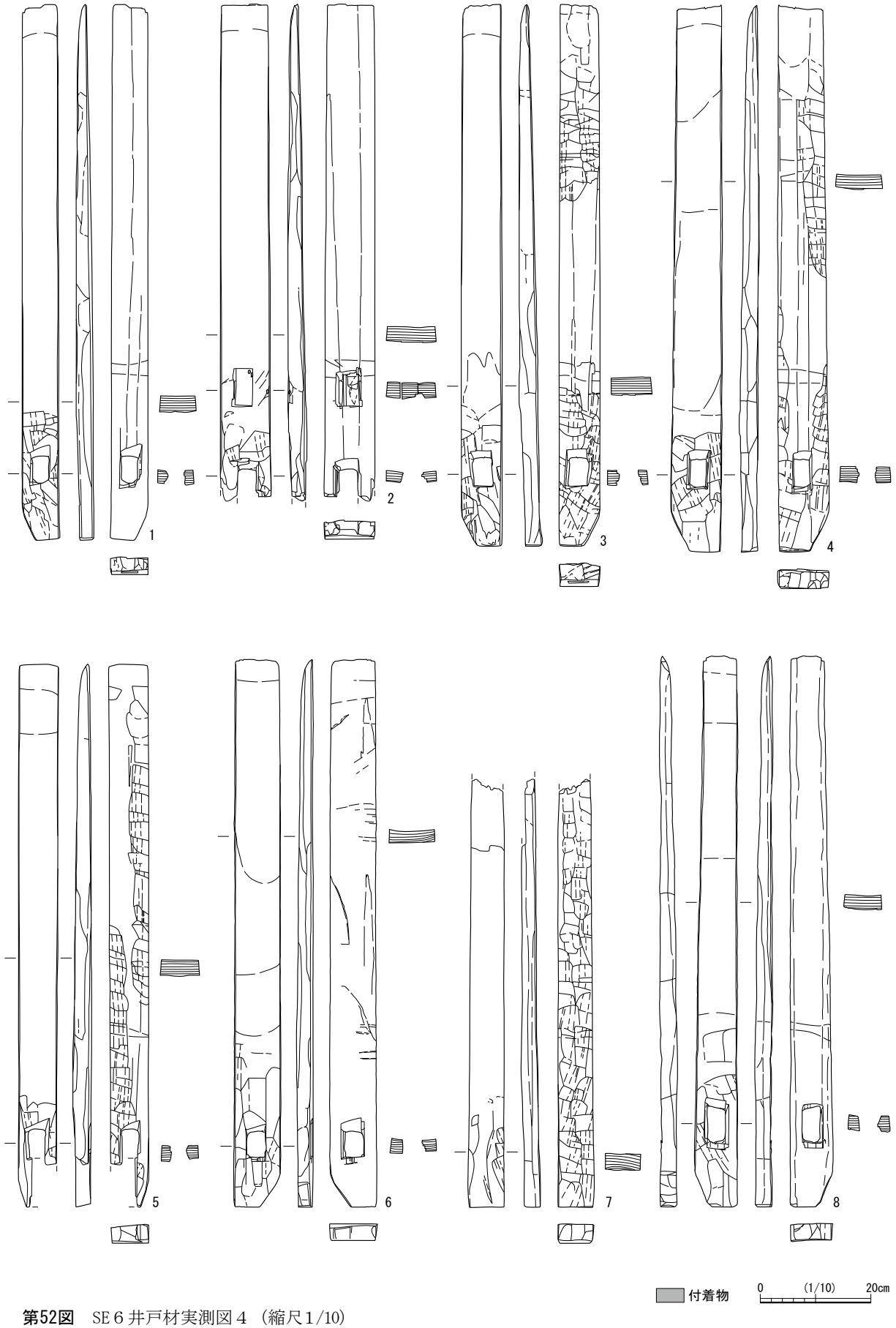

**第49図**　SE６井戸材実測図１（縮尺１/10）



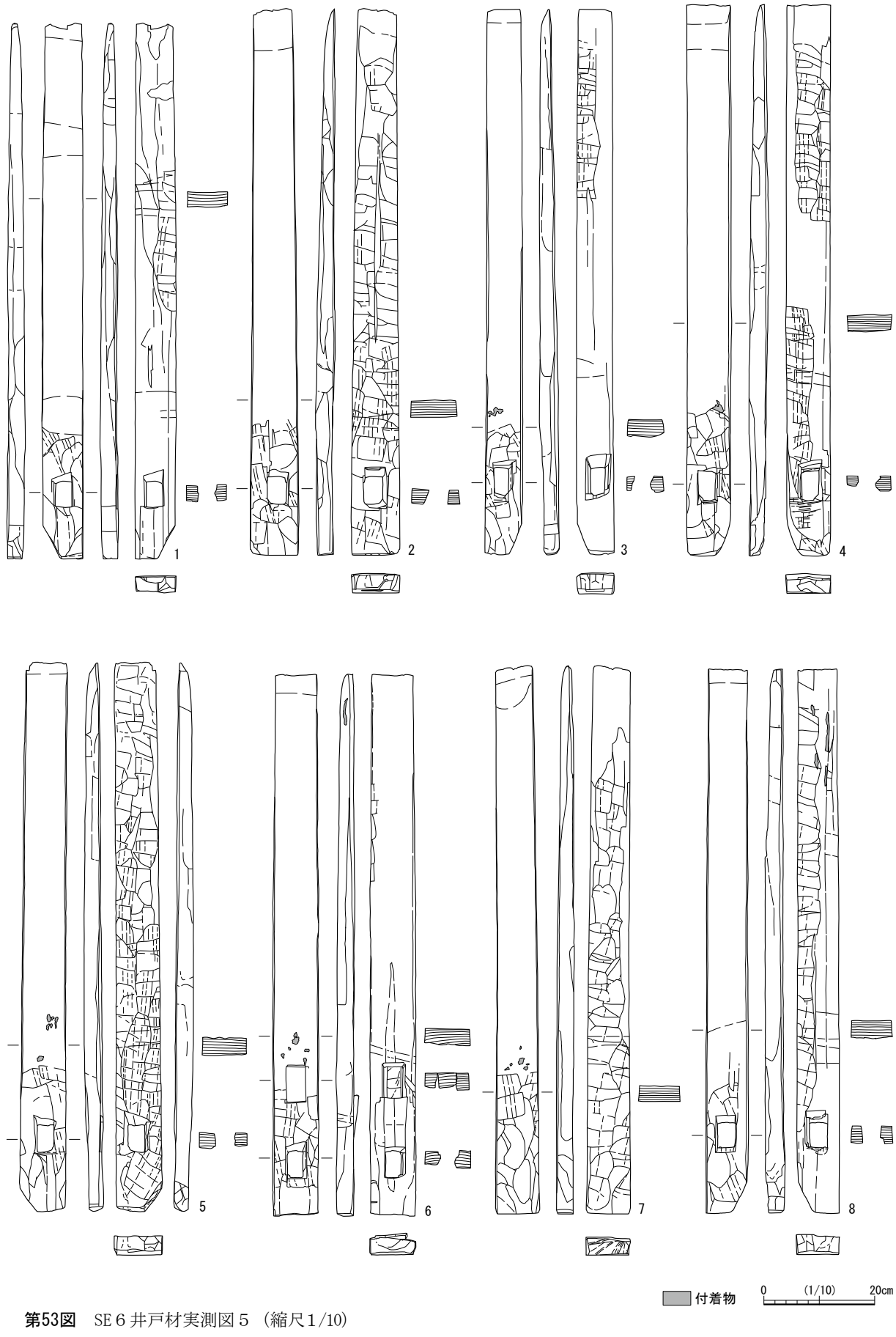

**第50図**　SE６井戸材実測図２（縮尺１/10）



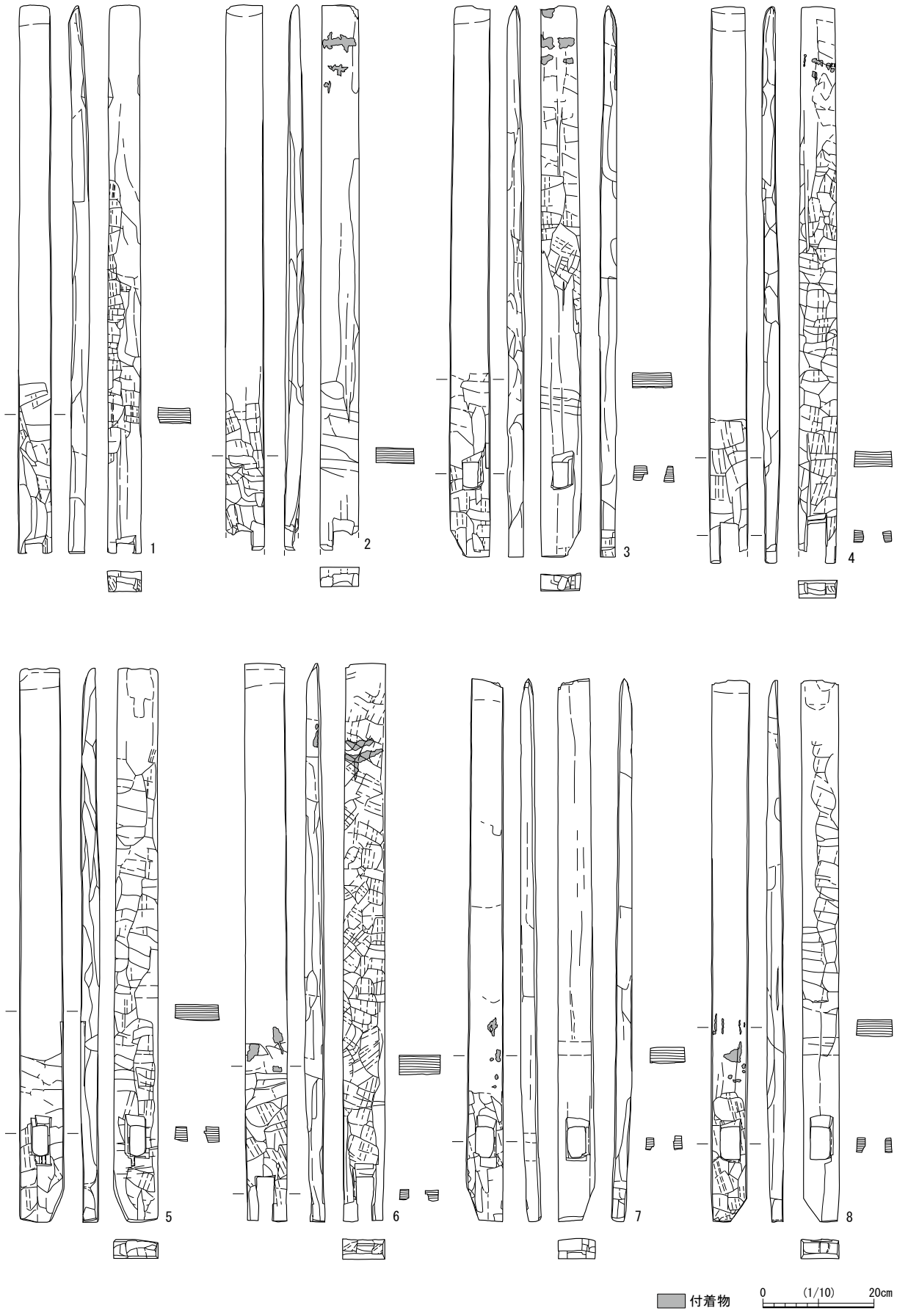

**第51図**　SE６井戸材実測図３（縮尺１/10）



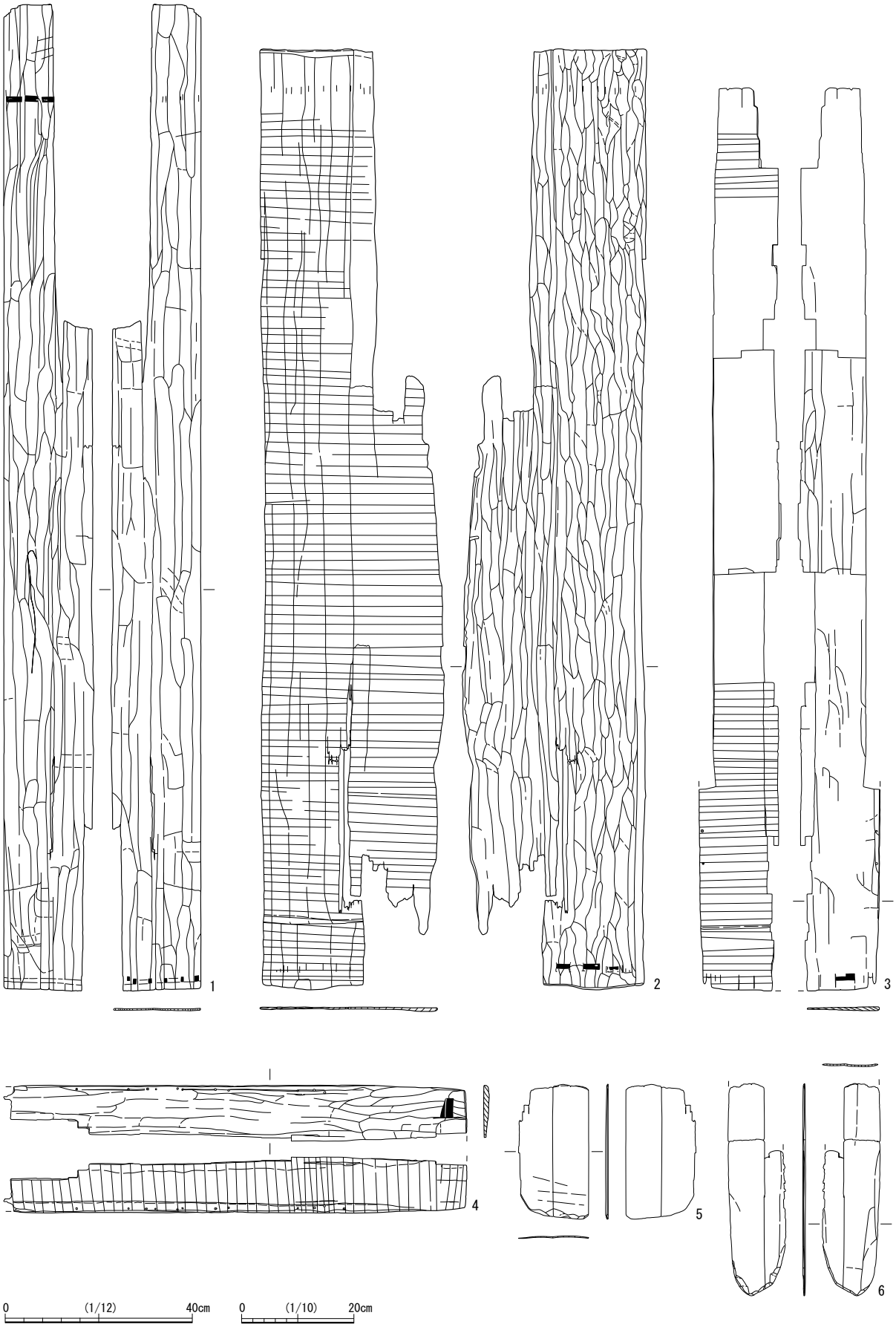

**第52図**　SE６井戸材実測図４（縮尺１/10）



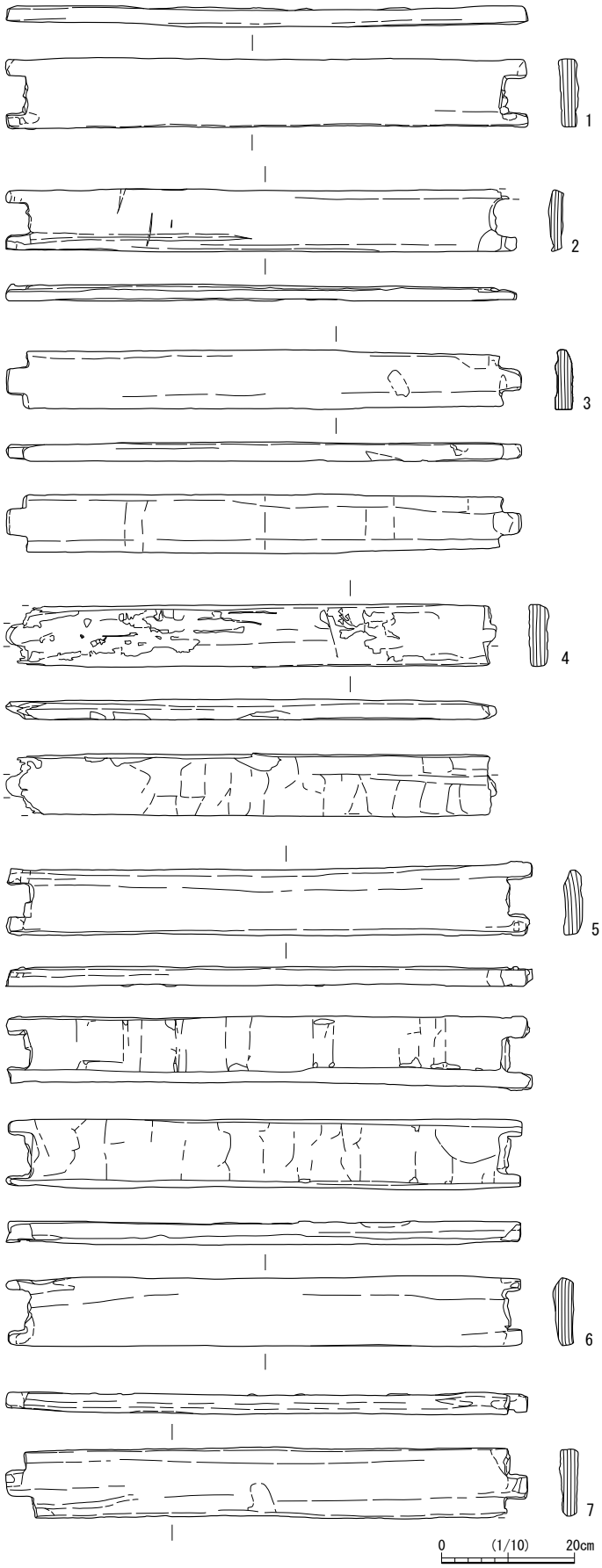

**第53図**　SE６井戸材実測図５（縮尺１/10）




**第54図**　SE６井戸材実測図６（縮尺１/10）




**第55図**　SE９井戸材実測図（縮尺1/12：１～３，1/10:４・５）




**第56図**　SE10井戸材実測図１（縮尺1/10）

３は一番内側の部材で、２と厚みは変わらない。露出する部分が多かったためか劣化で加工痕が不明瞭な箇所が多いものの、２と同様の加工が施される。下部に穿孔が２か所あり、下段の曲物の一番内側の部材（４）の上部にも同様の穿孔が認められるため、上段と下段を結合するためのものと考えられる。

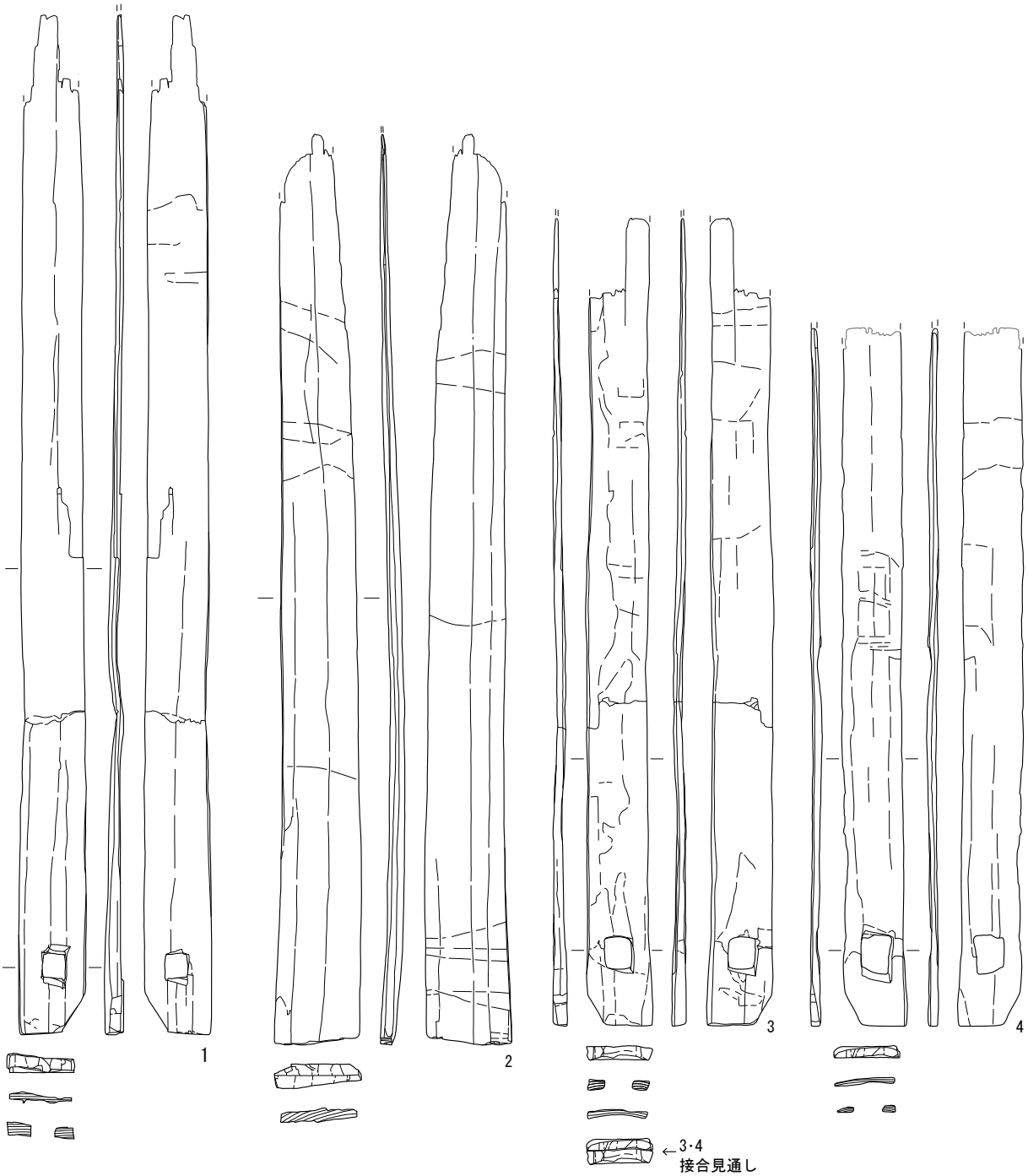
５・６はそれぞれ一番外側と中間、中間と一番内側の部材間に挟み込まれていた板材である。３枚の部材はそれぞれ綴じる方向を180°回転しているため、隙間を埋めるために用いられたと考えられる。上部の形状は不明だが、５の下端部は両側から先端が細く、薄くなるよう二次加工が施され、６は片側から先端に二次加工が認められる。

**SE10 井戸側材**（第 56・57 図）　縦板組隅柱横桟留型井戸側で、３段確認できた桟木のうち１段目と２段目の一部、側板を図化した。

第 56 図１～４は１段目の横材である。１（東）の凹部が、３（南）と４（北）の凸部と組み合わさり、２（西）と向かい合う。加工痕は不明瞭なものの、端部には鑿が使用されたと推測する。

側板（第 57 図１・３・４）は SE6 桶材（第 49 ～ 54 図）と同様下部に筏穴があり片側の角が斜めに落とされる。SE6 井戸側桶材の厚さの平均値が 3.1㎝なのに対し、SE10 の側板の厚さの平均値は 1.1㎝である。また３・４は接合関係にあり、接合後の厚さが３㎝であることから、搬入された厚さ約３㎝の板目材を分割して井戸側に使用したものと考えられる。

**SE11 井戸側曲物**（第 58 図）　曲物は直径約 63㎝で二重構造が確認できた。１・

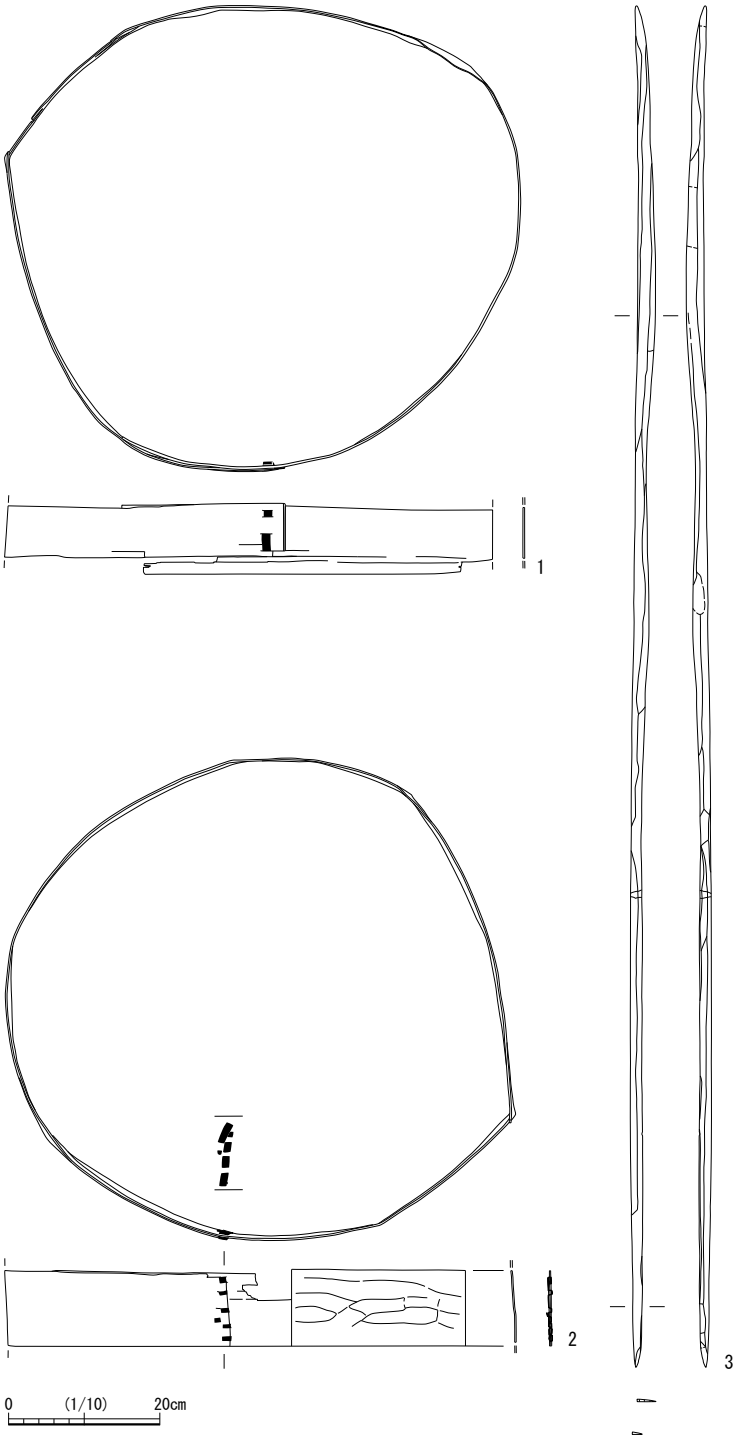



**第57図**　SE10井戸材実測図２（縮尺1/10）

２とも内面にケガキは認められず、２の内面に鉈痕が認められた。３は２の外側に沿うように設置されていた。全体に削り痕が認められ、両端は尖る。用途は不明である。

**SE13井戸側板**（第59・60図）　縦板組横桟留型井戸側の比較的状態の良い材を取り上げた。第59図１・２は井戸側の中から出土したため板材としたが、崩落した井戸側材と考えられる。

側板は全て分割材で、表面は割り裂き面をそのまま残す。下端の木口面に鑿痕が部分的に残る。１・２、３・４、５・６、７・８、９・10・11はそれぞれ接合関係にあり、同一材から分割された板材であると分かる。




**第58図**　SE11井戸材実測図（縮尺1/10）

また大きさは図化されていない材も含め、全て幅8.9～13cm、厚さ0.9～1.8cmに分布しており、側板は全て同じ規格材から分割されている。接合後の厚さは２～2.4cmとなった。厚さに関しては不確定要素が大きいが、平均値から幅12cm、厚さ３cm（幅４寸厚さ１寸）が規格として想定される。

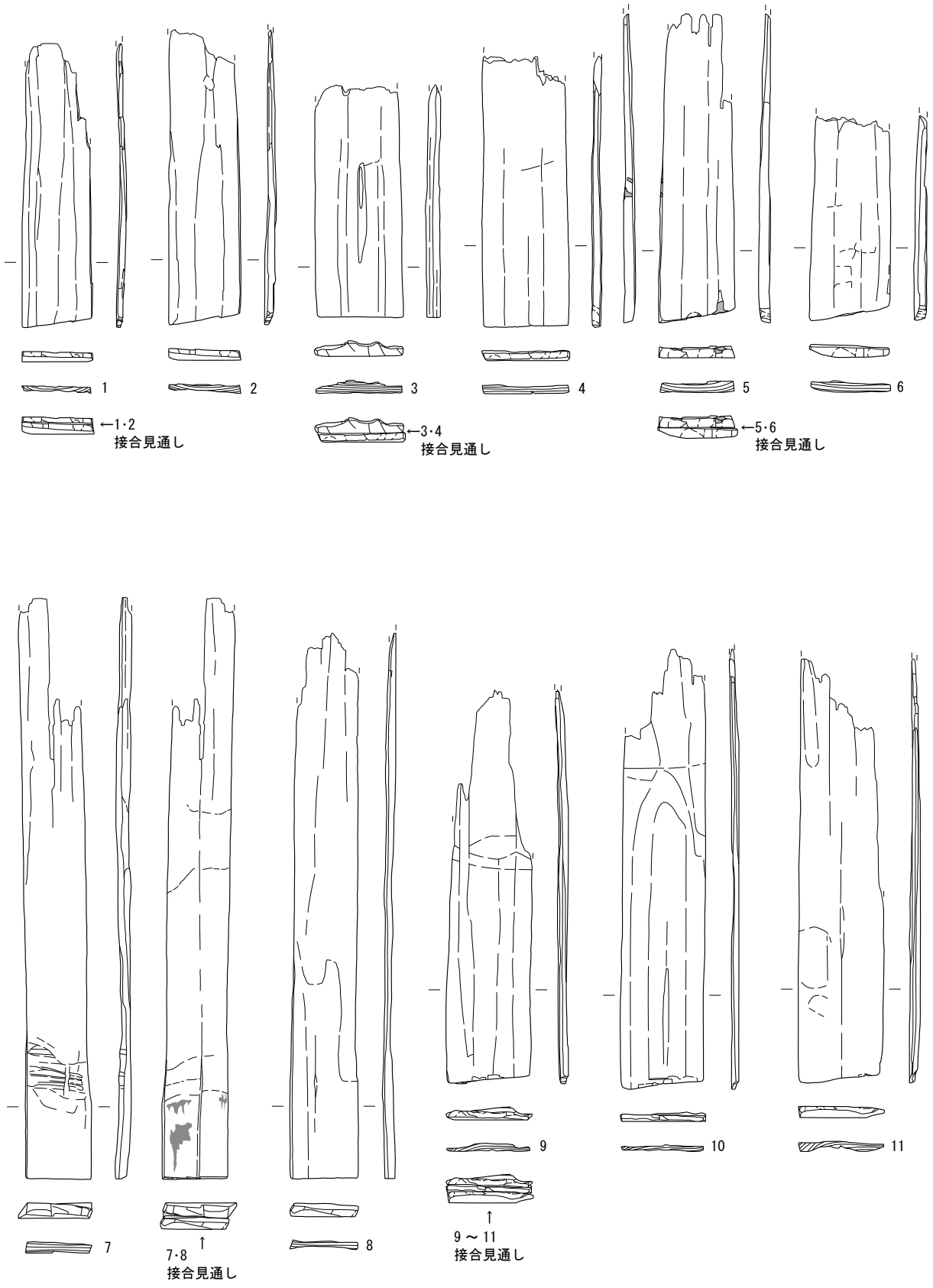
桟木（第60図）は１段目を図化した。SE10同様、端部が凹凸状で、不明瞭ではあるが鑿が使用されたと推測する。

**SE14板材**（第61図）　SE14井戸側は縦板組横桟留型と推定されるが地震による攪乱が大きく、側板と埋没の際に廃棄された板材との区別ができず、一括して板材とした。１～３は接合し同一材からの分割材と判断した。接合後の厚さは3.6cmである。

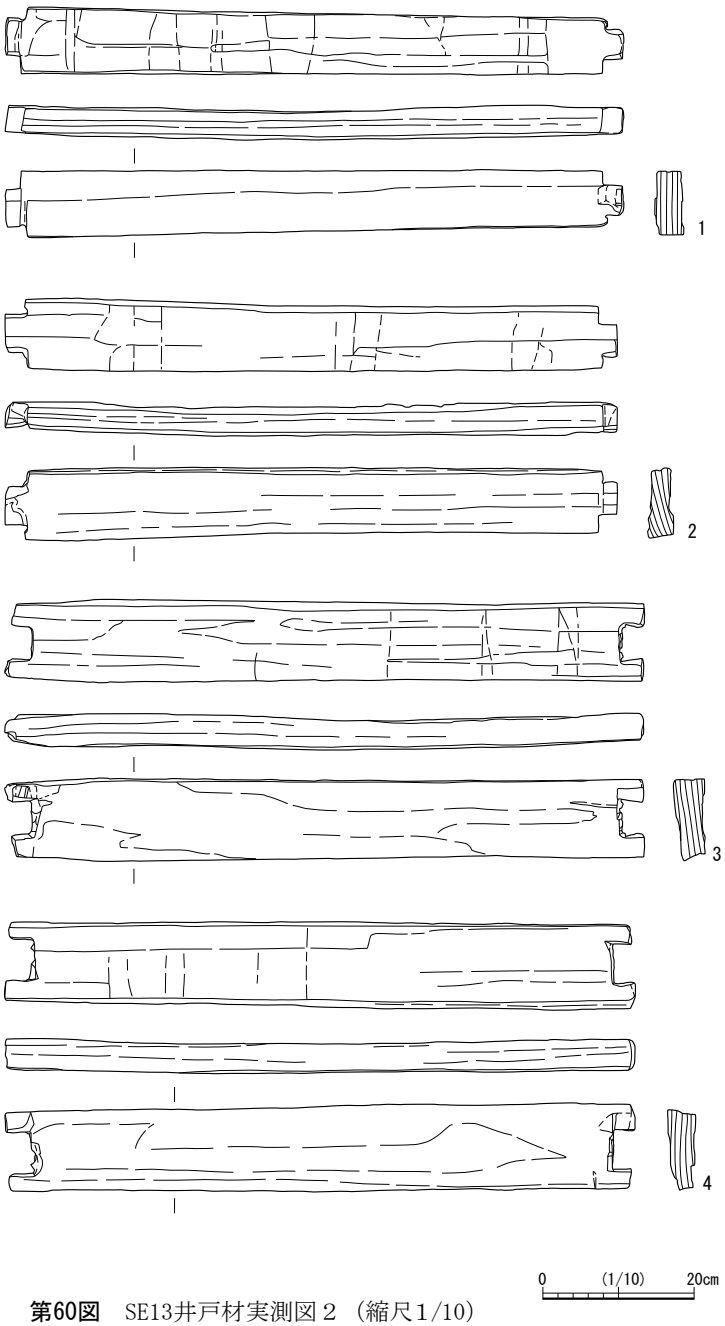
大きさは幅４～６cm、厚さ0.5～1.1cmの細型と、幅7.8～10.5cm、厚さ0.5～1.6cmの幅広型の２群に分かれる。幅広型はSE13井戸側板と同様の幅と厚さを持つことから、SE13と同じ規格材を用いたと考えられる。SE13井戸側板の長さが破損により不明であるものの、すべて80cm以上であったことが想定されるのに対し、SE14では長さ40～50cmの完形品もあった。

**SE17井戸側桶材**（第62図）

SE17の井戸側材はSE6の桶材に比べて細いものの、2.3ｍ前後と長く、桶は１段で、桶以外の井戸側は遺存していなかった。表面は割り裂いた状態のままで、加工痕は不明瞭であった。左右の側面には２か所ずつ結合のための四角の抉りが施される。全て同じ位置にあり、桶を連結するためのものと考えられるが、木釘は残存していなかった。また２は直角の段差がみられ、転用材である。この段差には鋸痕は認められず、鑿が用いられたと想定する。




**第59図**　SE13井戸材実測図１（縮尺1/8）




**第60図**　SE13井戸材実測図２（縮尺1/10）

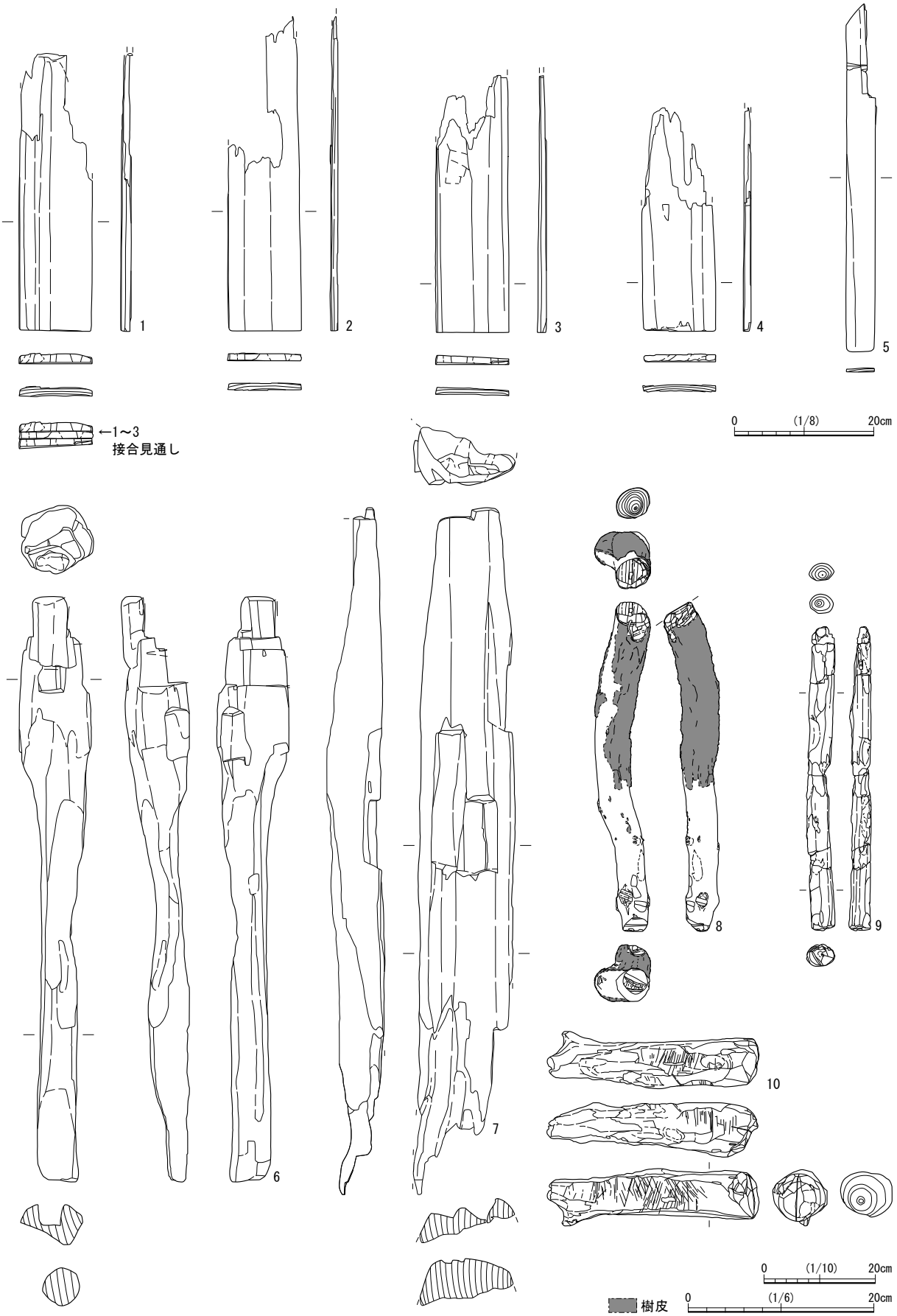
**SE18 井戸側材**（第 63・64 図）　井戸側の北東角を中心に保存状態の良い側板を取り上げた。SE18 は地震によって井戸側が大きく歪んでおり、東側に側板が３重に重なって検出された。桟木のない縦板組無支持型井戸側と考えられる。また北東角には隅柱と思われる東 11 が検出された。このことから東 11 より西側で検出された東８～ 10 は、西側の井戸側材の可能性がある。

ただ、東７と東 10（第 63 図４）、東１と東５（第 64 図２）が接合したため、東１～ 10 が全て東側の井戸側板である可能性も残る。これらの接合例が井戸側材が埋没状況下で割れたものか、井戸側設置の際に人為的に割り裂かれたものかは現状では判断し難い。

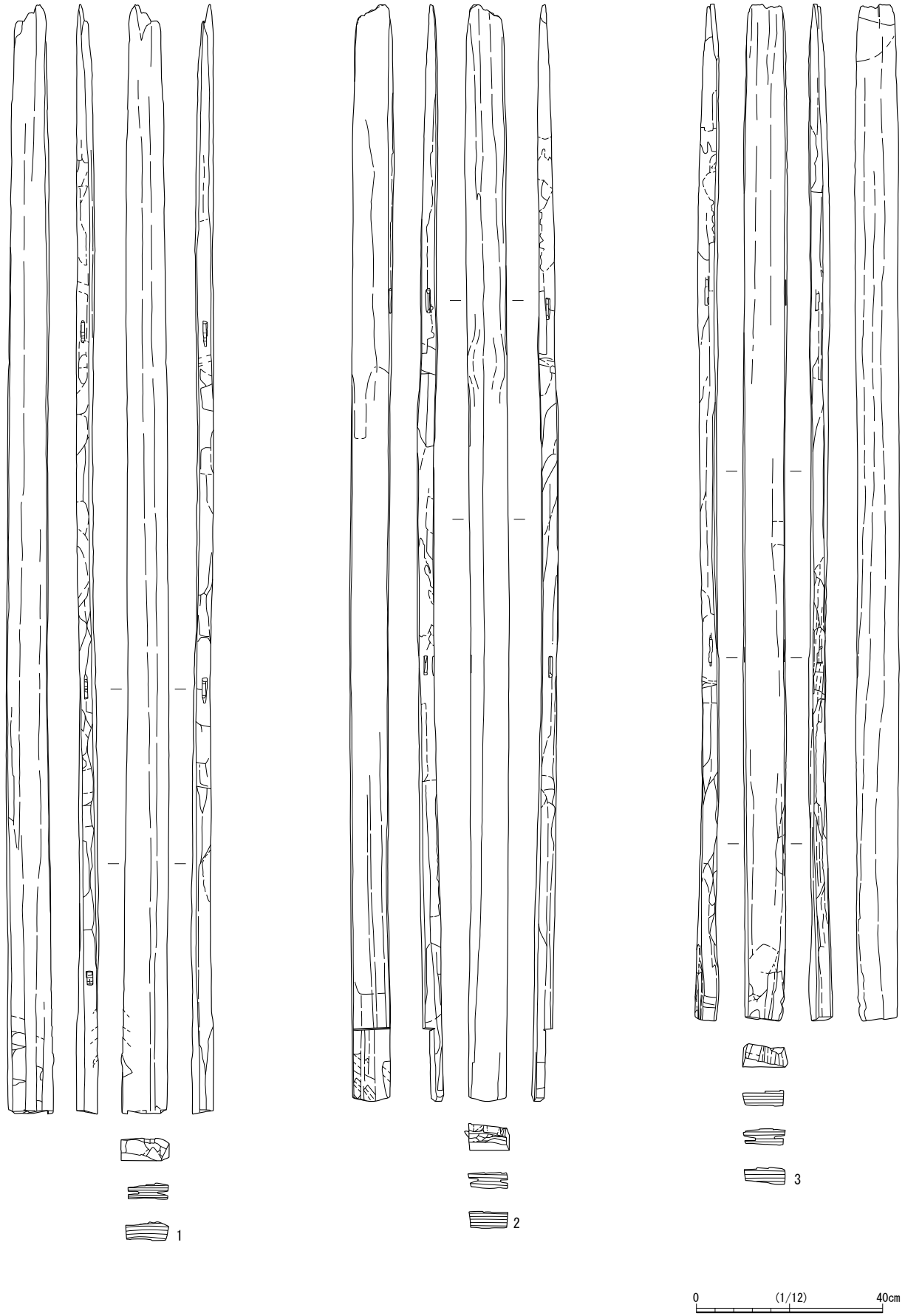
側板は SE13・14 に比べて大型で幅が広い。また、SE6 や SE10 井戸側板と同程度の厚みをもつが、第 65 図１の筏穴は横に長く、中心にやや集中し、角も大きく落とされている。このことからほかの井戸側材とは規格が異なる。

１の内面には、全面に外面の一部に端部から中央に向けて連続的に釿痕が認められる。これらの加工痕が部分的であるのは、製材時の板を平滑にするための加工によると考えられる。下端部に筏穴が２か所あり、両角が斜めに落とされる。加工は側面に至るまで釿が用いられ、筏穴と木口面に鑿が使用される。刃部幅は、12㎝と推定される。端部の調整などの加工は認められないことから、搬入された材がそのまま利用されたと考えられる。２でも同じ大きさの釿が用いられた可能性が高いが、４や第 66 図２では刃部幅のやや小さい釿が用いられる。３は筏穴をもち SE6・SE10 と同じ規格とみられる。６・第 66 図１は割り裂き面を残す。

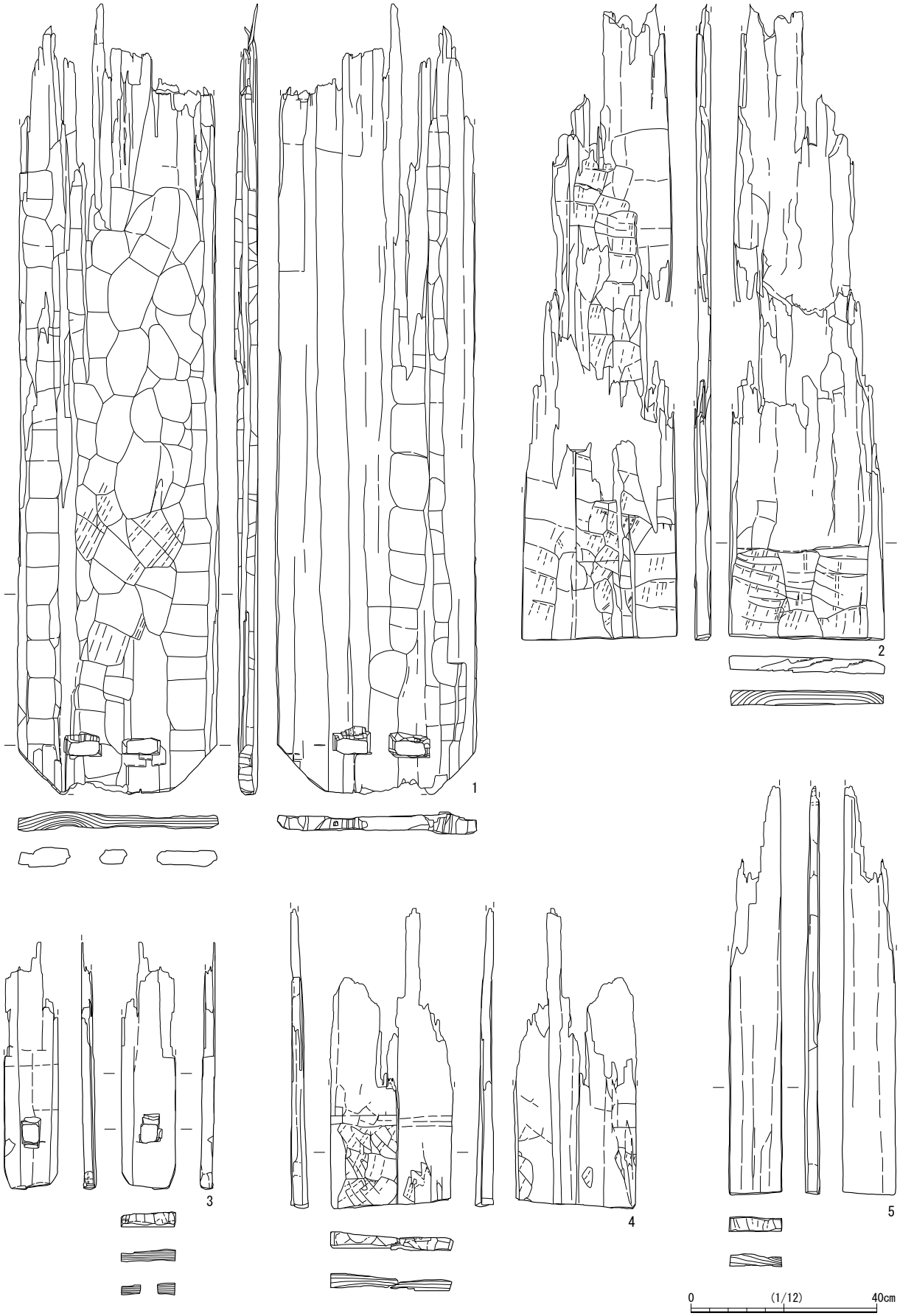
なお SE12 から足場材と考えられる木材が出土した（第 61 図）。１は樹皮が残り、端部に求心的な加工が為される。２も端部を加工する。表面に３か所の平坦面を作り出し直線的な加工痕が密集して残る。加工痕の特徴から縦斧が用いられていると推定する。３の表面は半円の部分が削られ平坦になる。




**第61図**　SE12・14井戸材（縮尺1/6：8～10、縮尺1/10：1～7）




**第62図**　SE17井戸材実測図（縮尺1/12）




**第63図**　SE18井戸材実測図１（縮尺1/12）

**第64図**　SE18井戸材実測図２（縮尺1/12）

**長崎遺跡における木材加工**

長崎遺跡出土の木製品には大きく分類して釿、鉇、鑿、縦斧、鋸の５種類の工具による加工痕が認められた。

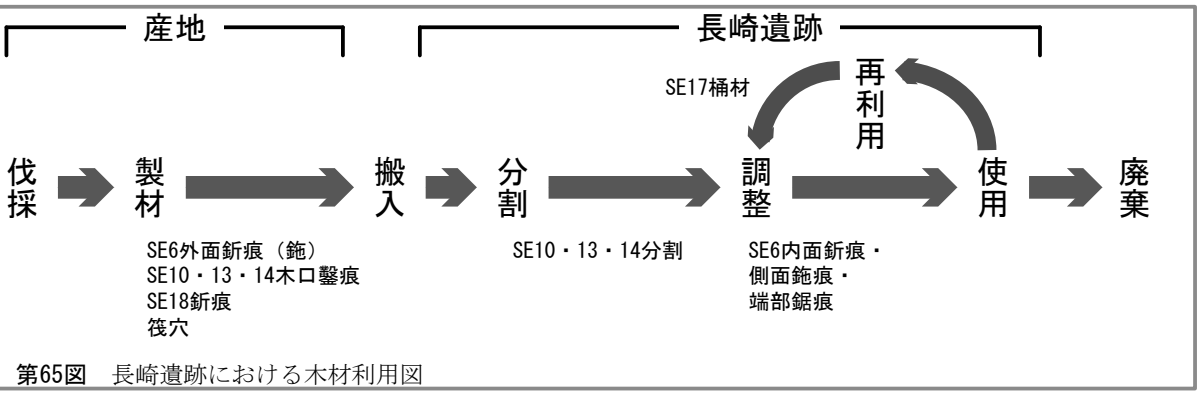
釿痕は最も多くみられ、主に平坦面の加工に用いられる。歯幅はSE18井戸側材に残る12cmが最大でSE６では約６㎝、柱材では幅の推定に至らないかったが、より小さいサイズの釿が用いられたと想定される。

鉇痕は主として曲物やSE6井戸側桶材の側面に認められ、薄さの求められる曲物や密着する必要のある桶材の側面で鉇が用いられる。

鑿痕は筏穴部分や筏穴付近の角の加工のほか、井戸側材の木口面に認められる。鋸痕は端材とSE6井戸側桶材の切断された端部に一部認められるに留まった。縦斧痕はSE12足場材に限定される。それぞれの井戸側材の加工痕から、製材から使用に至るまでの井戸側材の加工順序を検討する（第65図）。

SE6井戸側桶材での加工痕からは、加工が井戸側に用いられる前の段階の加工と桶を組む際の内面の釿痕と一部の外面の釿痕、側面の鉇での加工の段階の２段階があることが分かった。また、筏穴は木材の伐採および製材後の運搬時に施されるもののため、遺跡に搬入される前の加工と考えられる。主に木口面に認められる鑿痕は、SE10・13・14でそれぞれ接合する材同士で一致することから分割される前の加工であることが分かる。一方、SE10・13等の井戸側横桟の凹部にみられる鑿痕は井戸側を設置する際に施されたものか、遺跡搬入時に既に凹凸がある状態だったのか判断し難い。SE18側板の釿痕は内・外両面および側面に認められる。これらの材には分割や調整の痕跡がみられず、搬入された材がそのまま使用されたと考えられる。

また筏穴をもつ端材や、SE6桶材の切断部分にのみ鋸痕が認められたことは、端部の調整にのみ鋸が使用されていることを示す。製材に伴う加工痕には鋸痕は認められなかったことから、当該時期の木材




**第65図**　長崎遺跡における木材利用図

加工には縦挽鋸（大鋸）は使用されず、横挽鋸による調整に限定されていることがわかる。

出土した木製品は製品、遺構材が中心で、釿等の工具を用いた際に出る木端、未成品はほとんど出土しなかった。一方で筏穴をもつ端材が多く出土し、墨線を残す端材もみられた。出土した端材は搬入された製材済みの木材が遺跡内で加工された際に廃棄されているもので、遺跡内で伐採、加工を行なった形跡は認められない。このことから大量の木端が伴う製材作業は遺跡外で行われており、遺跡内の作業は調整程度に限定されていたと考えられる。

長崎遺跡は木材の消費地であり、遺跡内での加工は井戸側設置等の調整に限られるといえる。またSE17 井戸側桶材にみられるように、遺跡内で再利用された痕跡があるものの、抜き取られた井戸側材の廃棄は確認できなかった。これらの材は遺跡外に持ち出され利用または廃棄されたと考えられる。

**遺跡搬入材の規格性と利用**　井戸側に用いられた材の傾向から、長崎遺跡に搬入された材の大きさには次に示す規格があることがわかる。

①大型板材：SE18 井戸側材（第 63 図１・２・４・第 64 図２）、SE15 出土端材（第 46 図３） 共通して横長の筏穴をもつ。 幅 30 ～ 43cm、厚さ 2.8 ～ 3.6cm（幅 10 ～ 14 寸厚１寸前後）に分布する。

②板材：SE6 桶材・SE10 側板　幅は６～９㎝に集中し、厚さは SE ６で３～ 3.5cm、SE10 の接合個体で３㎝である。共通して縦長の筏穴をもつ。幅３寸厚１寸という規格性がみられるが、幅は遺跡内で調整された可能性がある。SE6 桶材が３本で１枚の板になる場合、①とほぼ同じ大きさに復元できる。

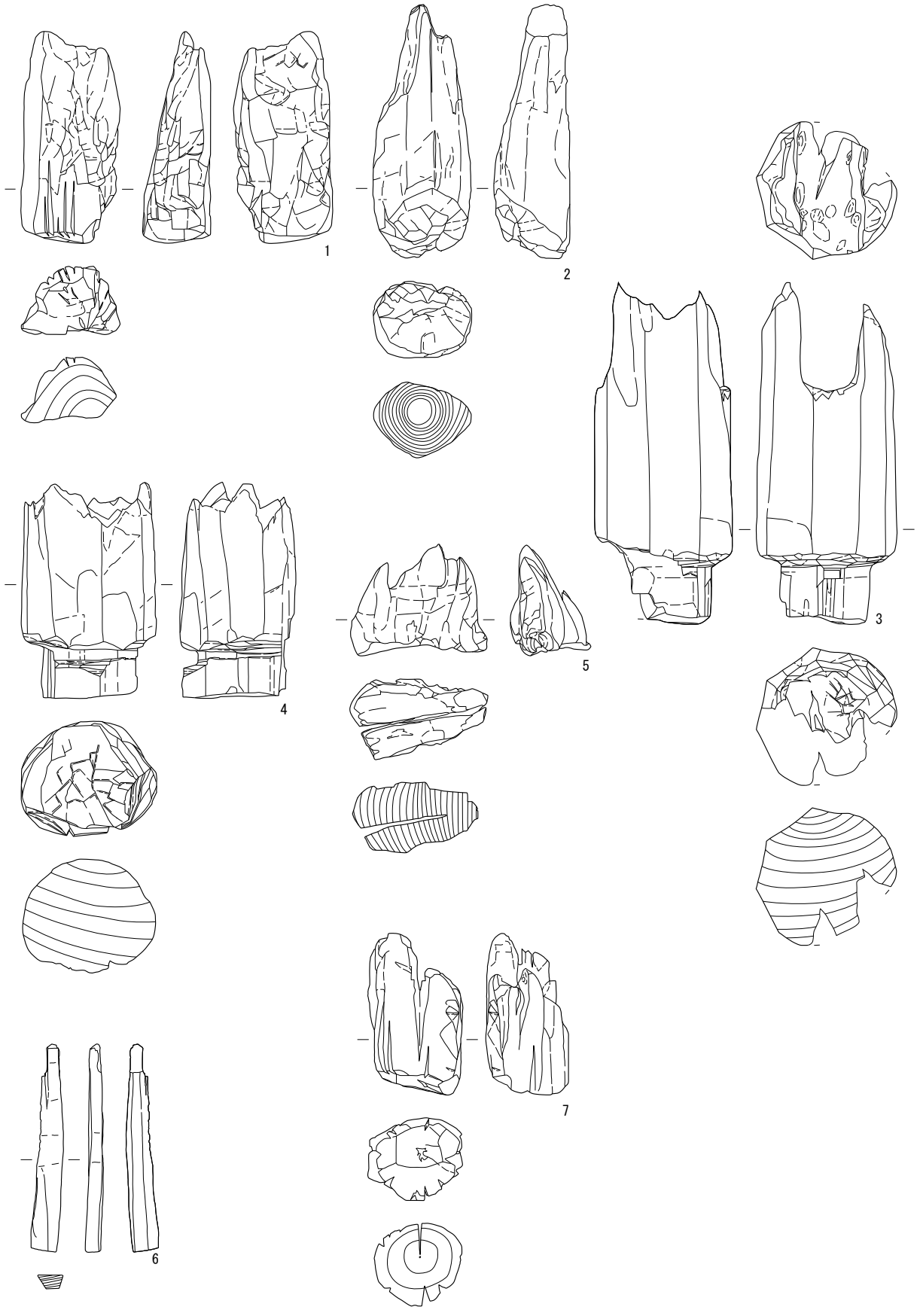
③角材：SE13・14・18 分割材　幅 12cm、厚さ 3.6cm以上。筏穴をもたず角材の状態で搬入されてきた可能性が高い。SE13 井戸側材の検討からは幅４寸厚１寸が１つの単位として想定されるが、今回取り上げた井戸側材が井戸側の一部に留まったことから、搬入時の角材の厚さは不明である。

鎌倉で「小樽」として流通していた材が、「幅４寸厚２寸」であることが判っており、長崎遺跡に搬入された材もこれに準ずる可能性がある。

長さの想定としては、最長で SE17 桶材の 2.3 m（７尺７寸）前後、最短で SE14 出土板材の 40 ～ 50 cm（１尺３～６寸）があげられる。搬入された材はそのまま井戸側材として使用、または板へ分割・調整されて井戸側材として使用されたと考えられる。

**柱根・杭状木製品**　北調査区の７基の柱穴で柱根が遺存していた。これらの柱穴に関しては切り合い状況、出土遺物から検出面・時期の特定には至らなかった。そのため柱根を一括して本項で取り上げる。

１はみかん割材を用いる柱根である。底部に加工痕が認められるほか、側面もほぼ全面に加工痕が認められ、割った後にも調整されていることが分かる。２は丸木を削り出して成形され、断面は歪な四角形を




**第66図**　柱根実測図（縮尺1/6）

呈する。下端部は平坦ではなく若干斜めになっており、先端が尖る。底部には求心的に釿痕が認められる。

３は最も大型の柱根で幅は 14.8㎝を測る。芯無みかん割材を加工し、断面形状は８角形を呈する。側面の加工痕は不明である。また、上部は凹字状に削り出されており、幅約 12㎝の凹みが設けられる。腕木等を受けるための枘穴の可能性が高い。下端部から約６㎝上の部分で中心に向かって加工が施され、破損のため正確な形状は不明だが、下部は上部に比べて半径約 2.5㎝程度小さい多角形状を呈する。この段差が柱材として加工されたものであるか、柱材に成形される前の製品に起因するのかは判断できなかった。加工には鑿のような工具が想定されるが、井戸側材に認められた鑿痕と異なり表面が平滑であるため、加工が複数回にわたり仕上げられたと考えられる。先端は平坦で、釿痕がわずかに認められる。

４・５・７は連続する柱穴から検出された柱根であるが、形状に統一性はなく、特徴は大きく異なる。４は３と類似した大きさと形状で、芯無みかん割材を素材とし、断面は多角形を呈するが、３に比べ稜線がやや緩やかである。上部は劣化により欠損しているため、３と同様の枘穴の有無は不明である。下端部から 5.4㎝付近で溝状の抉りを全体に巡らせる。溝より下部の断面は、破損箇所が多いものの、上部と同じ大きさのやや稜が明瞭な多角形を呈すると考えられる。下端部は３と同様に釿により求心的な加工が施され、平坦である。溝部分の加工は３と同様に鑿が用いられたと推定する。

５はみかん割材を使用する。劣化により加工痕は不明瞭でだが、底面は平滑に整えられる。７は丸木を使用しており、側面には加工は認められなかった。底面はやや不明瞭だが加工痕が認められた。６は細すぎて柱と考えにくい大きさであるが、柱穴内に直立して据えられていた。

調査区内では多数の柱穴が確認されたにも関わらず、柱根や杭はごく少数であった。しかし３・４のような精緻な加工を施す柱材も認められたほか、遺構の検出状況から建て替えが頻繁に行われていたことが予想される。３・４の素材には少なくとも１辺 15㎝以上の角材が必要となり、その規模からも貴重であったことが予想される。柱材の多くは建て替えの際に抜き取られて再利用されたと考えられる。

引用・参考文献

宇野隆夫　1982「井戸考」『支林』65-5」
斉木秀雄　1997「中世の木製品・漆製品」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第８集』
四柳嘉章　1997「第３節　北陸の中世漆器」『中・近世の北陸』北陸中世土器研究会　桂書房
北陸中世土器研究会　1997『北陸の漆器考古学』
北陸中世考古学研究会　2001『中世北陸の井戸』
岡田文男　2002「長岡京跡の井戸の側板に用いられた古代の樽について」『田辺昭三先生古稀記念論文集』
新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　2012『境塚遺跡』
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2012『若宮遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第 127 集
新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　2016『境塚遺跡Ⅱ』
盛本昌宏　2015「樽・材木の規格の木の種類」『木材の中世』高志書院
鈴木康之　2015「港湾集落における木材加工技術」『木材の中世』高志書院

## 第 10 表　漆器観察表

| 図版番号 | 挿図番号 | 器種 | 出土地点 | | | 木取り | 法量（cm） | | | | 漆 | | | | 施文 | | 樹種 | 備考 | 木No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 遺構 | 層 | 地区 | | 口径 | 高台径 | 高台高 | 全高 | 内 | 外 | 高台 | 文様 | 体部 | 内面高台 | | | |
| 42 | 1 | 椀 | SD15 | | D7 | 横木取り | (15.2) | (5.7) | − | (4.6) | 赤 | 赤 | 黒 | − | − | 「東」? | ケヤキ | 口縁部に溝有 | 26 |
| 42 | 2 | 椀 | SD15 | | D7 | 横木取り | 13.8 | 7.2 | (0.5) | (5.0) | 赤 | 赤 | 黒 | − | − | 「吉」 | ニレ属 | 口縁部に溝有 | 25 |
| 42 | 3 | 椀 | SD31 | | D5 | 横木取り | (13.8) | 6.6 | − | (2.1) | 赤 | 赤 | 黒 | − | − | − | ブナ属 | | 571 |
| 42 | 4 | 皿 | SD37 | | D5 | 横木取り | (12.0) | (7.1) | 0.5 | 1.4 | 赤 | 赤 | 黒 | − | − | − | ブナ属 | | 573 |
| 42 | 5 | 椀 | SD43 | 2 層 | C13 | 横木取り | (15.4) | 7.0 | (0.4) | (5.8) | 黒 | 黒 | 黒 | 赤 | 扇 4? | 内 / 扇 | ブナ属 | 歪み有 | 576 |
| 42 | 6 | 椀 | SE13 | 曲物内 | C12 | 横木取り | (13.8) | (7.9) | (0.3) | (4.8) | 黒 | 黒 | 黒 | − | − | − | ケヤキ | | 749 |
| 42 | 7 | 皿 | SE17 | | C14 | 横木取り | (10.2) | (7.0) | (0.1) | (1.0) | 黒 | 黒 | 黒 | 赤 | 有 | 内 / 植物文 | ケヤキ | | 504 |
| 42 | 8 | 皿 | SE8 | | C15 | 横木取り | − | − | − | (1.7) | 黒 | 黒 | − | 赤 | 植物文 | 内 / 植物文 | ケヤキ | | 281 |
| 42 | 9 | 皿? | SE17 | | C14 | 横木取り | (10.2) | (7.0) | (0.1) | (1.0) | 黒 | 黒 | − | 赤 | − | 内 / 有 | ブナ属 | | 771 |

## 第 11 表　箸観察表

| 図版番号 | 挿図番号 | 器種 | 出土地点 | | | 法量（cm） | | | | 樹種 | 木No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 遺構 | | 地区 | 全長 | 最大幅 | 最小幅 | 最大厚 | | |
| 42 | 10 | 箸 | SD15 | | − | 19.6 | 0.6 × 0.35 | 0.15 × 0.15 | 0.4 | スギ | 2 |
| 42 | 11 | 箸 | SD15 | | − | (14.5) | 0.6 × 0.4 | − | 0.4 | スギ | 7 |
| 42 | 12 | 箸 | SD52 | | B14 | (14.1) | 0.65 × 0.55 | − | 0.6 | スギ | 45 |
| 42 | 13 | 箸 | SE2 | | E4 | 19.5 | 0.7 × 0.6 | 0.3 × 0.3 | 0.6 | スギ | 528 |
| 42 | 14 | 箸 | SE2 | | E4 | (14.6) | 0.5 × 0.5 | − | 0.5 | スギ | 531 |
| 42 | 15 | 箸 | SE2 | | E4 | (13.9) | 0.7 × 0.5 | 0.2 × 0.2 | 0.5 | スギ | 530 |
| 42 | 16 | 箸 | SE2 | | E4 | 20.1 | 0.5 × 0.5 | 0.4 × 0.4 | 0.5 | スギ | 529 |
| 42 | 17 | 箸 | SE2 | | E4 | 21.1 | 0.8 × 0.4 | 0.3 × 0.3 | 0.4 | スギ | 527 |
| 42 | 18 | 箸 | SE2 | | E4 | 17.8 | 0.6 × 0.6 | 0.15 × 0.15 | 0.6 | スギ | 526 |
| 42 | 19 | 箸 | SE2 | | E4 | (13.5) | 0.7 × 0.6 | 0.4 × 0.3 | 0.6 | スギ | 532 |
| 42 | 20 | 箸 | SE2 | | E4 | 20.1 | 0.5 × 0.55 | 0.15 × 0.2 | 0.6 | スギ | 525 |
| 42 | 21 | 箸 | SE3 | | D5･E5 | (18.8) | 0.4 × 0.4 | 0.2 × 0.2 | 0.5 | スギ | 202 |
| 42 | 22 | 箸 | SE3 | | D5･E5 | 19.7 | 0.6 × 0.4 | 0.25 × 0.25 | 0.4 | スギ | 203 |
| 42 | 23 | 箸 | SE6 | | C15 | 16.4 | 0.55 × 0.45 | 0.2 × 0.15 | 0.5 | − | 191 |
| 42 | 24 | 箸 | SE8 | | C15 | 18.3 | 0.55 × 0.55 | 0.3 × 0.2 | 0.6 | スギ | 276 |
| 42 | 25 | 箸 | SE8 | | C15 | 19.2 | 0.7 × 0.3 | 0.2 × 0.15 | 0.3 | スギ | 277 |
| 42 | 26 | 箸 | SE8 | | C15 | (12.0) | 0.8 × 0.35 | 0.4 × 0.3 | 0.4 | スギ | 278 |
| 43 | 1 | 箸 | SE9 | | B15･16 | (17.0) | 0.7 × 0.5 | 0.2 × 0.15 | 0.5 | スギ | 309 |
| 43 | 2 | 箸 | SE9 | | B15･16 | 19.4 | 0.75 × 0.4 | 0.2 × 0.2 | 0.4 | スギ | 308 |
| 43 | 3 | 箸 | SE9 | | B15･16 | 19.7 | 0.65 × 0.4 | 0.2 × 0.2 | 0.4 | スギ | 310 |
| 43 | 4 | 箸 | SE9 | | B15･16 | 16.0 | 0.65 | − | 0.3 | スギ | 305 |
| 43 | 5 | 箸 | SE13 | | C12 | (17.1) | 0.55 × 0.4 | 0.2 × 0.2 | 0.4 | スギ | 404 |
| 43 | 6 | 箸 | SE15 | | C14 | 20.2 | 0.7 × 0.4 | 0.2 × 0.2 | 0.4 | スギ | 490 |
| 43 | 7 | 箸 | SE17 | | C14 | (14.4) | 0.55 × 0.65 | 0.25 × 0.3 | 0.7 | スギ | 503 |
| 43 | 8 | 箸 | SE17 | | C14 | 20.3 | 0.6 × 0.6 | − | 0.6 | スギ | 501 |
| 43 | 9 | 箸 | SE17 | | C14 | 18.9 | 0.5 × 0.5 | 0.15 × 0.15 | 0.5 | スギ | 500 |
| 43 | 10 | 箸 | SE18 | | C13 | (12.4) | 0.45 × 0.5 | 0.2 × 0.25 | 0.5 | スギ | 513 |
| 43 | 11 | 箸 | SE15 | | C14 | (14.9) | 0.6 × 0.4 | 0.2 × 0.2 | 0.4 | − | 491 |
| 43 | 12 | 箸 | SK50 | | D7 | (17.0) | 0.6 × 0.3 | 0.2 × 0.2 | 0.3 | スギ | 555 |
| 43 | 13 | 箸 | SK50 | | D7 | 16.8 | 0.5 × 0.5 | 0.15 × 0.25 | 0.5 | − | 554 |

## 第 12 表　楊枝・曲物・指物下駄・部材等観察表

| 図版番号 | 挿図番号 | 出土地点 | | | 器種 | 木取り | 法量（cm） | | | | 樹種 | 備考 | 木No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構 | | 層 | | | 全長 | 最大幅 | 最小幅 | 最大厚 | | | |
| 43 | 14 | SE14 | | | 楊枝 | 板目 | 13.0 | 0.5 | 0.1 | 0.6 | スギ | 片端炭化 | 420 |
| 43 | 15 | SE14 | | | 楊枝 | 板目 | 15.7 | 0.7 | 0.3 | 0.5 | スギ | 片端炭化 | 419 |
| 43 | 16 | SE8 | | | 不明材 | 角材 | 19.1 | 1.0 | 0.5 | 0.9 | スギ | 片端炭化 | 248 |
| 43 | 17 | SE8 | | | 不明材 | - | 16.3 | 0.8 | 0.1 | 0.4 | スギ | 片端炭化 | 247 |
| 43 | 18 | SD45 | | | 割裁材 | 角材 | 14.9 | 0.9 | − | 0.9 | スギ | 片端炭化 | 635 |
| 43 | 19 | SD61 | | | 割裁材 | 柾目 | 16.2 | 1.7 | − | 0.7 | スギ | 片端炭化 | 61 |
| 43 | 20 | SK50 | | | 割裁材 | 板目 | 13.5 | 1.1 | − | 0.6 | スギ | 両端炭化 | 560 |
| 43 | 21 | SE8 | | | 割裁材 | - | 10.2 | 1.4 | 0.2 | 0.6 | スギ | 片端炭化 | 252 |
| 43 | 22 | SK50 | | | 割裁材 | 板目 | 8.1 | 1.4 | − | 0.5 | スギ | 片端炭化 | 562 |
| 43 | 23 | SE14 | | | 割裁材 | 板目 | 10.9 | 0.9 | 0.5 | 1.1 | | 両端炭化 | 427 |
| 43 | 24 | SK50 | | | 割裁材 | 追柾目 | 10.7 | 1.1 | 0.3 | 0.4 | スギ | 片端炭化 | 561 |
| 43 | 25 | SE9 | | | 不明材 | - | (15.7) | 0.9 | 0.6 | 0.7 | スギ | | 319 |
| 43 | 26 | SE14 | | | 不明材 | 柾目 | 15.7 | 1.1 | 0.5 | 1.5 | スギ | | 426 |
| 43 | 27 | SE16 | | | 部材 | 板目 | (22.9) | 2.0 | − | 0.9 | スギ | 片端凹型に加工 | 497 |
| 43 | 28 | SD41 | | 2 層 | 不明部材 | 柾目 | 17.4 | 2.1 | 1.0 | 1.2 | スギ | 釘穴 3 うち中央のみ木釘残存 | 42 |
| 43 | 29 | SD43 | | 2 層 | 不明部材 | 板目 | 15.4 | 1.1 | − | 1.1 | スギ | 片端炭化 | 70 |
| 43 | 30 | SD45 | | | 不明品 | 丸木 | 6.3 | 2.1 | − | 2.4 | エノキ属 | 樹皮残存 | 669 |
| 43 | 31 | SK77 | | | 不明部材 | 追柾目 | 9.4 | 1.2 | 1.1 | 1.0 | スギ | 釘穴 2 段をつくる | 570 |
| 43 | 32 | SE15 | | | 不明品 | 板目 | 10.2 | 1.5 | 0.8 | 0.4 | スギ | 片面に切込み線 6 本有 | 470 |
| 44 | 1 | SE18 | | | 曲物底板 | 板目 | (33.8) | (7.5) | − | 0.7 | スギ | | 493 |
| 44 | 2 | SE2 | | | 曲物底板 | 柾目 | (13.3) | (4.1) | − | 0.7 | スギ | 復元径約 21.0cm 付着物有 | 524 |
| 44 | 3 | SE18 | | | 曲物底板 | 板目 | (19.1) | (4.2) | − | 0.8 | スギ | 復元径 23.4cm | 512 |
| 44 | 4 | SE18 | | | 曲物底板 | 柾目 | 20.3 | (8.0) | − | 0.7 | スギ | 復元径約 21.0cm 片面に刃物痕多数 | 514 |
| 44 | 5 | SE18 | | | 曲物蓋 | 柾目 | (28.4) | (7.7) | − | 0.7 | スギ | 復元径 36.4cm 樹皮つまみ有 樹皮幅 1.1cm | 508 |
| 44 | 6 | SE18 | | | 曲物底板 | 柾目 | (9.5) | (1.9) | − | 0.5 | スギ | 黒漆付着 | 510 |
| 44 | 7 | SE18 | | | 桶底板 | 板目 | (14.7) | (3.6) | − | 1.1 | スギ | 復元径 18.0cm | 515 |
| 44 | 8 | SE12 | | | 桶側板 | 板目 | 22.5 | 4.5 | − | 1.2 | スギ | 枘穴 1 釘穴 2（鉄釘・木釘各 1 残存）側面釘穴 2 片端切落し有 刃物痕多数 片面に炭化有 | 357 |
| 44 | 9 | SD42 | | 1 層 | 桶側板 | 板目 | (38.3) | 5.1 | 4.2 | 1.5 | スギ | | 44 |
| 44 | 10 | SE12 | | | 桶持ち手 | 板目 | 24.1 | 2.9 | 1.1 | 1.0 | スギ | 釘穴 4 うち 2 ヶ所木釘残存 刃物痕多数 炭化有 | 367 |
| 44 | 11 | SE5 | | | 指物 | 柾目 | 27.1 | (3.5) | (1.4) | 0.7 | スギ | 四隅丸く加工 釘穴 4 | 544 |
| 44 | 12 | SD43 | | 2 層 | 指物 | 板目 | 24.5 | 3.5 | 3.3 | 0.8 | スギ | 釘穴 6 木 62 と同一個体か | 63 |
| 44 | 13 | SD43 | | 2 層 | 指物 | 板目 | 24.5 | 3.3 | 3.1 | 0.8 | スギ | 釘穴 6 うち木釘残存 1 木 63 と同一個体か | 62 |
| 45 | 1 | SD15 | | | 露卯下駄 | 台・歯板目 | (13.8) | 台幅 7.0 | 歯幅 13.3 | 台厚 2.5 | ケヤキ | 全高 9.5cm 歯厚 1.1cm | 27 |
| 45 | 2 | SD41 | | 2 層 | 差歯下駄歯 | 柾目 | 11.8 | (8.1) | (3.3) | 1.4 | ケヤキ | 付着物有 | 43 |

| 図版番号 | 挿図番号 | 出土地点 | | | 器種 | 木取り | 法量（cm） | | | | 樹種 | 備考 | 木No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構 | | 層 | | | 全長 | 最大幅 | 最小幅 | 最大厚 | | | |
| 45 | 3 | SE10 | | | 下駄歯 | 輪切り材 | 7.2 | 8.2 | (4.8) | 2.9 | スギ | 木 336 とセットか | 337 |
| 45 | 4 | SE10 | | | 下駄歯 | 輪切り材 | 7.6 | 9.0 | 8.2 | 4.0 | スギ | 木 337 とセットか | 336 |
| 45 | 5 | SD15 | | | 札 | 板目 | (20.9) | 3.9 | － | 0.8 | スギ | 抉り４ヶ所 炭化・付着物有 | 21 |
| 45 | 6 | SK50 | | | 荷札 | 柾目 | 21.0 | 3.6 | － | 0.6 | スギ | | 551 |
| 45 | 7 | SE9 | | | 荷札 | 板目 | 11.2 | 2.8 | 0.6 | 0.6 | スギ | 片面に墨書有 | 313 |
| 45 | 8 | SD45 | | | 端材 | 板目 | 13.8 | 2.9 | － | 1.6 | スギ | 抉り有 | 592 |
| 45 | 9 | SD37 | | | 端材 | 板目 | 3.4 | 3.5 | － | 2.1 | スギ | | 35 |
| 45 | 10 | SK50 | | | 端材 | 輪切り材 | 3.5 | 3.0 | 2.6 | 2.8 | スギ | | 559 |
| 45 | 11 | SD43 | | 下層 | 端材 | 板目 | 6.5 | 4.6 | － | 1.7 | スギ | 墨線有 | 712 |
| 45 | 12 | SD57 | | | 端材 | 板目 | 10.6 | 3.5 | － | 2.2 | スギ | | 47 |
| 45 | 13 | SD15 | | | 端材 | 板目 | 12.4 | 3.1 | － | 0.9 | スギ | 階段状の切込有 | 24 |
| 45 | 14 | SP227 | | | 端材 | 柾目 | 9.7 | 5.3 | 3.9 | 3.0 | スギ | 片端細く切落し | 695 |
| 46 | 1 | SE13 | | | 端材 | 板目 | 13.6 | 4.9 | － | 3.3 | スギ | 枘穴１ | 375 |
| 46 | 2 | SE13 | | | 端材 | 板目 | 14.0 | 4.8 | 2.2 | 3.1 | スギ | 直角の切込有 | 406 |
| 46 | 3 | SE15 | | | 端材 | 板目 | 19.1 | 15.5 | 9.8 | 3.2 | スギ | 角を丸く切落す | 488 |
| 46 | 4 | SE6 | | | 端材 | 板目 | (16.0) | 7.1 | 4.6 | 2.3 | スギ | 片端角斜め | 158 |
| 46 | 5 | SE14 | | | 端材 | 板目 | 9.6 | 4.3 | － | 1.6 | アサダ | 中央に穴有 片端斜め切落し | 457 |

## 第 13 表　井戸材観察表

| 図版番号 | 挿図番号 | 出土地点 | | | 器種 | 木取り | 法量（cm） | | | | 接合 | 樹種 | 備考 | 木No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構 | 地区 | 位置番号 | | | 全長 | 最大幅 | 最小幅 | 最大厚 | | | | |
| 48 | 1 | SE4 | E7 | | 足場材 | 丸木 | 82.0 | 10.2 | － | 8.2 | | クリ | | 569 |
| 48 | 2 | SE4 | E7 | | 井戸側桟木 | 板目 | 87.7 | 10.5 | 3.2 | 4.0 | | スギ | 両端凸 釘穴６各々貫通か うち鉄釘残存２ 炭化有 | 568 |
| 48 | 3 | SE4 | E7 | | 井戸側桟木 | 追柾目 | (68.5) | 9.5 | － | 5.0 | | スギ | 中央に溝 枘に鉄釘残存１ | 564 |
| 48 | 4 | SE4 | E7 | | 井戸側隅柱 | 丸木削り出し | (54.4) | 7.5 | － | 6.9 | | スギ | 木 565 と同一材か | 566 |
| 48 | 5 | SE4 | E7 | | 井戸側隅柱 | 丸木削り出し | (31.2) | 6.9 | － | 7.5 | | スギ | 木 566 と同一材か | 565 |
| 49 | 1 | SE6 | C15 | №１ | 井戸側桶材 | 板目 | 99.1 | 8.6 | 5.6 | 3.5 | 外面№１、№８と接合 | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 7.0cm 横 4.3cm 下端左角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 106 |
| 49 | 2 | SE6 | C15 | №２ | 井戸側桶材 | 板目 | 100.9 | 8.6 | 6.4 | 3.0 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 6.3cm 横 3.7cm 下端左角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 107 |
| 49 | 3 | SE6 | C15 | №３ | 井戸側桶材 | 板目 | 98.2 | 8.0 | 7.9 | 3.2 | | スギ | 筏穴２ヶ所（上）角材埋め込み 縦 6.7cm 横 3.7cm（下）縦 5.5cm 横 4.0cm 外面箍痕 内面付着物有 | 108 |
| 49 | 4 | SE6 | C15 | №４ | 井戸側桶材 | 板目 | 98.8 | 7.5 | 4.4 | 3.3 | 外面№27、№34 №４と接合 内面№６、№４と接合 | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 7.5cm 横 4.2cm 下端左角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 109 |
| 49 | 5 | SE6 | C15 | №５ | 井戸側桶材 | 板目 | 98.6 | 7.4 | － | 3.0 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 9.0cm 横 3.8cm 下端右角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 110 |
| 49 | 6 | SE6 | C15 | №６ | 井戸側桶材 | 板目 | 100.1 | 8.0 | 7.5 | 3.0 | 内面№６、№４と接合 | スギ | 外面箍痕 内外側面付着物有 | 111 |
| 49 | 7 | SE6 | C15 | №７ | 井戸側桶材 | 板目 | 98.3 | 10.0 | 8.8 | 3.1 | | スギ | 外面箍痕 内外面付着物有 | 112 |
| 49 | 8 | SE6 | C15 | №８ | 井戸側桶材 | 板目 | (93.8) | 7.3 | － | 3.3 | 外面№１、№８と接合 | スギ | 筏穴１ヶ所 幅 4.2cm 外面箍痕 内面付着物有 | 113 |
| 50 | 1 | SE6 | C15 | №９ | 井戸側桶材 | 板目 | (88.1) | 7.0 | － | 2.8 | 外面№９、№48 と接合 | スギ | 筏穴１ヶ所 幅 3.0cm 外面箍痕、内面付着物有 | 114 |
| 50 | 2 | SE6 | C15 | №10 | 井戸側桶材 | 板目 | (98.3) | 8.0 | － | 3.1 | | スギ | 筏穴２ヶ所(上)角材埋め込み 縦 7.0cm 横 4.5cm（下）縦（7.0cm）横 4.0cm 外面箍痕 内面付着物有 | 115 |
| 50 | 3 | SE6 | C15 | №11 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.1 | 9.5 | 6.8 | 3.2 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 8.0cm 横 4.2cm 下端左角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 116 |
| 50 | 4 | SE6 | C15 | №12 | 井戸側桶材 | 板目 | 99.7 | 7.2 | 3.5 | 3.3 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 5.5cm 横 3.5cm 下端左角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 117 |
| 50 | 5 | SE6 | C15 | №13 | 井戸側桶材 | 板目 | 99.5 | 6.5 | 4.0 | 3.2 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 7.0cm 横 4.0cm 下端右角斜め 外面箍痕 内面側面付着物有 | 118 |
| 50 | 6 | SE6 | C15 | №14 | 井戸側桶材 | 板目 | (89.1) | 6.5 | － | 3.0 | | スギ | 筏穴１ヶ所（一部破損）幅 3.5cm 外面箍痕 内面付着物有 | 119 |
| 50 | 7 | SE6 | C15 | №15 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.0 | 6.4 | 4.1 | 3.1 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 7.0cm 横 4.0cm 下端左角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 120 |
| 50 | 8 | SE6 | C15 | №16 | 井戸側桶材 | 板目 | 96.8 | 8.9 | 7.4 | 3.1 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 5.5cm 横 3.5cm 外面箍痕有 | 121 |
| 51 | 1 | SE6 | C15 | №17 | 井戸側桶材 | 板目 | 97.9 | 8.2 | － | 2.7 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 8.5cm 横 4.0cm 下端右角斜め 外面箍痕・刃物痕有 | 122 |
| 51 | 2 | SE6 | C15 | №18 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.3 | 6.7 | 6.5 | 2.9 | | スギ | 下端鋸痕 外面箍痕有 | 123 |
| 51 | 3 | SE6 | C15 | №19 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.1 | 7.2 | 4.8 | 3.3 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 5.5cm 横 3.0cm 下端左角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 124 |
| 51 | 4 | SE6 | C15 | №20 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.5 | 6.3 | 4.0 | 3.3 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 9.0cm 横 4.0cm 下端右角斜め 外面箍痕有 | 125 |
| 51 | 5 | SE6 | C15 | №21 | 井戸側桶材 | 板目 | 97.9 | 8.0 | 6.4 | 3.2 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 9.0cm 横 4.0cm 外面箍痕有 | 126 |
| 51 | 6 | SE6 | C15 | №22 | 井戸側桶材 | 板目 | 97.0 | 7.5 | － | 3.1 | | スギ | 穿孔１ヶ所 幅 3.0cm 下端鋸痕 外面箍痕有 | 127 |
| 51 | 7 | SE6 | C15 | №23 | 井戸側桶材 | 板目 | 96.5 | 7.6 | 6.6 | 3.0 | | スギ | 筏穴２ヶ所(上)角材埋め込み 縦 6.5cm 横 4.0cm（下）縦 5.5cm 横 3.5cm 外面箍痕有 | 128 |
| 51 | 8 | SE6 | C15 | №24 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.0 | 7.0 | 4.5 | 3.0 | 外面№24、№29 と接合 | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 8.0cm 横 3.0cm 下端左角斜め 外面箍痕有 | 129 |
| 52 | 1 | SE6 | C15 | №25 | 井戸側桶材 | 板目 | 96.8 | 6.7 | 4.3 | 3.2 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 6.0cm 横 3.0cm 下端右角斜め 外面箍痕有 | 130 |
| 52 | 2 | SE6 | C15 | №26 | 井戸側桶材 | 板目 | (89.8) | 9.2 | － | 2.9 | | スギ | 筏穴２ヶ所（上）角材埋め込み 縦 7.0cm 横 4.0cm（下破損有 幅 4.0cm 外面箍痕 内面付着物有 | 131 |
| 52 | 3 | SE6 | C15 | №27 | 井戸側桶材 | 板目 | 97.9 | 7.4 | 4.3 | 3.4 | 外面№27、№34、№４と接合 | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 5.0cm 横 3.5cm 下端右角斜め 外面箍痕有 | 132 |
| 52 | 4 | SE6 | C15 | №28 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.9 | 9.2 | 5.4 | 3.4 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 7.0cm 横 3.5cm 下端右角斜め 外面箍痕有 | 133 |
| 52 | 5 | SE6 | C15 | №29 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.1 | 7.1 | － | 3.4 | 外面№24、№29 と接合 | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 6.0cm 横 3.0cm 下端右角斜め 外面箍痕有 | 134 |
| 52 | 6 | SE6 | C15 | №30 | 井戸側桶材 | 板目 | 99.0 | 8.4 | 4.3 | 3.0 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 7.0cm 横 4.2cm 下端左角斜め 外面箍痕有 | 135 |

| 図版番号 | 挿図番号 | 出土地点 | | | 器種 | 木取り | 法量（cm） | | | | 接合 | 樹種 | 備考 | 木No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構 | 地区 | 位置番号 | | | 全長 | 最大幅 | 最小幅 | 最大厚 | | | | |
| 52 | 7 | SE6 | C15 | №31 | 井戸側桶材 | 板目 | (77.5) | 6.5 | − | 3.0 | 外面№39、№31と接合 | スギ | 外面箍痕有 | 136 |
| 52 | 8 | SE6 | C15 | №32 | 井戸側桶材 | 板目 | 99.6 | 7.7 | 4.4 | 3.0 | 内面№36、№32と接合 | スギ | 茨穴１ヶ所 縦8.0cm 横4.0cm<br>下端右角斜め 外面箍痕有 | 137 |
| 53 | 1 | SE6 | C15 | №33 | 井戸側桶材 | 板目 | 96.7 | 7.4 | 4.0 | 3.1 | | スギ | 茨穴１ヶ所 縦6.8cm 横3.5cm<br>下端右角斜め 外面箍痕有 | 138 |
| 53 | 2 | SE6 | C15 | №34 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.6 | 8.8 | 7.0 | 3.0 | 外面№27、№34、№4と接合 | スギ | 茨穴１ヶ所 縦6.5cm 横4.0cm<br>外面箍痕有 | 139 |
| 53 | 3 | SE6 | C15 | №35 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.4 | 6.7 | 4.4 | 3.1 | | スギ | 茨穴１ヶ所 縦7.5cm 横3.6cm 下端左角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 140 |
| 53 | 4 | SE6 | C15 | №36 | 井戸側桶材 | 板目 | 99.5 | 8.0 | 4.8 | 3.0 | 内面№36、№32と接合 | スギ | 茨穴１ヶ所 縦7.0cm 横4.0cm<br>下端左角斜め 外面刃物痕・箍痕 内面付着物有 | 141 |
| 53 | 5 | SE6 | C15 | №37 | 井戸側桶材 | 板目 | 99.1 | 8.3 | 5.1 | 3.4 | | スギ | 茨穴１ヶ所 縦7.0cm 横4.0cm 下端右角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 142 |
| 53 | 6 | SE6 | C15 | №38 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.0 | 8.2 | 7.5 | 3.2 | | スギ | 茨穴２ヶ所（上）角材埋め込み 縦6.5cm 横4cm（下）縦6.0cm 横3.5cm 外面箍痕 内面側面付着物有 | 143 |
| 53 | 7 | SE6 | C15 | №39 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.9 | 8.0 | 6.6 | 3.2 | 外面№39、№31と接合 | スギ | 下端鋸痕有 外面箍痕 内面付着物有 | 144 |
| 53 | 8 | SE6 | C15 | №40 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.2 | 7.6 | 4.2 | 3.3 | | スギ | 茨穴１ヶ所 縦6.5cm 横4.5cm 下端左角斜め 外面箍痕・付着物有 | 145 |
| 54 | 1 | SE6 | C15 | №41 | 井戸側桶材 | 板目 | 98.7 | 6.0 | 5.3 | 3.0 | | スギ | 茨穴１ヶ所下半切断 幅3.5cm<br>下端鋸痕有 | 146 |
| 54 | 2 | SE6 | C15 | №42 | 井戸側桶材 | 板目 | (98.3) | 6.9 | − | 3.1 | | スギ | 茨穴１ヶ所破損有 幅4.0cm 外面付着物有 | 147 |
| 54 | 3 | SE6 | C15 | №43 | 井戸側桶材 | 板目 | 99.4 | 7.4 | 4.2 | 3.2 | | スギ | 茨穴1ヶ所 縦6.0cm 横3.5cm 下端右角斜め 外面箍痕 内外側面付着物有 | 148 |
| 54 | 4 | SE6 | C15 | №44 | 井戸側桶材 | 板目 | (100.3) | 6.9 | − | 3.1 | | スギ | 茨穴１ヶ所破損有 幅4.0cm<br>外面付着物有 | 149 |
| 54 | 5 | SE6 | C15 | №45 | 井戸側桶材 | 板目 | 99.8 | 8.0 | 5.5 | 3.2 | | スギ | 茨穴１ヶ所 縦7.0cm 横3.5cm 下端左角斜め 外面箍痕・刃物痕有 | 150 |
| 54 | 6 | SE6 | C15 | №46 | 井戸側桶材 | 板目 | 100.6 | 7.6 | 7.1 | 3.5 | | スギ | 茨穴１ヶ所 幅2.5cm 下端鋸痕有 外面箍痕 内外側面付着物有 | 151 |
| 54 | 7 | SE6 | C15 | №47 | 井戸側桶材 | 板目 | 97.8 | 6.6 | 4.2 | 2.9 | | スギ | 茨穴１ヶ所 縦7.5cm 横3.5cm 下端右角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 152 |
| 54 | 8 | SE6 | C15 | №48 | 井戸側桶材 | 板目 | 97.6 | 6.8 | 3.1 | 3.1 | 外面№9、№48と接合 | スギ | 茨穴１ヶ所 縦7.0cm 横3.5cm 下端左角斜め 外面箍痕 内面付着物有 | 153 |
| 55 | 1 | SE9 | B15･16 | | 水溜曲物 | 柾目 | (210.8) | (19.0) | − | 0.4 | | スギ | 樹皮綴じ１ヶ所 樹皮幅1.3cm | 282 |
| 55 | 2 | SE9 | B15･16 | | 水溜曲物 | 追柾目 | (201.0) | (39.0) | − | 0.8 | | スギ | ケビキ有 樹皮綴じ２ヶ所 樹皮幅1.3cm | 294 |
| 55 | 3 | SE9 | B15･16 | | 水溜曲物 | 板目 | − | − | − | − | | スギ | ケビキ有 樹皮綴じ１ヶ所 樹皮幅1.5cm | 288 |
| 55 | 4 | SE9 | B15･16 | | 水溜曲物 | 板目 | (98.9) | 11.9 | − | 1.2 | | スギ | ケビキ有 樹皮綴じ１ヶ所 釘穴11うち６ヶ所木釘残 樹皮幅1.7cm | 289 |
| 55 | 5 | SE9 | B15･16 | | 水溜曲物 | 柾目 | 37.8 | 10.0 | − | 0.4 | | スギ | | 291 |
| 55 | 6 | SE9 | B15･16 | | 水溜曲物 | 柾目 | 24.1 | 12.5 | − | 0.3 | | スギ | | 290 |
| 56 | 1 | SE10 | C12 | １段目東 | 井戸側桟木 | 板目 | 78.6 | 10.5 | − | 2.8 | | スギ | 両端凹 内面端部に凸材圧痕有 | 208 |
| 56 | 2 | SE10 | C12 | １段目西 | 井戸側桟木 | 板目 | 76.8 | 9.5 | − | 2.2 | | スギ | 両端凹 表面切込み 内面端部に凸材圧痕有 | 209 |
| 56 | 3 | SE10 | C12 | １段目南 | 井戸側桟木 | 板目 | 77.5 | 9.0 | 3.3 | 2.7 | | スギ | 両端凸 外面側板圧痕有 | 210 |
| 56 | 4 | SE10 | C12 | １段目北 | 井戸側桟木 | 板目 | (73.8) | 9.3 | − | 2.9 | | スギ | 両端凸 | 211 |
| 56 | 5 | SE10 | C12 | ２段目 | 井戸側桟木 | 板目 | 79.1 | 11.0 | − | 2.7 | | スギ | 両端凹 外面側板圧痕、内面端部に凸材圧痕有 | 212 |
| 56 | 6 | SE10 | C12 | ２段目 | 井戸側桟木 | 板目 | 77.6 | 10.4 | − | 3.3 | | スギ | 両端凹 抉り有 内面に桟木圧痕、外面に側板圧痕有 | 87 |
| 56 | 7 | SE10 | C12 | ２段目 | 井戸側桟木 | 板目 | 78.5 | 10.5 | 3.6 | 3.0 | | スギ | 両端凸 | 88 |
| 57 | 1 | SE10 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (159.6) | 10.6 | − | 2.2 | | スギ | 茨穴１ヶ所 縦5.0cm 横4.0cm | 83 |
| 57 | 2 | SE10 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (142.6) | 13.4 | − | 2.6 | | スギ | 桟木圧痕有 | 82 |
| 57 | 3 | SE10 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (126.5) | 10.1 | − | 1.8 | 木85と接合 | スギ | 茨穴１ヶ所 縦5.0cm 横4.0cm<br>桟木圧痕有 | 84 |
| 57 | 4 | SE10 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (109.4) | 9.6 | − | 1.2 | 木84と接合 | スギ | 茨穴１ヶ所 縦6.0cm 横4.5cm<br>桟木圧痕有 | 85 |
| 58 | 1 | SE11 | C12 | | 井戸側曲物 | 柾目 | 直径<br>61.6 | 67.4 | − | 0.3<br>全高<br>(9.4) | | スギ | 長さ205cm 内側一部にケビキ有 樹皮綴じ１ヶ所 木241の外側 | 242 |
| 58 | 2 | SE11 | C12 | | 井戸側曲物 | 柾目 | 直径<br>63.8 | 65.6 | − | 0.2<br>全高<br>(10.2) | | スギ | 長さ205.4cm 樹皮綴じ１ヶ所 | 241 |
| 58 | 3 | SE11 | C12 | | 井戸側材 | 柾目 | 180.0 | 2.4 | − | 0.3 | | スギ | | 243 |
| 59 | 1 | SE13 | C12 | | 板材 | 板目 | (39.3) | 9.7 | − | 0.8 | 木372と接合 | スギ | 井戸側材の落込みか | 376 |
| 59 | 2 | SE13 | C12 | | 板材 | 板目 | (40.8) | 9.8 | − | 1.0 | 木376と接合 | スギ | 井戸側材の落込みか | 372 |
| 59 | 3 | SE13 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (31.8) | 12.2 | − | 1.0 | 木387と接合 | スギ | 中央に虫食穴有 | 390 |
| 59 | 4 | SE13 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (37.6) | 12.0 | − | 1.2 | 木390と接合 | スギ | | 387 |
| 59 | 5 | SE13 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (42.8) | 10.5 | − | 1.6 | 木393と接合 | スギ | 付着物有 | 391 |
| 59 | 6 | SE13 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (28.3) | 11.1 | − | 1.7 | 木391と接合 | スギ | | 393 |
| 59 | 7 | SE13 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (80.3) | 8.9 | − | 1.8 | 木388と接合 | スギ | 削り痕 付着物有 | 386 |
| 59 | 8 | SE13 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (75.5) | 9.5 | − | 1.2 | 木386と接合 | スギ | 桟木圧痕有 | 388 |
| 59 | 9 | SE13 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (54.5) | 11.8 | − | 0.9 | 木382、380と接合 | スギ | 桟木圧痕有 | 394 |
| 59 | 10 | SE13 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (60.8) | 11.5 | − | 1.1 | 木394、380と接合 | スギ | 桟木圧痕有 | 382 |
| 59 | 11 | SE13 | C12 | | 井戸側板 | 板目 | (58.7) | 11.8 | − | 1.5 | 木394、382と接合 | スギ | | 380 |
| 60 | 1 | SE13 | C12 | | 井戸側桟木 | 板目 | 81.8 | 8.6 | 4.0 | 3.7 | | スギ | 両端凸加工 溝状の削り有<br>側板圧痕有 | 397 |
| 60 | 2 | SE13 | C12 | | 井戸側桟木 | 板目 | 80.9 | 9.5 | 4.2 | 3.5 | | スギ | 両端凸加工 刃物痕、側板圧痕有 | 398 |
| 60 | 3 | SE13 | C12 | | 井戸側桟木 | 板目 | 84.6 | 11.0 | − | 4.0 | | スギ | 両端凹加工 | 399 |
| 60 | 4 | SE13 | C12 | | 井戸側桟木 | 板目 | 83.4 | 11.4 | − | 4.0 | | スギ | 両端凹加工 溝状の削り有 | 400 |
| 61 | 1 | SE14 | C12 | | 板材 | 板目 | (39.9) | 10.5 | − | 1.4 | 木450、431と接合 | スギ | | 454 |
| 61 | 2 | SE14 | C12 | | 板材 | 板目 | (45.1) | 10.5 | − | 0.9 | 木454、450と接合 | スギ | | 431 |
| 61 | 3 | SE14 | C12 | | 板材 | 板目 | (34.0) | 10.5 | − | 0.8 | 木454、431と接合 | スギ | | 450 |
| 61 | 4 | SE14 | C12 | | 板材 | 板目 | (30.1) | 10.5 | − | 0.9 | | スギ | | 411 |
| 61 | 5 | SE14 | C12 | | 板材 | 板目 | 50.0 | 4.2 | − | 0.6 | | スギ | 切込み有 | 438 |
| 61 | 6 | SE12 | C12 | | 足場材 | 丸木 | 98.5 | 12.1 | − | 11.7 | | マツ属複維管束亜属 | 両端加工有 樹皮残存 | 356 |

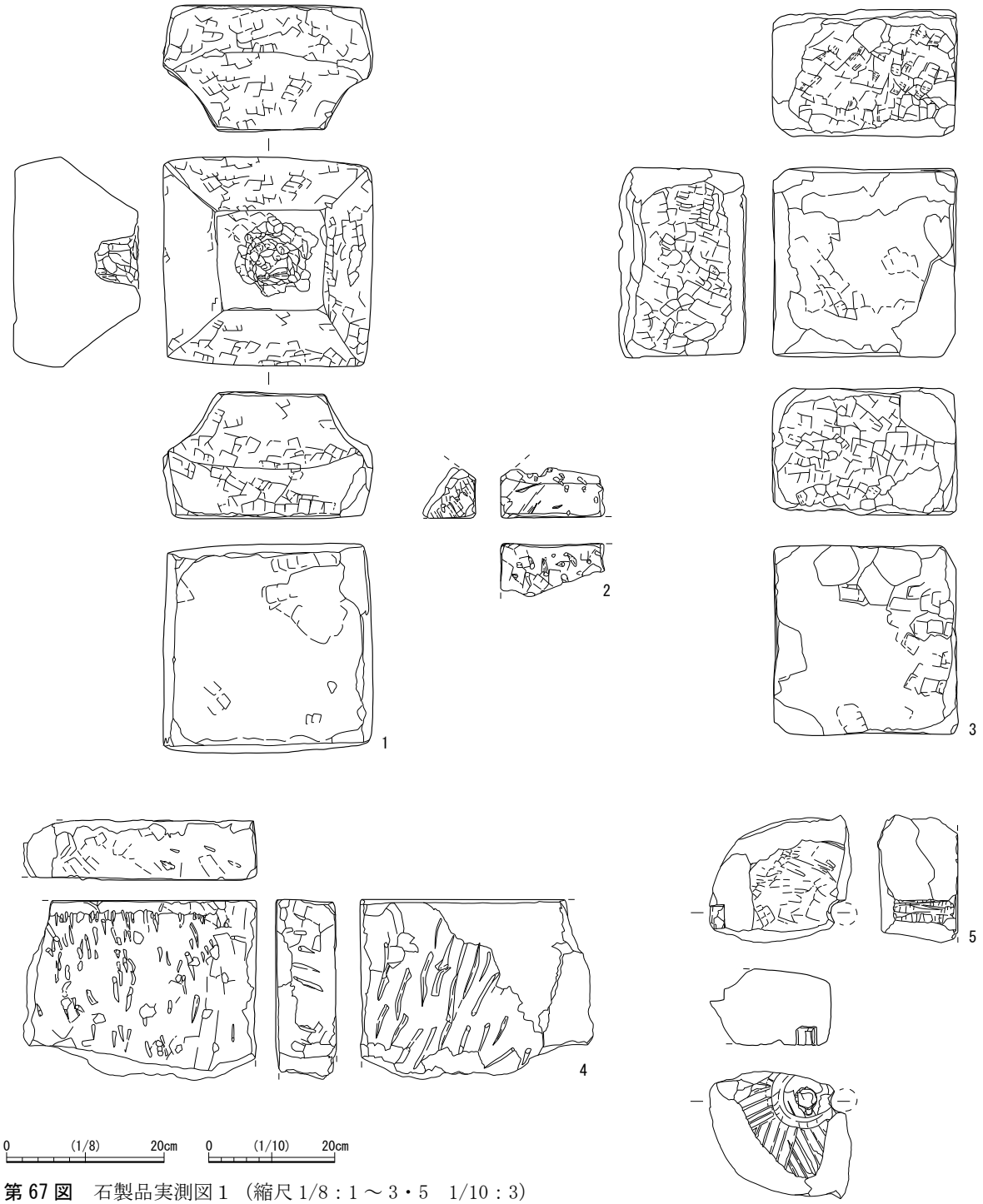
| 図版番号 | 挿図番号 | 出土地点 | | | 器種 | 木取り | 法量（cm） | | | | 接合 | 樹種 | 備考 | 木No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構 | 地区 | 位置番号 | | | 全長 | 最大幅 | 最小幅 | 最大厚 | | | | |
| 61 | 7 | SE12 | C12 | | 足場材 | 丸木 | 63.0 | 14.4 | 11.0 | 16.2 | | ケヤキ | 表面加工有 片端加工有 | 351 |
| 61 | 8 | SE12 | C12 | | 足場材 | 丸木 | 90.9 | 7.3 | － | 6.6 | | ヤナギ属 | 片端切断痕有 | 354 |
| 62 | 1 | SE17 | C14 | | 井戸側桶材 | 板目 | 237.3 | 9.5 | － | 3.9 | | スギ | 枘穴片側３ヶ所 反対側２ヶ所有 | 104 |
| 62 | 2 | SE17 | C14 | | 井戸側桶材 | 板目 | 235.5 | 8.9 | － | 3.5 | | スギ | 両側面枘穴各２ヶ所 下端に階段状の切込み一段有 | 103 |
| 62 | 3 | SE17 | C14 | | 井戸側桶材 | 板目 | 218.4 | 9.1 | － | 3.5 | | スギ | 両側面枘穴各２ヶ所 | 102 |
| 63 | 1 | SE18 | C13 | 東３ | 井戸側板 | 板目 | (168.8) | 43.0 | － | 4.2 | | スギ | 筏穴２ヶ所（内側（右）縦 3.5cm 横 7.5cm（左）縦 4.0cm 横 6.5cm） | 98 |
| 63 | 2 | SE18 | C13 | 東８ | 井戸側板 | 板目 | (137.0) | 33.5 | － | 3.6 | | スギ | | 99 |
| 63 | 3 | SE18 | C13 | 東４ | 井戸側板 | 板目 | (53.2) | 11.7 | － | 2.6 | | スギ | 筏穴１ヶ所 縦 4.0cm 横 3.4cm 下端両角斜 桟木圧痕有 | 92 |
| 63 | 4 | SE18 | C13 | 東 10 | 井戸側板 | 板目 | (63.8) | (13.5) | － | 2.4 | 100 と接合 | スギ | 外面に桟木圧痕有 | 95 |
| 63 | 4 | SE18 | C13 | 東７ | 井戸側板 | 板目 | (49.8) | (14.7) | － | 3.0 | 95 と接合 | スギ | 外面に桟木圧痕有 | 100 |
| 63 | 5 | SE18 | C13 | 北２ | 井戸側板 | 板目 | (88.0) | 11.4 | － | 2.6 | 95 と接合 | スギ | | 96 |
| 64 | 1 | SE18 | C13 | 北１ | 井戸側板 | 板目 | (173.6) | 10.4 | － | 4.1 | | スギ | 外面に桟木圧痕有 | 89 |
| 64 | 2 | SE18 | C13 | 東 10 | 井戸側板 | 板目 | (99.7) | 15.3 | － | 2.1 | 木 97、93 と接合 | スギ | 外面に桟木圧痕有 | 90 |
| 64 | 3 | SE18 | C13 | 東９ | 井戸側板 | 追柾目 | (45.3) | 14.9 | － | 2.4 | 木 93、90 と接合 | スギ | 桟木圧痕有 | 97 |

**第 14 表**　柱根・杭観察表

| 図版番号 | 挿図番号 | 出土地点 | | | 器種 | 木取り | 法量（cm） | | | | 樹種 | 備考 | 木No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構 | 地区 | 層 | | | 全長 | 最大幅 | 最小幅 | 最大厚全高 | | | |
| 66 | 1 | SP174 | E3 | | 柱根 | みかん割 節部分使用 | 22.3 | 10.0 | － | 7.2 | スダジイ | | 694 |
| 66 | 2 | SP49 | E5 | | 柱根 | 丸木 | 26.8 | 10.3 | － | 8.0 | ケヤキ | | 691 |
| 66 | 3 | SP73 | D6 | | 柱根 | 芯無みかん割 | 36.0 | 14.8 | 9.4 | 14.5 | スギ | 面取り有 | 692 |
| 66 | 4 | SP227 | D6 | | 柱根 | 芯無みかん割 | 22.8 | 14.2 | 9.7 | 12.0 | スギ | 面取り有 | 698 |
| 66 | 5 | SP23 | E6 | | 柱根 | 芯無みかん割 | 全高 10.9 | 14.4 | － | 7.8 | スギ | 先端炭化 節部分使用 | 751 |
| 66 | 6 | SP82 | E3 | | 柱根 | 芯無みかん割 | (22.0) | 2.7 | － | 1.5 | スギ | | 693 |
| 66 | 7 | SP259 | E4 | | 柱根 | 丸木 | 17.0 | 9.8 | － | 8.7 | カエデ属 | | 697 |

## 第３節　石製品

石製品は、発掘調査で 97 点を採取し、そのうち状態の良好な 30 点を掲載した（第 67 ～ 69 図　第 15 表　写真図版第 23・24）。内訳は、石造塔、井桁石、挽臼、行火、火打石、竈、砥石、硯、紡輪、碁石で、石造塔３点・行火４点・砥石 16 点以外は各１点である。各製品の石材は砥石・硯・碁石が粘板岩、火打石がチャート、紡輪が滑石である以外は、いずれも凝灰岩である。なお、これらが出土した遺構は、一部に 13 世紀の遺物が混入するが、概ね 14 世紀後半から 15 世紀代の遺物が共伴する。そのため、これらは 15 世紀前半を前後する時期の石製品と認識される。以下、上記の種別順に報告する。

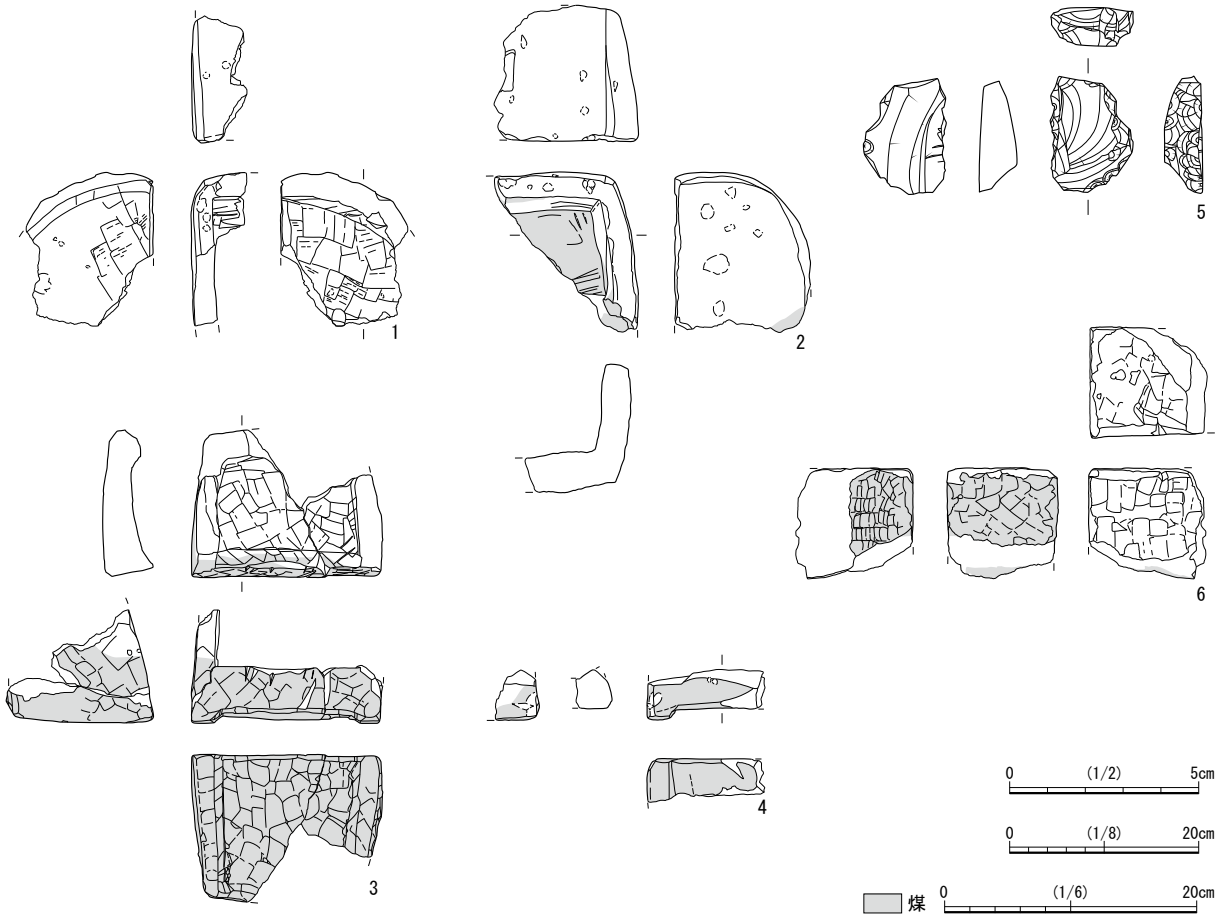



**第 67 図**　石製品実測図１（縮尺 1/8：1 ～ 3・5　1/10：3）

**石造塔**（第 67 図１～３）　五輪塔の火輪（１・２）、地輪（３）である。１は概ね完形で、上面に空風輪を組み合わせる円形の枘穴があり、軒が緩やかに反り上がる。梵字等は刻まれない。２は一隅部分の破片であり、砥石として転用されたようだが、裏の破断面に漆様の物質が付着しており修復を試みたことが窺える。２の軒部分は１と比較して薄く反りも小さいため、両者の時期差が把握される。なお、１が出土した SE4 は 15 世紀後半頃とみられる越前焼が、２が出土した SD49 は 14 世紀前半の瀬戸焼が出土しており、両者の時期差を反映するのかもしれない。３は概ね完形だが、梵字等は刻まれない。１と３は同一遺構出土であり、寸法も近似するため、一つの五輪塔を構成した可能性がある。いずれも、全体を平鑿で平滑に仕上げているが、２のみ粗成形の鶴嘴状工具の痕が消し切れずに残る。これらの石材は凝灰岩で、このうち２は笏谷石のようにも見えるが粒子が粗くて質が悪く、１・３は特に粗い。

**井桁石**（第 67 図４）　長方形板状の部材の一隅部分の破片である。全体に平鑿で平滑に仕上げるが、特に幅の狭い側面を丁寧に仕上げている。広い面は両面とも筋状の工具の痕が残るが、一方は密だが平鑿で削られて浅くなっており、他方は疎らだが長く明瞭である。丁寧に仕上げられた面が人目に付く表側になるとみられる。その縁の５cm 前後を特に平滑に仕上げており、別材を組み合わせたことが考えられるが、同様な石材を方形に組むと表側とみられる面が内側になる。そのため、井桁石あるいは井戸側を構成する部材と考えられる。石材は白色の凝灰岩である。

**挽臼**（第 67 図５）　上臼の破片であり、未貫通の軸受け孔、物配り孔の一部と挽手孔の一部が残る。また、軸受け孔のまわりに物配り孔から幅２㎝の深めの筋彫りが延びる。摺り目は８分画で６溝以上と




**第 68 図**　石製品実測図２（縮尺 1/6：1 ～ 4　1/2：5　1/8：6）

**第 69 図**　石製品実測図３（縮尺 1/3）

なる。石材は淡青灰色の凝灰岩で笏谷石のようである。

**行火**（第 68 図１～４）　石製行火は手焙り型・Ｄ型・楕円型があり、この順に出現し一部併行しながら変遷することが知られる。これらは手焙り型であり、１・２は上部から開口部にかけての破片、３は上部を欠くが正面から底部の大部分、４は正面開口部下端付近の破片である。完形品はないが、これらの破片から全体像が窺える。正面と両側面は平面的に立ち上がり、背後から天井部にかけては緩やかに丸みを帯びて延び、正面は長方形から台形に大きく開口する。開口部下の縁は、灰等の流出防止のために斜行して高く削り出す。底部は平らだが、左右両端を直線的に削り出した側脚が付く。全体に被熱しており、部分的だが広範囲に煤が付着する。石材は、一部に被熱による変色を認めるが、いずれも笏谷石とみられる。

**火打石**（第 68 図５）　歪な形状のチャートの塊であり、打ち欠いて形成した鋭利な稜の部分に、連続して並ぶ細かな使用痕が認められる。

**竈**（第 68 図６）　移動式竈の焚口付近の破片とみられるが、釜輪の形状等の詳細は不明である。上面と正面の間に面取りがある。内面と焚口側に煤が付着する。石材は白みを帯びた凝灰岩である。

**砥石**（第 69 図１～ 16）　断面形の短辺と長辺の長さの比が１：２以上で断面形が扁平な板状のもの（１～５）、断面形の辺長比が１：1.5 以上で断面形が長方形となるもの（６～８）、断面形が正方形に近い棒状のもの（10 ～ 12）、研ぎ耗等により歪な形状となるもの（14 ～ 16）がある。13 は破片であるが、もとは扁平な板状だったようだ。

**硯**（第 69 図 17）　陸側縁付近の破片であるが、縁の高まりが欠け、それに沿った筋彫りのみ残る。

**紡輪**（第 69 図 18）　概ね歪な円形で、中央の途中に段が付く円孔がある。その形状から、紡錘車の紡輪とした。石材は透明感のある滑石（ろう石）である。

**碁石**（第 69 図 19）　歪な円形の黒石である。

**第 15 表**　石製品観察表

| 図版番号 | 挿図番号 | 器種 | 出土地点 | | | 計測値（cm） | | | 石材 | 備考 | 石番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 地区 | 遺構 | 層 | 長 / 奥行 | 幅 | 厚 / 高 | | | |
| 67 | 1 | 火輪 | E7 | SK51 | － | 26.60 | 26.50 | 16.10 | 凝灰岩 | 上面に枘穴（直径 6.5cm） | 9 |
| 67 | 2 | 火輪 | B14 | SD49 | － | 1.85 | (13.20) | (6.30) | 凝灰岩 | 破片を砥石に転用 | 37 |
| 67 | 3 | 地輪 | E7 | SK51 | － | 23.50 | 24.20 | 16.20 | 凝灰岩 | | 7 |
| 67 | 4 | 不明 | D8 | SB2 | ２層 | (36.40) | (28.60) | 9.60 | 凝灰岩 | 組合式の井桁石あるいは井戸側部材 | 6 |
| 67 | 5 | 挽臼 | D4 | SK2 | － | (15.00) | (17.10) | (10.20) | 笏谷石 | 上臼　物配り孔　軸受け孔　挽き手孔 | 16 |
| 68 | 1 | 行火 | B･C12 | SD53 | － | 1.85 | (4.20) | 2.30/（12.00） | 笏谷石 | 内外面に平鑿痕（刃こぼれ有）被熱　煤付着 | 42 |
| 68 | 2 | 行火 | C12 | SD49 | 上層 | 1.85 | (11.30) | 3.20/（12.00） | 凝灰岩（笏谷石か） | 手焙り型　内外面被熱・煤付着 | 38 |
| 68 | 3 | 行火 | C13 | SD43 | 下層 | 1.85 | 15.20 | 3.80/（9.00） | 笏谷石 | 手焙り型　一部被熱 外面全体に煤付着 | 40･41 |
| 68 | 4 | 行火 | C12 | SD41 | 上層 | 1.85 | (9.30) | 3.10/（3.10） | 笏谷石 | 手焙り型　外面煤付着 | 27 |
| 68 | 5 | 竈 | D8 | 包含層 | － | (12.40) | 11.80 | (11.70) | 凝灰岩 | 焚口付近　上面の一辺に面取り　被熱　煤付着 | 5 |
| 68 | 6 | 火打石 | D9 | 客土 | － | 1.85 | 3.05 | 1.00 | チャート | | 71 |
| 69 | 1 | 砥石 | D10 | 客土 | － | 1.85 | 3.80 | 1.00 | 粘板岩 | 側面に切断痕有 | 73 |
| 69 | 2 | 砥石 | C12 | SD42 | 下層 | 1.85 | 3.20 | 1.10 | 粘板岩 | 側面に切断痕有 | 29 |
| 69 | 3 | 砥石 | C12 | SD42 | 上層 | 1.85 | 3.65 | 0.80 | 粘板岩 | 側面に切断痕有 | 28 |
| 69 | 4 | 砥石 | E2 | 客土 | － | 1.85 | 3.20 | 0.65 | 粘板岩 | | 64 |
| 69 | 5 | 砥石 | D5 | SD10 | － | (3.70) | 3.30 | (0.50) | 粘板岩 | 側面に切断痕有 | 18 |
| 69 | 6 | 砥石 | C9 | 客土 | － | 1.85 | 3.90 | 1.65 | 粘板岩 | | 69 |
| 69 | 7 | 砥石 | E4 | SE2 | － | 1.85 | 2.80 | 1.40 | 粘板岩 | 側面に切断痕有 一部煤付着 | 48 |
| 69 | 8 | 砥石 | D9 | SD39 | － | 1.85 | (4.65) | (2.90) | 粘板岩 | | 25 |
| 69 | 9 | 砥石 | D13 | 客土 | － | 1.85 | 3.15 | (3.20) | 粘板岩 | | 80 |
| 69 | 10 | 砥石 | C15･16 | SE6 | 井戸側 | 1.85 | (3.15) | 2.50 | 粘板岩 | | 53 |
| 69 | 11 | 砥石 | B13 | SD44 | 上層１ | 1.85 | 2.50 | 2.10 | 粘板岩 | | 33 |
| 69 | 12 | 砥石 | D4 | 客土 | － | 1.85 | (1.70) | 1.30 | 粘板岩 | | 66 |
| 69 | 13 | 砥石 | D7 | SD15 | － | (9.60) | (3.30) | 1.05 | 粘板岩 | 側面に切断痕有 | 21 |
| 69 | 14 | 砥石 | D11 | SP276 | － | 1.85 | 5.50 | 4.00 | 粘板岩 | | 45 |
| 69 | 15 | 砥石 | C13 | SD44 | － | 1.85 | 6.20 | 3.10 | 粘板岩 | 一部に煤付着 | 32 |
| 69 | 16 | 砥石 | D4 | 客土 | － | 1.85 | 8.60 | 4.20 | 粘板岩 | | 65 |
| 69 | 17 | 硯 | E4 | SD3 | － | (3.20) | (3.35) | (1.00) | 粘板岩 | 上面縁に線刻 | 19 |
| 69 | 18 | 紡輪 | C15･16･B16 | SD57 | － | 1.85 | (2.90) | 1.40 | 滑石（ろう石） | 中央に孔１　紡錘車の一部か | 43 |
| 69 | 19 | 碁石 | － | SD26 | － | 1.85 | 1.65 | 0.70 | 粘板岩 | 黒石 | 22 |

## 第４節　金属製品

金属製品は、発掘調査で 157 点を採取した。そのうち状態の良好なもの 124 点を掲載した（第 70 ～ 72 図　第 16・17 表　写真図版第 25 ～ 27）。内訳は武器等４点、生産具類 34 点、調度品等５点、日用品・その他 18 点、銭貨 63 点である。なお掲載した金属製品のほとんどが SD61 からの出土であり、それ以外は SD1・43・SK46 から各１点、遺構外・撹乱から６点が出土した。SD1・43 からは概ね 15 世紀代で一部 13 世紀頃に遡る陶磁器類が出土したが、SK46・SD61 は時期を特定し得る遺物が出土していない。ただし、SD61 は近世に下る煙管や寛永通寶が混入する。そのため、確実に遺跡の存続期間である 15 世紀代に比定し得る金属製品は多くない。以下、上記の種別順に報告する。

**武器等**（第 70 図１～４）　武器等としたが１・２は刀子のようである。ただし２は小柄小刀の刀身残欠の可能性がある。１は本来茎となる部分を細くせずに刃部より幅広い柄として整えて、刃部との境を抉るようにして関を形成する。別作りの柄は装着しなかったようである。３は装飾のない小柄の残欠である。４は表面に線刻模様のある笄だが、背面側が外れて笄形の偏平な銅板となる。耳掻部も欠く。

**生産具類**（第 70 図５～ 37・43）　生産具類は、工具類〔巻釘（５～ 27）、皆折釘（28・29）、釘状製品（30）、環状釘（31）、鎹（32 ～ 34）、錐（35）、小刀（36）〕、農具等〔鍬先（37）、紡径（43）〕がある。

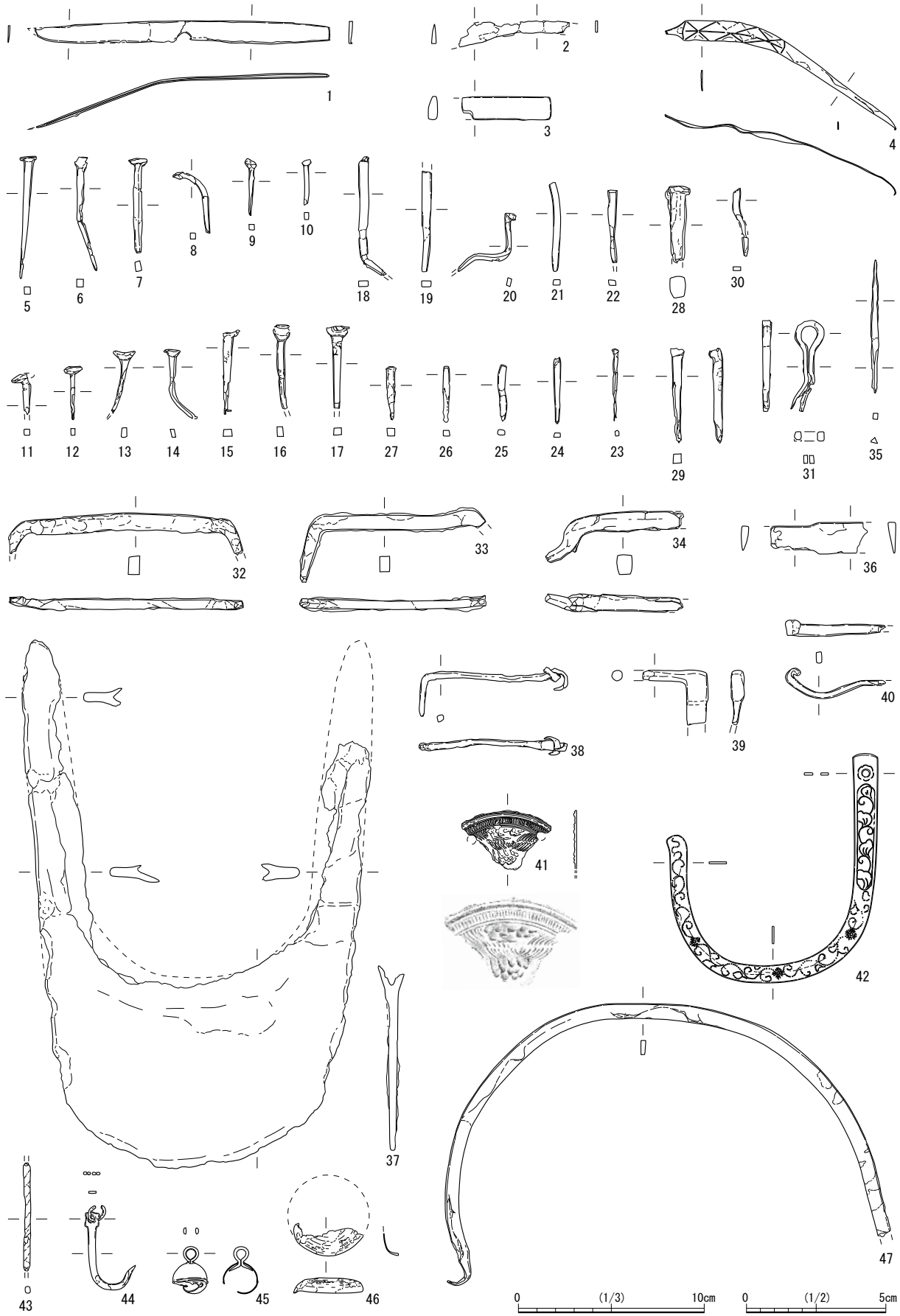
巻釘は、身幅に対する頭幅が１：2.5 以上のものを大巻釘（巻頭釘）、それより頭幅比の小さなものを小巻釘（頭巻釘）とした。５～ 10 が小巻釘、11 ～ 17 が大巻釘で、頭部が欠ける 18 ～ 27 は判別できない。皆折釘は、頭部を片側へ小さく折り曲げたような形状である。大小２種（28・29）ある。30 は、先端の尖る体部が釘と同様な形状のため釘状製品としたが、頭部が形成されず、ただ斜めに切断したような形状となる。環状釘（31）は、二つに折り曲げた屈曲部分を環状に整えて頭部とする。

鎹（32 ～ 34）は刃部が欠け、完形のものはないが、いずれも長さが 10 ～十数㎝になるとみられる。35 は、おそらく木製の柄を欠失した錐である。刃部の断面が三角形であり、三ツ目錐である。36 は工具としての小刀のようである。刃部と茎の大半を欠く、関付近の破片である。37 は、鍬先あるいは鋤先の刃部となる金具である。43 は両端を欠く棒状の製品だが、表面に螺旋状の稜線が巡る。その形状から紡錘車の紡茎と考えた。

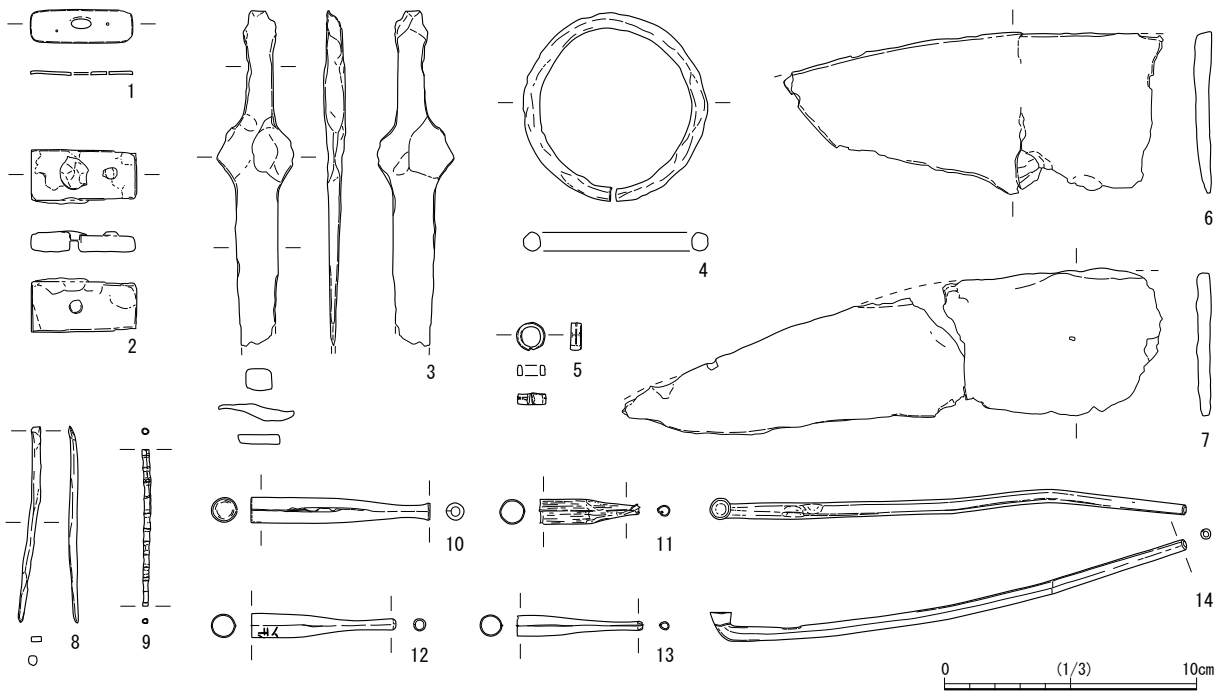
**調度品等**（第 70 図 38 ～ 42）　調度品等として、煽り止め（38）、錠前（39）、額受金具（40）、懸仏（41）、御簾留金具（42）を括った。38 はＬ字形金具の環状部に別の環状部が残る。39 は鞘から抜けた錠前本体の棒状部分の一部である。40 は形状から額受金具としたが、折釘が歪に屈曲したものの可能性もある。41 は直径十数㎝の円形に復元される破片である。仏像部分は残存しないが、残存する二つの円孔から、天蓋を表現した部分にあたるとみられる。42 は両面に蔓草模様が施される。円孔の周りを複数の短い円弧で円く囲んでおり、それぞれが花弁を表現するようにみえる。

**日用品・その他**（第 70 図 44 ～ 47・第 71 図１～ 14）　棹秤吊鈎（44）、鈴（45）、容器蓋（46）、鍋吊金具（47）、煙管（10 ～ 14）、その他の銙金具（９）や不明品（１～８）を括った。46 は青銅製の蓋で内面に赤色物質が付着していた。それが水銀朱でないことは確認されたが、ベンガラか鉛丹かは特定できていない。煙管のうち 10 ～ 13 は吸口で、14 は断面六角形の延煙管である。９は銅板を細く巻いて円筒形にしたもので、表面に竹の節のような凹凸が施される。１～８は用途不明の製品である。６・７は復元径約 65㎝の同一の円盤状製品となるとみられる。

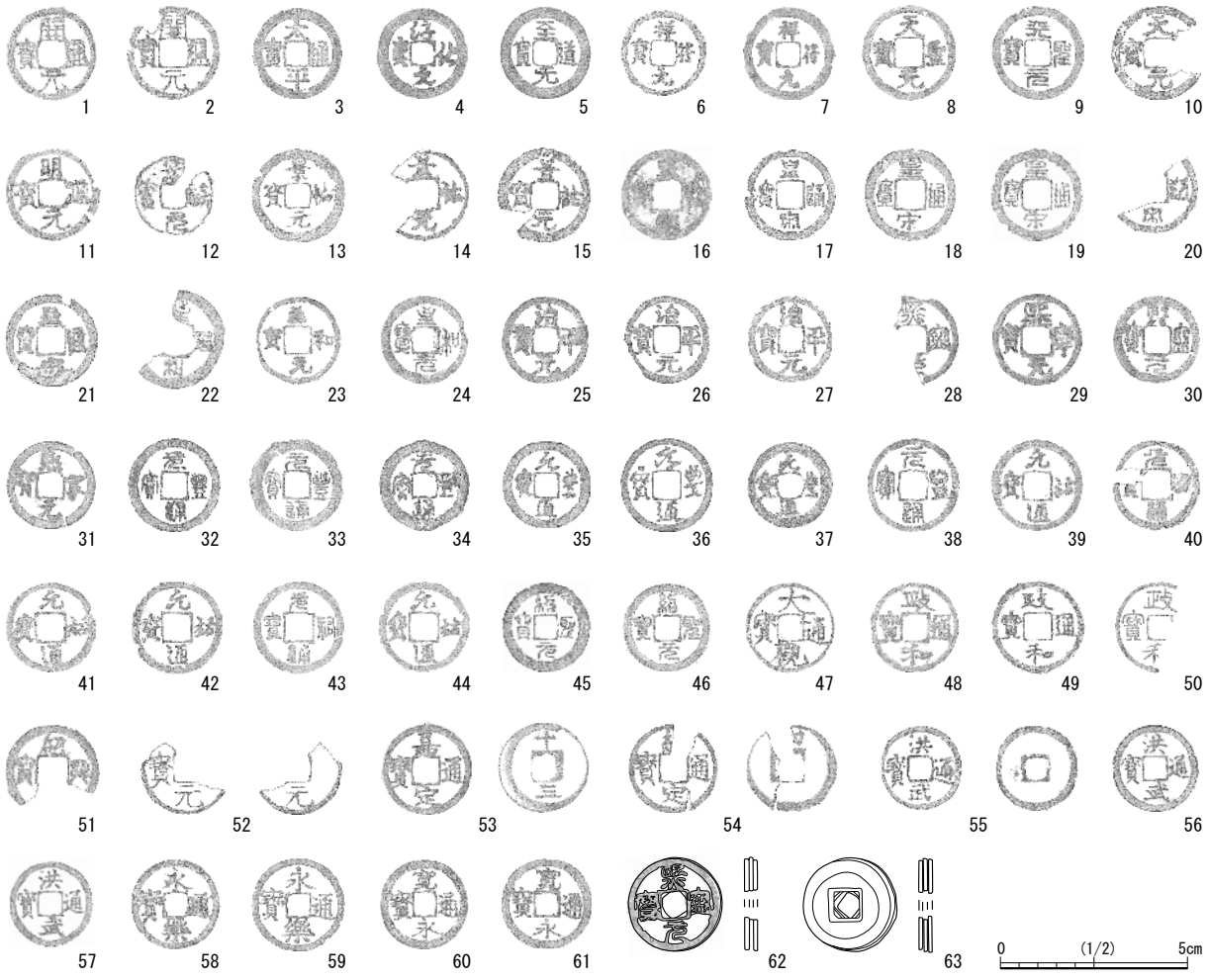
**銭貨**（第 72 図）　銭文の内訳は、開元通寶（１・２）、太平通寶（３）、淳化元寶（４）、至道元寶（５）、




**第 70 図**　金属製品実測図１（縮尺 1/3　拓影のみ 1/2）




**第 71 図**　金属製品実測図２（縮尺 1/3）




**第 72 図**　銭貨拓影図（縮尺 1/2）

祥符元寶（６・７）、天聖元寶（８～10）、明道元寶（11）、景祐元寶（12～15）、皇宗通寶（16～21）、至和通寶（22～24）、治平元寶（25～27）、熙寧元寶（28～31）、元豊通寶（32～38）、元祐通寶（39～44）、紹聖元寶（45・46）、大観通寶（47）、政和通寶（48～50）、紹興元寶（51）、紹熙元寶（52）、嘉定通寶（53）、紹定通寶（54）、洪武通寶（55～57）、永楽通寶（58・59）、寛永通寶（60・61）がある。

錆付いたままのもの（62・63）は、銭緡としてまとまっていたものの残りである。63は取り上げ時に10枚が貼り付いていたが、７枚（21・25・31・38・39・45・48）が剥がれた。同一遺構出土の11・26・51も63と同じ銭緡からはずれた可能性がある。62は３枚貼り付いているが、同一遺構から17・41・59が出土しており、同様にこれらも62と銭緡だった可能性がある。

**第16表**　金属製品観察表

| 図面番号 | 挿図番号 | 種別 | 材質 | 出土地点 | | | 計測値（cm） | | | | | （g） | 備考 | 通No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 遺構No. | 層位 | 地区 | 全長 | 幅 | 厚 | 釘頭高 | 釘頭幅 | 重さ | | |
| 70 | 1 | 小柄小刀 | 鉄 | SD43 | | B13 | (16.80) | (7.50) | 0.95 | | | 15.93 | | 17 |
| 70 | 2 | 刃 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (5.95) | (2.40) | 1.05 | | | 2.75 | 刃の一部 | 71 |
| 70 | 3 | 小柄 | 銅 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (4.80) | (4.15) | 1.20 | | | 8.04 | 小柄の一部 | 130 |
| 70 | 4 | 笄 | 銅 | SD1 | | D4 | (12.40) | 1.10 | 0.10 | | | 6.60 | | 16 |
| 70 | 5 | 釘　頭巻釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 6.60 | 0.30 | 0.40 | (0.20) | (0.90) | 4.05 | | 86 |
| 70 | 6 | 釘　頭巻釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 6.20 | 0.35 | 0.40 | (0.64) | (0.70) | 2.81 | 頭欠 | 76 |
| 70 | 7 | 釘　頭巻釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (5.10) | 0.30 | 0.50 | 0.20 | 1.00 | 2.72 | 先欠 | 116 |
| 70 | 8 | 釘　頭巻釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (4.30) | 0.25 | 0.30 | (0.50) | (0.60) | 1.17 | 先欠 | 100 |
| 70 | 9 | 釘　頭巻釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 3.02 | 0.30 | 0.30 | (0.50) | (0.60) | 1.01 | | 77 |
| 70 | 10 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (2.40) | 0.25 | 0.40 | (0.35) | (0.50) | 0.50 | 先欠 | 126 |
| 70 | 11 | 釘　巻頭釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (2.20) | 0.30 | 0.30 | (0.40) | (0.85) | 1.22 | 先欠 1/2 残存 | 135 |
| 70 | 12 | 釘　巻頭釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 2.90 | 0.23 | 0.32 | 0.40 | 1.00 | 1.00 | | 125 |
| 70 | 13 | 釘　巻頭釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (3.35) | 0.35 | 0.50 | 0.50 | 1.20 | 1.67 | 先欠 | 87 |
| 70 | 14 | 釘　巻頭釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (4.80) | 0.20 | 0.45 | 0.46 | 0.85 | 2.09 | 先欠 | 141 |
| 70 | 15 | 釘　巻頭釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (4.52) | 0.45 | 0.38 | (0.40) | (0.92) | 1.84 | 頭欠 | 73 |
| 70 | 16 | 釘　巻頭釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 4.40 | 0.32 | 0.53 | 0.72 | 0.91 | 1.69 | 先欠 | 113 |
| 70 | 17 | 釘　頭巻釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (4.40) | 0.40 | 0.35 | (0.20) | (1.20) | 1.55 | 先欠 | 140 |
| 70 | 18 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (7.65) | 0.30 | 0.50 | － | － | 5.61 | 頭欠・先欠 | 70 |
| 70 | 19 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (5.40) | 0.50 | 0.30 | － | － | 1.98 | 頭欠・先欠 | 115 |
| 70 | 20 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (4.90) | 0.20 | 0.40 | － | (0.60) | 2.74 | 頭欠 | 112 |
| 70 | 21 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (4.80) | 0.35 | 0.30 | － | － | 1.09 | 頭欠 | 117 |
| 70 | 22 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (3.90) | 0.35 | 0.30 | － | － | 2.11 | 頭欠・先欠 | 121 |
| 70 | 23 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (3.70) | 0.20 | 0.30 | (0.35) | (0.25) | 0.93 | ほぼ全面剥離 | 84 |
| 70 | 24 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (3.60) | 0.35 | 0.25 | － | － | 0.96 | 頭欠 | 137 |
| 70 | 25 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (3.00) | 0.40 | 0.25 | － | － | 0.74 | 頭欠・先欠 | 134 |
| 70 | 26 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (3.00) | 0.30 | 0.30 | － | － | 0.78 | 頭欠 | 124 |
| 70 | 27 | 釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (2.85) | 0.40 | 0.40 | (0.15) | (0.55) | 1.53 | 頭欠 | 69 |
| 70 | 28 | 不明 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (4.12) | 0.90 | 1.19 | 0.45 | 1.15 | 13.34 | 先欠 平折釘か矢 | 146 |
| 70 | 29 | 平折釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (5.10) | 0.45 | 0.50 | － | (0.70) | 2.94 | 頭欠 | 75 |
| 70 | 30 | 不明 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 4.20 | 0.40 | 0.20 | | | 0.82 | 釘状製品 | 132 |
| 70 | 31 | 環状釘 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 4.90 | (0.25) | 0.40 | 1.50 | (0.36) | 5.52 | 真書のみ | 129 |
| 70 | 32 | 鎹 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (11.20) | 1.70 | 1.00 | | | 24.35 | 両端先欠 | 67 |
| 70 | 33 | 鎹 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (8.80) | 3.70 | 0.85 | | | 13.70 | 片方先欠 | 90 |
| 70 | 34 | 鎹 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (6.40) | (2.80) | 1.05 | | | 18.45 | 2 分の 1 残存 | 89 |
| 70 | 35 | 錐 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 7.15 | 0.45 | 2.20 | | | 4.23 | 三ツ目錐 | 83 |
| 70 | 36 | 小刀 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (5.20) | (2.85) | 1.65 | | | 7.12 | 小刀の一部 | 103 |
| 70 | 37 | 鍬先 | 鉄 | SK46 | | D12 | 28.40 | 14.00 | 0.50 | | | 447.00 | | 14 |
| 70 | 38 | あおり止め | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 7.95 | 2.30 | 0.35 | | | 5.41 | | 119 |
| 70 | 39 | 錠前 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (3.55) | 2.95 | 0.70 | | | 8.73 | 錠前の一部 | 107 |
| 70 | 40 | 額受金具 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (5.35) | 1.60 | 0.30 | | | 6.18 | 額受金具？ | 68 |
| 70 | 41 | 懸仏 | 銅 | 攪乱 | | C10 | (3.15) | (4.80) | 0.15 | | | 5.86 | 約 1/6 残存 | 11 |
| 70 | 42 | 御簾どめ金具 | 銅 | | 客土 | C14 | 12.30 | 11.35 | 0.12 | | | 28.06 | 御簾をかけるもの | 13 |
| 70 | 43 | 紡錘軸 | 銅 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 5.80 | 0.30 | 0.40 | | | 4.28 | | 152 |
| 70 | 44 | 棹秤の釣金具 | 銅 | | 客土 | D3 | 2.55 | 4.20 | 0.40 | | | 2.53 | | 12 |
| 70 | 45 | 鈴 | 銅 | SD61 | | B16 | 2.50 | 1.85 | 0.03 | | | 5.46 | | 10 |
| 70 | 46 | 容器の蓋？ | 銅 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (3.75) | (0.80) | 0.03 | | | 2.22 | 真書紅皿の蓋か？<br>内面に赤色付着 | 123 |
| 70 | 47 | 鍋吊金具 | 銅 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (23.95) | 0.80 | 0.20 | | | 51.23 | | 81 |
| 71 | 1 | 板状製品 | 銅 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 1.30 | 4.05 | 0.10 | | | 3.65 | 穿孔 1 か所、2 か所針孔？ | 80 |
| 71 | 2 | 不明 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (2.00) | 4.20 | (0.70) | | | 27.58 | | 144 |
| 71 | 3 | 不明 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (13.20) | 3.00 | 0.50 | | | 61.28 | 短剣状 | 102 |
| 71 | 4 | 輪 | 鉄 | | 客土 | C14 | 7.30 | 6.00 | 0.65 | | | 36.41 | 棒状の鉄製品も付属（No.152） | 15 |
| 71 | 5 | 輪 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 1.10 | 0.70 | 0.40 | | | 1.52 | | 136 |
| 71 | 6 | 不明 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (15.00) | (6.40) | (0.65) | | | 148.84 | 図面有　板状 | 91 |
| 71 | 7 | 不明 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (21.10) | (5.65) | (0.60) | | | 166.06 | 板状 | 114 |
| 71 | 8 | 棒状製品 | 鉄 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 7.75 | 0.30 | 0.40 | | | 3.62 | | 92 |
| 71 | 9 | 不明 | 銅 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 6.25 | 0.30 | 0.30 | | | 1.35 | 筒状製品 | 133 |
| 71 | 10 | 煙管吸口 | 銅 | | 客土 | C15 | 7.10 | 1.00 | 0.70 | | | 10.48 | 真書羅宇（木質）残存 | 66 |
| 71 | 11 | 煙管吸口 | 銅 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 4.00 | 1.00 | (0.40) | | | 1.83 | | 110 |
| 71 | 12 | 煙管吸口 | 銅 | | 客土 | B13 | 5.70 | 0.95 | 0.45 | | | 6.16 | 線刻あり | 18 |
| 71 | 13 | 煙管吸口 | 銅 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | 5.00 | 0.85 | 0.35 | | | 2.00 | | 74 |
| 71 | 14 | 延煙管 | 銅 | SD61 | 堆積層 | B15.16 | (18.90) | 1.15 | 0.40 | | | 17.95 | 胴部六角形 | 78 |

## 第 17 表　銭貨観察表

| 図面番号 | 挿図番号 | 銭文 | 初鋳年 | 材質 | 書体 | 出土地点 | | | 計測値（cm） | | | | | | （g） | 備考 | 通 No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 遺構№ | 層位 | 地区 | 径 | 内区径 | 孔径 | 全長 | 幅 | 厚 | 重さ | | |
| 72 | 1 | 開元通寶 | 南唐 960 | 銅 | 真書 | SP325 | | B13 | 2.29 | 1.81 | 0.46 | | | | 2.30 | | 39 |
| 72 | 2 | 開元通寶 | 南唐 960 | 鉄 | 真書 | SP60 | | E6 | 2.50 | 1.90 | 0.40 | | | | 1.81 | 鉄銭 | 55 |
| 72 | 3 | 太平通寶 | 北宋 976 | 銅 | 真書 | SK57 | 畔 | C14 | 2.24 | 1.68 | 0.65 | | | | 2.66 | | 30 |
| 72 | 4 | 淳化元寶 | 北宋 990 | 銅 | 草書 | SK17 | | D8 | 2.22 | 1.56 | 0.51 | | | | 2.67 | | 57 |
| 72 | 5 | 至道元寶 | 北宋 995 | 銅 | 真書 | SD52 | | B14 | 2.25 | 1.57 | 0.34 | | | | 3.28 | | 41 |
| 72 | 6 | 祥符元寶 | 北宋 1009 | 銅 | 真書 | SK3 | | E4 | 2.28 | 1.86 | 0.61 | | | | 1.86 | | 36 |
| 72 | 7 | 祥符元寶 | 北宋 1009 | 銅 | 真書 | | 客土 | D7 | 2.49 | 1.91 | 0.55 | | | | 2.35 | | 51 |
| 72 | 8 | 天聖元寶 | 北宋 1023 | 銅 | 真書 | SE17 | | C14 | 2.52 | 2.04 | 0.53 | | | | 3.51 | | 64 |
| 72 | 9 | 天聖元寶 | 北宋 1023 | 銅 | 篆書 | | 客土 | D9 | 2.48 | 1.98 | 0.65 | | | | 2.55 | | 46 |
| 72 | 10 | 天聖元寶 | 北宋 1023 | 銅 | 真書 | | 客土 | C10 | 2.54 | 2.00 | 0.70 | | | | 1.70 | 天□元寶 | 108 |
| 72 | 11 | 明道元寶 | 北宋 1032 | 銅 | 真書 | SD43 | 1 層 | C12 | 2.46 | 2.05 | 0.68 | | | | 1.79 | | 65 |
| 72 | 12 | 景祐元寶 | 北宋 1034 | 銅 | 篆書 | SE1 | | D10 | (1.95) | (1.77) | (0.39) | | | | 1.58 | 4 点接合 | 59 |
| 72 | 13 | 景祐元寶 | 北宋 1034 | 銅 | 真書 | SD48 | | B14 | 2.32 | 1.68 | 0.37 | | | | 2.26 | | 8 |
| 72 | 14 | 景祐元寶 | 北宋 1034 | 銅 | 真書 | SP106 | | E4 | 2.45 | 2.09 | 0.66 | | | | 1.75 | 景祐元□ | 122 |
| 72 | 15 | 景祐元寶 | 北宋 1034 | 銅 | 真書 | | 客土 | D10 | (2.52) | (1.70) | (0.40) | | | | 2.03 | 3 ケ所接合 | 35 |
| 72 | 16 | 皇宋通寶 | 北宋 1038 | 銅 | 真書 | SD53 | | B·C12 | 2.45 | 1.99 | 0.61 | | | | 2.05 | 錆多い | 2 |
| 72 | 17 | 皇宋通寶 | 北宋 1038 | 銅 | 篆書 | | 客土 | D8 | 2.43 | 1.87 | 0.62 | | | | 1.71 | | 25 |
| 72 | 18 | 皇宋通寶 | 北宋 1038 | 銅 | 真書 | SD1 | | D4 | 2.46 | 1.85 | 0.68 | | | | 2.60 | | 3 |
| 72 | 19 | 皇宋通寶 | 北宋 1038 | 銅 | 真書 | SP325 | | B13 | 2.30 | 1.66 | 0.54 | | | | 2.90 | | 95 |
| 72 | 20 | 皇宋通寶 | 北宋 1038 | 銅 | 篆書 | | 客土 | D9 | (2.25) | (1.76) | (0.65) | | | | 1.24 | □宋通□ | 96 |
| 72 | 21 | 皇宋通寶 | 北宋 1038 | 銅 | 真書 | SD43 | | B12 | 2.46 | 1.95 | 0.66 | | | | 3.65 | 9 枚銹着が分かれたもの | 1-6 |
| 72 | 22 | 至和通寶 | 北宋 1054 | 銅 | 篆書 | SX2 | | E4 | (2.22) | (1.71) | (0.47) | | | | 1.86 | 至和通□ | 29 |
| 72 | 23 | 至和元寶 | 北宋 1054 | 銅 | 真書 | SP328 | | B13 | 2.31 | 1.93 | 0.64 | | | | 2.07 | | 21 |
| 72 | 24 | 至和元寶 | 北宋 1054 | 銅 | 篆書 | | 客土 | E5 | 2.36 | 1.81 | 0.56 | | | | 3.18 | 錆多い | 94 |
| 72 | 25 | 治平元寶 | 北宋 1064 | 銅 | 真書 | SD43 | | B12 | 2.33 | 1.88 | 0.59 | | | | 3.42 | 9 枚銹着が分かれたもの | 1-7 |
| 72 | 26 | 治平元寶 | 北宋 1064 | 銅 | 真書 | SD43 | 1 層 | C12 | 2.13 | 1.50 | 0.44 | | | | 1.87 | | 32 |
| 72 | 27 | 治平元寶 | 北宋 1064 | 銅 | 真書 | | 客土 | E3 | 2.15 | 1.70 | 0.35 | | | | 2.56 | | 19 |
| 72 | 28 | 熙寧元寶 | 北宋 1068 | 銅 | 篆書 | SK17 | | D8 | (2.45) | (2.06) | 0.62 | | | | 1.01 | 一部破損、熙寧□□ | 98 |
| 72 | 29 | 熙寧元寶 | 北宋 1068 | 銅 | 真書 | SE5 | | B14 | 2.44 | 2.00 | 0.63 | | | | 3.46 | | 24 |
| 72 | 30 | 熙寧元寶 | 北宋 1068 | 銅 | 篆書 | | 客土 | D8 | 2.37 | 1.77 | 0.64 | | | | 2.93 | | 20 |
| 72 | 31 | 熙寧元寶 | 北宋 1068 | 銅 | 真書 | SD43 | | B12 | 2.16 | 1.46 | 0.46 | | | | 3.14 | 9 枚銹着が分かれたもの | 1-4 |
| 72 | 32 | 元豊通寶 | 北宋 1078 | 銅 | 篆書 | SD31 | | D5 | 2.48 | 1.93 | 0.64 | | | | 3.36 | | 48 |
| 72 | 33 | 元豊通寶 | 北宋 1078 | 銅 | 篆書 | SD3 | | E5 | 2.47 | 1.83 | 0.65 | | | | 2.24 | | 5 |
| 72 | 34 | 元豊通寶 | 北宋 1078 | 銅 | 篆書 | SD15 | | D7 | 2.43 | 1.72 | 0.61 | | | | 2.87 | 錆多い | 52 |
| 72 | 35 | 元豊通寶 | 北宋 1078 | 銅 | 行書 | SK45 | | E4 | 2.35 | 1.76 | 0.54 | | | | 2.21 | | 93 |
| 72 | 36 | 元豊通寶 | 北宋 1078 | 銅 | 行書 | SK45 | | E4 | 2.55 | 2.03 | 0.65 | | | | 3.39 | | 26 |
| 72 | 37 | 元豊通寶 | 中世末期 | 銅 | 行書 | SP140 | | E4 | 2.13 | 1.48 | 0.43 | | | | 2.43 | 模鋳銭 | 120 |
| 72 | 38 | 元豊通寶 | 北宋 1078 | 銅 | 篆書 | SD43 | | B12 | 2.49 | 2.05 | 0.64 | | | | 3.07 | 9 枚銹着が分かれたもの | 1-1 |
| 72 | 39 | 元祐通寶 | 北宋 1086 | 銅 | 行書 | SD43 | | B12 | 2.29 | 1.77 | 0.43 | | | | 3.63 | 9 枚銹着が分かれたもの | 1-3 |
| 72 | 40 | 元祐通寶 | 北宋 1086 | 銅 | 篆書 | SD44 | | B13 | 2.18 | 1.72 | 0.47 | | | | 2.38 | | 53 |
| 72 | 41 | 元祐通寶 | 北宋 1086 | 銅 | 行書 | SD1 | | E4 | 2.22 | 1.76 | 0.47 | | | | 3.17 | | 54 |
| 72 | 42 | 元祐通寶 | 北宋 1086 | 銅 | 行書 | SK75 | | C14 | 2.48 | 2.04 | 0.67 | | | | 2.17 | 2 分裂接合 | 131 |
| 72 | 43 | 元祐通寶 | 北宋 1086 | 銅 | 篆書 | | 客土 | C15 | 2.44 | 1.99 | 0.67 | | | | 2.15 | 割れ | 37 |
| 72 | 44 | 元祐通寶 | 北宋 1086 | 銅 | 行書 | | 客土 | C14 | 2.21 | 1.74 | 0.49 | | | | 2.56 | | 40 |
| 72 | 45 | 紹聖元寶 | 北宋 1094 | 銅 | 篆書 | SD43 | | B12 | 2.40 | 1.79 | 0.56 | | | | 4.00 | 9 枚銹着が分かれたもの | 1-2 |
| 72 | 46 | 紹聖元寶 | 北宋 1094 | 銅 | 篆書 | SK2 | | D4 | 2.38 | 1.89 | 0.59 | | | | 2.73 | | 33 |
| 72 | 47 | 大觀通寶 | 北宋 1107 | 銅 | 真書 | SP69 | | D6 | 2.20 | 1.81 | 0.42 | | | | 2.12 | | 63 |
| 72 | 48 | 政和通寶 | 北宋 1111 | 銅 | 分楷 | SD43 | | B12 | 2.39 | 2.05 | 0.63 | | | | 3.06 | 9 枚銹着が分かれたもの | 1-5 |
| 72 | 49 | 政和通寶 | 北宋 1111 | 銅 | 分楷 | SD1 | | E4 | 2.43 | 2.05 | 0.66 | | | | 2.69 | | 60 |
| 72 | 50 | 政和通寶 | 北宋 1111 | 銅 | 分楷 | 攪乱 | | C10 | 2.42 | 2.09 | 0.53 | | | | 1.67 | 政和□寶 | 50 |
| 72 | 51 | 紹興元寶 | 南宋 1131 | 銅 | 真書 | SD43 | 2 層 | B13 | 2.50 | 2.03 | 0.68 | | | | 1.17 | 折二銭　紹興□寶 | 47 |
| 72 | 52 | 紹熙元寶 | 南宋 1190 | 銅 | 真書のみ | SK23 | | D10 | (2.30) | (2.14) | (0.66) | | | | 1.13 | □□元寶　背文「元」 | 128 |
| 72 | 53 | 嘉定通寶 | 南宋 1208 | 銅 | 真書のみ | SE2 | | E4 | 2.20 | 1.81 | 0.42 | | | | 2.71 | 背「十三」 | 43 |
| 72 | 54 | 紹定通寶 | 南宋 1228 | 銅 | 新 | | 客土 | B21 | 2.29 | 1.85 | 0.67 | | | | 2.77 | 背「四」 | 97 |
| 72 | 55 | 洪武通寶 | 明 1368 | 銅 | 真書のみ | | 客土 | D7 | 2.07 | 1.66 | 0.35 | | | | 3.02 | 背月 | 22 |
| 72 | 56 | 洪武通寶 | 明 1368 | 銅 | 真書のみ | SD22 | | D8 | 2.13 | 1.64 | 0.34 | | | | 3.48 | | 42 |
| 72 | 57 | 洪武通寶 | 明 1368 | 銅 | 真書のみ | SD39 | | D8 | 2.10 | 1.62 | 0.46 | | | | 3.08 | マ頭通・単点通 | 6 |
| 72 | 58 | 永楽通寶 | 明 1408 | 銅 | 真書のみ | SD41 | 2 層 | D12 | 2.38 | 1.98 | 0.56 | | | | 2.38 | ニセガネ（銅銭） | 23 |
| 72 | 59 | 永楽通寶 | 明 1408 | 銅 | 真書のみ | SD1 | | D4 | 2.49 | 2.07 | 0.53 | | | | 2.85 | | 4 |
| 72 | 60 | 寛永通寶 | 1636 | 銅 | 古 | SD24 | | D9 | 2.39 | 1.85 | 0.54 | | | | 2.12 | | 7 |
| 72 | 61 | 寛永通寶 | 1636 | 銅 | 古 | | 1 層 | E3 | 2.43 | 1.91 | 0.50 | | | | 2.57 | | 61 |
| 72 | 62 | 熙寧元寶 | 北宋 1068 | 銅 | 篆書 | SD1 | | D4 | 2.50 | 2.00 | 0.63 | 2.5 | 2.55 | 0.36 | 11.34 | 3 枚銹着 | 9 |
| 72 | 63 | — | — | 銅 | — | SD43 | | B12 | 2.43 | 1.77 | 0.64 | 2.5 | 2.5 | 3.7 | 11.35 | 9 枚銹着が分かれたもの<br>3 枚銹着 両面とも裏面 | 1-8 |

# 第６章　自然科学分析

本章では、本調査区出土遺物や土壌分析等、各種自然科学分析結果について報告する。

## 第１節　長崎遺跡出土木製品の樹種

### １　試料と方法

試料は長崎遺跡から出土した木製品 294 点である。樹種同定用のプレパラートは、木製品から直接、横断面・接線断面・放射断面の切片をカミソリを用いて切取り、ガムクロラールで封入して作成した。

### ２　結果

種・属を特定できたのは、針葉樹類が２分類群、広葉樹類が９分類群の計 11 分類群であった。各遺物の樹種同定結果は観察表に記載する。以下に同定根拠とした木材組織の特徴および植生の特徴を記載し、材の３方向の組織写真を提示した（図版第 28・29）。

1. マツ属複維管束亜属（二葉松類）　*Pinus* subgen. Diploxylond　マツ科　針葉樹。早材部から晩材部への移行はやや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道と水平樹脂道がみられる。分野壁孔は窓状で放射組織の上下に放射仮道管を有する。放射仮道管の内壁は鋭く鋸歯状に肥厚する。本州から九州にかけ分布する常緑針葉樹。日当たりの良い場所を好み、乾燥に強い。

2. スギ　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don　ヒノキ科スギ属　針葉樹。早材部から晩材部にかけての移行はやや急で、晩材部に樹脂細胞が散在する。分野壁孔はスギ型で、１分野に２個。本州から九州に分布する常緑針葉樹。日当たりのよい谷間など腐植質に富む肥沃で湿潤な土壌を好む。

3. ニレ属　*Umlus* ニレ科　環孔材。年輪の始めに大型の道管が１列並ぶ。晩材部では小道管が集合して斜線方向に連なる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で１～ 10 列、小道管の内壁にらせん肥厚がみられる。北海道から九州に分布する落葉広葉樹。

4. ケヤキ　*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino　ニレ科ケヤキ属　環孔材。年輪の始めに大型の道管が１～２列に並ぶ。晩材部では小道管が集合して斜線方向に連なる。道管は単穿孔を有する。放射組織は異性で１～６列、上下縁辺にシュウ酸石灰の結晶細胞がみられる。北海道から九州にかけ分布する落葉広葉樹。山中に群生するほか川岸にも自生する。材は堅硬で建築部材や漆器木地としても用いられる。

5. エノキ属　*Celtis*　アサ科　環孔材。孔圏部で大型の道管が単独で２～３列並び、孔圏外の小道管は薄壁で斜線上に集まる。道管は単穿孔を有する。放射組織は異性で、幅の広いものは６～ 10 列で鞘細胞をもつ。エノキは青森県南西部から九州にかけて分布する落葉広葉樹。日当たりの良い湿潤地を好み、沿海地の山野に多く自生する。材にはねじれ、狂いが多くみられるため、ケヤキやトネリコ等のほかの材の代用として用いられることが多い。

6. クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科クリ属　環孔材。年輪の始めに極めて大きい道管が並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。木部柔組織は２～３列で接線状に並ぶ。道管は単穿孔を有し、放射組織は単列同性。北海道（西南部）から九州にかけて分布する落葉広葉樹。強さ硬さは中庸だが、耐久性が高く水湿に強い。

7. スダジイ　*Castanopsis sieboldii*（Makino）Hatusima ex Yamazaki et Mashiba　ブナ科シイ属　環孔性の放射孔材。年輪の始めに大型の道管が間隔を空けて並び、徐々に径を減じて晩材部で薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し放射組織は単列同性。スダジイは本州（福島県、新

潟県以西）から沖縄に分布する常緑高木。タンニンを含み、やや耐久性がある。
8. アサダ　*Ostrya japonica* Sarg.　カバノキ科アサダ属　散孔材。道管は２～５個が放射方向に複合して分布し晩材部で徐々に径を減じる。木口面で軸方向柔細胞が短接線状になる。道管は単穿孔を有し、側壁には交互壁孔がみられる。放射組織は同性に近い異性で１～２列。北海道から九州にかけ分布する。
9. ブナ属　*Fagus*　ブナ科　散孔材。小径の道管が散在し、道管の密度は高い。道管は基本独立し、晩材部で徐々に径を減じる。放射組織はほぼ同性、道管は単穿孔を有するが、時に階段穿孔を有する。放射組織は同性１～４列。複合放射組織をもつ。
10. ヤナギ属　*Salix*　ヤナギ科　散孔材。道管は基本単独で、時に２～３個が複合し、年輪界に向けて徐々に径を減じる。道管は単穿孔を有し、道管放射組織間壁孔はふるい状となる。放射組織は単列異性。北海道から九州にかけて分布する落葉広葉樹で、日当たりの良い水辺など水湿に富んだ地を好む。
11. カエデ属　*Acer*　ムクロジ科　散孔材。道管はほぼ単独で、時に２～３個が放射方向に複合する。木繊維の違いにより木口面で雲紋状の模様を呈する。道管は単穿孔を有し内壁にらせん肥厚がみられる。道管側壁に交互壁孔がみられる。道管放射組織間壁孔はふるい状である。放射組織は同性で１～５列。広く温帯に分布する。

長崎遺跡ではスギの利用が顕著である。特に井戸側材はSE12の足場材を除くと、全てスギが用いられていた。長崎遺跡では自然木が出土しておらず、出土した木製品は全て人為的な痕跡を残すものだった。区画溝の花粉分析の結果では、当時の環境が森林から距離があるとの見解を得ており、木材はほぼ全て遺跡外から持ち込まれたものであると考えられる。以上のことより、井戸側材に使用されるため遺跡に持ち込まれた規格材はスギに限定されていたことがわかる。

SE4出土足場材ではクリ、SE12の足場材では、樹皮を残すマツ属複維管束亜属のほかケヤキ、ヤナギ属が用いられる。丸木を利用し、加工が簡易な点でも、井戸側材と異なる入手経路が想定される。井戸側材以外でもスギの利用は多く、箸、曲物にも全てスギが使用されている。荷札、割裁材、不明品、端材でもスギ以外の樹種が使用されているのは２点のみである。

スギに次いで使用が多いのはケヤキで、８点が認められた。SD15・41出土の下駄（第45図１・２）は、台・歯ともケヤキが用いられる。SE10出土の連歯下駄歯（第45図３・４）はスギが用いられる。

また漆器は９点出土し、ケヤキが４点、同じくブナ属が４点、次いでニレ属１点となった。布着せが施され、高級品と考えられるSD15出土の第42図１・２にはケヤキ、ニレ属が用いられたほか、黒色漆器では塗り重ねの多いSE13出土の第42図６にケヤキが用いられている。

塗り重ねの少ない第42図３～５ではブナ属が利用され、高級品にケヤキ、普及品にブナ属という傾向がみてとれる。しかし塗り重ねの少ない第43図７・８にもケヤキは用いられ、出土点数が少ない点からも、必ずしも高級品はケヤキという構図が成り立つとはいえない。

近世の福井城跡出土漆器においてはブナ属、トチノキが主要な素材として顕著な使用傾向が認められる。これに対して長崎遺跡では出土点数に対してケヤキの利用が多い。このことからこの樹種傾向は13～14世紀の漆器の用材傾向を反映している可能性が高い。

柱根はスギ４点、ケヤキ１点、スダジイ１点、カエデ属１点となった。スギが多いものの広葉樹材も多く使用される。柱根が検出された地区では建物の建て替えが頻繁に行われており、これらの需要に伴い様々な樹種の材が使用されていたと予想する。

引用・参考文献
伊東隆夫　1995 ～ 1999「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」『木材研究・資料』31 ～ 35
邑田仁・米倉浩司　2018『APG 樹木図鑑』 北隆館

## 第２節　漆器・漆製品の分析

### １　塗膜構造調査

長崎遺跡から出土した漆製品 10 点について、製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行った。以下にその結果を報告する。

#### １）調査試料と方法

調査した試料は、第 18 表に示す中世の椀皿類の什器９点と不明塗膜１点の計 10 点である。

**第 18 表**　分析試料

| 品名 | 木製品 No. | 写真 No. | 概　　要 |
|---|---|---|---|
| 漆器皿 | 25 | 1・6 | 内外両面とも赤色で高台内は黒色の皿。口縁部に溝がある。<br>高台内に赤色で「吉」の文字がある。 |
| 漆器皿 | 26 | 9・14 | 内外両面とも赤色で高台内は黒色の皿。口縁部に溝がある。<br>高台内に赤色で「東」？の文字がある。 |
| 漆器片 | 281 | 19・21 | 内面は黒色地に赤色で文様が描かれ、外面は黒色の破片。文様はスタンプのような施文体によるものと思われる。<br>内外面ともに、文様部以外の箇所で試料を採取した。 |
| 漆器椀 | 504 | 23・25 | 内外両面とも黒色地に赤色で文様が描かれた椀。<br>内外面ともに文様部以外の箇所で試料を採取した。 |
| 塗膜？ | 547 | 27・28 | 内外面ともに黒色の漆膜。おそらく烏帽子の縁の端部。 |
| 漆器椀 | 571 | 35・38 | 内外両面とも赤色の椀。 |
| 漆器片 | 573 | 40・43 | 内外両面とも赤色で高台部分は黒色を呈する椀。 |
| 漆器椀の底部片 | 575 | 45・47 | 内外両面とも黒色地に赤色で文様が描かれた椀。外面は文様以外の箇所で試料を採取した。 |
| 漆器椀 | 576 | 49・52 | 内外両面とも黒色地に赤色で文様が描かれた椀。 |
| 漆器椀 | 749 | 54・57 | 内外両面とも黒色を呈する椀。内面に凹凸のある漆が付着している。漆工具として二次利用されたと考えられる。 |

##### 断面観察

第 19 表の資料本体の塗膜付着部分から数㎜四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

##### EPMA 分析

次に作製した塗膜断面プレパラートの導電性を上げて観察精度を上げる為に金 (Au) 蒸着を行い、日本電子株式会社製走査型電子顕微鏡 JSM-6010LA を用いて電子顕微鏡画像を撮影するとともに、塗膜混和物の元素同定を行った（第 21 表）。

#### ２）調査結果

##### 断面観察結果

塗膜断面の観察結果を、第 19 表と以下の文章に示す。

表のとおり、什器（No.25 ～ 504、No.571 ～ 749）と不明塗膜（No.547）とで構造が全く異なるため、什器の概要と不明塗膜の構造とに分けて以下に記す。

〔什器〕（No.25 ～ 504、No.571 ～ 749）

塗膜構造：下層から木胎、下地、漆層が観察された。

布着せ：No.25 の口縁部埋面と No.26 の口縁部内面には、漆層の下に布着せの布の糸の断面がみられた（図版第 30 写真２・３・12）。それらの糸繊維の横断面の形状は長径と短径の差がややある横長楕円形を呈しており、木綿ではない植物繊維である。糸の内部まで淡褐色の漆がよく浸透している。口縁部以外の布着せの有無は不明である。

**第 19 表**　漆器の断面観察結果

| 木製品 No. | 器種 | 部位 | 写真 No. | 布着せ | 塗膜構造（下層から） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 下地 | | 漆層構造 | 顔料 |
| | | | | | 膠着剤 | 混和材 | | |
| 25 | 皿 | 内面口縁部（塗り分け部） | 2・3 | ○（下地の下） | 漆 | 地の粉 | 黒色漆１層／赤色漆１層 | 油煙、朱 |
| | | 内面底部 | 4・5 | | 漆 | 地の粉 | 黒色漆１層／赤色漆１層 | 油煙、朱 |
| | | 外面高台部（塗り分け部） | 7・8 | | 漆 | 地の粉 | 黒色漆１層／透明漆２層／赤色漆１層 | 油煙、朱 |
| 26 | 皿 | 内面口縁部（塗り分け部） | 10・11 | ○（下地の上？） | 漆 | 地の粉 | 黒色漆１層／透明漆１～２層／赤色漆１層 | 油煙、朱 |
| | | 内面底部 | 12・13 | | 漆 | 地の粉 | 黒色漆１層／透明漆１層／赤色漆１層 | 油煙、朱 |
| | | 外面口縁部（塗り分け部） | 15・16 | | 漆 | 地の粉 | 黒色漆１層／透明漆２～３層／赤色漆１層 | 油煙、朱 |
| | | 外面高台部 | 17・18 | | 漆 | 地の粉 | 黒色漆２層／透明漆２層 | 油煙 |
| 281 | 破片 | 内面底部黒色部（文様避ける） | 20 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層 | — |
| | | 外面底部黒色部（文様避ける） | 22 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層 | — |
| 504 | 椀 | 内面体部黒色部（文様避ける） | 24 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層 | — |
| | | 外面体部黒色部（文様避ける） | 26 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層 | — |
| 547 | 塗膜？ | 縁部 | 29～34 | | — | — | 透明漆２層 | — |
| 571 | 椀 | 内面口縁付近 | 36 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層／赤色漆１層 | 朱 |
| | | 内面底部 | 37 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層／赤色漆１層 | 朱 |
| | | 外面体部（赤色漆） | 39 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層／赤色漆１層 | 朱 |
| 573 | 破片 | 内面口縁部（塗り分け部） | 41 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層／赤色漆１層 | — |
| | | 内面底部 | 42 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層／赤色漆１層 | 朱 |
| | | 外面高台部（塗り分け部） | 44 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層／赤色漆１層 | 朱 |
| 575 | 椀 | 内面底部（文様部） | 46 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層／赤色漆１層 | 朱 |
| | | 外面体部（黒色） | 48 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層 | — |
| 576 | 椀 | 内面口縁付近 | 50 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層 | — |
| | | 内面底部（文様部） | 51 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層／赤色漆１層 | 朱 |
| | | 外面体部（文様部） | 53 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層／赤色漆１層 | 朱 |
| 749 | 椀 | 内面口縁部 | 55 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆２層 | — |
| | | 内面底部（付着物有） | 56 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆２層／付着漆１層 | — |
| | | 外面高台付近 | 58 | | 柿渋 | 木炭粉 | 透明漆１層 | — |

下地：膠着剤として漆を用いる漆下地（No.25・26）と柿渋を用いる渋下地（No.281・504・571 ～ 749）とがみられた。

漆層：No.25 外面、No.26 外面、No.749 内面には漆層の塗り重ねがみられた。また No.571・57 には地色の赤色漆層と下地の間に、透明漆層が見られた。

加飾：No.281・504・575・576 は内外両面に赤色漆による漆絵が施されている。文様断面を観察したのは No.575 内面、No.576 内外面である。No.575・576 の施文は筆によるものである。

顔料：赤色漆に混和された赤色顔料は、透明度が高く明確な粒子形状を呈する朱であった。黒色の漆層には黒色顔料が混和されたものがあり（No.25 内外面、No.26 内外面）、黒色顔料として油煙が使用されていた。

不明塗膜（No.547）

塗膜構造：図版第 31 写真 29 には一部表面の漆層が写っていないが、ほぼ全体の塗膜構造がわかる状態のためこの断面写真を説明する。写真 29 には、本来の資料の向きを 90 度傾けた状態の塗膜断面が写っている。約 800μm の褐色の塊を横向きＵ字形の褐色の漆層がぐるりと包んでいる（向って下側の漆層はこの写真には写っていない）ようにみえる。中央の褐色の塊には、向って水平方向に白い筋状、小さな粒状に褐色の漆が抜けた部分がみられる（図版第 32 写真 31）。これらは紙の繊維の断面形状である。繊維そのものはすでに腐朽している。その紙の上、横、下に小さな三角形の集合体状と細長い線状に白く抜けた部分がみられる（図版第 32 写真 33）。これらは絹の布の断面と判断される。布の繊維も腐朽し

ている。紙の塊の横、布との間には大きな空白部分がみられる。また、布の外側の漆層との間にも細長い長方形の空白部分がみられる。これらも現在は腐朽してしまい遺存していないが、かつては何らかの素材があった痕跡と判断される。

素地：何枚も重ねた紙を芯の素地にして、その紙を絹布で包み込み端部に何がしかの軸の芯を添えたものと考えられる。

漆層：素地の紙や絹布に十分に褐色の漆がしみ込んでいる。そして漆のみの層は４層ほどの塗り重ねが認められる。

以上の通り、紙と布（絹）の素地の両面に漆が塗布されている様子から、この塗膜は服飾品の烏帽子の破片である可能性が極めて高い。烏帽子である場合、次のような工程が想定される。

**烏帽子の製作**　何枚かの紙を重ねて漆をたっぷりしみ込ませ、下部（端部）に芯を沿わせて絹布を巻き込み漆を塗布し、さらに下部（端部）に芯を添え漆を塗布して作製した。

**EPMA 成分分析結果**

電子顕微鏡画像（図版第 30 ～ 33）とスペクトル図（第 73 ～ 79 図）を添えて第 21 表に結果を示す。

以上の分析から、赤色顔料は全て朱が混和されていた。また No.25・26 の下地では (C)、ケイ素 (Si)、アルミニウム (Al) が検出されているが、炭素 (C) は膠着材に使用されている有機質の漆に由来し、ケイ素 (Si)、アルミニウム (Al) 等は無機質の地の粉（成分はシリカ ($SiO_2$)、アルミナ ($Al_2O_3$)、酸化第二鉄 ($Fe_2O_3$)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)）由来と考えられる。No.281 ～ No.749 はほぼ炭素 (C) が検出されているが、膠着剤の柿渋と混和材の木炭粉に由来すると考えられる。これは漆下地では炭素とケイ素が、渋下地ではほぼ炭素が検出されるというように製作技法の違いと矛盾しない結果であった。

**３）摘要**

長崎遺跡から出土した什器９点と不明塗膜１点の合計 10 点の塗膜分析を行った。

木胎と下地との間に布着せの布の断面がみられたものが２点（No.25・26）あった。その布の材質は木綿以外の苧麻や麻と推定される。布着せのみられた２点には漆下地、そして複数層の漆層の塗り重ねがみられた。下地の上の漆層には、漆が透けないように黒色顔料として油煙が混和されていた。そして赤色漆層には朱粒子が観察された。このようにとても丁寧な作業工程を経ている。

不明塗膜１点は、塗膜の様子から服飾品の烏帽子である可能性が極めて高い。

## ２　漆器赤色顔料成分分析調査（蛍光Ｘ線分析）

長崎遺跡から出土した漆器２点について、文様に使用されている赤色顔料の材質を明らかにする為に以下の通り成分分析を行った。その結果を報告する。

**１）調査試料と方法**

調査した試料は第 20 表に示す漆器２点である。

資料を用いて蛍光 X 線分析を行い、文様の赤色顔料を同定した。装置は AMETEK 製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 SPECTRO MIDEX04 を用いた。

**第 20 表**　分析試料

| 試料 | 試料名 | 概要 |
|---|---|---|
| 第 42 図8・木製品番号（281） | 漆器片 | 内外面に赤色の文様有 |
| 第 42 図7・木製品番号（504） | 漆器椀 | 内外面に赤色の文様有 |

**第 21 表**　成分分析結果表

| 元素 | No.25 内面口縁部（塗り分け部） | | No.25 内面底部 | | No.25 外面高台部（塗り分け部） | | No.26 内面口縁部（塗り分け部） | | No.26 内面底部 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 赤色漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 |
| | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.004（wt%） | No.001（wt%） | No.004（wt%） |
| C | 36.72 | 26.56 | 22.72 | 31.03 | 35.42 | 14.90 | 46.32 | 71.42 | 7.22 | 21.68 |
| N | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| O | 7.08 | 24.25 | 4.43 | 38.50 | 5.36 | 28.19 | 10.85 | 18.48 | – | 43.46 |
| Na | – | 0.91 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Mg | – | – | – | – | – | 1.02 | – | – | – | – |
| Al | – | 1.28 | – | 10.68 | – | 1.09 | – | 2.88 | – | 1.78 |
| Si | – | 47.00 | – | 19.78 | – | – | – | 3.67 | – | 33.08 |
| P | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| S | – | – | – | – | – | – | – | 1.84 | – | – |
| Cl | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| K | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Ca | 1.16 | – | – | – | – | – | 0.50 | – | – | – |
| Ti | – | – | – | – | – | 5.17 | – | – | – | – |
| Fe | 1.44 | – | – | – | – | 49.63 | – | 1.71 | – | – |
| Hg | 53.59 | – | 72.85 | – | 59.22 | – | 42.32 | – | 92.78 | – |

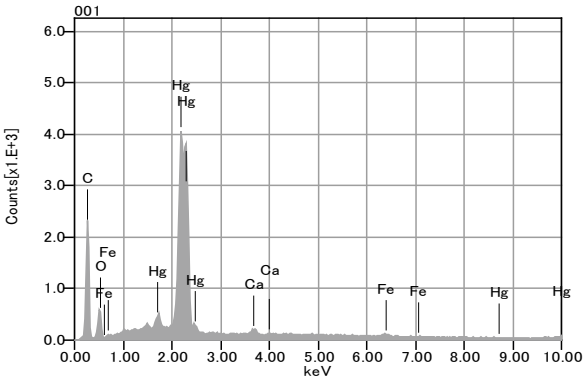
| 元素 | No.26 外面口縁部（塗り分け部） | | No.26 外面高台部 | | No.281 内面底部黒色部（文様避ける） | | No.281 外面底部黒色部（文様避ける） | | No.504 内面体部黒色部（文様避ける） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 赤色漆層 | 下地層 | 黒色漆層 | 下地層 | 透明漆層 | 下地層 | 透明漆層 | 下地層 | 透明漆層 | 下地層 |
| | No.001（wt%） | No.004（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.004（wt%） |
| C | 5.57 | 40.13 | 71.49 | 11.13 | 82.14 | 83.85 | 70.30 | 72.81 | 80.41 | 88.19 |
| N | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| O | – | 23.00 | 21.13 | 29.93 | 17.86 | 14.43 | 23.61 | 25.36 | 19.59 | 11.81 |
| Na | – | – | 1.16 | – | – | – | – | – | – | – |
| Mg | – | – | – | 2.37 | – | – | – | – | – | – |
| Al | – | 14.35 | – | 10.50 | – | – | – | – | – | – |
| Si | – | 17.18 | – | 31.23 | – | – | – | – | – | – |
| P | – | – | – | 0.21 | – | – | – | – | – | – |
| S | – | – | 1.38 | – | – | – | – | 0.63 | – | – |
| Cl | – | – | 0.72 | – | – | – | – | – | – | – |
| K | – | – | – | 2.10 | – | – | – | – | – | – |
| Ca | – | – | 2.10 | 3.41 | – | 1.72 | 2.58 | 1.20 | – | – |
| Ti | – | – | – | 1.43 | – | – | – | – | – | – |
| Fe | – | 5.33 | 0.48 | 7.69 | – | – | 3.52 | – | – | – |
| Hg | 94.43 | – | – | – | – | – | – | – | – | – |

| 元素 | No.504 外面体部黒色部（文様避ける） | | No.547 縁部 | | No.571 内面口縁付近 | | No.571 内面底部 | | No.571 外面体部（赤色漆） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 透明漆層 | 下地層 | 透明漆層 | 素地層 | 赤色漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 |
| | No.001（wt%） | No.002（wt%） | No.001（wt%） | No.004（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.004（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） |
| C | 78.15 | 77.41 | 82.15 | 78.07 | 58.34 | 79.03 | 55.07 | 48.84 | 51.99 | 79.09 |
| N | – | – | – | – | – | – | – | – | 16.35 | – |
| O | 6.19 | 22.59 | 17.85 | 15.48 | 15.55 | 14.67 | 14.68 | 6.47 | 14.93 | 19.07 |
| Na | – | – | – | – | – | – | – | – | 0.58 | – |
| Mg | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Al | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Si | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| P | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| S | – | – | – | 2.29 | – | 2.28 | – | – | – | 0.82 |
| Cl | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| K | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Ca | – | – | – | 2.33 | 0.52 | 1.02 | – | – | – | 1.01 |
| Ti | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Fe | 15.66 | – | – | 1.83 | – | 3.00 | – | – | – | – |
| Hg | – | – | – | – | 25.60 | | 30.25 | 44.69 | 16.15 | – |

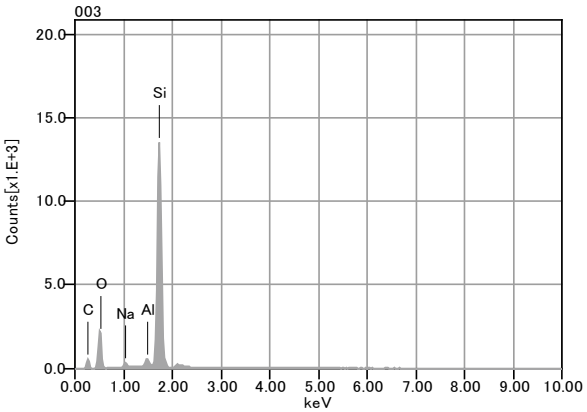
| 元素 | No.573 内面口縁部（塗り分け部） | | No.573 内面底部 | | No.573 外面高台部（塗り分け部） | | No.575 内面底部（文様部） | | No.575 外面体部（黒色） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 赤色漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 | 透明漆層 | 下地層 |
| | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.004（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） |
| C | 50.62 | 78.75 | 50.80 | 82.63 | 57.07 | 78.52 | 34.24 | 49.61 | 18.56 | 76.98 |
| N | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| O | 7.25 | 20.59 | 8.28 | 17.37 | 9.37 | 21.48 | 5.78 | 22.22 | 29.78 | 17.83 |
| Na | – | – | – | – | – | – | – | 2.18 | – | – |
| Mg | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Al | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Si | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| P | – | – | – | – | – | – | – | 2.29 | 12.17 | – |
| S | – | – | – | – | – | – | – | 0.99 | – | 1.78 |
| Cl | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| K | – | – | – | – | – | – | – | 1.46 | – | – |
| Ca | – | 0.66 | 0.40 | – | – | – | – | – | – | – |
| Ti | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Fe | – | – | 1.68 | – | – | – | – | 21.24 | 39.50 | 3.42 |
| Hg | 42.13 | – | 38.85 | – | 33.56 | – | 59.98 | – | – | – |

| 元素 | No.576 内面口縁付近 | | No.576 内面底部（文様部） | | No.576 外面体部（文様部） | | No.749 内面口縁部 | | No.749 内面底部（付着物有） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 透明漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 | 赤色漆層 | 下地層 | 透明漆層 | 下地層 | 付着物 | 下地層 |
| | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.002（wt%） | No.001（wt%） | No.003（wt%） | No.001（wt%） | No.004（wt%） |
| C | 31.34 | 77.50 | 52.00 | 79.43 | 38.02 | 76.10 | 79.23 | 77.93 | 100.00 | 92.69 |
| N | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| O | 11.20 | 15.54 | 7.82 | 20.57 | 6.28 | 22.54 | 20.77 | 18.15 | – | 7.31 |
| Na | 0.85 | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Mg | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Al | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Si | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| P | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| S | – | – | – | – | – | 1.37 | – | 0.70 | – | – |
| Cl | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| K | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Ca | 2.34 | – | 0.45 | – | – | – | – | – | – | – |
| Ti | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| Fe | 54.28 | 6.96 | 1.03 | – | – | – | – | 3.22 | – | – |
| Hg | – | – | 38.70 | – | 55.70 | – | – | – | – | – |

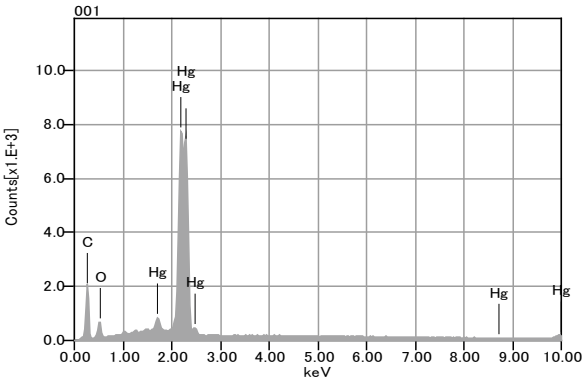
| 元素 | No.749 外面高台付近 | |
|---|---|---|
| | 透明漆層 | 下地層 |
| | No.002（wt%） | No.003（wt%） |
| C | 71.42 | 93.26 |
| N | – | – |
| O | 15.64 | 6.74 |
| Na | 0.77 | – |
| Mg | – | – |
| Al | – | – |
| Si | – | – |
| P | – | – |
| S | – | – |
| Cl | – | – |
| K | – | – |
| Ca | – | – |
| Ti | – | – |
| Fe | 12.17 | – |
| Hg | – | – |



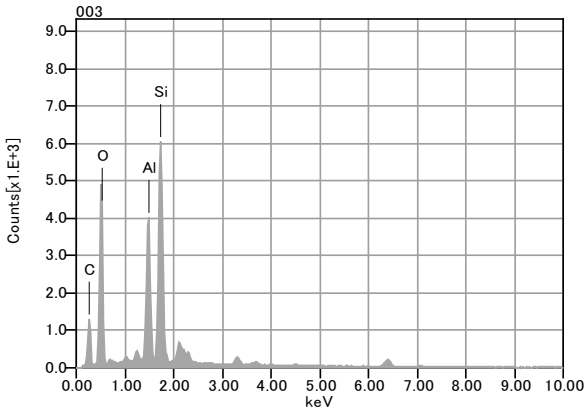

No. 25　内面口縁部　（塗り分け部）　001　赤色漆層



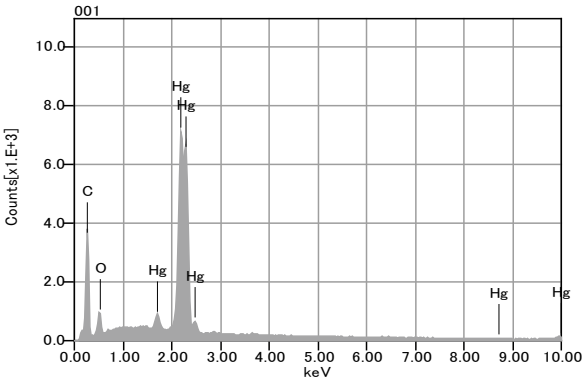

No. 25　内面口縁部　（塗り分け部）　003　下地層



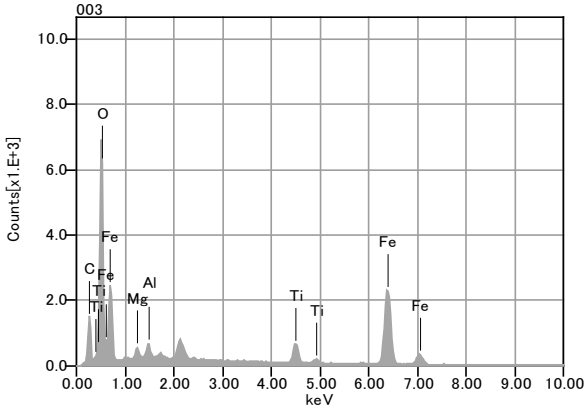

No. 25　内面底部　001　赤色 漆 層



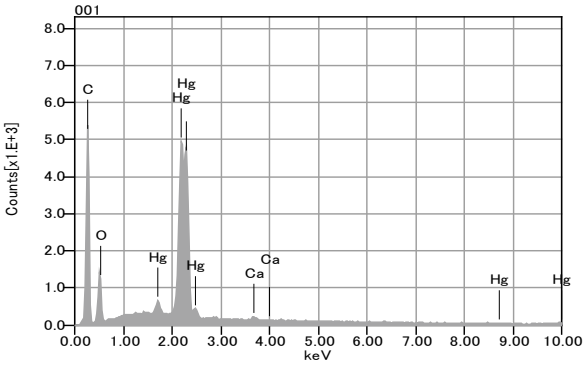

No. 25　内面底部　003　下 地層



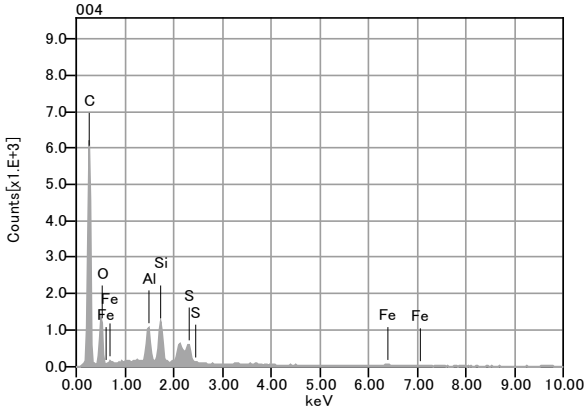

No. 25　外面高台部　（塗り分け部）　001　赤色漆層



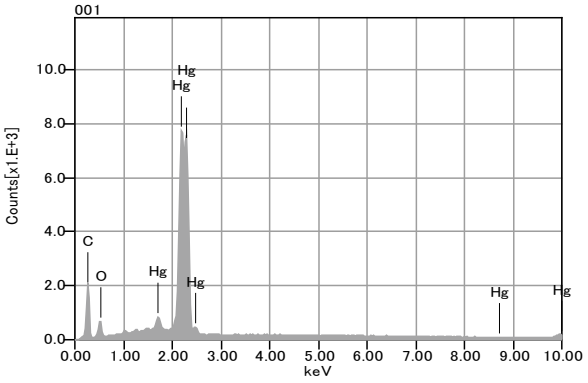

No. 25　外面高台部　（塗り分け部）　003　下地層



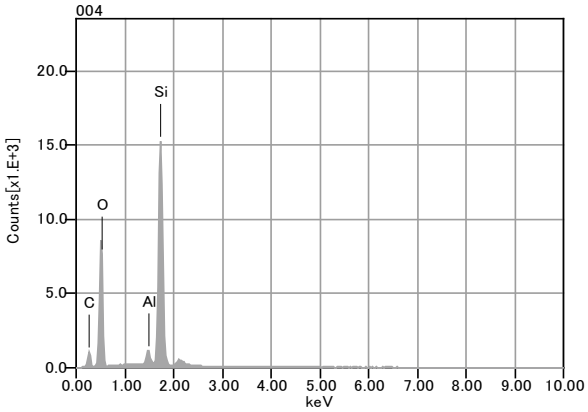

No. 26　内面口縁部　（塗り分け部）　001　赤色漆層



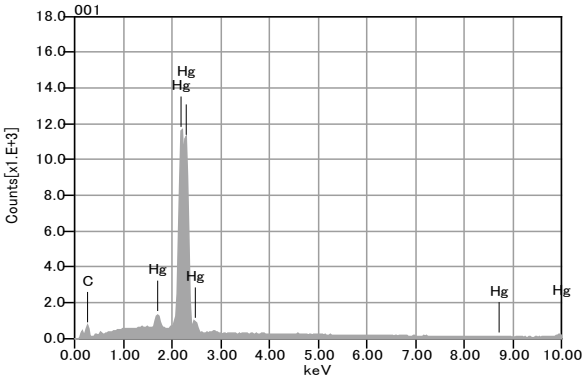

**第 73 図**　漆器塗膜スペクトル図１



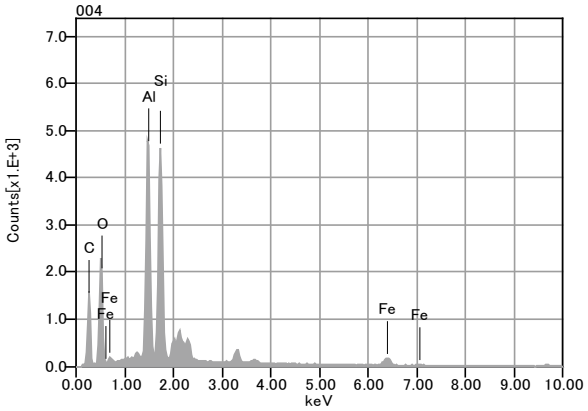

No.26　内面底部　001　赤色漆層



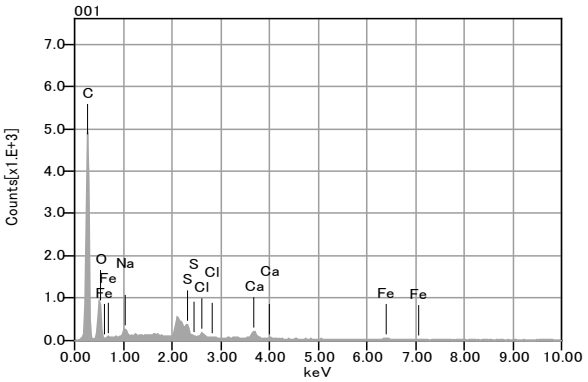

No.26　内面底部　004　下地層



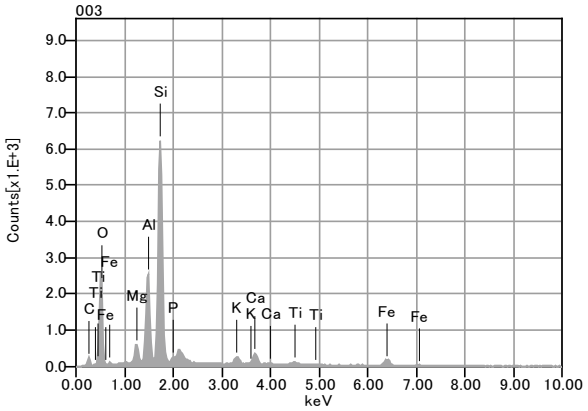

No.26　外面口縁部（塗り分け部）　001　赤色漆層



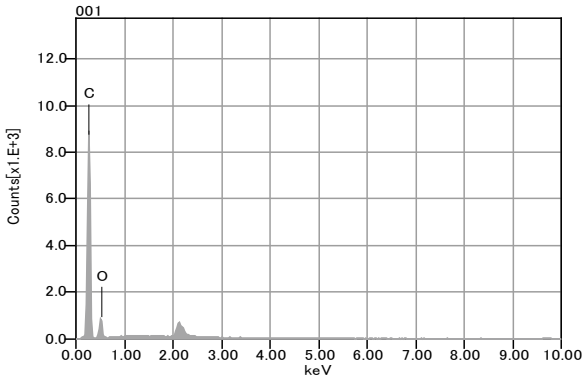

No.26　外面口縁部（塗り分け部）　004　下地層



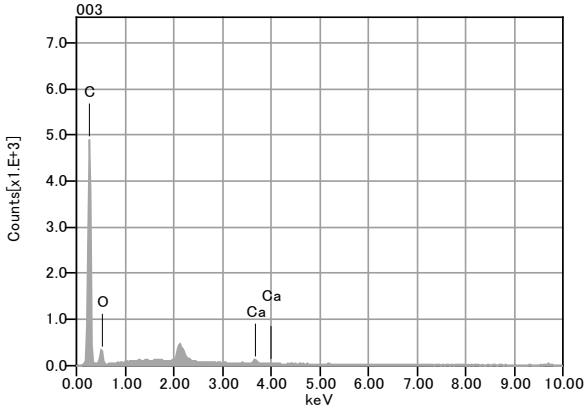

No.26　外面高台部　001　黒色漆層




No.26　外面高台部　003　下地層

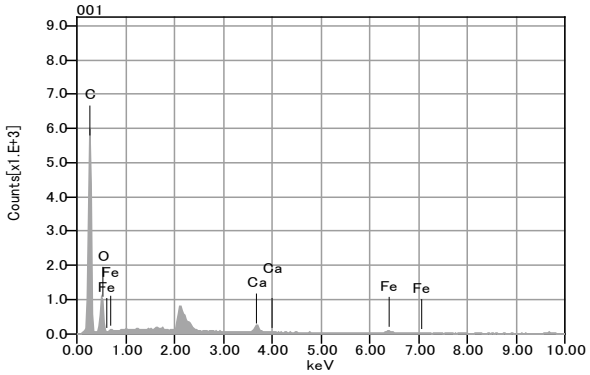



No.281　内面底部黒色部（文様避ける）　001　透明漆層

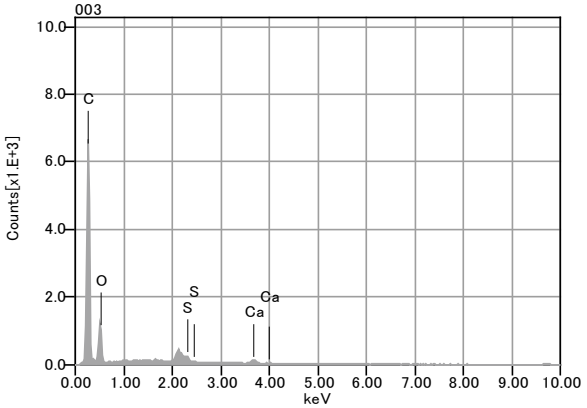



No.281　内面底部黒色部（文様避ける）　003　下地層

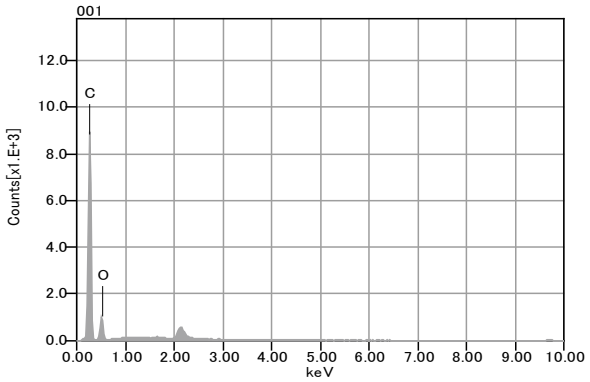
**第 74 図**　漆器塗膜スペクトル図２



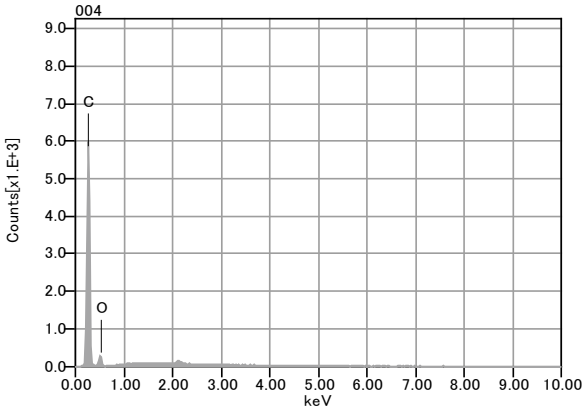

No. 281　外面底部黒色部（文様避ける）　001　透明漆層



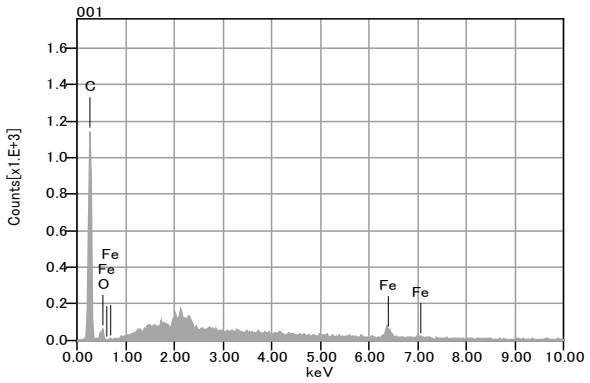

No. 281　外面底部黒色部（文様避ける）　003　下地層



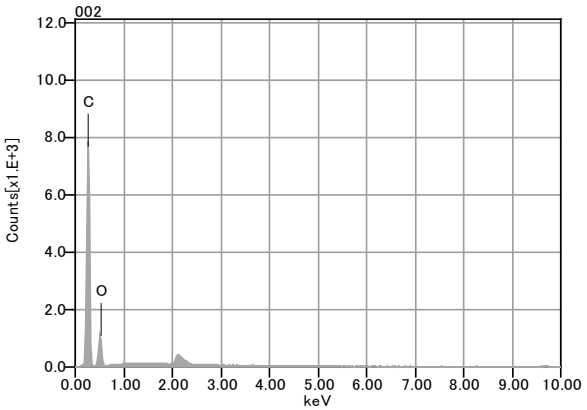

No. 504　内面体部黒色部（文様避ける）　001　透明漆層



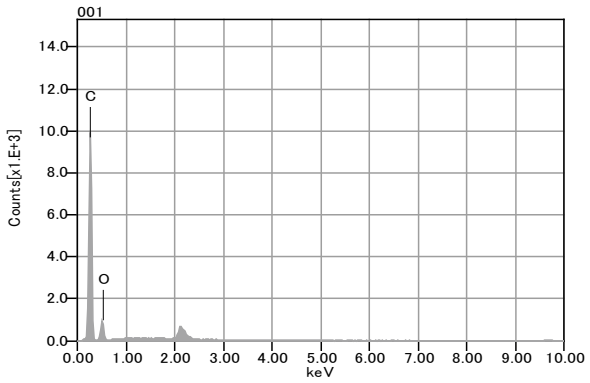

No. 504　内面体部黒色部（文様避ける）　004　下地層



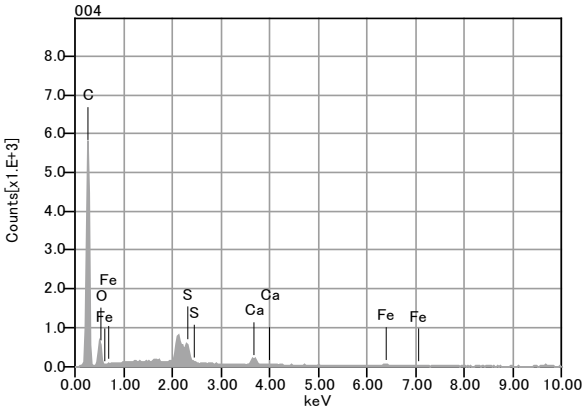

No. 504　外面体部黒色部（文様避ける）　001　透明漆層




No. 504　外面体部黒色部（文様避ける）　002　下地層

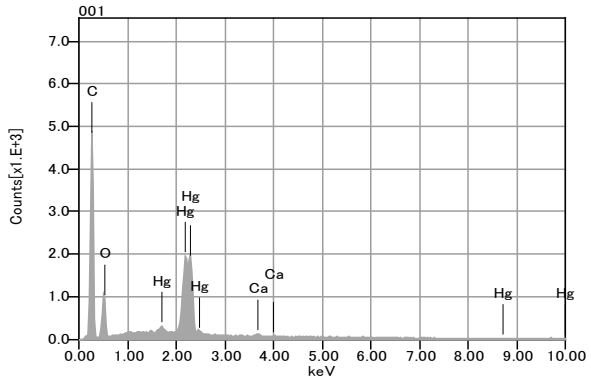



No. 547　縁部　001　透明漆層

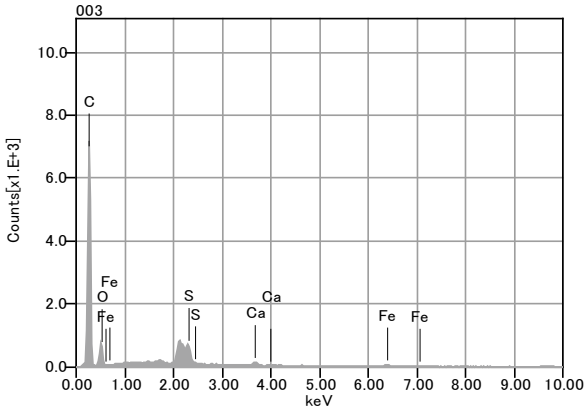



No. 547　縁部　004　素地層

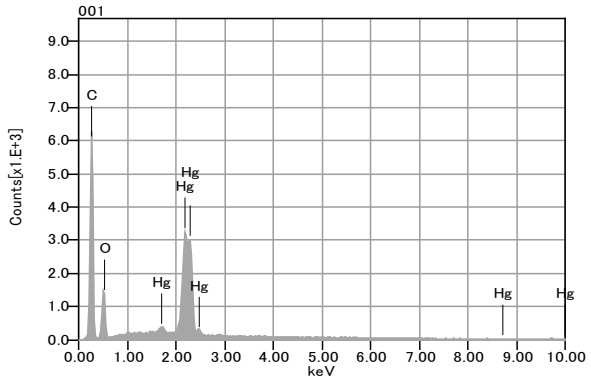
**第 75 図**　漆器塗膜スペクトル図３



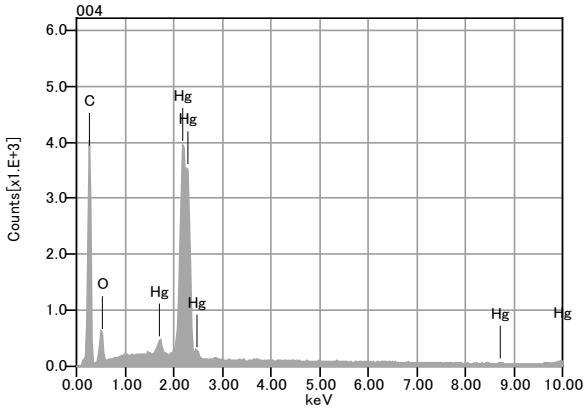

No.571　内面口縁付近　001　赤色漆層



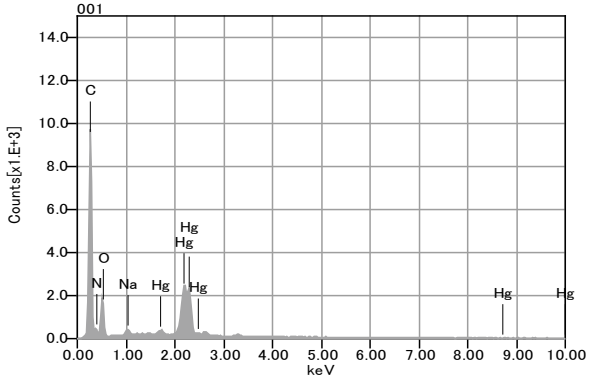

No.571　内面口縁付近　003　下地層



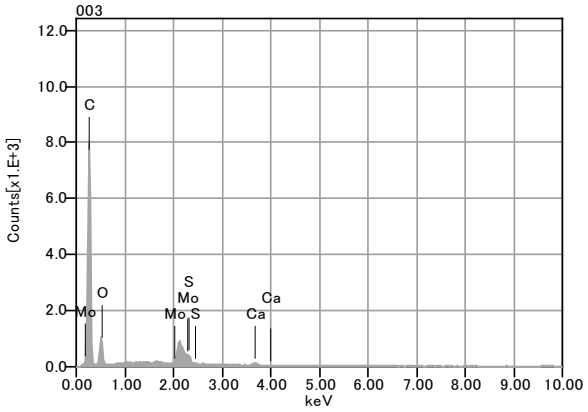

No.571　内面底部　001　赤色漆層



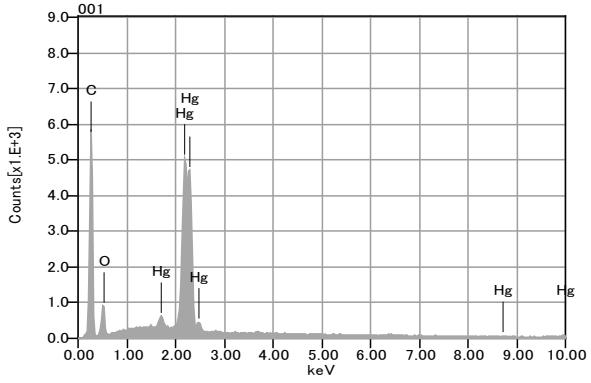

No.571　内面底部　004　下地層



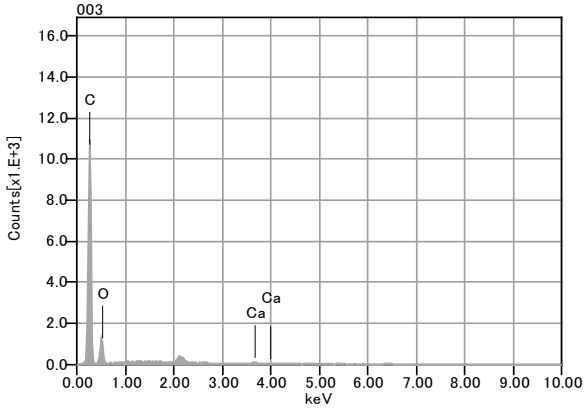

No.571　外面体部（赤色漆）　001　赤色漆層




No.571　外面体部（赤色漆）　003　下地層

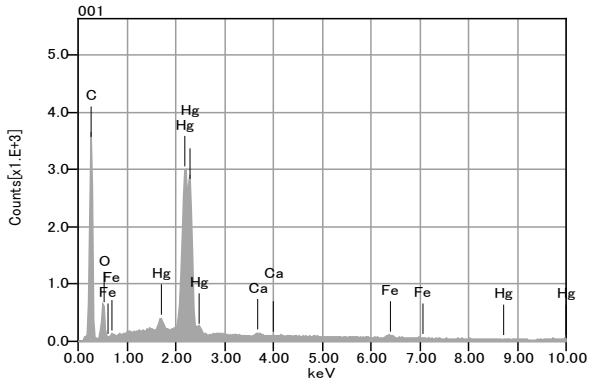



No.573　内面口縁部（塗り分け部）　001　赤色漆層

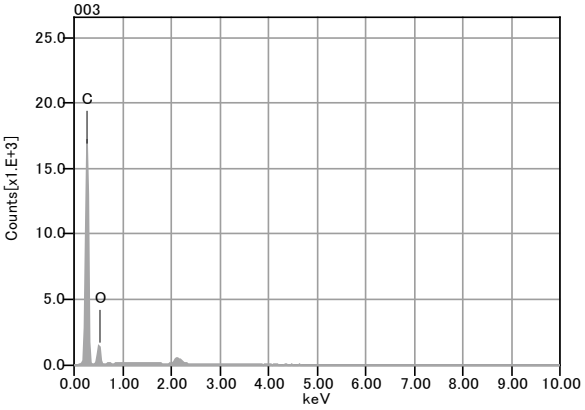



No.573　内面口縁部（塗り分け部）003　下地層

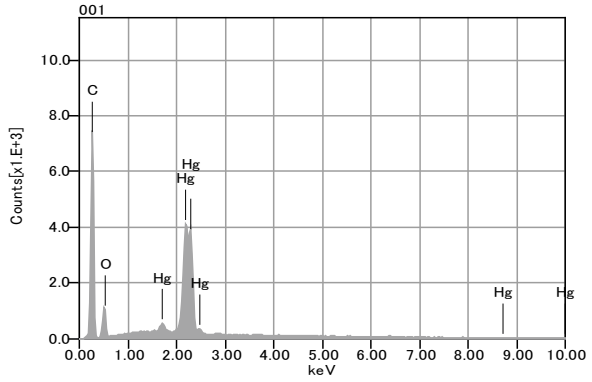
**第 76 図**　漆器塗膜スペクトル図４



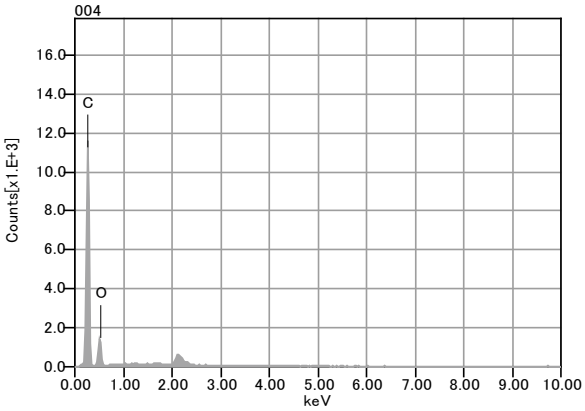

No. 573　内面底部　001　赤色漆層



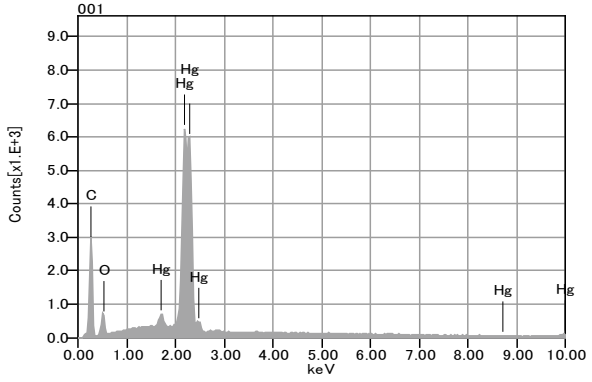

No. 573　内面底部　003　下地層



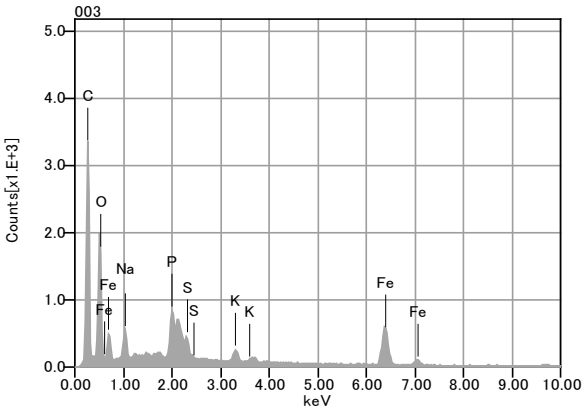

No. 573　外面高台部（塗り分け部）　001　赤色漆層



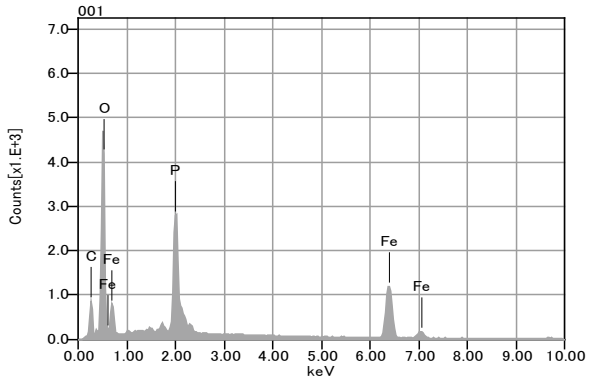

No. 573　外面高台部（塗り分け部）　004　下地層



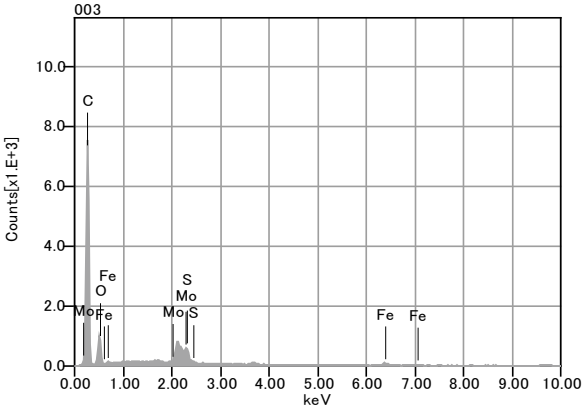

No. 575　内面底部（文様部）　001　赤色漆層




No. 575　内面底部（文様部）　003　下地層

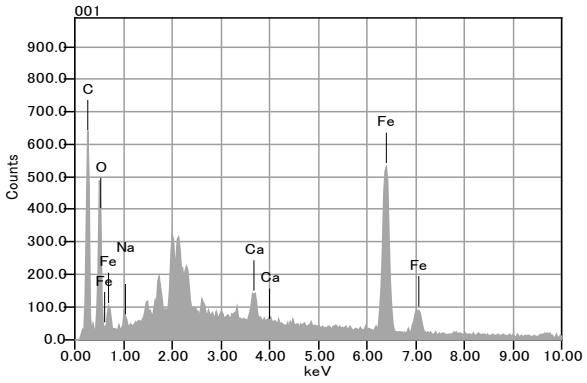



No. 575　外面体部（黒色）　001　透明漆層

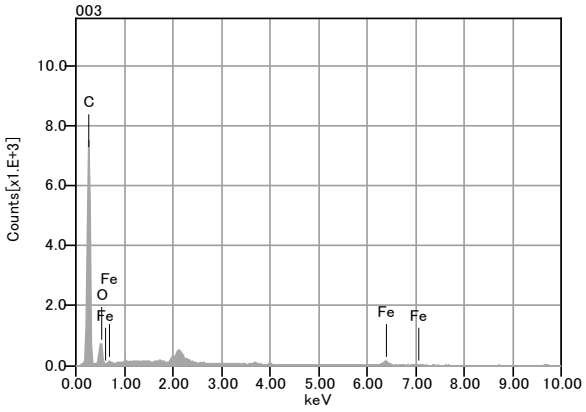



No. 575　外面体部（黒色）　003　下地層

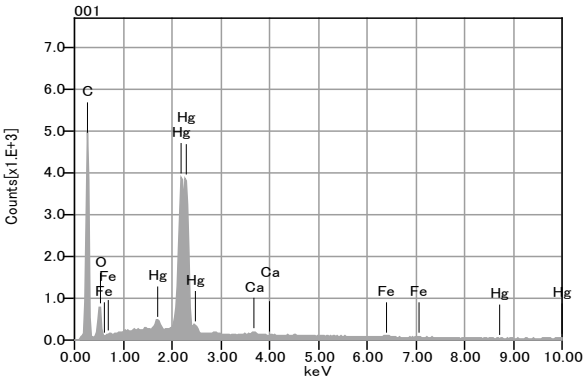
**第 77 図**　漆器塗膜スペクトル図５



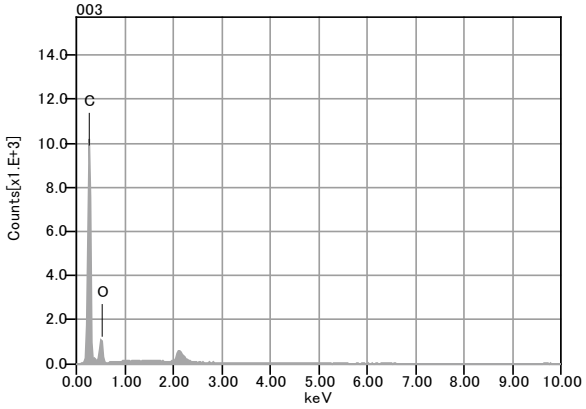

No.576　内面口縁付近　001　透明漆層



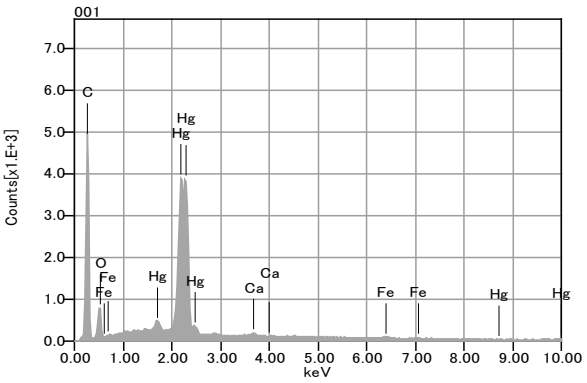

No.576　内面口縁付近　003　下地層



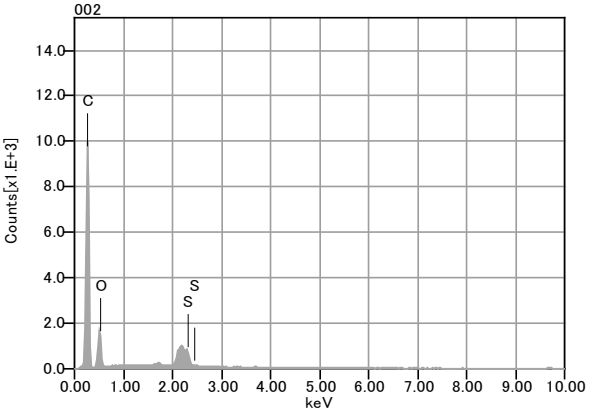

No.576　内面底部（文様部）　001　赤色漆層



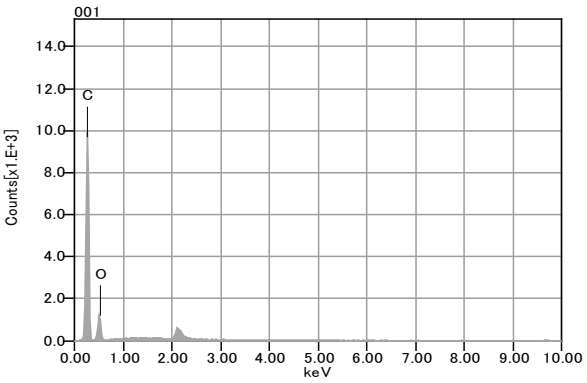

No.576　内面底部（文様部）　003　下地層



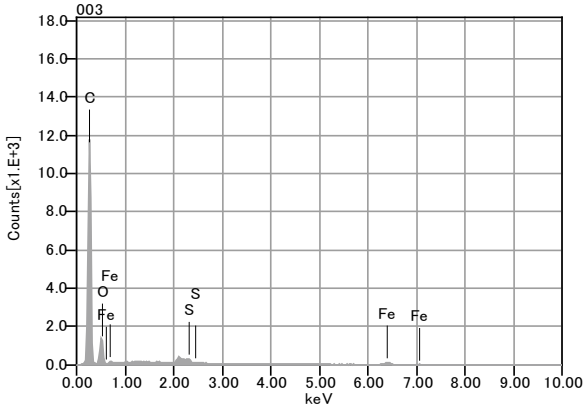

No.576　外面体部（文様部）　001　赤色漆層




No.576　外面体部（文様部）　002　下地層

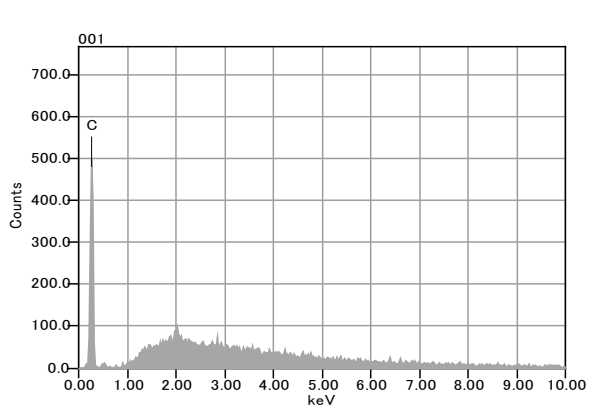



No.749　内面口縁部　001　2層ある透明漆層のうちの上層の透明漆層

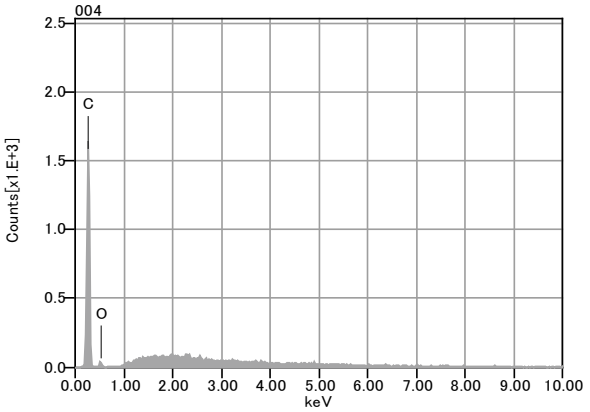



No.749　内面口縁部　003　下地層

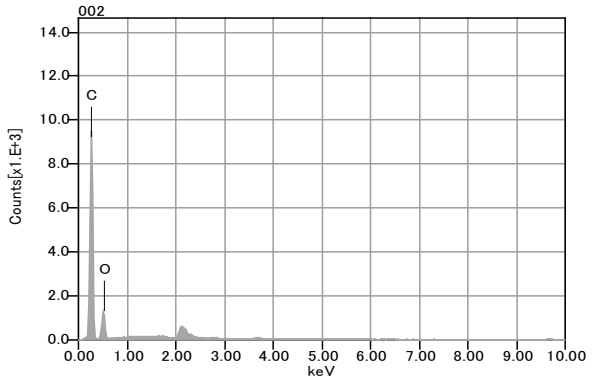
**第 78 図**　漆器塗膜スペクトル図６



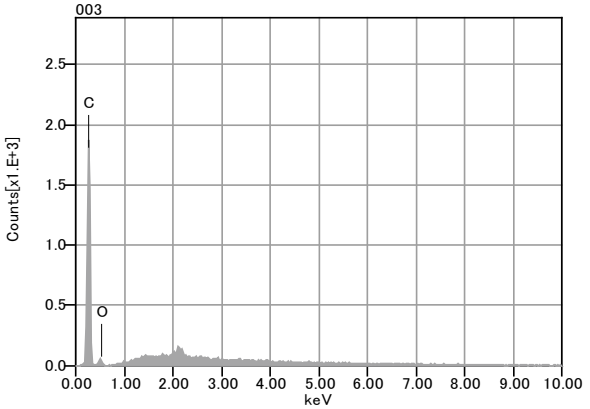

No. 749　内面底部（付着物有）001　付着物層




No. 749　内面底部（付着物有）004　下地層




No. 749　外面高台付近　001　透明漆層




No. 749　外面高台付近　003　下地層

**第 79 図**　漆器塗膜スペクトル図 7

### ２）分析結果

成分分析結果のスペクトルは省略し、第 22 表に分析結果一覧を示すが、その数値はあくまで参考にすぎない。No.281・504 の内外面ともに、珪素 (Si)、硫黄 (S)、鉄 (Fe)、水銀 (Hg) が検出されている。この内、赤色顔料の元素としては朱の水銀 (Hg) とベンガラの鉄 (Fe) があるが、鉄 (Fe) は漆器表面に付着しているものが反応した可能性が考えられる。この為、今回調査した No.281・504 漆器 2 点の文様部分の赤色顔料は水銀朱と推察される。

**第 22 表**　成分分析結果

| 元素 | No.281 内文様（wt%） | No.281 外文様（wt%） | No.504 内文様（wt%） | No.504 外文様（wt%） |
|---|---|---|---|---|
| Si | 2.22 | 1.36 | 0.80 | 1.47 |
| S | 30.74 | 27.66 | 25.24 | 28.34 |
| Fe | 28.63 | 38.93 | 17.97 | 8.82 |
| Hg | 34.08 | 25.88 | 53.60 | 58.68 |

## ３　漆器椀内面の黒色付着物分析調査

SE13 曲物内から出土した漆器椀内面の黒色付着物について、漆の有無について明らかにする為、以下の通り成分分析を行った。その結果を報告する。

### １）調査試料と方法

調査した試料は表 22 に示す漆器椀内面の黒色付着物である。

試料の遺物から数㎜四方のサンプルを採取し、パーキンエルマー社製、FT-IR 分析装置 Spectrum One を用いて、付着物を調査した。また参考資料には、積層固化が可能なものとして漆、柿渋、膠、乾性油、アスファルトが考えられるが、サンプルをアルコールに浸漬した際、変化が認められなかった。

この為、膠、乾性油、アスファルトはアルコールに容易に溶解するので比較対象から除外した。

**第 23 表**　分析試料

| | 試料名 | 概要 |
|---|---|---|
| 第 42 図6・木製品番号（749） | 漆器椀 | 漆器椀内面に積層固化したと思われる付着物が見られる |

### ２）分析結果

試料の黒色付着物の得られた赤外線スペクトルには、参考資料に用いた現代漆の赤外線スペクトルと近値に同様の吸収がみられた。一方の現代柿渋の赤外線スペクトルは同様の吸収はみられなかった。このことから黒色付着物は漆が積層したものと推察される。

## 第３節　長崎遺跡出土布の材質調査

SD43 からは布が出土している。その材質について調査を行った。以下にその結果を報告する。

### １）調査試料と観察方法

調査した試料は第 24 表に示す１点である。

試料本体を実体顕微鏡で表面観察および計測を行った後、試料を採取した。採取した数㎜四方の有機質の試料をエポキシ樹脂に包埋した。そして研磨して薄片プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で断面観察した。

**第 24 表**　分析試料

| No. | 試料 No. | 写真 No. | 資料名 | 出土地点 | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | － | 図版第 33（59・60） | 布製品 | SD43 | 現在は土の上に貼り付いた状態の布。ほぼ炭化した状態 |

### ２）観察結果

顕微鏡写真を示し、以下に観察結果を記す。

#### 表面観察結果

ある一箇所について、糸の太さ、糸間隔、１㎝の中の糸本数を測定した（第 25 表）。また、撚りについては表面を観察したが緩やかで方向を判断できなかった。ただ糸の横断面形状が円いため、撚られてはいる。糸の中の繊維本数も絹でなかったため計測はできなかった。

**第 25 表**　表面観察結果

| 経糸幅 | 緯糸幅 | 経糸間隔 | 経糸密度 | 緯糸密度 |
|---|---|---|---|---|
| 0.48 ～ 0.69㎜ | 0.37 ～ 0.45㎜ | 0.61 ～ 0.77㎜ | 12 本 /cm | 15 本 /cm |

#### 断面観察結果

布の経糸横断面は、図版第 33 の写真中央に写っている茶褐色を呈する楕円形が、経糸の横断面である。その上に波状に覆いかぶさっているのが緯糸の縦断面である。

### ３）摘要

長崎遺跡から出土した布の調査を行った。表面観察と合わせて経糸と緯糸の横断面形状などから、動物性の繊維ではなく、植物性の繊維ではないかと考えられる。

## 第４節　自然科学分析１

### １　土壌分析

長崎遺跡は、兵庫川右岸の自然堤防上に立地し、隣接する称念寺との関連が考えられる。今回の調査

で区画溝と井戸が多数検出されため、花粉分析、珪藻分析、大型植物遺体分析、微細遺物分析を行い、当時の植生と環境、食性の復原を行う。

**１）試料**

分析試料は、北調査区、南調査区で検出したSE3・9、SD37・43より採取された試料で、詳細は分析項目とともに第26表に記し、試料採取箇所は分析結果に付した模式柱状図（第80～83図）に示す。

**第26表**　分析試料一覧

| 地区 | 遺構 | 層位 | 備考 | 花粉 | 珪藻 | 大型植物遺体 | 微細遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北地区 | SE3 | | 井戸枠内 | ○ | | ○ | ○ |
| | SD37 | 1層 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 2層 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 3層 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 3下層 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 4層 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 6層 | | ○ | ○ | ○ | |
| 南地区 | SE9 | | 曲物2段目内 | ○ | | ○ | ○ |
| | SD43 | 4層 | | | | ○ | |
| | | 5層 | | | | ○ | |

２　花粉分析

**１）原理**　花粉分析は、第四紀学で多く扱われ、生層序による分帯区分解析で地層を区分し、分類群の増減の組み合わせなどの比較により植生や環境の変化を復原する方法である。一般には湖沼などの堆積物が対象となり、堆積盆単位など比較的広範囲の植生・環境の復原を行う方法として用いられる。遺跡調査では遺構内の堆積物など局地的で時間軸の短い堆積物も対象となり、より現地性の高い植生・環境・農耕の復原もデータ比較のなかで行える場合もある。さらに遺物包含層など、乾燥的な環境下の堆積物も対象となり、その分解性も環境の指標となる。また、風媒花や虫媒花等の散布能力などの差で、狭い範囲の植生に由来する結果が得られるなど、陸域の堆積物が分析に適さないわけではない。

**２）方法**

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに以下の手順で行った。

1）試料から1㎤を採量

2）0.5％リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎

3）水洗処理の後、0.25㎜の篩で礫等の大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去

4）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置

5）水洗処理の後、氷酢酸により脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す

6）再び氷酢酸を加えて水洗処理

7）沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製

8）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡で300～1000倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉（1973）、中村（1980）を参照して行った。イネ属については中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。なお、花粉分類では樹木花粉（AP）および非樹木花粉（NAP）となるが非樹木花粉（NAP）は草本花粉として示した。

**３）結果**

**分類群**

出現した分類群は、樹木花粉 16、樹木花粉と草本花粉を含むもの２、草本花粉 15、シダ植物胞子２形態の計 35 である。これらの学名と和名および粒数を第 27 表に示した。花粉数が 200 個以上計数できた試料については、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラム図を示す（第 80 図）。なお 200 個未満であっても、100 個以上計数できた試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は顕微鏡写真に示した（図版第 34）。同時に検出された寄生虫卵も検鏡した結果、７分類群が検出された。以下に出現した分類群を記載する。

**樹木花粉**　マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科、サワグルミ、ハンノキ属、クマシデ属−アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属−ケヤキ、エノキ属−ムクノキ、ズイナ属、トチノキ

**樹木花粉と草本花粉を含むもの**　クワ科−イラクサ科、マメ科

**草本花粉**　イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ネギ属、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科−ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、ナス科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

**シダ植物胞子**　単条溝胞子、三条溝胞子

**寄生虫卵**　回虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵、横川吸虫卵−異形吸虫類卵、毛細線虫属卵、マンソン裂頭条虫卵、不明虫卵

以下にこれらの特徴を示す。

**回虫**　*Ascaris　lumbricoides*

回虫卵は比較的大きな虫卵で、およそ 80×60μm あり、楕円形で外側に蛋白膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18 日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。回虫は世界に広く分布し、現在も温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられる。

**鞭虫**　*Trichuris　trichiura*

卵の大きさは、50×30μm でレモン形あるいは岐阜ちょうちん形で、卵殻は厚く褐色で両端に無色の栓がある。糞便とともに外界に出た虫卵。３～６週間で感染幼虫包蔵卵になり経口感染する。鞭虫は世界に広く分布し、現在では特に熱帯・亜熱帯の高温多湿な地域に多くみられる。

**肝吸虫**　*Clonorchis　sinensis*

卵の大きさは、およそ 30×16μm でなすび型で一端に陣笠状の小蓋を持つ。卵殻の表面には亀甲状の紋理を認める。糞便とともに外界に出た虫卵は、水中で第１中間宿主のマメタニシに食べられ、セルカリアになり水中に遊出し、第２中間宿主のモツゴ、モロコ、コイ、フナ、タナゴに侵入してメタセルカリアとなり魚肉とともにヒトに摂取され感染する。肝吸虫はアジア地域に広く分布し特に中国、日本、ベトナム、韓国に多い。日本では岡山県南部、琵琶湖沿岸、八郎潟、利根川流域等が流行地として知られている。

**横川吸虫ー異形吸虫類**　*Metagonimus　yokogawai − Heterophyes*

卵はおよそ 27×17μm で短楕円形または卵形。一端に小蓋を有するが卵殻との境がほとんど突出せずスムーズである。卵殻表面は平滑で紋理はみられない。日本各地でみられる横川吸虫や瀬戸内海沿岸に多く、そのほか海に近い地域にかなり広くみられる有害異形吸虫は、中間宿主が異なるだけで発育史をはじめ形態等も良く似ている。横川吸虫ではアユ、有害異形吸虫ではボラ等の生食により魚肉とともにヒトに摂取され感染する。遺跡においては小蓋がとれたり、堆積環境や薬品処理等により横川吸虫卵と

有害異形吸虫卵の区別はつきにくく異形吸虫類とする。

**毛細線虫属**　*Capillaria*　sp.

主に鶏の小腸に寄生する毛体虫で卵は大きさ形とも鞭虫卵に類似するが、両端栓状物がやや突出し、その幅は小さく卵殻もやや薄い。鶏の生食や不完全な調理で感染する。

**マンソン裂頭条虫**　*Diphyllobothoyium　mansoni*

終宿主はイヌ科、ネコ科の動物で、ヒトは第２中間宿主や待機宿主となる。ヒトへの感染は第１中間宿主のケンミジンコのいる生水や第２中間宿主（主にニワトリ、カモ、ブタ、イノシシ、カエル、ヘビ等)、終宿主の生食などによる。卵の大きさは 70×35μm で両端がやや尖り左右非対称で、一端に小蓋がある。

**不明虫卵**　Unknown　eggs

卵の大きさは、横川吸虫卵よりやや大きく淡黄色。一端に小蓋があるが欠落している。

**遺体群集の特徴**

遺構ごとに花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する（第 80 図)。

**SE3 井戸枠内**　樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、草本花粉が 77%、樹木・草本花粉が 13%を占める。草本花粉のイネ科、イネ属型の出現率が高く、特にイネ属型の比率が多い。ほかにアブラナ科、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科が伴われ、ソバ属が出現する。鞭虫卵がわずかに検出される。樹木・草本花粉ではクワ科-イラクサ科の出現率が高い。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属、クマシデ属-アサダ、エノキ属-ムクノキ等が低率に出現する。

**SD37　１～３下層・４・６層**　下位より、６層では草本花粉が 86%を占め、イネ科、イネ属型を主にアブラナ科、ネギ属、アカザ科-ヒユ科の出現率が高く、ソバ属が出現し、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科も多い。寄生虫卵が $8.2\times10^2$ 個検出され回虫卵、鞭虫卵がほとんどを占め、肝吸虫卵、横川吸虫-異形吸虫類卵、毛細線虫属卵、マンソン裂頭条虫卵、不明虫卵が検出される。４層になると密度が低くなりイネ科（イネ属型を含む）が半減、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科が増加する。３下層になるとより密度が低くなるが、アブラナ科、イネ科が継続して出現する。３層、２層は類似した出現傾向を示し、草本花粉が 89%から 95%を占める。アブラナ科、イネ科、イネ属型、アカザ科-ヒユ科の出現率が高く、ヨモギ属、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科が低率に出現する。３層では回虫卵、鞭虫卵が 2.9 × 102 個検出される。１層では密度が極めて低くなり花粉はほとんど検出されないが、アブラナ科、イネ科、アカザ科-ヒユ科がわずかであるが継続して出現する。

**SE9 曲物２段目内**　樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く 52%を占める。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）を主に、アブラナ科、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科が出現し、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科が比較的多い。樹木花粉ではニレ属-ケヤキが優占し、エノキ属-ムクノキ、スギが低率に伴われる。

**花粉分析から推定される植生と環境**

それぞれの遺構ごとに花粉群集の特徴から植生および環境の復原を行う。

**SE3 井戸枠内**　イネ属型とイネ科が優占し、イネ属型の出現率が高く特徴的であり、水田を示唆する値よりも極めて高い。イネ科は穎内に花粉が多く残存することから堆積したイネ穎に由来する花粉と考えられる。ほかはイネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属等草本で占められ、いずれも日当たりのよい比較的乾燥した環境を好む人里植物ないし耕地雑草の性格をもつ草本であり、また水生草本

は検出されていない。クワ科-イラクサ科も同様の環境に生育する草本と考えられる。このことから、SE3 の周囲は、これらの草本が繁茂する陽当たりの良い人為改変された乾燥地であったとみなされる。またアブラナ科にはナタネ、ダイコン等の栽培植物が含まれ、ソバ属も検出され、イネ穎と同じく廃棄ないし生活汚染で堆積した割合が多いとみなされるが、周囲にアブラナ、ソバ等の畑が分布していた可能性もある。また、クワ科にはヤマグワ等の樹木も含まれ、SE3 に近接して生育していた可能性も考えられる。樹木花粉は少ないが、コナラ属アカガシ亜属、クマシデ属-アサダ、エノキ属-ムクノキ等の二次林要素の樹木が周辺で疎林ないし孤立木として分布する。

**SD37　１～３下層・４・６層**　下位から６層の時期はイネ科とイネ属型が優占する。アブラナ科、アカザ科-ヒユ科等草本が多く、前述の SE3 井戸枠内の結果とほぼ同じ環境が考えられ、周囲にはこれら草本の繁茂する陽当たりの良い人為改変された乾燥地が分布していた。ネギ属が特徴的に出現し、ニラやノビル等のネギ属が溝際に群生していたと推定される。寄生虫卵が汚染よりやや多い程度検出され、堆積物に糞便由来成分が含まれているとみなされる。アブラナ科にはナタネ等の野菜が含まれ、これらは花芽を含む植物体が食べられるため、糞便の成分として反映されるものであり、より上層も含め、糞便由来の花粉が多く含まれていると考えられる。イネ属型以外に食用ないし利用されるネギ属やイネ科（アワやキビ）、花序から果実序が薬用になるアカザ科-ヒユ科の花粉は糞便由来が多いと考えられる。

次に４層の時期になると花粉、寄生虫卵ともに密度が低くなり、アブラナ科やアカザ科-ヒユ科が多くなる。３下層の時期には密度が低くなり、乾燥した堆積環境になったか、堆積速度が速く花粉が集積できなかったと考えられる。上位の２・３層は、下位４層と類似した出現傾向を示し、寄生虫卵は多少増減を示すが、挙動をともにする花粉分類群はなく、イネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科等草本は、周囲に繁茂し、陽当たりの良い人為改変された乾燥地であったと推定される。６層の時期と同様に、寄生虫卵密度がやや高いため、混入した糞便の影響も反映されたとみなされる。１層の時期には花粉密度が極めて低くなり、花粉等の有機質遺体が分解される乾燥した堆積環境になったと考えられる。水生植物が検出されず、溝は乾湿が繰り返される不安定な環境であったとみなされる。

以上のことから、SD37 の周辺は人里植物が生育し、人為改変された乾燥地であり、また溝は糞便を含み生活汚染を強く受ける状況であった。

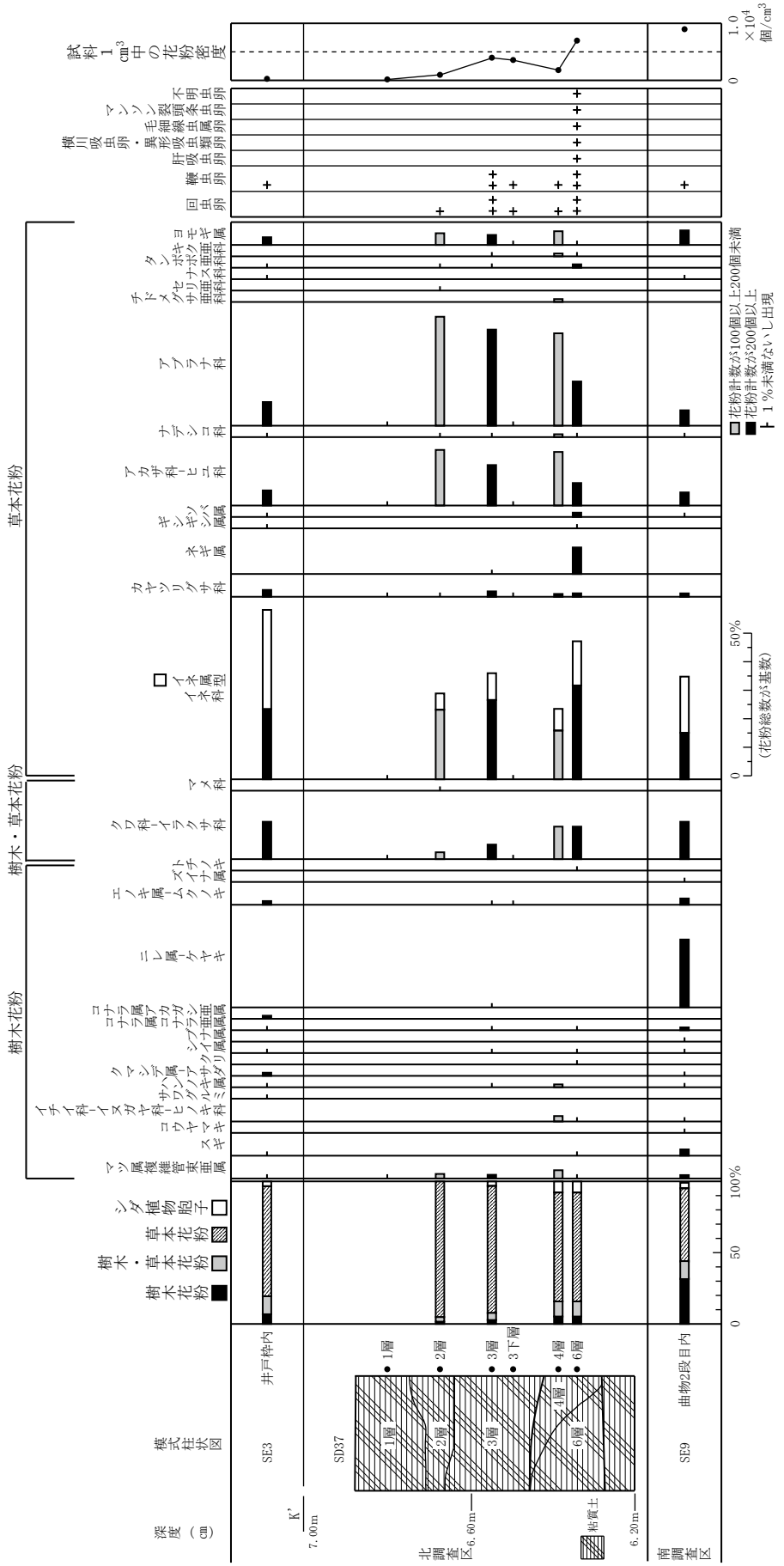
**SE9 曲物２段目内**　ここではニレ属-ケヤキの出現率が特徴的で、SE9 に近接して生育していたとみなされる。ニレ属-ケヤキは、谷、川沿いの肥沃で陽当たりを好む陽樹であるが、人為性の高い環境下でも比較的よく育つ。またやや遠方には、スギ、マツ属複維管束亜属等の針葉樹が分布していた。イネ属型の出現率が高く、廃棄されたイネ穎由来と考えられる。イネ科を主にアブラナ科、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科が出現し、いずれも人里植物を多く含む種類であり、これら陽当たりの良い乾燥した環境を好む人里植物が SE9 の周囲に生育し、周囲は人為改変された乾燥地であったと考えられる。

**４）小結**　分析の結果、SE3 の井戸枠内は、陽当たりの良い乾燥した環境を好む人里植物が多く、SE3 の周囲はこれらの草本が生育する陽当たりの良い人為改変された乾燥地であった。またイネ属型の出現率が高く、堆積したイネ穎由来と推定される。

SD37 は草本花粉の占める割合が極めて高く、溝の周囲には、イネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、クワ科-イラクサ科の乾燥を好む人里植物が生育していた。また下位の６層では、ネギ属が特徴的に出現し、ノビル等が溝の周囲に生育していたと考えられるが、寄生虫卵が生活汚染よりやや多い程度検出され、糞便が混入し、糞便由来の花粉も反映された可能性が示唆される。イネ科、アブラナ科には食用

**第 27 表**　花粉分析結果

| 分類群 | | 北調査区 | | | | | | | 南調査区 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | SE3 | SD37 | | | | | | SE9 井戸 |
| 学名 | 和名 | 井戸枠内 | 1 層 | 2 層 | 3 層 | 3 下層 | 4 層 | 6 層 | 曲物 2 段目内 |
| Arboreal pollen | 樹木花粉 | | | | | | | | |
| *Pinus subgen. Diploxylon* | マツ属複維管束亜属 | 2 | 1 | 2 | 5 | | 3 | 1 | 5 |
| *Cryptomeria japonica* | スギ | 1 | | | | | | 1 | 9 |
| *Sciadopitys verticillata* | コウヤマキ | | | | | | | | 1 |
| Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae | イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科 | | | | | | 2 | 1 | 1 |
| *Pterocarya rhoifolia* | サワグルミ | 1 | | | | | | | |
| *Alnus* | ハンノキ属 | 3 | | | 1 | | 1 | | 1 |
| *Carpinus-Ostrya japonica* | クマシデ属-アサダ | 4 | | | | | | | 3 |
| *Castanea crenata* | クリ | | | | | | | 1 | |
| *Castanopsis* | シイ属 | 3 | | | 1 | | | 1 | 1 |
| *Fagus* | ブナ属 | | | | | | | | 3 |
| *Quercus subgen. Lepidobalanus* | コナラ属コナラ亜属 | 3 | | | 1 | | | 2 | 4 |
| *Quercus subgen. Cyclobalanopsis* | コナラ属アカガシ亜属 | 4 | | | | | | | |
| *Ulmus-Zelkova serrata* | ニレ属-ケヤキ | | | | 1 | | | | 98 |
| *Celtis-Aphananthe aspera* | エノキ属-ムクノキ | 5 | | | 2 | 1 | | | 9 |
| *Itea* | ズイナ属 | | | | | | | | 1 |
| *Aesculus turbinata* | トチノキ | | | | | | | 1 | |
| Arboreal・Nonarboreal pollen | 樹木・草本花粉 | | | | | | | | |
| Moraceae-Urticaceae | クワ科-イラクサ科 | 49 | 2 | 3 | 19 | 4 | 12 | 39 | 54 |
| Leguminosae | マメ科 | | | 1 | | | | | |
| Nonarboreal pollen | 草本花粉 | | | | | | | | |
| Gramineae | イネ科 | 92 | 6 | 30 | 104 | 11 | 18 | 113 | 67 |
| *Oryza type* | イネ属型 | 130 | | 7 | 35 | | 8 | 53 | 81 |
| Cyperaceae | カヤツリグサ科 | 9 | 1 | 1 | 7 | 1 | 1 | 4 | 5 |
| *Allium* | ネギ属 | | | | 2 | | | 32 | |
| *Rumex* | ギシギシ属 | 1 | | | | | | 1 | |
| *Fagopyrum* | ソバ属 | 1 | | | | | | 5 | 3 |
| Chenopodiaceae-Amaranthaceae | アカザ科-ヒユ科 | 20 | 6 | 24 | 53 | 7 | 18 | 27 | 19 |
| Caryophyllaceae | ナデシコ科 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 2 |
| Cruciferae | アブラナ科 | 31 | 7 | 47 | 126 | 16 | 34 | 53 | 22 |
| Hydrocotyloideae | チドメグサ亜科 | | | | | | 1 | | |
| Apioideae | セリ亜科 | | | 1 | | | | | |
| Solanaceae | ナス科 | 1 | | | | | | | 1 |
| Lactucoideae | タンポポ亜科 | 3 | | 1 | 2 | | | 4 | |
| Asteroideae | キク亜科 | | | | 1 | | 1 | 3 | |
| *Artemisia* | ヨモギ属 | 10 | | 5 | 13 | 2 | 5 | 1 | 21 |
| Fern spore | シダ植物胞子 | | | | | | | | |
| Monolate type spore | 単条溝胞子 | 5 | | | 5 | 15 | 6 | | 5 |
| Trilate type spore | 三条溝胞子 | 8 | | | 7 | 2 | 3 | 3 | 12 |
| Arboreal pollen | 樹木花粉 | 26 | 1 | 2 | 11 | 1 | 6 | 8 | 136 |
| Arboreal・Nonarboreal pollen | 樹木・草本花粉 | 49 | 2 | 4 | 19 | 4 | 12 | 39 | 54 |
| Nonarboreal pollen | 草本花粉 | 299 | 20 | 117 | 344 | 37 | 87 | 297 | 221 |
| Total pollen | 花粉総数 | 374 | 23 | 123 | 374 | 42 | 105 | 344 | 411 |
| Pollen frequencies of $1cm^3$ | 試料 $1cm^3$ 中の花粉密度 | 0.3 $\times10^3$ | 0.2 $\times10^3$ | 1.0 $\times10^3$ | 4.0 $\times10^3$ | 3.6 $\times10^3$ | 0.9 $\times10^3$ | 7.0 $\times10^3$ | 9.0 $\times10^3$ |
| Unknown pollen | 未同定花粉 | 12 | 1 | 2 | 7 | 3 | 4 | 9 | 5 |
| Fern spore | シダ植物胞子 | 13 | 0 | 0 | 12 | 17 | 9 | 3 | 17 |
| Parasite eggs | 寄生虫卵 | | | | | | | | |
| *Ascaris (lumbricoides)* | 回虫卵 | | | 5 | 15 | 4 | 1 | 30 | |
| *Trichuris (trichiura)* | 鞭虫卵 | 3 | | | 27 | 5 | 3 | 45 | 1 |
| *Clonorchis sinensis* | 肝吸虫卵 | | | | | | | 1 | |
| *Metagonimus yokogawai-Heterophyes* | 横川吸虫卵 - 異形吸虫類卵 | | | | | | | 1 | |
| *Capillaria* sp. | 毛細線虫属卵 | | | | | | | 1 | |
| Diphyllobothrium mansoni | マンソン裂頭条虫卵 | | | | | | | 1 | |
| Unknown eggs | 不明虫卵 | | | | | | | 3 | |
| Total | 計 | 3 | 0 | 5 | 42 | 9 | 4 | 82 | 1 |
| Parasite eggs frequencies of $1cm^3$ | 試料 $1cm^3$ 中の寄生虫卵密度 | 2.1 $\times10$ | | 4.0 $\times10$ | 2.9 $\times10^2$ | 7.2 $\times10$ | 3.2 $\times10$ | 8.2 $\times10^2$ | 1.2 $\times10$ |
| Stone cell | 石細胞 | (−) | (−) | (−) | (−) | (−) | (−) | (−) | (−) |
| Digestion rimeins | 明らかな消化残渣 | (−) | (−) | (−) | (−) | (−) | (−) | (−) | (−) |
| Charcoal・woods fragments | 微細炭化物・微細木片 | (+) | (+) | (+) | (+) | (+) | (+) | (+) | (+) |
| 微細植物遺体（Charcoal・woods fragments） | ($\times10^5$) | | | | | | | | |
| 未分解遺体片 | | 1.1 | | | 0.4 | | | 2.1 | 5.0 |
| 分解質遺体片 | | 13.9 | 8.4 | 10.0 | 13.9 | 9.6 | 11.3 | 19.3 | 15.0 |
| 炭化遺体片（微粒炭） | | 1.1 | | | | | | 1.6 | 2.5 |




**第80図**　花粉ダイアグラム

となる種類が含まれ、イネ、ソバ、ネギ属同様に糞便由来が反映された可能性も考えられる。なお樹木は極めて少ない。

SE9 の曲物２段目内は、ニレ属-ケヤキの出現率が高く、近接してニレ属かケヤキが生育していたとみなされる。また周囲にはイネ科、クワ科-イラクサ科の人里植物が分布し、陽当たりの良い人為改変された乾燥地が示唆された。

３　珪藻分析

**原理**　珪藻は珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性等の環境要因に応じ、それぞれ特定の生息場所をもっている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

**１）試料**　試料分析試料は、SD37 より採取された試料６点である。

**２）方法**　以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

１）試料から１㎤を採量
２）10％過酸化水素水を加え、加温反応させながら１晩放置
３）上澄みを捨て細粒のコロイドを水洗（５～６回）
４）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥
５）マウントメディアによって封入して、プレパラート作製
６）検鏡、計数

検鏡は生物顕微鏡により 600 ～ 1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 200 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

**３）結果**

**分類群**

試料から出現した珪藻は、貧塩性種（淡水生種）64 分類群である。破片の計数は基本的に中心域を有するものと中心域がない種については両端２個につき１個と数えた。分析結果を第 28 表に示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定した珪藻ダイアグラムを第 81 図に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性は Lowe（1974) の記載、陸生珪藻は小杉（1986）により、環境指標種群は海水生種から汽水生種は小杉（1988)、淡水生種は安藤（1990）による。主要な分類群は顕微鏡写真に示した（図版第 36)。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記載する。

**貧塩性種**　*Achnanthes lanceolata*、*Achnanthes minutissima*、*Amphora montana*、*Cocconeis placentula*、*Cymbella sinuata*、*Fragilaria construens* v. *venter*、*Gomphonema clevei*、*Gomphonema parvulum*、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula confervacea*、*Navicula contenta*、*Navicula cryptotenella*、*Navicula elginensis*、*Navicula gallica*、*Navicula kotschyi*、*Navicula mutica* 、*Navicula mutica* v. *ventricosa*、*Navicula pseudoacceptata*、*Navicula* spp.、*Navicula veneta*、*Neidium alpinum*、*Nitzschia amphibia*、*Nitzschia palea*、*Nitzschia umbonata*、*Nitzschia* spp.、*Pinnularia appendiculata*、*Pinnularia lagerstedtii*、*Pinnularia obscura*、*Pinnularia schoenfelderi*、*Pinnularia* spp.、*Pinnularia subcapitata*、*Surirella angusta*、*Surirella ovata*

**珪藻群集の特徴**

**SD37　１～３下層・４・６層**　下位より珪藻構成と珪藻組成の変化の特徴を記載する（第 81 図)。

下位の６層では陸生珪藻が 73％を占め、*Amphora montana* が高率に出現し、*Achnanthes minutissima*、*Navicula contenta*、*Hantzschia amphioxys* が伴われる。次に流水不定性種が 21％を占め、*Navicula pseudoacceptata*、*Nitzschia umbonata*、*Nitzschia* spp. が低率に出現する。ほかに好流水性種の *Surirella angusta* が出現する。

４層では密度が低くなり *Hantzschia amphioxys*、*Amphora montana* 等がわずかに出現するのみである。

３下層から１層は珪藻の組成、構成ともに類似した出現傾向を示し、陸生珪藻が 69％～ 77％を占め、流水不定性種が 15％～ 21％を占める。陸生珪藻では *Amphora montana* の出現率が高く、*Navicula contenta*、*Hantzschia amphioxys* が *Pinnularia schoenfelderi*、*Achnanthes minutissima*、*Navicula mutica* が伴われる。流水不定性種では *Navicula pseudoacceptata*、*Navicula veneta*、*Nitzschia palea*、*Nitzschia* spp. 等が低率に出現する。ほかに好流水性種の *Surirella angusta*、沼沢湿地付着生種が微増する。

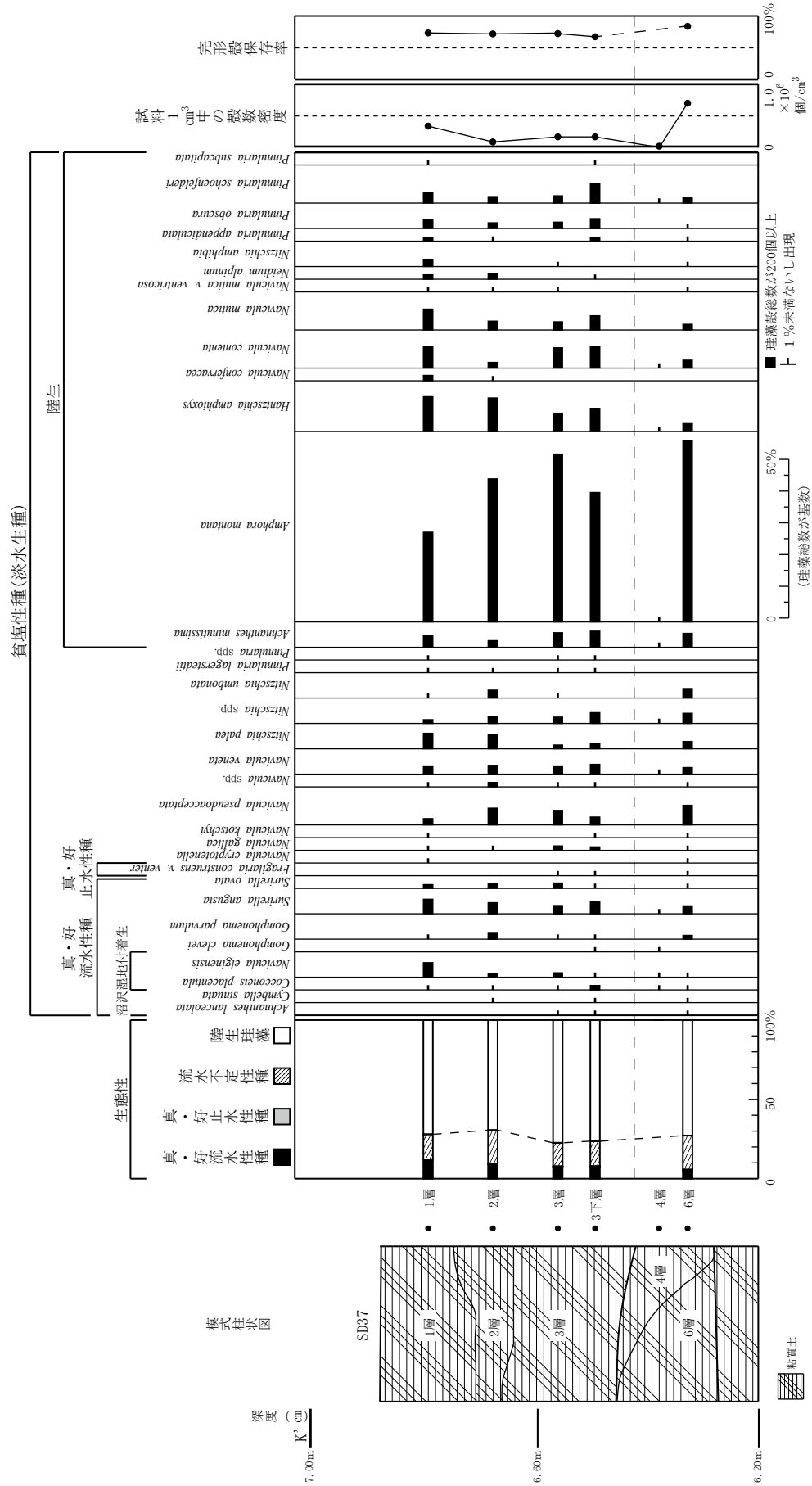
**珪藻分析から推定される堆積環境**

**SD37　１層～３下層・４層・６層**　珪藻群集の特徴から下位より環境の復原を行う。下位の６層の時期には陸生珪藻が優占し、湿った環境が主要に示唆される。低率に流水不定性種や真・好流水性種が伴われることから、部分的にあるいは時期的に流水の影響を受け、滞水した環境が分布したとみなされる。４層の時期には珪藻密度が極めて低くなり、珪藻の生育できない乾燥した堆積環境であったか、堆積速度が速く珪藻が集積できなかった環境が考えられる。３下層から１層の時期は陸生珪藻の占める割合が

**第 28 表**　珪藻分析結果

| 分類群 | 北調査区　SD37 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | １層 | ２層 | ３層 | ３下層 | ４層 | ６層 |
| 貧塩性種（淡水生種） | | | | | | |
| *Achnanthes crenulata* | | | | | 1 | |
| *Achnanthes hungarica* | | | 1 | | | |
| *Achnanthes lanceolata* | | | 2 | 1 | | 1 |
| *Achnanthes minutissima* | 13 | 6 | 16 | 18 | 1 | 19 |
| *Amphora fontinalis* | | | | | | 1 |
| *Amphora montana* | 98 | 128 | 183 | 145 | 3 | 248 |
| *Aulacoseira alpigena-distans* | | | | 1 | | |
| *Caloneis silicula* | | | | | | 1 |
| *Cocconeis placentula* | 2 | 2 | 1 | 5 | 2 | 1 |
| *Cyclotella meneghiniana* | 1 | | | | | |
| *Cymbella silesiaca* | | 1 | | 1 | | 1 |
| *Cymbella sinuata* | | 1 | | 1 | | 2 |
| *Diatomella balfouriana* | 1 | | | | | |
| *Diploneis boldtiana* | 1 | | | | | |
| *Diploneis elliptica* | 1 | | | | | |
| *Epithemia adnata* | | | | 1 | | |
| *Eunotia minor* | | | | 1 | | |
| *Fragilaria brevistriata* | | | 1 | | | |
| *Fragilaria capucina* | | | 1 | | | 1 |
| *Fragilaria construens v. venter* | | | 1 | 1 | | 2 |
| *Fragilaria intermedia* | | | | | | |
| *Frustulia vulgaris* | 1 | | 1 | 1 | | |
| *Gomphonema clevei* | | | | 2 | 2 | |
| *Gomphonema minutum* | | | | 2 | | 1 |
| *Gomphonema parvulum* | 3 | 6 | 1 | 2 | | 5 |
| *Gomphonema* spp. | 1 | 1 | | 1 | | |
| *Gyrosigma* spp. | | | | | | 1 |
| *Hantzschia amphioxys* | 39 | 30 | 20 | 26 | 5 | 11 |
| *Navicula clementis* | | 2 | | | | |
| *Navicula cohnii* | | | | | | 1 |
| *Navicula confervacea* | 6 | 1 | | | | |
| *Navicula contenta* | 24 | 5 | 22 | 24 | 1 | 11 |
| *Navicula cryptocephala* | | | | | | 1 |
| *Navicula cryptotenella* | 1 | | | | | 3 |
| *Navicula elginensis* | 16 | 3 | 5 | 1 | 1 | 2 |

| 分類群 | 北調査区　SD37 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | １層 | ２層 | ３層 | ３下層 | ４層 | ６層 |
| *Navicula gallica* | 2 | 1 | 5 | 4 | | 4 |
| *Navicula kotschyi* | 2 | | | 1 | | 1 |
| *Navicula mutica* | 23 | 8 | 9 | 16 | | 8 |
| *Navicula mutica v. ventricosa* | 2 | 1 | 1 | | | 2 |
| *Navicula pseudoacceptata* | 7 | 15 | 16 | 9 | | 27 |
| *Navicula pupula* | 1 | | | | | 1 |
| *Navicula veneta* | 9 | 8 | 9 | 11 | 1 | 9 |
| *Navicula* spp. | 2 | 4 | 2 | 2 | | 3 |
| *Neidium affine* | | | 1 | | | |
| *Neidium alpinum* | 5 | 5 | | 2 | | |
| *Nitzschia amphibia* | 8 | | 1 | | | 2 |
| *Nitzschia capitellata* | | | | | | 1 |
| *Nitzschia clausii* | | 1 | | | | |
| *Nitzschia debilis* | | | | 1 | | 1 |
| *Nitzschia nana* | 2 | | | | | |
| *Nitzschia palea* | 17 | 13 | 4 | 6 | | 10 |
| *Nitzschia umbonata* | 1 | 7 | 1 | | | 13 |
| *Nitzschia* spp. | 4 | 6 | 7 | 12 | 1 | 14 |
| *Pinnularia appendiculata* | 4 | 2 | | 4 | | 1 |
| *Pinnularia borealis* | | | | | | 2 |
| *Pinnularia lagerstedtii* | 3 | 2 | 1 | 3 | | |
| *Pinnularia obscura* | 10 | 5 | 7 | 11 | | 3 |
| *Pinnularia schoenfelderi* | 11 | 5 | 8 | 22 | 2 | 7 |
| *Pinnularia schroederii* | | 1 | 1 | | | |
| *Pinnularia subcapitata* | 3 | | | 2 | | |
| *Pinnularia* spp. | 2 | | 2 | 1 | | |
| *Stauroneis lauenburgiana* | | | 1 | | | |
| *Surirella angusta* | 16 | 10 | 9 | 13 | 1 | 11 |
| *Surirella ovata* | 4 | 4 | 6 | 2 | | 1 |
| 合　計 | 208 | 186 | 255 | 234 | 16 | 313 |
| 未同定 | 7 | 8 | 6 | 3 | 1 | 6 |
| 破片 | 126 | 113 | 132 | 171 | 26 | 83 |
| 試料1cm$^3$中の殻数密度 | 3.4 ×10$^5$ | 9.0 ×10$^4$ | 1.7 ×10$^5$ | 1.7 ×10$^5$ | 0.4 ×10$^4$ | 7.0 ×10$^5$ |
| 完形殻保存率（％） | 63.0 | 63.2 | 66.4 | 58.1 | | 79.4 |




**第81図**　主要珪藻ダイアグラム

高く、多様に出現し湿った環境が主要に示唆される。好流水性種や、沼沢湿地付着生種が微増することから、やや湿潤な湿地の環境も分布する。

**４）小結**　分析の結果、SD37 は湿った環境が主要に示唆され、部分的にないし時期的に流水の影響を受け滞水が示唆される。常時流水したり滞水する溝ではなく常時は湿った程度の環境の溝であったとみなされる。

４　大型植物遺体同定

**原理**　大型植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出し、その群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし、古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。骨は部位や破片によるが、動物種を特定でき、その利用を調べることができる。

**１）方法**　試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

1）各試料 200㎤に水を加え放置し、泥化

2）攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.5㎜の篩で水洗選別

3）残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数

試料を肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本の対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

**２）結果**　分析の結果、種実類が検出され、樹木２、草本 21 の計 23 分類群が同定された。学名、和名および粒数を第 29 表および第 82 図のダイアグラムに示し、主要な分類群を写真に示す（図版第 38）。以下に分類群を列挙するとともに形態的特徴を記載する。

**樹木**

・キイチゴ属　*Rubus*　核 バラ科

淡褐色でいびつな半円形を呈す。表面には大きな網目模様がある。

・ニワトコ　*Sambucus sieboldiana* Blume ex graedn　核 スイカズラ科

黄褐色～茶褐色で楕円形を呈す。一端にへそがある。表面には横方向の隆起がある。

**草本**

・イネ　*Oryza sativa* L.　穎・炭化果実 イネ科

穎は茶褐色で扁平楕円形を呈し、下端に枝梗が残る。表面には微細な顆粒状突起がある。完形のものは無かった。

・エノコログサ属　*Setaria*　穎 イネ科

穎は茶褐色で楕円形を呈す。表面には横方向の微細な隆起がある。

・アワ　*Setaria italica* Beauv.　炭化果実 イネ科

炭化しているため黒色で楕円形を呈す。胚の部分がくぼむ。

・ヒエ　*Echinochloa utilis* Vigna　炭化果実 イネ科

炭化している。類円形を呈し、胚の部分がくぼむ。

・イヌビエ属　*Echinochloa*　穎 イネ科

茶褐色で楕円形を呈す。表面には微細な縦方向の模様がある。

・オオムギ　*Hordeum vulgare* L.　炭化果実 イネ科

炭化しているため黒色で楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面

の形は曲率が大きく、胚と胚乳の接する輪郭線は山形である。

・コムギ　*Triticum aestivum*. L　炭化果実 イネ科

炭化しているため黒色で楕円形を呈する。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。比較的四角い形を呈し、短い。

・イネ科　Gramineae　穎・炭化果実

穎は灰褐色～茶褐色で楕円形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。

・ホタルイ属　*Scirpus*　果実　カヤツリグサ科

黒褐色でやや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起があり、基部に４～８本の針状の付属物を持つ。

・カヤツリグサ科　Cyperaceae　果実

黄褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。

茶褐色で倒卵形を呈す。断面は三角形である。

・タデ属　*Polygonum*　果実 タデ科

黒褐色で卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。

茶褐色で頂端の尖る卵形を呈す。断面は両凸レンズ状で、表面は粗い。

・アカザ属　*Chenopodium*　種子 アカザ科

黒色で光沢があり円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。

・ヒユ属　*Amaranthus*　種子 ヒユ科

黒色で光沢があり円形を呈し、一ヶ所が切れ込みへそがある。断面は両凸レンズ形である。

・ザクロソウ　*Mollugo pentaphylla* L.　種子 ザクロソウ科

黒色で光沢があり円形を呈し、一ヶ所が切れ込み白い種柄がある。表面には微細な網状斑紋がある。

・ナデシコ科　Caryophyllaceae　種子

黒色で円形を呈し側面にへそがある。表面全体に突起がある。

・カタバミ属　*Oxalis*　種子　カタバミ科

茶褐色で楕円形を呈し、上端がとがる。両面には横方向に６～８本の隆起が走る。

・シソ属　*Perilla*　果実 シソ科

茶褐色で球形を呈し下端にへそがある。表面には大きい網目模様がある。

・イヌホウズキ　*Solanum nigrum* L. 種子 ナス科

黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端にくぼんだヘソがある。表面には網目模様がある。

・ナス　*Solanum melongera* L.　種子 ナス科

黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端にくぼんだヘソがある。表面には網目模様がある。

・ウリ類　*Cucumis melo* L.　種子 ウリ科

淡褐色～黄褐色で長楕円形を呈し、上端は「ハ」字状にくぼむ。

・タカサブロウ　*Eclipta prostrata* L.　果実 キク科

淡褐色～茶褐色で長楕円形を呈す。上端は円形に突出し下端は切形となる。表面中央部にいぼ状の突起がある。断面はひし形である。

**遺体群集の特徴**

**（１）北調査区**

SE3　草本種実のイネ穎破片５点、細片（＋）、炭化果実３点、エノコログサ属 10 点、ヒエ炭化果実１点、コムギ炭化果実１点、イネ科穎２点、炭化果実５点、カヤツリグサ科１点、タデ属１点、アカザ属４点、ザクロソウ１点、ナデシコ科 11 点、カタバミ属２点、ナス１点、タカサブロウ１点が検出された。そのほか芽１点、昆虫細片（＋）、炭化材細片（＋）が検出された。

SD37

・１層　草本種実のオオムギ炭化果実１点が検出され、そのほか炭化材細片（＋）が検出された。

・２層　種実は検出されなかった。そのほかに炭化材細片（＋）が検出された。

・３層　樹木種実はニワトコ２点、草本種実はナデシコ科１点が検出された。

・３下層　種実は検出されなかった。そのほか炭化材細片（＋）が検出された。

・４層　樹木種実はニワトコ１点、草本種実はイネ穎破片３点、細片（＋）、コムギ炭化果実１点、ナデシコ科６点、イヌホウズキ１点、ナス１点、タカサブロウ１点、そのほか芽１点が検出された。

・６層　樹木種実はキイチゴ属１点、草本種実はイネ穎破片 24 点、細片（＋）、炭化果実１点、エノコログサ属６点、イヌビエ属４点、コムギ炭化果実１点、イネ科炭化果実１点、カヤツリグサ科１点、タデ属４点、ナデシコ科 12 点、カタバミ属１点、ナス２点、ウリ類１点、タカサブロウ１点が検出された。

### （２）南調査区

SE9　草本種実のイネ穎破片６点、ヒエ炭化果実１点、イヌビエ属１点、ホタルイ属１点、アカザ属１点、ヒユ属５点、ナデシコ科２点が検出され、そのほか芽３点、昆虫細片（＋）、生材細片（＋）、葉細片（++）が検出された。

**第 29 表**　大型植物遺体（種実）同定結果

| 分類群 | | 部位 | 北調査区 | | | | | | | 南調査区 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | SE3 | SD37 | | | | | | SE9 | SD43 | |
| 学名 | 和名 | | 井戸枠内 | １層 | ２層 | ３層 | ３下層 | ４層 | ６層 | 曲物２段目内 | ４層 | ５層 |
| Arbor | 樹木 | | | | | | | | | | | |
| *Rubus* | キイチゴ属 | 核 | | | | | | | 1 | | | |
| *Sambucus sieboldiana Blume ex graedn* | ニワトコ | 核 | | | | 2 | | 1 | | | 1 | 1 |
| Herb | 草本 | | | | | | | | | | | |
| *Oryza sativa* L. | イネ | 穎（破片） | 5 | | | | | 3 | 24 | 6 | | |
| | | （細片） | (+) | | | | | (+) | (+) | | | |
| | | 炭化果実 | 3 | | | | | | 1 | | | |
| *Setaria* Beauv. | エノコログサ属 | 穎 | 10 | | | | | | 6 | | | |
| *Setaria italica* Beauv. | アワ | 炭化果実 | | | | | | | | | | 1 |
| *Echinochloa Ohwi* et Yabuno | ヒエ | 炭化果実 | 1 | | | | | | | 1 | | |
| *Echinochloa* Beauv. | イヌビエ属 | 穎 | | | | | | | 4 | 1 | | |
| *Hordeum vulgare* L. | オオムギ | 炭化果実 | | 1 | | | | | | | | |
| *Triticum aestivum* L. | コムギ | 炭化果実 | 1 | | | | | 1 | 1 | | | |
| Gramineae | イネ科 | 穎 | 2 | | | | | | | | | |
| | | 炭化果実 | 5 | | | | | | 1 | | | |
| *Scirpus* | ホタルイ属 | 果実 | | | | | | | | 1 | | |
| Cyperaceae | カヤツリグサ科 | 果実 | 1 | | | | | | 1 | | 1 | |
| *Polygonum* | タデ属 | 果実 | 1 | | | | | | 4 | | | |
| *Chenopodium* | アカザ属 | 種子 | 4 | | | | | | | 1 | | 1 |
| *Amaranthus* | ヒユ属 | 種子 | | | | | | | | 5 | | |
| *Mollugo pentaphylla* L. | ザクロソウ | 種子 | 1 | | | | | | | | | |
| Caryophyllaceae | ナデシコ科 | 種子 | 11 | | | 1 | | 6 | 12 | 2 | 5 | 3 |
| *Oxalis* | カタバミ属 | 種子 | 2 | | | | | | 1 | | 10 | 3 |
| *Perilla* | シソ属 | 果実 | | | | | | | | | | 1 |
| *Solanum nigrum* L. | イヌホウズキ | 種子 | | | | | | 1 | | | | |
| *Solanum melongena* L. | ナス | 種子 | 1 | | | | | 1 | 2 | | | |
| *Cucumis melo* L. | ウリ類 | 種子 | | | | | | | 1 | | | |
| *Eclipta prostrata* L. | タカサブロウ | 果実 | 1 | | | | | 1 | 1 | | | |
| Total | 合計 | | 49 | 1 | 0 | 3 | 0 | 14 | 60 | 17 | 17 | 10 |
| Bud | 芽 | | 1 | | | | | 1 | | 3 | | 2 |
| bone | 骨 | （細片） | | | | | | | (+) | | | |
| | 昆虫 | （細片） | (+) | | | | | | | (+) | (+) | (+) |
| | 材・炭化材 | （細片） | (+) | (+) | (+) | | (+) | | | (+) | (+) | |
| | 葉 | （細片） | | | | | | | | (++) | | |
| | 水洗選別量 0.5㎜篩 | （cc） | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 |

SD43

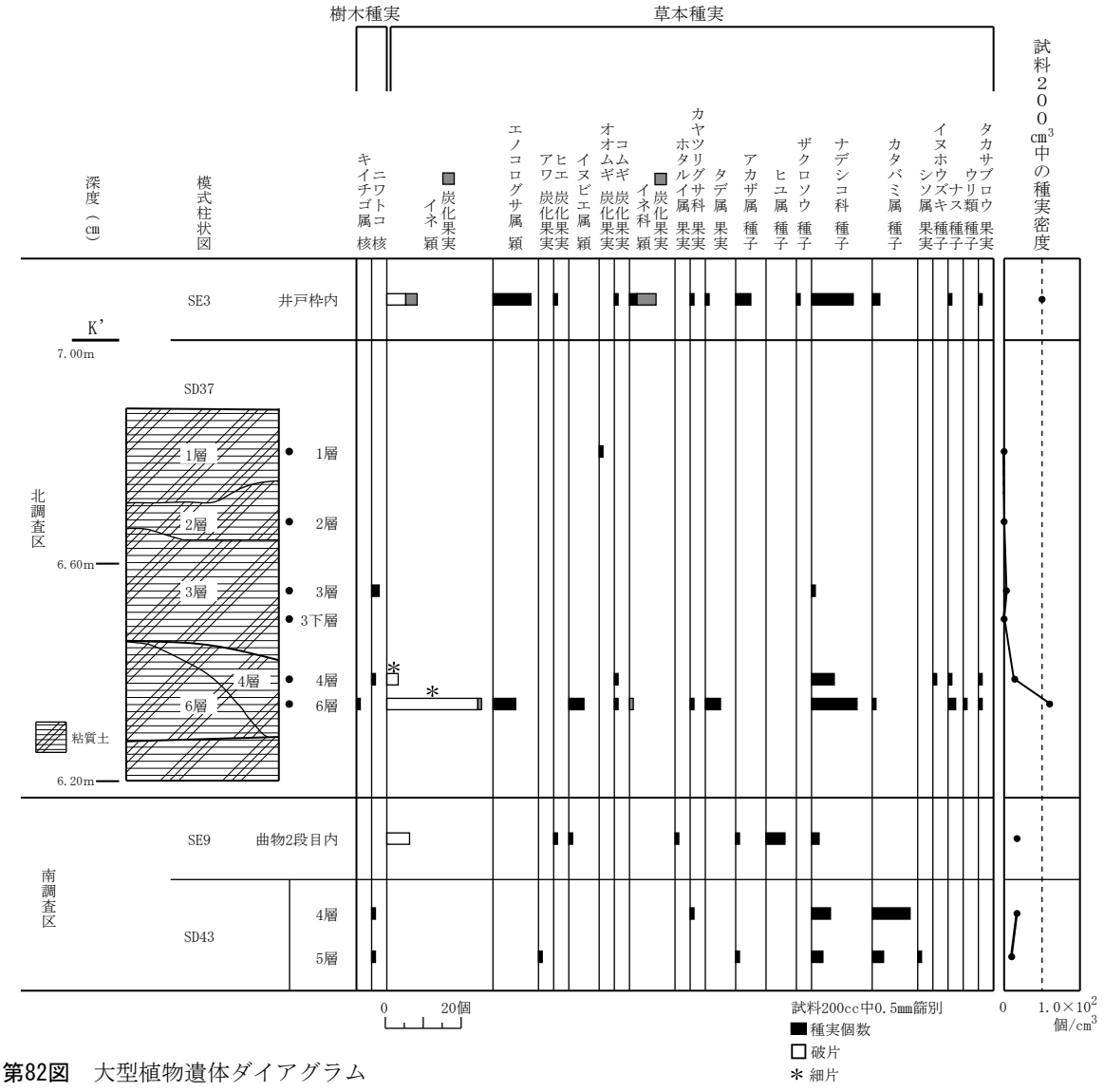
・４層　樹木種実ではニワトコ１点、草本種実ではカヤツリグサ科１点、ナデシコ科５点、カタバミ属10点が検出され、そのほか昆虫細片（＋）、生材細片（＋）が検出された。

・５層　樹木種実ではニワトコ１点、草本種実ではアワ炭化果実１点、アカザ属１点、ナデシコ科３点、カタバミ属３点、シソ属１点が検出され、そのほか芽２点、昆虫細片（＋）が検出された。

**４）考察**　長崎遺跡における大型植物遺体同定の結果、樹木種実のキイチゴ属、ニワトコ、草本種実のイネ、エノコログサ属、アワ、ヒエ、イヌビエ属、オオムギ、コムギ、イネ科、ホタルイ属、カヤツリグサ科、タデ属、アカザ属、ヒユ属、ザクロソウ、ナデシコ科、カタバミ属、シソ属、イヌホウズキナス、ウリ類、タカサブロウが検出され、そのほか芽、骨細片、昆虫細片、生材・炭化材細片、葉細片も検出された。

**（１）北調査区**

SE3　草本種実のナデシコ科、アカザ属、カタバミ属、ザクロソウ、タカサブロウ（田畑共通雑草）はいずれも人里植物ないし畑作雑草であり、井戸の周囲にはこれらが生育する乾燥地が分布し、日当たりの良い集落域や畑地が推定される。エノコログサ属やカヤツリグサ科、タデ属は多様な環境に生育する




**第82図**　大型植物遺体ダイアグラム

種類を含むが、ほかに水生植物は検出されない。食用となる栽培植物としてはイネのほかヒエ、オオムギ、コムギ、ナスの畑作物が同定された。

**SD37　１～６層**　下位より６層、４層から検出された草本種実は、栽培植物を除けば、エノコログサ属、イヌビエ属、コムギ、イネ科、カヤツリグサ科、タデ属で多様な環境に生育する種類を含むものが多い。ほかにはナデシコ科、カタバミ属、イヌホウズキ、タカサブロウ（田畑共通雑草）はいずれも人里植物ないし畑作雑草であり、周囲に生育し、日当たりの良い人為改変された乾燥地が分布していた。イネ、コムギ、ナス、ウリ類は栽培植物であり食用になる。６層で検出された樹木種実のキイチゴ属は有用植物であり食用になる。

４・３層から検出されたニワトコは山野、山地の林縁に多く、二次林種でもある。また、草本種実のナデシコ科はいずれも人里植物ないし畑作雑草であり、日当たりの良い乾燥した周辺に生育していたと考えられる。３下層、２層は試料となった堆積物が、種実等の有機質遺体の分解される乾燥あるいは乾湿を繰り返す堆積環境であったと考えられる。１層からは栽培植物であるオオムギが検出された。ほかは検出されなかった。

**（２）南調査区**

**SE9**　栽培植物を除いてイヌビエ属、ホタルイ属といった水生植物が検出され、これらは沼沢地や流れの緩やかな水路、湿地などに生育するが水田雑草でもある。ほかにアカザ属、ヒユ属、ナデシコ科といった人里植物ないし畑作雑草が同定され、周囲はこれらが生育し、日当たりの良い乾燥地であったと推定される。また、イネ、ヒエは栽培植物であり食用になる。

**SD43　４・５層**　樹木種実のニワトコは山野、山地の林縁に生育し二次林種である。カヤツリグサ科は水生植物が多い。ほかにナデシコ科、カタバミ属、シソ属といった人里植物ないし畑作雑草が同定され、周囲はこれらが生育する日当たりの良い人為改変された乾燥地であったと推定される。

５　微細遺物分析

**原理**　種実や木材は炭化しても、比較的よく構造が保存されるため同定することができる。種子や果実の特徴としては種まで同定できるものが多く、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。木材は概ね属レベルの同定が可能であり、微小遺体と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生やその利用を検討することができる。骨は部位や破片によるが、動物種を特定でき、その利用を調べることができる。

**１）方法**　試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

1）試料 500㎤に水を加え放置し、泥化

2）攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ 0.25㎜の篩で水洗選別

3）検出された種実は双眼実体顕微鏡下で観察して同定し、同定可能な比較的大きな炭化材片（約 1.5㎝程度）は割り折りして新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の断面をだし、落射顕微鏡によって 50 ～ 1000 倍で観察し同定した。いずれも計数を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級など分類群で示した。

**２）結果**

**分類群**

分析の結果、種実類と生材、炭化材が検出された。

**種実**　樹木２分類群、草本 20 分類群の計 22 分類群が同定される。学名、和名、粒数を表に示し（第 30 表）、

主要な分類群を写真に示す（図版第 39）。500㎠中の種実数をダイアグラムに示す（第 83 図）。

以下に同定根拠となる形態的特徴を示す。大型植物遺体で記載した分類群は省く。

**樹木**

ケヤキ　*Zelkova serrata* Makino　果実 ニレ科

黒褐色で側面観は腎形、上面観は円形を呈する。基部に円形のへそがあり、そこから灰白色の繊維が放射状に発達する。

ヒサカキ　*Eurya japonica* Thunb.　種子 ツバキ科

種子は心臓形を呈する。背面は長楕円状・狭三角形状など種々な形がある。どの形もへその方に薄い。へそを中心に楕円形や円形凹点による網目模様が指紋状に広がる。

**草本**

オモダカ　*Sagittaria trifolia* L.　果実　オモダカ科

淡褐色～黄褐色で歪んだ倒卵形を呈す。周囲は翼状となり上部は針状にとがる。

アワ　*Setaria italica* Beauv. 炭化果実 イネ科

炭化しているため黒色で円形を呈す。胚の部分がくぼむ。

イヌビエ属　*Echinochloa*　炭化果実 イネ科

炭化しているため黒色で楕円形を呈し胚の部分がくぼむ。

ムギ類（オオムギ-コムギ）*Hordeum-Triticum*　果実 イネ科

オオムギかコムギと思われるが、胚が欠落し鑑別できないためムギ類とした。

ソバ属　*Fagopyrum*　果実 タデ科

黒褐色で卵形を呈す。表面には縞状の模様がある。断面は三角形である。

タガラシ　*Ranunculus scleratus* L.　果実 キンポウゲ科

黄褐色で扁平、ややレンズ状。側面にしわはないが滑らかではない。

チドメグサ属　*Hydrocotyle*　果実 セリ科

黄褐色～赤褐色で半円形を呈す。隆条は細い線条状をなし、背面、側面、縁にそれぞれみられる。

エゴマ　*Perilla frutescens* var. *japonica* Hara　果実 シソ科

黒褐色～灰褐色で球形を呈し、下端はわずかに突出する。表面に大きい網目模様がある。

**木材**　木材は 29 点、８分類群が同定された。学名、和名を第 30 表に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を示し、主要な分類群を写真（図版第 40）に示す。以下に形態的特徴を記載する。試料は 1.5㎝以上の木材および炭化材を堆積物より検出した。

**針葉樹**

スギ　*Cryptomeria japonica* D.Don　スギ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で晩材部の幅が比較的広い。放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、１分野に２個存在するものがほとんどである。放射組織は単列の同性放射組織型で１～ 14 細胞高である。

以上の特徴からスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で高さ 40m、径２m に達する。材は軽軟であるが強靭で、加工工作が容易な上に大きな材がとれる良材で、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。

ヒノキ　*Chamaecyparis obtuse* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔はヒノキ型で、１分野に２個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で１～15細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直で大きな材が取れる良材であり、特に保存性が高く、加工工作が容易な上、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。またヒノキないしヒノキ科の木材は大きな材がとれる良材で、律令期以降流通する材である。

**広葉樹**

ケヤキ　*Zelkova serrata* Makino　ニレ科

年輪のはじめに大型の道管が１～２列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形および接線状か斜線状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の細胞のなかには大きく膨らんでいるものがある。幅は１～７細胞幅である。

以上の特徴からケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70㎝程であるが、大きいものは高さ50m、径３mに達する。材は概して強く強靱で従曲性に富み、耐朽・保存性は高く水湿にもよく耐え、建築、家具、器具、船、土木等に用いられる。なお、縄文時代以降、現在まで伝統的に木地に用いられる材である。

サクラ属　*Prunus*　バラ科

丸い道管が単独あるいは２～３個放射方向および斜め方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性に近い異性放射組織型を示す。

以上の特徴からサクラ属に同定される。サクラ属には、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、シウリザクラ、ウメ、モモ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木または低木である。耐朽性・保存性が高く堅硬な材で、挽物の椀に利用されることがある。

アカメガシワ　*Mallotus japonicas* Muell. Arg. トウダイグサ科

やや小型の道管が年輪のはじめに単独あるいは２～数個放射方向に複合して散在し、晩材部では小型の厚壁で丸い道管が放射方向に数個つらなって散在する環孔材である。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は単列の異性放射組織型である。

以上の特徴からアカメガシワに同定される。アカメガシワは本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ10m、径30㎝に達する。やや軽軟な材で木器としての利用はあまりみられない。

ヒサカキ属　*Eurya*　ツバキ科

小型で角張った道管が、ほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く60を越えて観察される。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる。放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅であり、多列部と比べて単列部が長い。

以上の特徴からヒサカキ属に同定される。ヒサカキ属にはヒサカキ、ハマヒサカキ等があり、本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の小高木で通常高さ10m、径30㎝である。材は概して強さ中庸で、杭や農具柄等に利用されることがあるが、福井では一乗谷朝倉氏遺跡からヒサカキ属の横櫛の報告例がある。またサカキの少ない地域では、その代替品として祭事に利用される場合がある。

**散孔材**　diffuse-porous wood

小型の道管が散在する。道管と放射組織が存在する。道管と多列幅の放射組織が存在する。

以上の特徴から散孔材に同定される。なお本試料は炭化による変形が著しく、広範囲の観察が困難であることから散孔材の同定にとどめる。

**その他**

タケ亜科　Bambusoideae　イネ科

基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。並立維管束は木部と師部からなり、周囲に維管束鞘が存在する。放射断面と接線断面では柔細胞維管束､維管束鞘が桿軸方向に配列している。

以上の特徴からタケ亜科に同定される。タケ亜科にはマダケ属、メダケ属、ササ属等がある。材は乾燥が十分なされると硬さと柔軟さを備え割烈性に富み、また細工が容易であるため、さまざまな素材として利用される。タケ亜科ではマダケ、ハチク、ヤダケが古くから日本にあり、モウソウチクが庭木として 17 世紀後半か 18 世紀前半に日本本土へ植栽され、現在では工芸品に利用されている。ハチク、ヤダケは茶杓等の器具や矢等、武具に利用されることがあり、マダケは弓道の弓、茶筅や茶杓等の工芸品や垂木、土壁等の建築材に利用される。

**遺体群集の特徴**

**SE3 井戸枠内**（第 83 図）　種実は草本のイネ穎破片 27 点､細片（＋）､エノコログサ属 19 点､アワ穎１点、炭化果実２点、イヌビエ属穎４点、炭化果実２点、イネ科７点、ホタルイ属２点、カヤツリグサ科５点、ソバ属１点、タデ属１点、アカザ属 14 点、ナデシコ科 35 点、タガラシ２点、カタバミ属４点、チドメグサ属１点、エゴマ１点、イヌホウズキ１点が検出され、そのほか芽１点、昆虫細片（＋）、魚類骨破片１点が確認された。木材では針葉樹のスギ５点、ヒサカキ属１点が生材で検出され、広葉樹のケヤキ１点、サクラ属３点、散孔材１点が炭化材で検出された。

**SE9 曲物３段目内**（第 83 図）　種実は樹木のケヤキ２点、ヒサカキ２点、草本はオモダカ１点、イネ穎破片 10 点、細片（＋）、エノコログサ属６点、イヌビエ属穎２点、ムギ類炭化果実破片１点、イネ科３点、ホタルイ属２点、カヤツリグサ科２点、アカザ属 15 点、ヒユ属４点、ザクロソウ２点、ナデシコ科 21 点、チドメグサ属１点が検出され、そのほか芽 25 点、昆虫細片（++）、葉細片（++）、魚類骨破片２点が確認された。木材は針葉樹のスギ 15 点、ヒノキ１点、イネ科の木本のタケ亜科１点が生材で検出され、広葉樹のアカメガシワ１点が炭化材で検出された。

**４）考察**

**SE3 井戸枠内**　栽培植物はイネ、アワ、ソバ属が検出された。草本種実のエノコログサ属、イヌビエ属､イネ科､カヤツリグサ科､タデ属は多様な環境に生育する種類を含む。ホタルイ属は水生植物であり、沼沢地や流れの緩やかな水路、湿地に生育し水田雑草でもある。またアカザ属、ナデシコ科、タガラシ、カタバミ属は人里植物ないし畑作雑草であり、日当たりの良い人為改変された乾燥地に生育し、これらの草本が井戸周辺に生育していたと考えられる。

検出された木片（炭化材を含む）の樹種は、いずれも温帯に広く普通に分布する樹木である。なお、スギは特に温帯中間域の積雪地帯で純林を形成する針葉樹で、肥沃で湿潤な土壌を好む。サクラ属は排水の良いやや乾いた斜面地、ケヤキは適潤な肥沃地に生育する。ヒサカキ属は尾根筋や海岸などに自生し、ヒサカキは二次林種でもある。木片および炭化材片は、利用されたもの由来の破片と考えられる。

**SE9 曲物２段目内**　栽培植物ではイネ、ムギ類が検出されている。ケヤキは温帯に分布する落葉広葉

樹で谷沿いなどの適潤な肥沃地に生育するが、人為的にもよく植栽される。ケヤキは花粉分析でも多く検出され近接して生育していたとみなされる。ヒサカキは照葉樹であるが、二次林種にもなる中低木である。草本種実ではエノコログサ属、イヌビエ属、イネ科、カヤツリグサ科は多様な環境に生育する種類を含むが、オモダカ、ホタルイ属は水生植物である。また、アカザ属、ヒユ属、ザクロソウ、ナデシコ科、チドメグサ属は人里植物ないし畑作雑草である。井戸周辺には日当たりの良い人為改変された乾燥地に生育する人里植物が主要に生育していたとみなされる。

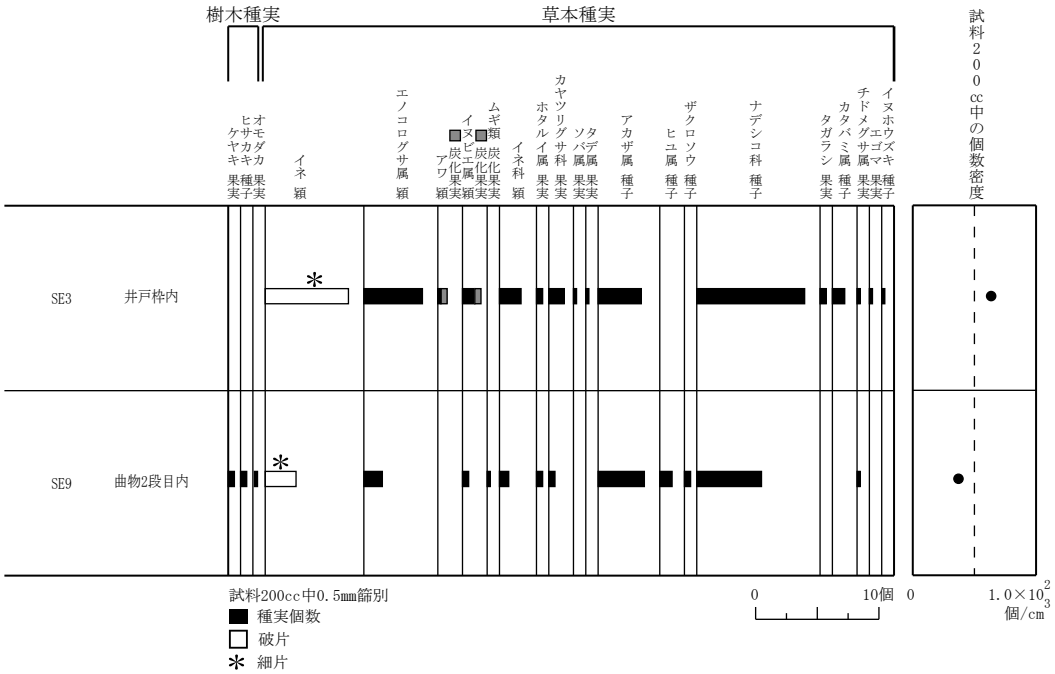
同定された樹種はいずれも温帯に広く分布する樹木であった。またヒノキは適潤性であり、スギは特に温帯中間域の積雪地帯で純林を形成する針葉樹である。アカメガシワは山野に生育する落葉高木で、森林の縁辺などの拓けた土地の端などに生育する二次林種である。タケ亜科は利用されることが多く、植栽の可能性も推定される。これらは利用された木材と二次植生由来の破片と考えられる。

**５）小結**　長崎遺跡から出土した堆積物から微細物を同定した結果、草本を主とする種実類、木材片、炭化材、芽、昆虫細片、葉細片、骨破片が検出された。これらの中で、種実類とある程度大きさのある

**第 30 表**　微細遺物分析結果

| 分類群 | | 部位 | 北調査区 | 南調査区 |
|---|---|---|---|---|
| 学名 | 和名 | | SE3 井戸枠内 | SE9 曲物２段目内 |
| Arbor | 樹木 | | | |
| *Zelkova serrata* Makino | ケヤキ | 果実 | | 2 |
| *Eurya japonika* Thunb. | ヒサカキ | 種子 | | 2 |
| *Herb* | 草本 | | | |
| *Sagittaria trifolia* L. | オモダカ | 果実 | | 1 |
| *Oryza sativa* L. | イネ | 穎（破片） | 27 | 10 |
| | | （細片） | (+) | (+) |
| *Setaria* Beauv. | エノコログサ属 | 穎 | 19 | 6 |
| *Setaria italica* Beauv. | アワ | 穎 | 1 | |
| | | 炭化果実 | 2 | |
| *Echinochloa* Beauv. | イヌビエ属 | 穎 | 4 | 2 |
| | | 炭化果実 | 2 | |
| *Hordeum-Triticum* | ムギ類 | 炭化果実（破片） | | 1 |
| Gramineae | イネ科 | 穎 | 7 | 3 |
| *Scirpus* | ホタルイ属 | 果実 | 2 | 2 |
| Cyperaceae | カヤツリグサ科 | 果実 | 5 | 2 |
| *Fagopyrum* | ソバ属 | 果実 | 1 | |
| *Polygonum* | タデ属 | 果実 | 1 | |
| *Chenopodium* | アカザ属 | 種子 | 14 | 15 |
| *Amaranthus* | ヒユ属 | 種子 | | 4 |
| *Mollugo pentaphylla* L. | ザクロソウ | 種子 | | 2 |
| Caryophyllaceae | ナデシコ科 | 種子 | 35 | 21 |
| *Ranunculus scleratus* L. | タガラシ | 果実 | 2 | |
| *Oxalis* | カタバミ属 | 種子 | 4 | |
| *Hydrocotyle* | チドメグサ属 | 果実 | 1 | 1 |
| *Perilla frutescens* var. *japonica* Hara | エゴマ | 果実 | 1 | |
| *Solanum nigrum* L. | イヌホウズキ | 種子 | 1 | |
| Total | 合計 | | 129 | 74 |
| Bud | 芽 | | 1 | 25 |
| | 昆虫 | （細片） | (+) | (++) |
| | 材・炭化材 | （細片） | (++) | (+) |
| | 葉 | （細片） | | (++) |
| | 魚類 | 骨（破片） | 1 | 2 |
| | 水洗選別量 0.25mm 篩 | (cc) | 500 | 500 |

| 分類群 | | 種類 | 北地区 | 南地区 |
|---|---|---|---|---|
| 学名 | 和名 | | SE3 井戸枠内 | SE9 曲物２段目内 |
| *Cryptomeria japonica* D.Don | スギ | 生材 | 5 | 15 |
| *Chamaecyparis obtusa* Endl. | ヒノキ | 生材 | | 1 |
| *Zelkova serrata* Makino | ケヤキ | 炭化材 | 1 | |
| *Prunus* | サクラ属 | 炭化材 | 3 | |
| *Mallotus japonicus* Muell. Arg. | アカメガシワ | 炭化材 | | 1 |
| *Eurya* | ヒサカキ属 | 生材 | 1 | |
| diffuse-porous wood | 散孔材 | 炭化材 | 1 | |
| Bambusoideae | タケ亜科 | 生材 | | 1 |
| Total | 合計 | | 11 | 18 |




**第83図**　微細植物遺体（種実）ダイアグラム

木材片と炭化材は同定ができ、ケヤキ、ヒサカキの樹木種実、草本種実ではオモダカ、アカザ属、ヒユ属、ザクロソウ、ナデシコ科、カタバミ属、チドメグサ属、イヌホウズキの人里植物および畑作雑草の性格をもつもの、エノコログサ属、イヌビエ属、イネ科、カヤツリグサ科、タデ属の多用な環境の生育する集類を含むもの、ホタルイ属、タガラシの水田雑草の性格をもつものが検出され、イネ、アワ、ムギ類、ソバ属、エゴマの栽培植物の種実、スギ、ヒノキ、ケヤキ、サクラ属、アカメガシワ、ヒサカキ属、散孔材、タケ亜科の木材片および炭化材が検出された。

６　まとめ

長崎遺跡においては花粉群集、種実群集は各遺構とも類似し、SE3・9、SD37 の周辺は、イネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、クワ科-イラクサ科が主要に生育し、いずれも人里植物であり、陽当たりの良い人為改変された乾燥地であったとみなされた。栽培植物としては、イネを中心に、アワ、ヒエ、オオムギ、コムギ、ソバ属、エゴマ、ナス、ウリ類の畑作物が検出された。

SE3 ではイネ属型花粉が多く、堆積したイネ穎に由来するとみなされた。SE9 ではニレ属-ケヤキの花粉が多く、ケヤキ果実が検出され、近接してケヤキが生育していた。SD37 では周囲にイネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、クワ科-イラクサ科の人里植物が主要に生育し、陽当たりの良い人為改変された乾燥地であったとみなされた。下層からはネギ属（ニラやノビル等）の花粉が特徴的に検出された。一方、寄生虫卵が検出され、糞便由来の花粉が多少混じっていると考えられた。

同定された樹種は建築部材や器具に用いられる樹種がほとんどであった。スギ、ヒノキ、タケ亜科は建築材はもとより板材等の小さな器具類に至るまで多様な用途に用いられる樹木である。なお、中部日本海側では地域的な森林要素からヒノキよりもスギの供給が多く利用される特徴がある。サクラ属、ケヤキは堅硬な材であることから挽物の椀に利用されることがある。なおヒサカキ属、アカメガシワは用材としてでなく二次林種として近隣に生育していたと考えられる。

参考文献

中村純（1967）花粉分析．古今書院，p.82-102.
島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第 5 集，60p.
中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第 13 集，91p.
金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第 10 巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.
Peter J.Warnock and Karl J.Reinhard（1992）Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. Jounal of Archaeological Science, 19, p.231-245.
金子清俊・谷口博一（1987）線形動物・扁形動物．医動物学，新版臨床検査講座，8，医歯薬出版，p.9-55.
金原正明（1999）寄生虫．考古学と動物学，考古学と自然科学，2，同成社，p.151-158.
Hustedt,F.(1937 − 1938)Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch.Hydrobiol,Suppl.15,p.131-506.
Lowe,R.L.(1974)Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh − water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.
K. Kramm er・H.Lange-Bertalot(1986-1991) Bacillariophyceae,vol.2,no.1-no.4
Asai,K.&,Watanabe,T.(1995)Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p.35-47.
安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用．東北地理，42，p.73-88.
伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌 , 6 , p.23-45.
小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義−わが国への導入とその展望−．植生史研究，第 1 号，植生史研究会，p.29-44.
小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p.1-20.
渡辺仁治（2005）淡水珪藻生態図鑑　群集解析に基づく汚濁指数 DAIpo, pH 耐性能．内田老鶴圃，666p.
笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.
笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第 2 巻生業，雄山閣　出版，p.131-139.
金原正明（1996）古代モモの形態と品種．月刊考古学ジャーナル No.409，ニューサイエンス社，p.15-19.
南木睦彦（1991）栽培植物．古墳時代の研究第 4 巻生産と流通Ⅰ，雄山閣出版株式会社，p.165-174.
南木睦彦（1993）葉・果実・種子．日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p.276-283.
吉崎昌一（1992）古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナル No.355，ニューサイエンス社，p.2-14.
南木睦彦（1993）葉・果実・種子．日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p.276-283.
渡辺誠（1975）縄文時代の植物食．雄山閣，187p.
伊東隆夫・山田昌久（2012）木の考古学，雄山閣，p.449.
佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296.
鈴木三男，能城修一（1991）越前朝倉氏遺跡から出土した木製品の樹種，朝倉氏遺跡資料館紀要 1990，福井県立朝倉氏遺跡資料館，p.15-22.
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第 1 号，植生史研究会，p.242.
東海大学出版会（1994）日本の哺乳類 .
松井章（2008）動物考古学 . 京都大学学術出版会.

## 第５節　自然科学分析２

### １　溝埋土の珪藻・花粉分析

本報告では中世の堀跡と推定される溝跡埋積物を対象として、古環境（堆積環境、古植生）に関わる資料を作成するため、珪藻分析、花粉分析を実施した。

**１）試料**　試料は、長崎遺跡の南調査区より検出された溝跡（SD43・44・45）の埋積物（覆土）より採取した土壌22点である。以下に各遺構埋積物の観察所見および採取した試料の概要を記す。

**SD43**　SD43はSD44の南に位置し、調査区内を東西に横断するように検出されている。溝埋積物は土層断面の観察では下層、中層、上層の３層準に区分される。下層の層準は黒灰色～暗灰色泥からなる下部と、一部に葉理構造がみられる木材片や葉片等の大型植物化石が混じる灰色泥（シルト～粘土）からなる上部とに分けられる。中層は円礫や炭化物が混じる灰色泥からなる下部と、円～亜円礫、砂岩片、等の混入物が多く混じる灰色泥からなる上部に分けられる。なお、中層下部には砂脈の可能性がある痕跡が確認された。上層は炭化物や焼土、亜円礫等が混じる酸化鉄が発達する灰色～灰褐色泥からなる。

分析試料は調査時に選択された層準を対象とし、下層上部および下層下部で２点づつの４点（試料番号４～７）、中層下部で１点（試料番号３）、中層上部に相当する層準で２点（試料番号１・２）の計７点を採取している。

本遺構では溝の機能時あるいは廃絶直後、ある程度埋積が進行した層準（中層段階）における古環境の検討を目的として、試料番号３・４・６の３点を後述する微化石分析（珪藻、花粉分析）に供した。

**SD44・45**　SD44およびSD45は南調査区北方に位置し、SD43と同様に調査区を東西に横断するように検出されている。調査所見によれば、SD45は長崎城に付属する堀と推定されており、SD44はSD45の埋積時に再掘削された溝である。またSD44では溝の底面付近より礎石の可能性もある石列が検出され、柵列等の存在した可能性もある。

SD45の埋積物は、溝再掘削前の埋積物に相当する下層と、再掘削後のSD45埋積物に相当する上層に区分される。SD45下層は下部がみかけ塊状をなす青灰色泥、上部が青灰色砂質泥～泥質砂からなる。なお下層上部には細粒砂～中粒砂が充填する砂脈と思われる痕跡が認められる。SD45上層は５層準に区分されており、下位より炭片、青灰色泥、青灰色泥質砂～砂質泥等の偽礫（最大径１㎝程度）が多量混じる暗灰色泥、偽礫等の混入物が少ない暗灰色泥、灰色泥、炭片を含む暗灰色泥、管状酸化鉄の発達により褐色を帯びる暗灰色砂質泥からなる。

分析試料は選択された層準を対象とし、下層は下部の青灰色泥より２点（試料番号８・９）、上部の青灰色砂質泥～泥質砂より３点（試料番号５～７）、上層は最上部の褐色を帯びる暗灰色砂質泥を除く各層より４点（試料番号４：混入物が多い暗灰色泥、試料番号３：混入物が少ない暗灰色泥、試料番号２：暗灰色泥、試料番号１：炭片が混じる暗灰色泥）の計９点を採取している。

本遺構では、SD45の再掘削前（下層）、再掘削後（上層）の層準における古環境の検討を目的とし、試料番号２・３・６・９の４点を後述する微化石分析に供した。

SD44は再掘削後のSD45の北に隣接して掘削された溝であり、埋積物は８層準に区分されている。溝基底はSD45の下層上部に相当し、青灰色泥質砂～砂質泥からなる。これより上位には、下位より基底を構成する堆積物に由来する偽礫（径２～３㎝、亜角～亜円状）が多量混じる暗灰色泥質砂、一部に葉理構造が認められ、青灰色泥質砂～砂質泥の偽礫が混じる暗灰色泥、青灰色極細粒砂の偽礫（径３～４㎝、亜円状）が混じる暗灰色泥、炭片や青灰色極細粒砂の偽礫（径１㎝程度、亜円状）が混じる暗灰

色泥、木材片や多量の炭片、焼土等が混じる暗灰色泥、炭片や焼土、極細粒砂～細粒砂からなる偽礫（亜角～亜円状、径５㎝程度）が混じる暗灰色泥、炭片が混じりやや酸化鉄の発達が認められる暗灰色泥質砂～砂質泥、管状酸化鉄の発達により褐色を帯びる暗灰色砂質泥からなる。

分析試料は選択された層準を対象とし、基底上位の偽礫が多量混じる暗灰色泥質砂から炭片が多量混じる暗灰色泥までの層準より６点（試料番号６：偽礫が多量混じる暗灰色泥質砂、試料番号５：偽礫が混じる灰色泥、試料番号４：偽礫が混じる暗灰色泥、試料番号３：炭片や偽礫が混じる暗灰色泥、試料番号２・１：炭片が多量混じる暗灰色泥）を採取している。炭片が多量混じる暗灰色泥については炭片が同層準下部に偏在していたため、炭片が集中する下部（試料番号２）と炭片の混入が少ない上部（試料番号１）に分けて採取している。

分析対象は上記の観察所見から、溝掘削土および溝壁面からの崩落土の影響が推定される溝最下部の層準は除外し、その上位の２層準（試料番号５・４）と炭片の混入が顕著な層準（試料番号２）の計３点を後述する微化石分析に供した。

２　花粉分析

**１）試料**　試料はSD43下層下部と上部（試料番号６・４）、中層下部（試料番号３）、SD45下層下・上部（試料番号９・６）と上層の２層準（試料番号３・２）、SD44の３層準（試料番号５・４・２）で採取した土壌10点である。

**２）方法**　試料約10ｇについて水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸９：濃硫酸１の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現するすべての種類について同定・計数する。同定は当社保有の現生標本や島倉（1973）、中村（1980a）、藤木・小澤（2007）、三好ほか（2011）等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石群集の分布図として表示する。図表中で複数の種類を－（ハイフォン）で結んだものは種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお木本花粉総数が100個未満の試料は、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるため、出現（産出）した種類を＋（プラス）で表示するに留めている。

**３）結果**　結果を第84図、第31表に示す（図版第35）。以下、地点ごとに産状を述べる。

**SD43**　試料番号３・４・６の３試料はいずれも花粉化石が豊富に産出し、保存状態は普通程度である。３試料は草本花粉の出現率が高くイネ科の多産を特徴とし、このほかクワ科、アカザ科、ナデシコ科、アブラナ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科等を伴う。なお多産するイネ科花粉中には、栽培種であるイネ属に類似する個体（以下、イネ属型）も認められた。イネ科全体に占めるイネ属型の割合は、試料番号３が22.4%、試料番号４が38.1%、試料番号６が42.2%である。このほかに栽培種ではソバ属、ベニバナ属等も産出し、オモダカ属、ミズアオイ属等の水湿地生植物も僅かに産出する。

木本花粉は産出が少なく、試料番号３・４は、かろうじて定量解析に耐えうる程度の産出であった。検出された種類は、マツ属、エノキ属－ムクノキ属が多産し、スギ属、クマシデ属－アサダ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ属、ウコギ科等を伴う。このうちエノキ属－ムクノキ属は試料番号６で多産し、上位に向かって減少する。

SD45　花粉化石は試料番号２・３からは比較的多く産出するが、試料番号６・９では産出が少ない。保存状態は全体的にやや悪い。試料番号２は木本花粉の出現率が高く、マツ属、カバノキ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ亜属等が多く産出する。草本花粉はイネ科、カヤツリグサ科、バラ科、セリ科、ヨモギ属、タンポポ亜科等が産出する。イネ科花粉中にはイネ属型が認められ、その割合は 11.8％である。また水湿地生植物のガマ属、ミズアオイ属が僅かに産出する。

試料番号３は草本花粉の出現率が高く、イネ科が多産し、クワ科、アカザ科、バラ科、ヨモギ属等を伴う。イネ属型の割合は 18.1％であり、このほか栽培種のソバ属、水湿地生植物のオモダカ属等も産出する。木本花粉はマツ属、ブナ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属等が多く産出し、スギ属、ハンノキ属、アカガシ亜属、エノキ属-ムクノキ属、エゴノキ属等を伴う。

試料番号６・９は花粉化石がほとんど産出されず､木本花粉は試料番号９からスギ属やハンノキ属が、草本花粉はイネ科、ヨモギ属、キク亜科がわずかに認められた程度である。

SD44　花粉化石は試料番号２・４からは比較的多く産出するが、試料番号５は産出が少ない。保存状態は普通～やや悪い程度である。

試料番号２・４は多産する種類が概ね類似する。木本花粉はマツ属が最も多く産出し、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属も多く、試料番号４はエノキ属-ムクノキ属も多く産出する。このほかスギ属、カバノキ属等を伴う。草本花粉はイネ科が多産し、アカザ科、アブラナ科、ヨモギ属等を伴う。イネ属型の割合は試料番号２が 7.3％、試料番号４が 1.8％であり、このほかの栽培種としてソバ属も産出する。

試料番号５は花粉化石の産出が少なく、木本花粉はマツ属、スギ属、ハンノキ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属等が、草本花粉ではイネ属型を含むイネ科、アカザ科、アブラナ科等が認められた程度である。なお試料番号５には、寄生虫卵（回虫卵、鞭虫卵）も認められた。

**４）考察**

SD43　SD43 の花粉化石群集は草本花粉の出現率が高く、イネ科の多産によって特徴付けられた。イネ科をはじめ、クワ科、アカザ科、ナデシコ科、アブラナ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科等は明るく開けた領域に草本群落を形成する種類（人里植物）が多く含まれる。このことから調査地周辺は明るく開けており、周辺域には上記したような種類からなる草地が分布していたと考えられる。また、わずかではあるが、オモダカ属、ミズアオイ属等の水湿地生植物も確認された。これらは溝内に認められた水域などに生育した可能性がある。

なお、多産したイネ科花粉中にはイネ属型花粉が多く認められた。一般的に、水田耕作土壌中にはイネ属花粉が高い割合で含まれていることが知られている（たとえば中村 1980b 等）ほか、栽培種であるイネの花粉は生産される花粉の 1/4 がもみ殻内に残留することが知られている（中村 1980b)。分析対象は溝埋積物であることから調査地点における稲作は想定し難く、このほかの地点ではイネ属型花粉が高率となる状況は認められない。このことから、産出したイネ属型花粉は籾殻等の植物体に由来する可能性がある。この点については、溝埋積物における植物珪酸体や大型植物遺体の産状調査による評価が望まれる。またこのほかの栽培種として、ソバ属やベニバナ属等も産出しており、当該期における栽培・利用が示唆される。

一方、木本花粉は、針葉樹のマツ属、落葉広葉樹のエノキ属-ムクノキ属の多産によって特徴付けられた。マツ属は生育環境の適応範囲が広く、極端な陽樹であることから、二次林などの代表的な種類である。またクマシデ属-アサダ属、ニレ属-ケヤキ属、エノキ属-ムクノキ属をはじめ、サワグルミ属、

クルミ属、ハンノキ属等は河畔林・渓畔林を構成する種類を含むことから、これらは調査地周辺の河川沿いなどに生育したと考えられる。針葉樹のスギ属なども扇状地扇端部の湧水地などの水分の多い土地に生育することから、スギ林の分布も窺える。またブナ属やコナラ属コナラ亜属等の落葉広葉樹は丘陵や山地部の森林植生を反映すると考えられ、常緑広葉樹のアカガシ亜属等も認められたと考えられる。なおエノキ属-ムクノキ属は、出現率が上位の層準に向かって低率となる傾向を示した。ほかの種類に大きな変化が認められない点を踏まえると、局地的な植生を反映している可能性がある。ムクノキ等は寺社林として認められる種類でもあるため、植栽された樹木の可能性もあり、同様に植栽の可能性が推定される種類としてはシキミ属（仏事に用いるシキミを含む）、サクラ属（栽培種のスモモを含む）、カキノキ属（栽培種のカキノキ、マメガキを含む）等も挙げられる。

**SD45**　SD45の花粉化石の産出状況は、試料番号９・６ではほとんど検出されなかった。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている（中村1967、徳永・山内1971、三宅・中越1998等）。前述した珪藻分析結果によれば、試料番号９，６の層準は一過性の氾濫堆積物の埋積や、基本的に好気的環境であったと推測されている。これらの点から、堆積速度が速く花粉が取り込まれ難かったことや、堆積後の経年変化の影響により花粉化石は分解・消失していることが推定される。

試料番号３・２は多く産出する分類群は概ね類似するが、試料番号３は草本花粉の出現率が高く、試料番号２は多産するシダ類胞子を除くと木本花粉の出現率が高い。花粉やシダ類胞子の腐蝕に対する抵抗性は種類により異なり、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている（中村1967、徳永・山内1971、三宅・中越1998等）。花粉化石の保存状態や珪藻化石から推定される堆積環境を考慮すると、経年変化の影響によってシダ類胞子の割合が増加していると思われる。

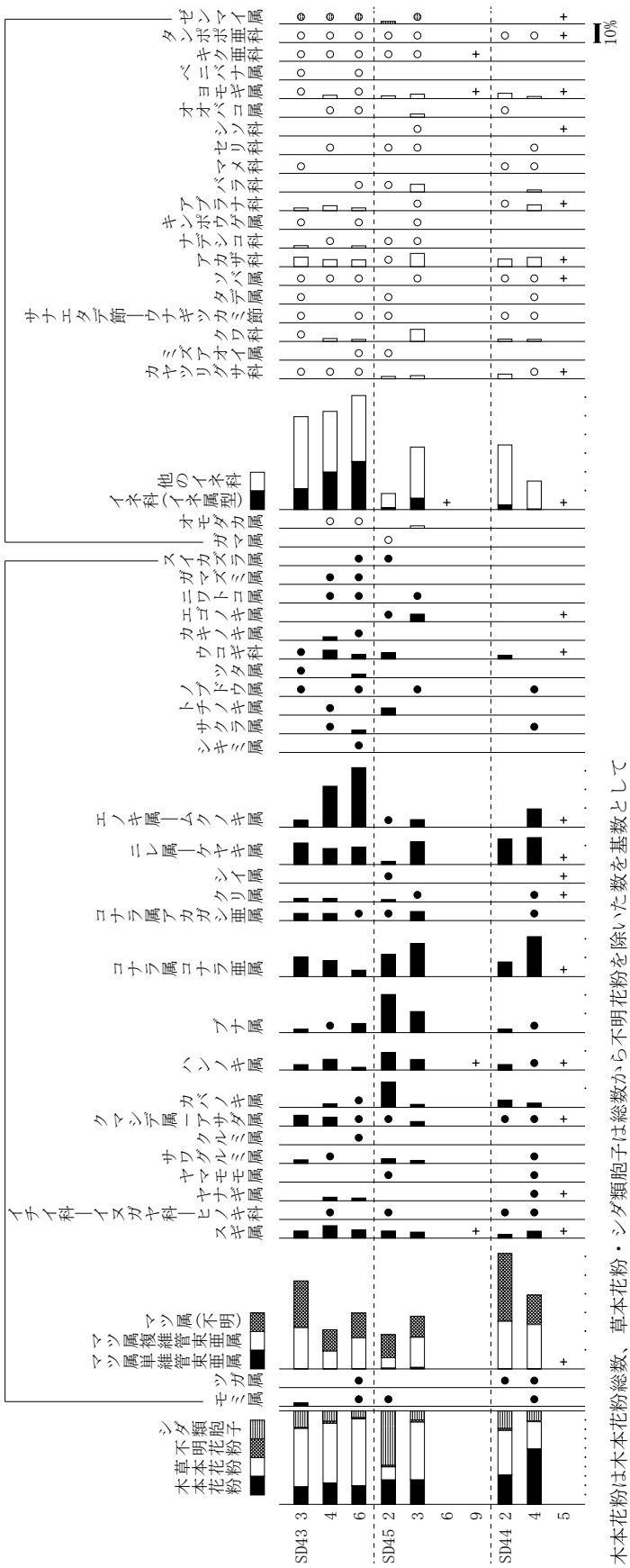
同試料の群集組成についてみると、ブナ属やコナラ亜属が多く産出する。これらはカバノキ属等ともに周辺の丘陵や山地部の森林植生を反映しており、スギ属、サワグルミ属、ハンノキ属、ニレ属-ケヤキ属、トチノキ属等は、周辺の低地や河川沿いに分布した林分を反映すると考えられる。また調査地周辺にはイネ科をはじめとして、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科、バラ科、ヨモギ属、タンポポ亜科等が草地群落を形成しており、ガマ属、オモダカ属、ミズアオイ属等は溝内や周辺の水湿地環境に生育したと考えられる。なお、産出したイネ科花粉中にはイネ属型が認められたことから、周辺域における稲作や、溝埋積物中に残存したイネの植物体の影響などが推定される。また、試料番号３からはソバ属花粉が産出しており、上記と同様に当該期におけるソバ属の栽培・利用が推測される。

**SD44**　SD44の花粉化石の産出状況は、試料番号５では定量解析に有効な個体数は検出されなかった。溝埋積物の観察所見や珪藻化石群集から推定された堆積環境を考慮すると、堆積速度が速く花粉が取り込まれ難かったことや経年変化による影響が考えられる。

上位の試料番号４・２では花粉化石が比較的多く産出し、群集組成も概ね類似する特徴が認められた。木本花粉はマツ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属が多く産出し、試料番号４ではエノキ属-ムクノキ属も多く産出する。SD44埋積物の花粉化石群集はSD43と類似するため同様の森林植生が推定される。また、草本花粉もイネ科の多産によって特徴付けられ、アカザ科、アブラナ科、ヨモギ属等を伴う。このことから調査地周辺にはこれらの種類からなる草地の分布が推測される。さらにイネ属型やソバ属花粉の検出から、周辺域における栽培や利用が推測される。

**第 31 表**　花粉分析結果

| 種　類 | SD43 | | | SD45 | | | | SD44 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3 | 4 | 6 | 2 | 3 | 6 | 9 | 2 | 4 | 5 |
| 木本花粉 | | | | | | | | | | |
| モミ属 | 2 | − | 1 | 1 | − | − | − | − | 1 | − |
| ツガ属 | − | − | 1 | − | − | − | − | 1 | 1 | − |
| マツ属単維管束亜属 | − | − | − | 1 | 1 | − | − | − | − | − |
| マツ属複維管束亜属 | 23 | 10 | 34 | 13 | 20 | − | − | 26 | 51 | 1 |
| マツ属（不明） | 26 | 12 | 27 | 29 | 14 | − | − | 37 | 34 | 2 |
| スギ属 | 4 | 7 | 9 | 9 | 4 | − | 2 | 2 | 8 | 4 |
| イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科 | − | 1 | − | 1 | − | − | − | 1 | 2 | − |
| ヤナギ属 | − | 2 | 3 | − | − | − | − | − | 2 | 1 |
| ヤマモモ属 | − | − | − | 2 | − | − | − | − | 1 | − |
| サワグルミ属 | 2 | 1 | − | 6 | 2 | − | − | − | 1 | − |
| クルミ属 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| クマシデ属−アサダ属 | 6 | 5 | 2 | 2 | 3 | − | − | 1 | 2 | 1 |
| カバノキ属 | − | 2 | 1 | 32 | 2 | − | − | 4 | 5 | − |
| ハンノキ属 | 3 | 6 | 3 | 22 | 7 | − | 15 | 3 | 1 | 5 |
| ブナ属 | 2 | 1 | 10 | 48 | 14 | − | − | 2 | 1 | − |
| コナラ属コナラ亜属 | 11 | 9 | 7 | 28 | 22 | − | − | 8 | 46 | 3 |
| コナラ属アカガシ亜属 | 4 | 4 | 1 | 2 | 6 | − | − | − | 1 | − |
| クリ属 | 2 | 2 | − | 3 | 1 | − | − | − | 1 | 1 |
| シイ属 | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − | 1 |
| ニレ属−ケヤキ属 | 12 | 9 | 19 | 4 | 15 | − | − | 14 | 31 | 8 |
| エノキ属−ムクノキ属 | 4 | 23 | 65 | 1 | 5 | − | − | − | 21 | 2 |
| シキミ属 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| サクラ属 | − | 1 | 4 | − | − | − | − | − | 2 | − |
| サンショウ属 | − | − | − | − | − | − | − | − | 2 | − |
| キハダ属 | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − |
| アカメガシワ属 | − | − | − | − | − | − | − | 1 | − | − |
| モチノキ属 | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − |
| カエデ属 | − | − | − | 2 | − | − | − | − | − | − |
| トチノキ属 | − | 1 | − | 9 | − | − | − | − | − | − |
| ブドウ属 | − | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − |
| ノブドウ属 | 1 | − | 1 | − | 1 | − | − | − | 1 | − |
| ツタ属 | 1 | − | 4 | − | − | − | − | − | − | − |
| グミ属 | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − |
| ウコギ科 | 1 | 5 | 5 | 8 | − | − | − | 2 | − | 1 |
| ツツジ科 | − | − | − | 2 | − | − | − | − | − | − |
| カキノキ属 | − | 2 | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| エゴノキ属 | − | − | − | 1 | 5 | − | − | − | − | 1 |
| ニワトコ属 | − | 1 | 2 | − | 1 | − | − | − | − | − |
| ガマズミ属 | − | 1 | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| タニウツギ属 | − | − | − | 4 | − | − | − | − | − | − |
| スイカズラ属 | − | − | 1 | 1 | − | − | − | − | − | − |
| 草本花粉 | | | | | | | | | | |
| ガマ属 | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − |
| オモダカ属 | − | 1 | 1 | − | 6 | − | − | − | − | − |
| イネ科（イネ属型） | 61 | 90 | 261 | 9 | 28 | − | − | 8 | 1 | 2 |
| 他のイネ科 | 211 | 146 | 358 | 67 | 127 | 2 | − | 102 | 54 | 28 |
| カヤツリグサ科 | 1 | 1 | 5 | 11 | 8 | − | − | 8 | 3 | 2 |
| ミズアオイ属 | − | − | 1 | 1 | − | − | − | − | − | − |
| ユリ属 | 1 | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| クワ科 | 1 | 7 | 11 | − | 30 | − | − | 4 | 4 | − |
| ギシギシ属 | − | 1 | − | 1 | − | − | − | − | − | − |
| サナエタデ節−ウナギツカミ節 | 3 | − | 2 | 1 | − | − | − | 1 | 1 | − |
| タデ属 | 1 | − | − | 1 | − | − | − | − | 1 | − |
| ソバ属 | 4 | 1 | 9 | − | 1 | − | − | 3 | 2 | 1 |
| アカザ科 | 28 | 17 | 37 | 1 | 33 | − | − | 13 | 18 | 3 |
| スベリヒユ属 | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − |
| ナデシコ科 | 7 | 2 | 12 | 1 | 2 | − | − | − | − | − |
| カラマツソウ属 | − | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − |
| キンポウゲ属 | 3 | − | 1 | − | 3 | − | − | − | − | − |
| アブラナ科 | 8 | 12 | 15 | − | 4 | − | − | 3 | 11 | 4 |
| バラ科 | − | − | 1 | 3 | 19 | − | − | − | 4 | − |
| マメ科 | 1 | − | − | − | − | − | − | 1 | 1 | − |
| フウロソウ属 | − | − | 1 | − | 4 | − | − | − | − | − |
| アリノトウグサ属 | 2 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − |
| セリ科 | − | 1 | − | 4 | 1 | − | − | − | 1 | − |
| ネナシカズラ属 | − | − | 1 | 1 | − | − | − | − | − | − |
| シソ科 | − | − | − | − | 1 | − | − | − | − | 1 |
| オオバコ属 | − | 1 | 1 | − | 8 | − | − | 1 | − | − |
| スズメウリ属 | 1 | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| ヨモギ属 | 5 | 8 | 9 | 13 | 11 | − | 1 | 9 | 4 | 1 |
| ベニバナ属 | 5 | − | 2 | − | − | − | − | − | − | − |
| キク亜科 | 1 | 2 | 3 | 3 | 2 | − | 1 | − | − | − |
| タンポポ亜科 | 2 | 3 | 5 | 5 | 4 | − | − | 2 | 1 | 1 |
| 不明花粉 | | | | | | | | | | |
| 不明花粉 | 7 | 10 | 14 | 15 | 11 | − | − | 7 | 3 | 4 |
| シダ類胞子 | | | | | | | | | | |
| ヒカゲノカズラ属 | − | − | − | 2 | 1 | 1 | − | − | − | − |
| ゼンマイ属 | 2 | 1 | 3 | 11 | 3 | − | − | − | − | 1 |
| 他のシダ類胞子 | 95 | 50 | 71 | 511 | 42 | 50 | 41 | 61 | 39 | 17 |
| 合　計 | | | | | | | | | | |
| 木本花粉 | 104 | 105 | 204 | 235 | 124 | 0 | 17 | 102 | 215 | 31 |
| 草本花粉 | 346 | 293 | 736 | 125 | 293 | 2 | 2 | 155 | 106 | 43 |
| 不明花粉 | 7 | 10 | 14 | 15 | 11 | 0 | 0 | 7 | 3 | 4 |
| シダ類胞子 | 97 | 51 | 74 | 524 | 46 | 51 | 41 | 61 | 39 | 18 |
| 合計（不明を除く） | 547 | 449 | 1014 | 884 | 463 | 53 | 60 | 318 | 360 | 92 |
| 寄生虫卵 | | | | | | | | | | |
| 回虫卵 | − | − | − | − | − | − | − | − | − | 1 |
| 鞭虫卵 | − | − | − | − | − | − | − | − | − | 2 |




木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数を基数として
百分率で表した。○●は１％未満、＋は木本花粉100個未満の試料において検出された種類を示す。

**第84図**　主要花粉化石群集

２　珪藻分析

**１）試料**　試料はSD43下層下部と上部（試料番号６・４）、中層下部（試料番号３）、SD44下層下、上部（試料番号９・６）と上層の２層準（試料番号３・２）、SD45の３層準（試料番号５・４・２）で採取した土壌10点である。

**２）方法**　湿重約５ｇをビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し珪藻殻の濃縮を行う。この操作を４～５回繰り返す。次に自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバ-ガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラ-トを作製する。

検鏡は油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステ-ジを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数する。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200個体が検出できた後は、示準種などの重要な種類の見落としがないように全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot（2000）、Hustedt（1930-1966）、Krammer and Lange-Bertalot（1985-1991）、Desikachiary（1987）等を参考にする。群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は塩分、pH、水の流動性の３適応性についても生態分類し表に示す。

堆積環境の変遷を考察するために、珪藻化石が100個体以上検出された試料について珪藻化石群集変遷図を作成する。出現率は化石総数を基数とした百分率で表し、１％以上の出現率を示す分類群についてのみ表示する（図中●印､総数が100個体以上産出した試料のうち1%未満の種を示す）。図中には、海水生・汽水生・淡水生種の相対頻度と淡水生種を基数とした塩分・pH・流水の相対頻度について図示する。

**３）結果**　結果を第85図、第32表に示す（図版第37）。珪藻化石は分析対象とした10試料すべてより産出した。以下、地点毎に産状を述べる。

**SD43**　試料番号３・４・６の３試料の珪藻化石の産状はほぼ同様の傾向を示し、いずれも200個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多く産出することから不良である。産出した分類群は淡水生種を主とし、10～20%程度の淡水～汽水生種が産出する。

珪藻化石が比較的多く検出された試料の淡水生の群集の特徴は、生態性（珪藻の３つの適応性：水中の塩分・pH・流水に対する適応性）について整理した場合、以下のような傾向が認められる。

まず、塩分に対する適応性は、淡水中の塩類濃度の違いにより区分したもので、ある程度の塩分が含まれたほうがよく生育する種類は好塩性種、少量の塩分が含まれていても生育できるものを不定性種、塩分が存在する水中では生育できないものを嫌塩性種として区分している。これは主に水域の化学的な特性を知る手がかりとなるが、単に塩類濃度が高いあるいは低いといったことが分かるだけでなく、塩類濃度が高い水域というのは概して閉鎖水域である場合が多いことから、景観を推定する上でも重要な要素である。本地点の３試料は貧塩-不定性種が優占している。

次にpHに対する適応性とは、アルカリ性の水域に特徴的に認められる種群を好アルカリ性種、逆に酸性水域に生育する種群を好酸性種、中性の水域に生育する種を不定性種としている。これも単に水の酸性・アルカリ性のいずれかが分かるだけでなく、酸性の場合は湿地であることが多いなど、間接的に

は水域の状況を考察するうえで必要不可欠である。本地点の３試料は、好アルカリ性種が 40 ～ 50％程度産出し、好酸性種も 20 ～ 30％産出する。

流水に対する適応性は、流れのある水域の基物（岩石・大型の藻類・水生植物等）に付着生育する種群であり、特に常時流のあるような水域でなければ生育できない種群を好流水性種、逆に流れのない水域に生育する種群を好止水性種として区分している。流水不定はどちらにでも生育できる可能性もあるが、それらの大半は止水域に多い種群である。なお、好流水性種と流水不定性種の多くは付着性種であるが、好止水性種には水塊中を浮遊生活する浮遊性種も存在する。浮遊性種は池沼あるいは湖沼の環境を指標する。本地点の３試料は流水不定性種が 80％以上産出する。

なお、淡水生種の中には、水中から出て陸域の乾いた環境下でも生育する種群が存在し、これらを陸生珪藻と呼んで、水中で生育する種群と区分している。陸生珪藻は、陸域の乾いた環境を指標することから、古環境を推定する上で極めて重要な種群である。本地点の試料では水生珪藻が優占するが、陸生珪藻も 30 ～ 50％程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水～汽水生種の *Nitzschia palea*、淡水生種で流水不定性種の *Gomphonema parvulum*、*Lemnicola hungarica*、*Pinnularia gibba*、淡水生種で陸生珪藻の *Amphola montana*、*Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia subcapitata* 等である。

**SD45**　試料番号２・３における珪藻化石の産状はほぼ同様の傾向を示し、いずれも 200 個体以上産出した。保存状態は壊れている殻が多く、一部溶解の痕跡が認められる殻が産出したため、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

塩分に対する適応性は貧塩-不定性種が優占している。pH に対する適応性は、好アルカリ性種が 30％程度産出し、好酸性種も 20％程度産出する。流水に対する適応性は流水不定性種が優占するが、流水性種も 10％程度産出する。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、本試料では水生珪藻が優占し、陸生珪藻は 20％程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水生種の *Cymbella turgidula*、*Gomphonema clevei*、淡水生種で流水生種の *Gomphonema parvulum*、淡水生種で止水生種の *Gomphonema truncatum*、淡水生種で陸生珪藻の *Amphola montana*、*Navicula confervacea* 等である。

試料番号６・９の２試料はいずれも 100 個体程度の産出であった。保存状態は壊れている殻が多く、一部溶解の痕跡が認められる殻が産出したため不良～極不良である。産出した分類群は淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

塩分に対する適応性は貧塩-不定性種が優占している。pH に対する適応性は、好アルカリ性種が 40% 程度産出し、好酸性種も 30% 程度産出する。流水に対する適応性は流水不定性種が優占するが、流水性種も 10% 程度産出する。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、本試料では水生珪藻が 70% 程度、陸生珪藻が 30% 程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水生種の *Cocconeis placentula* var. *euglypta*、*Gomphonema clevei*、*Reimeria sinuata*、淡水生種で流水生種の *Gomphonema parvulum*、淡水生種で流水不明種の *Cocconeis* spp.、*Fragilaria* spp.、*Pinnuralia* spp.、淡水生種で陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia subcapitata* 等である。

**SD44**　試料番号２・４・５の珪藻化石はほぼ同様の傾向を示し、いずれも 200 個体以上産出した。保存状態は、壊れている殻が多く産出したため不良である。産出した分類群は淡水生種を主として、極低率

に淡水～汽水生種が産出する。

塩分に対する適応性は貧塩-不定性種が優占している。pH に対する適応性は、好アルカリ性種が優先し、好酸性種も 20％程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、流水性種も 20％程度産出する。水生珪藻と陸生珪藻の比率は両者ともに 50％程度産出している。

特徴的に産出した種は淡水～汽水生種の *Navicula veneta*、淡水生種で流水生種の *Gyrosigma scalproidesm*、淡水生種で流水生種の *Gomphonema parvulum*、淡水生種で流水不定性種の *Pinnularia microstauron*、淡水生種で陸生珪藻の *Amphola montana*、*Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia subcapitata* 等である。

**４）考察**

**SD43**　試料番号６・４・３から特徴的に産出した種は、淡水～汽水生種の *Nitzschia palea*、淡水生種で流水不定性種の *Gomphonema parvulum*、*Lemnicola hungarica*、*Pinnularia gibba*、淡水生種で陸生珪藻の *Amphola montana*、*Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia subcapitata* 等である。

産出した珪藻の生態性を述べると、まず淡水～汽水生種とした *Nitzschia palea* は好汚濁性種（Asai and Watanabe, 1995）とされ、水中の塩類濃度が高まった後背湿地や特に人為的な影響で汚濁した水域に特徴的に認められる種である。次に流水不定性種の *Gomphonema parvulum* は、流水に対して不定なだけでなく、塩分濃度や pH に対しても不定であり、極めて高い適応能力を持つ種であり、さまざまな水域に認められる。そのため Asai and Watanabe（1995）は広域適応種としている。ただし経験的には、流水域に多産することが多いことから、以前は流水性種に含められていた種である。*Lemnicola hungarica* は、付着性で池や流れの弱い川などで浮葉植物の葉に付着して生育する場合が一般的であるが、中汚濁耐性種（小林ほか 2006）とされ、水田からも特徴的に出現する（田中 2002）。*Pinnularia gibba* は、好酸性（最適 pH6 付近）、富栄養から貧栄養種、湧泉・小川などにみられる着生種とされる（中島ほか 1978）。次に陸生珪藻の *Amphola montana*、*Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia subcapitata* 等は、水中や水底の環境以外のたとえばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群（小杉 1986）である。とくに *Amphola montana*、*Hantzschia amphioxys* は、離水した場所の中で乾燥に耐えうることのできる群集とされる（伊藤・堀内 1989・1991）。また堆積物の分析を行った際、これらの種群が優占（70 ～ 80％以上）する結果が得られれば、その試料が堆積した場所は、水域以外の空気に曝されて乾いた環境であったことが推定できるとしている。

以上の特徴種の生態性と産出した群集の構成から堆積環境を推定すると、汚濁性種が特徴的に産出していることから、水の出入りの少ない停滞水域が推定される。特に *Nitzchia palea* が卓越して認められたことから、人為的な影響で汚濁した水域であった可能性がある。また試料番号６・４は、試料番号３と比較して、*Nitzchia palea* の産出率が高くなっていることから、より汚濁の程度が進んだことなども推定される。ただし、いずれの試料も陸生珪藻も高い割合で産出しているため、常に水が溜まっていた環境でなく乾湿を繰り返すような環境、あるいは遺構周辺からの土砂の供給などの影響が推定される。

**SD45**　SD45 の試料番号９・６から特徴的に産出した種は、淡水生種で流水生種の *Cocconeis placentula* var. *euglypta*、*Gomphonema clevei*、*Reimeria sinuata*、淡水生種で流水生種の *Gomphonema parvulum* 淡水生種で流水不明種の *Cocconeis* spp.、*Fragilaria* spp.、*Pinnuralia* spp.、淡水生種で陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia subcapitata* 等である。

産出した珪藻の生態性（前述していない種）を述べると、まず流水性種の *Cocconeis placentula* var.

*euglypta* は、河川などの流水域の基物（礫等）に大型の藻類とともに付着生育する種である。Asai and Watanebe（1995）は、清浄な水域に生育する種であることから好清水性種としている。*Gomphonema clevei* はアジアと熱帯アフリカの特産の種であり、河川に優占的に出現する着床種とされる（Hustedt, 1938）。*Reimeria sinuata* は安藤（1990）によれば、河川の中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地、自然堤防および後背湿地といった地形がみられる部分に集中して出現し、ほかの地域には出現しなかったり出現しても主要でないことから、この地域を指標する可能性が大きい種群とされ、中～下流河川指標種群とされている。次に流水不明種とした *Cymbella* spp.、*Fragilaria* spp.、*Pinnularia* spp. はそれぞれ数種類で構成されるが、これらの属はいずれも湿地に最も特徴的に認められ、主要な構成種になる属である。

次に SD45 の試料番号３・２で特徴的に産出した種は、淡水生種で流水生種の *Cymbella turgidula, Gomphonema clevei*、淡水生種で流水生種の *Gomphonema parvulum*、淡水生種で止水生種の *Gomphonema truncatum*、淡水生種で陸生珪藻の *Amphola montana*、*Navicula confervacea* 等である。

産出した珪藻の生態性（前述していない種）を述べると、まず流水性種の *Cymbella turgidula* は、河川等の流水域に生育する種であり、中～下流河川指標種群と呼ばれる（安藤 1990）。中～下流河川指標種群は河川の中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地、自然堤防および後背湿地といった地形がみられる部分に集中して出現し、ほかの地域には出現しなかったり出現しても主要でないことから、この地域を指標する可能性が大きい種群とされる。次に止水性種の *Gomphonema truncatum* は、比較的、水の綺麗な池沼などの岸付近に生育することが多く、Asai and Watanabe（1995）は本種を好清水性種としている。一方、陸生珪藻の *Navicula confervacea* は、水中や水底の環境以外のたとえばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群（小杉 1986）である。特に本試料から産出した陸生珪藻は、離水した場所の中で乾燥に耐えうることのできる群集とされる（伊藤・堀内 1989・1991）。

なお SD45 の４試料は、いずれも生育環境を異にする種群で構成される。このような堆積物中からの産出率は低い割に構成種数が多く、顕著に多産する種が認められない組成は、いわゆる混合群集に近い。混合群集は、一般には低地部の氾濫堆積物などの一過性堆積物で認められる場合が多い（堀内ほか 1996）。

以上の特徴種の生態性と群集の構成から SD45 埋積物の堆積環境を推定すると、いずれの試料も混合群集であったことから氾濫堆積物などの埋積が推定される。また、本遺跡が九頭竜川の氾濫原に位置することを考慮すると、地山を構成する堆積物（氾濫堆積物）が多く混入している可能性も考えられる。なお、いずれの試料も珪藻殻の保存状態が悪かったことから、水域の環境としては不安定で、乾湿を繰り返すような環境であったと推定される。また試料番号２においては、低率ながら *Nitzchia palea* が産出していることから、人為的な影響により汚濁した水域が存在していた可能性も考えられる。

**SD44**　SD44 の試料番号５～３で特徴的に産出した種は、淡水～汽水生種の *Navicula veneta*、淡水生種で流水生種の *Gyrosigma scalproides*、淡水生種で流水生種の *Gomphonema parvulum*、淡水生種で流水不定性種の *Pinnularia microstauron*、淡水生種で陸生珪藻の *Amphola montana*、*Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia subcapitata* 等である。

産出した珪藻の生態性（前述していない種）を述べると、まず淡水～汽水生種の *Navicula veneta* は、広温性、電解質多い水域または汽水域、富栄養化の著しい水域で強腐水域まで耐えられるとされる。電解質の乏しい水域には生育できない（Lange-Bertalot, 2001）とされる。電解質物質の豊富な水域から

**第 32 表**　珪藻分析結果

| 種類 | 生態性 | | | 環境指標種 | SD43 | | | SD44 | | | | SD45 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 塩分 | pH | 流水 | | 3 | 4 | 6 | 2 | 3 | 6 | 9 | 2 | 4 | 5 |
| *Nitzschia levidensis* var. *salinarum* Grunow | Meh | | | E1 | − | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − |
| *Nitzschia* spp. | Meh | | | | − | − | − | − | 2 | − | − | − | − | − |
| *Pseudopodosira kosugii* Tanimura et Sato | Meh | | | D1,E1 | − | − | − | − | 2 | − | − | − | − | − |
| *Rhopalodia musculus* (Kuetz.) Mueller | Meh | | | D1,E1 | − | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − |
| *Navicula cincta* (Ehr.) Ralfs | Ogh-Meh | al-il | ind | U,D,E | − | − | − | − | − | 1 | − | 2 | − | − |
| *Navicula halophila* (Grun.) Cleve | Ogh-Meh | al-bi | ind | O,U | − | − | − | − | − | − | − | 1 | − | − |
| *Navicula veneta* Kuetzing | Ogh-Meh | al-il | ind | U | − | − | − | − | − | − | − | 6 | 4 | 17 |
| *Nitzschia frustulum* (Kuetz.) Grunow | Ogh-Meh | al-bi | ind | O,U | − | − | − | − | − | − | − | 2 | − | − |
| *Nitzschia palea* (Kuetz.) W.Smith | Ogh-Meh | ind | ind | S | 18 | 30 | 28 | 1 | − | − | − | 7 | − | − |
| *Nitzschia* spp. | Ogh-Meh | unk | unk | | − | − | − | − | − | − | − | 1 | − | − |
| *Pseudostaurosira brevistriata* (Grun.) Williams & Round | Ogh-Meh | al-il | l-ph | U | − | − | − | 6 | 2 | − | − | − | − | − |
| *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) Mueller | Ogh-Meh | al-il | ind | U | − | − | − | − | − | 2 | 3 | − | − | − |
| *Achnanthes crenulata* Grunow | Ogh-ind | al-bi | l-ph | T | − | − | − | − | − | − | − | − | − | 1 |
| *Achnanthes japonica* H.Kobayasi | Ogh-ind | al-il | r-bi | J,T | 3 | − | − | − | − | − | − | − | 1 | − |
| *Achnanthes rostrata* Oestrup | Ogh-ind | al-il | r-ph | U | − | − | − | − | − | − | − | 1 | − | − |
| *Achnanthes* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 3 | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| *Amphora montana* Krasske | Ogh-ind | ind | ind | RA | 10 | 20 | 8 | 5 | 5 | − | − | 57 | 32 | 24 |
| *Amphora ovalis* (Kuetz.) Kuetzing | Ogh-ind | al-il | ind | T | 1 | 2 | − | − | 3 | − | − | − | − | − |
| *Amphora ovalis var. affinis* (Kuetz.) Van Heurck | Ogh-ind | al-il | ind | T | − | − | − | − | 2 | − | − | − | − | − |
| *Amphora* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | − | − | 2 | − | 3 | − | − | − | − | − |
| *Aulacoseira* spp. | Ogh-unk | unk | l-ph | U | − | − | − | − | − | − | − | − | 1 | − |
| *Caloneis aerophila* Bock | Ogh-ind | al-il | ind | RA | − | − | − | − | − | 1 | − | − | − | − |
| *Caloneis bacillum* (Grun.) Cleve | Ogh-ind | al-il | r-ph | U | − | − | − | − | 1 | − | 2 | − | − | − |
| *Caloneis leptosoma* Krammer & Lange-Bertalot | Ogh-ind | ind | l-ph | RB | − | − | − | − | − | − | − | − | − | 1 |
| *Caloneis molaris* (Grun.) Krammer | Ogh-ind | ind | ind | | 3 | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| *Caloneis silicula* (Ehr.) Cleve | Ogh-ind | al-il | ind | O | − | − | − | 2 | − | − | 5 | − | − | − |
| *Caloneis* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 2 | − | − | − | 2 | − | 2 | − | − | − |
| *Cocconeis placentula* (Ehr.) Cleve | Ogh-ind | al-il | ind | U | − | − | − | − | − | 2 | − | 3 | 1 | 1 |
| *Cocconeis placentula* var. *euglypta* (Ehr.) Cleve | Ogh-ind | al-il | r-ph | T | − | − | − | 12 | − | 8 | 1 | 1 | − | − |
| *Cocconeis placentula* var. *lineata* (Ehr.) Cleve | Ogh-ind | al-il | r-ph | T | − | − | − | 1 | − | − | − | − | 1 | − |
| *Cocconeis* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | − | − | − | − | − | 7 | 5 | 1 | − | − |
| *Craticula halophila* (Grun. ex Van Heurck) D.G.Mann | Ogh-ind | al-il | ind | | − | − | − | − | − | − | 1 | − | − | − |
| *Cyclotella bodanica* Grunow | Ogh-ind | al-il | l-bi | M,U | − | − | − | − | − | 1 | − | − | − | 1 |
| *Cymbella minuta* Hilse ex Rabenhorst | Ogh-ind | ind | r-ph | K,T | − | − | − | 7 | − | − | 2 | − | − | − |
| *Cymbella naviculiformis* Auerswald | Ogh-ind | ind | ind | O | − | − | − | 2 | − | − | − | − | − | − |
| *Cymbella turgidula* Grunow | Ogh-ind | al-il | r-ph | K,T | − | 2 | − | 10 | 2 | 3 | − | − | − | − |
| *Cymbella* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | − | 1 | − | 2 | − | 5 | − | − | − | 3 |
| *Diploneis parma* Cleve | Ogh-ind | ind | ind | O | − | − | − | − | − | − | 1 | − | − | − |
| *Encyonema silesiacum* (Bleisch in Rabenh.) D.G.Mann | Ogh-ind | ind | ind | T | − | − | − | − | 1 | 1 | 1 | − | − | 3 |
| *Epithemia adnata* (Kuetz.) Brebisson | Ogh-ind | al-bi | ind | U | − | − | − | − | 6 | 1 | − | − | − | − |
| *Epithemia sorex* Kuetzing | Ogh-ind | al-bi | ind | T | − | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − |
| *Epithemia* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | − | − | − | − | 7 | 3 | − | − | − | − |
| *Eunotia arcus* Ehrenberg | Ogh-hob | ac-il | l-ph | | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − |
| *Eunotia implicata* Noepel & Lange-Bertalot | Ogh-hob | ac-il | ind | O | − | − | − | 3 | 7 | 2 | − | − | − | − |
| *Eunotia* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | − | − | − | − | 6 | 5 | 1 | − | − | 2 |
| *Fragilaria capucina* Desmazieres | Ogh-ind | al-il | ind | T | − | − | 1 | 16 | 1 | 5 | 1 | 1 | − | − |
| *Fragilaria construens* fo. *binodis* (Ehr.) Hustedt | Ogh-ind | al-il | l-ph | U | 1 | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| *Fragilaria ulna* (Nitzsch) Lange-Bertalot | Ogh-ind | al-il | ind | O,U | 2 | 1 | 1 | 7 | 2 | 3 | 1 | − | 1 | − |
| *Fragilaria* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 5 | 2 | 1 | − | − | 5 | 4 | 2 | − | − |
| *Fragilariforma virescens* (Ralfs) Williamus & Round | Ogh-ind | ac-il | l-ph | U | − | − | − | − | − | − | − | − | − | 1 |
| *Frustulia vulgaris* (Thwaites) De Toni | Ogh-ind | al-il | ind | U | − | 3 | 10 | − | 2 | − | − | − | − | 3 |
| *Frustulia* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | − | − | 5 | 5 | 2 | − | − | − | − | − |
| *Gomphonema acuminatum* Ehrenberg | Ogh-ind | ind | l-ph | O | − | − | − | 6 | 7 | − | − | − | − | − |
| *Gomphonema augur* Ehrenberg | Ogh-ind | ind | ind | U | − | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − |
| *Gomphonema clevei* Fricke | Ogh-ind | al-bi | r-ph | T | − | − | − | 1 | 4 | 3 | 5 | − | − | − |
| *Gomphonema gracile* Ehrenberg | Ogh-ind | al-il | l-ph | O,U | 5 | 2 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | − | − | − |
| *Gomphonema minutum* (Ag.) C.Agardh | Ogh-ind | al-il | r-ph | U | − | 2 | − | − | 2 | − | − | − | − | − |
| *Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing | Ogh-ind | ind | ind | U | 12 | 10 | 3 | 6 | 17 | 15 | 12 | − | − | 3 |
| *Gomphonema truncatum* Ehrenberg | Ogh-ind | ind | l-ph | T | − | − | − | 3 | 12 | − | − | − | − | − |
| *Gomphonema* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 5 | 3 | 1 | 2 | 10 | 5 | − | − | 1 | − |
| *Gyrosigma scalproides* (Rabenh.) Cleve | Ogh-ind | al-il | r-ph | K,U | − | − | − | − | 5 | − | − | 9 | 9 | 22 |
| *Gyrosigma spencerii* (W.Smith) Cleve | Ogh-ind | al-il | l-ph | U | − | − | − | − | − | − | − | 1 | − | − |
| *Gyrosigma* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | − | − | − | 1 | 5 | − | − | − | − | 4 |
| *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow | Ogh-ind | al-il | ind | RA,U | 20 | 22 | 25 | 1 | 1 | 1 | 6 | 39 | 27 | 38 |
| *Hantzschia amphioxys* var. *capitata* Muller | Ogh-ind | al-il | ind | RA,U | − | − | − | − | − | − | − | − | − | 3 |
| *Lemnicola hungarica* (Grun.) Round & Basson | Ogh-ind | al-il | ind | U | 30 | 9 | 17 | 2 | 1 | − | − | − | − | − |
| *Luticola mutica* (Kuetz.)D.G.Mann | Ogh-ind | al-il | ind | RA,S | 2 | 2 | 19 | 1 | 3 | 2 | 1 | 12 | − | 9 |
| *Luticola mutica* (Kuetz.)D.G.Mann | Ogh-ind | al-il | ind | RA,S | 2 | 2 | 19 | 1 | 3 | 2 | 1 | 12 | − | 9 |
| *Meridion circulare* (Grev.) C.Agardh | Ogh-ind | al-il | r-bi | K,T | − | − | − | − | − | 2 | − | − | − | − |
| *Navicula bryophila* Boye-Petersen | Ogh-ind | al-il | ind | RI | − | − | − | − | 2 | − | − | − | − | − |
| *Navicula confervacea* (Kuetz.) Grunow | Ogh-ind | al-bi | ind | RB,S | 5 | 7 | 8 | 20 | 7 | 4 | 1 | 1 | − | − |

| 種類 | 生態性 | | | 環境指標種 | SD43 | | | SD44 | | | | SD45 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 塩分 | pH | 流水 | | 3 | 4 | 6 | 2 | 3 | 6 | 9 | 2 | 4 | 5 |
| *Navicula contenta* Grunow | Ogh-ind | al-il | ind | RA,T | 3 | 8 | 8 | − | − | − | 3 | 3 | 2 | 2 |
| *Navicula contenta* fo. *biceps* (Arn.) Hustedt | Ogh-ind | al-il | ind | RA,T | − | − | − | − | − | − | − | 3 | − | − |
| *Navicula cryptocephala* Kuetzing | Ogh-ind | al-il | ind | U | − | 2 | − | − | − | − | − | 1 | − | − |
| *Navicula cryptotenella* Lange-Bertalot | Ogh-ind | ind | ind | T | 3 | 3 | 5 | 3 | − | 1 | − | − | − | − |
| *Navicula decussis* Oestrup | Ogh-ind | al-il | r-ph | K,U | − | − | − | − | − | − | − | − | − | 3 |
| *Navicula elginensis var. neglecta* (Krass.) Patrick | Ogh-ind | al-il | r-ph | U | − | − | − | − | − | − | − | 3 | − | − |
| *Navicula kotschyi* Grunow | Ogh-ind | al-il | ind | U | − | − | − | − | − | − | − | 1 | − | − |
| *Navicula mutica* var. *ventricosa* (Kuetz.) Cleve | Ogh-ind | al-il | ind | RI | − | − | − | − | − | − | − | − | 3 | 1 |
| *Navicula schoenfeldii* Hustedt | Ogh-ind | al-il | l-ph | RI | − | − | − | − | − | − | − | 1 | − | 3 |
| *Navicula tenelloides* Hustedt | Ogh-unk | unk | r-ph | J,U | 1 | 2 | 2 | 3 | 3 | 1 | − | − | − | 2 |
| *Navicula yuraensis* Negoro & Gotoh | Ogh-ind | al-il | r-ph | T | − | 2 | − | − | − | − | − | − | − | − |
| *Navicula* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 1 | 3 | 7 | − | 7 | 1 | − | − | − | 3 |
| *Neidium alpinum* Hustedt | Ogh-unk | unk | ind | RA | − | − | − | − | − | − | − | − | − | 3 |
| *Neidium ampliatum* (Ehr.) Krammer | Ogh-ind | ind | l-ph | O | − | − | − | − | 2 | − | − | 2 | − | − |
| *Neidium* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 1 | − | 3 | 5 | 2 | − | − | − | − | − |
| *Nitzschia amphibia* Grunow | Ogh-ind | al-bi | ind | S | 1 | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − |
| *Nitzschia brevissima* Grunow | Ogh-ind | al-il | ind | RB,U | 2 | 4 | 5 | − | − | − | 2 | − | − | − |
| *Nitzschia debilis* (Arn.) Grunow | Ogh-ind | al-il | ind | RB,U | − | 3 | − | − | − | − | − | 1 | − | − |
| *Nitzschia* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 4 | 2 | 3 | − | − | − | 3 | 1 | 1 | − |
| *Pinnularia acrosphaeria* W.Smith | Ogh-ind | al-il | l-ph | N,O,U | − | − | − | 6 | − | − | − | − | − | − |
| *Pinnularia borealis* Ehrenberg | Ogh-ind | ind | ind | RA | 1 | − | 5 | − | − | − | − | − | 1 | − |
| *Pinnularia braunii* (Grun.) Cleve | Ogh-hob | ac-bi | l-ph | S | 4 | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| *Pinnularia gibba* Ehrenberg | Ogh-ind | ac-il | ind | O | 35 | 5 | 5 | 2 | 6 | 1 | 4 | 3 | − | − |
| *Pinnularia imperatrix* Mills | Ogh-hob | ac-il | l-ph | | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − |
| *Pinnularia interrupta* W.Smith | Ogh-ind | ac-il | ind | S | − | − | − | 3 | 6 | − | 1 | − | − | − |
| *Pinnularia lundii* Hustedt | Ogh-ind | ind | l-ph | O | 4 | 1 | − | − | − | − | − | − | − | − |
| *Pinnularia microstauron* (Ehr.) Cleve | Ogh-ind | ac-il | ind | S | 20 | 5 | − | 5 | 2 | 1 | 4 | 17 | 23 | 12 |
| *Pinnularia subcapitata* Gregory | Ogh-ind | ac-il | ind | RB,S | 15 | 30 | 35 | 13 | 10 | 3 | 15 | 13 | 6 | 24 |
| *Pinnularia viridis* (Nitz.) Ehrenberg | Ogh-ind | ind | ind | O | 2 | − | − | 1 | 3 | − | − | − | − | − |
| *Pinnularia* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 3 | 5 | 2 | 5 | 3 | 3 | 2 | 4 | − | − |
| *Placoneis elginensis* (Greg.) Cox | Ogh-ind | al-il | ind | O,U | − | 1 | − | 1 | − | 1 | 1 | 1 | − | − |
| *Planothidium lanceolatum* (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot | Ogh-ind | ind | r-ph | K,T | − | 2 | − | 1 | − | 3 | 1 | − | − | − |
| *Reimeria sinuata* (Greg.) Kociolek et Stoermer | Ogh-ind | ind | r-ph | K,T | − | − | − | − | − | 2 | 2 | 1 | − | − |
| *Rhoicosphenia abbreviata* (Ag.) Lang-Bertalot | Ogh-hil | al-il | r-ph | K,T | − | 2 | − | − | − | 7 | − | − | − | − |
| *Rhopalodia gibba* (Ehr.) Mueller | Ogh-ind | al-il | ind | O,U | − | − | − | 8 | 11 | − | − | − | − | − |
| *Rhopalodia quisumbirgiana* Skvortzow | Ogh-hil | al-il | ind | O,U | − | − | − | − | − | − | − | − | − | 1 |
| *Sellaphora pupula* (Kuetz.) Mereschkowsky | Ogh-ind | ind | ind | S,U | − | − | − | 8 | 2 | − | − | − | − | − |
| *Sellaphora* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | − | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − |
| *Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.) Ehrenberg | Ogh-ind | ind | l-ph | N,O,U | − | − | − | 5 | − | − | 2 | − | − | − |
| *Stauroneis phoenicenteron* var. *signata* Meister | Ogh-ind | ind | l-ph | O | − | − | − | 2 | − | − | − | − | − | − |
| *Stauroneis* spp. | Ogh-unk | unk | unk | | − | − | − | 4 | 2 | − | 4 | 2 | − | − |
| *Staurosirella pinnata* (Ehr.) Williams & Round | Ogh-ind | al-il | l-ph | S | − | − | − | 2 | − | − | − | − | − | − |
| *Surirella angusta* Kuetzing | Ogh-ind | al-il | r-bi | U | 2 | 2 | 2 | − | − | − | − | − | − | 5 |
| *Surirella ovata* var. *pinnata* (W.Smith) Hustedt | Ogh-ind | al-il | r-ph | U | − | − | − | − | − | − | − | − | 2 | 6 |
| *Surirella spp.* | Ogh-unk | unk | unk | | − | − | 3 | − | − | − | − | − | − | − |
| 海水生種 | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 海水～汽水生種 | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 汽水生種 | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 淡水～汽水生種 | | | | | 18 | 30 | 28 | 7 | 2 | 3 | 3 | 19 | 4 | 17 |
| 淡水生種 | | | | | 211 | 170 | 190 | 195 | 193 | 109 | 98 | 185 | 112 | 184 |
| 珪藻化石総数 | | | | | 229 | 200 | 218 | 202 | 201 | 112 | 101 | 204 | 116 | 201 |

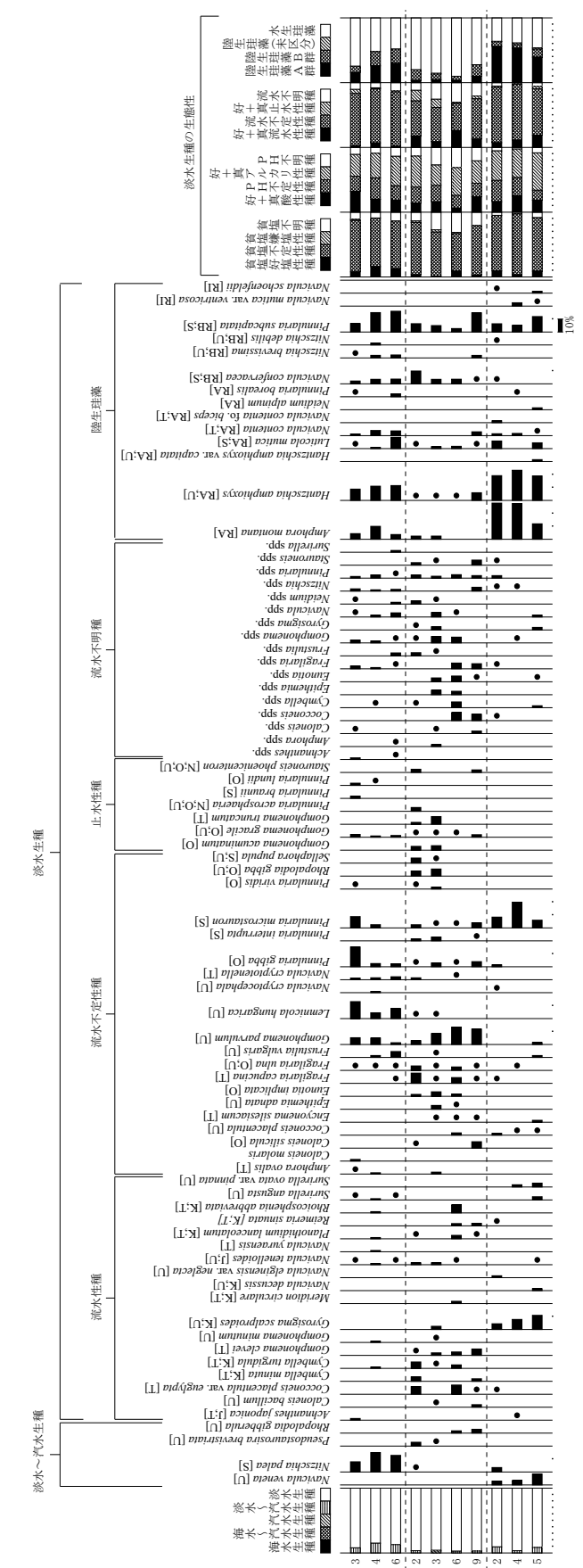
凡例

［適応性］

| 塩分：塩分濃度に対する適応性 | pH: 水素イオン濃度に対する適応性 | 流水：流水に対する適応性 |
|---|---|---|
| Euh　：　海水生種 | al-bi　：　真アルカリ性種 | l-bi　：　真止水性種 |
| Euh-Meh　：　海水生種 - 汽水生種 | al-il　：　好アルカリ性種 | l-ph　：　好止水性種 |
| Meh　：　汽水生種 | ind　：　pH 不定性種 | ind　：　流水不定性種 |
| Ogh-Meh　：　淡水生種 - 汽水生種 | ac-il　：　好酸性種 | r-ph　：　好流水性種 |
| Ogh-hil　：　貧塩好塩性種 | ac-bi　：　真酸性種 | r-bi　：　真流水性種 |
| Ogh-ind　：　貧塩不定性種 | unk　：　pH 不明種 | unk　：　流水不明種 |
| Ogh-hob　：　貧塩嫌塩性 | | |
| Ogh-unk　：　貧塩不明種 | | |

［環境指標種］

A：外洋指標種．B：内湾指標種．C1：海水藻場指標種．C2：汽水藻場指標種．D1：海水砂質干潟指標種．D2：汽水砂質干潟指標種．
E1：海水泥質干潟指標種．E2：汽水泥質干潟指標種．F：淡水底生種群（以上、小杉 , 1988）
G：淡水浮遊生種群．H：河口浮遊性種群．J：上流性河川指標種．K：中～下流性河川指標種．L：最下流性河川指標種群．
M：湖沼浮遊性種．N：湖沼沼沢湿地指標種．O：沼沢湿地付着生種．P：高層湿原指標種群．Q：陸域指標種群（以上、安藤 , 1990）
S：好汚濁性種．U：広適応性種．T：好清水性種（以上、Asai and Watanabe, 1995）
R：陸生珪藻（RA：A 群、RB：B 群、RI：未区分、伊藤・堀内 , 1991）




海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
いずれも100個体以上検出された試料について示す。図中の●は1%未満を示す。

[環境指標種]
A:外洋指標種. B:内湾指標種. C1:海洋藻場指標種. C2:汽水藻場指標種. D1:海水砂質干潟指標種. D2:汽水砂質干潟指標種. E1:海水泥質干潟指標種.
E2:汽水泥質干潟指標種. F:淡水底生種群(以上、小杉,1988)、G:淡水浮遊生種群. H:河口浮遊性種群. J:上流性河川指標種. K:中～下流性河川指標種.
L:最下流性河川指標種群. M:湖沼浮遊性種. N:湖沼沼沢湿地指標種. O:沼沢湿地付着生種. P:高層湿原指標種群. Q:陸域指標種群(以上、安藤,1990)、
S:好汚濁性種. U:広適応性種. T:好清水性種(以上、Asai and Watanabe,1995)、RI:陸生珪藻(RA:A群、RB:B群;伊藤・堀内,1991)

**第85図**　主要珪藻化石群集

汽水域に普通にみられるほか、強度に富栄養化した時にもみられることから、汚濁に対する適応性が強い種とされている（Witkowski *et al*., 2000）。次に *Gyrosigma scalproides* は、河川沿いの河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形がみられる部分に集中して出現するとされ、中・下流性河川指標種群（安藤 1990）と呼ばれる。また流水不定性種の *Pinnularia microstauron* は、富栄養化した湿地に認められる場合が多く、Asai and Watanabe（1995）によれば好汚濁性種とされている。

以上の特徴種の生態性と群集の構成および保存状態が悪かったことを考慮して、SD44 埋積物の堆積環境を推定すると、いずれの試料も陸生珪藻の産出率が高かったことから、基本的には好気的な環境であった、あるいはそのような環境にあった土砂の埋積が推定される。また、試料番号２では、汚濁生種の中でも人為的汚濁の水域に特徴な *Nitzchia palea* が産出していることから、人為的な影響による汚濁があったことが推測される。

引用文献

安藤一男 , 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用 . 東北地理 ,42,73-88.

Asai, K. and Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom, 10, 35-47.

Desikachiary, T. V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation, Madras, Printed at TT. Maps and Publications Private Limited, 328, G. S. T. Road, Chromepet, Madras-600044.1-13, Plates: 401-621.

藤木利之・小澤智生 ,2007, 琉球列島産植物花粉図鑑 . アクアコーラル企画 , 155p.

福井県 , 1989, 土地分類基本調査　永平寺　５万分の１　国土調査 . 42p.

堀内誠示・高橋　敦・橋本真紀夫 ,1996, 珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について　−混合群集の認定と堆積環境の解釈− . 日本文化財科学会　第 13 回大会研究発表要旨集 ,62-63.

Horst Lange-Bertalot., 2000, ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA: Annotated diatom micrographs. Witkowski, A., Horst Lange-Bertalot, Dittmer Metzeltin: Diatom Flora of Marine Coasts Volume1. 219plts. 4504figs, 925 pgs.

Hustedt, F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands,Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part1, 920p.

Hustedt, F., 1937-1938, Systematische unt okologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. I-III. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809, 1-155, 274-349.

Hustedt, F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz.under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, art2, 845p.

Hustedt, F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz.under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p.

伊藤良永・堀内誠示 , 1989, 古環境解析からみた陸生珪藻の検討　−陸生珪藻の細分− . 日本珪藻学会第 10 回大会講演要旨集 , 17.

伊藤良永・堀内誠示 , 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用 . 日本珪藻学誌 , 6, 23-44.

小林　弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲　保・長田啓五 , 2006, 小林弘珪藻図鑑 . 第 1 巻 , ㈱内田老鶴圃 , 531p.

小杉正人 , 1986, 陸生珪藻による古環境の解析とその意義　−わが国への導入とその展望− . 植生史研究 , 1, 9-44.

小杉正人 , 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用 . 第四紀研究 , 27, 1-20.

Kramm er,K.and H.Lange-Bertalot,1985,Naviculaceae.Bibliothyca Diatomologica, 9, 250p.

Kramm er, K.and H.Lange-Bertalot, 1986, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(1), 876p.
Kramm er, K. and H. Lange-Bertalot, 1988, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(2), 596p.
Kramm er, K.and H.Lange-Bertalot, 1990, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(3), 576p.
Kramm er, K. and H.Lange-Bertalot, 1991, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(4), 437p.
Lange-Bertalot, H., 2001, Navicula sensu stricto. 10 Genera separated from Navicula sensu lato. Frustulia.Diatoms of Europe: diatoms of the European inland waters and comparable habitats, 2, 140p.
三宅　尚・中越信和 , 1998, 森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態 . 植生史研究 , 6, 15-30.
三好教夫・藤木利之・木村裕子 , 2011, 日本産花粉図鑑 . 北海道大学出版会 , 824p.
中島啓治・田中宏之・吉田武雄・服部幸雄 , 1978, 奥利根地域の珪藻類 . 群馬県奥利根地域学術調査報告書（III）, 146-165.
中村　純 , 1967, 花粉分析 . 古今書院 , 232p.
中村　純 , 1980a, 日本産花粉の標徴　ＩII（図版）. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録　第 12, 13 集 , 91p.
中村　純 , 1980b, 花粉分析による稲作史の研究 . 自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究　−総括報告書−文部省科研費特定研究「古文化財」総括班 , 187-204.
島倉巳三郎 , 1973, 日本植物の花粉形態 . 大阪市立自然科学博物館収蔵目録　第 5 集 , 60p.
田中正明 . 2002. 日本淡水産動植物プランクトン図鑑 . 名古屋大学出版会 , 584p.
徳永重元・山内輝子 , 1971, 花粉・胞子 . 化石の研究法 , 共立出版株式会社 , 50-73.
Witkowski, A., Lange-Bertalot, H. & Metzeltin, D., 2000, Diatom Flora of Marine CoastsI. Iconographia Diatomologica Vol.7. A. R. G. Gantner Verlag K.G., Ruggell, Liechtenstein. 925p.

# 第７章　まとめ

ここではまとめとして調査区全体の遺構と遺物を整理し、本遺跡の性格をまとめる。

出土遺物は 13 世紀後半と 15 世紀のものが多く、切り合い関係からは 15 世紀の遺構が多いといえる。以下、遺跡の概要を述べるが、遺構の切り合いが多く、短期間に繰り返し掘削された様相を呈し、出土遺物の時間幅も近いため、遺構の同時性、一時期の景観を示すのは困難であることを述べておく。

## １　遺跡について

調査区の遺構分布は、北側の SD26 以北と南側は SD63 以南で密度が希薄となることが分かる。

調査区内に展開する遺構は東西方向の区画溝が顕著だが、SD1・14・15・22・26・39・41 ～ 43・57・58 は遺物で判断する限り 15 世紀中頃の時期が目立ち、出土遺物の様相が変わらず同時性は示し難い。ただ多くの区画溝がみられ、SA1 同様遺構が希薄な SD22・24 間は時期の異なる道路遺構の可能性もあり、累煩な区画の変更が想定できる。なお SA1 は東に伸びると現称念寺の北端部にあたるため、字「北門」に至り、堀の可能性もある SD45 はその内側にのびるものと考えられる。

区画溝の改変は居住空間の変化と連動した可能性がある。建物では SB1・2 を道路遺構の北と南に認める。両者が同時期に存在したかは不明だが、15 世紀後半の染付碗のある SD21 を SK15 が切り、SK15 を切る SK17 を更に SB1 が切るため 15 世紀代に位置付けられる。SB2 は雨落ち溝の様相から複数回の改変を想定できるが、遺構に伴う遺物が少なく時期を特定することはできない。ただ西側の SK23・24・33 に 15 世紀前半に広く認める信楽焼の壺があり、SA1 や 15 世紀代の区画溝と軸が揃うことを指摘しておく。SD15 ～ 26 間には多数のピットを認める。なかには柱痕と礎石を残すものもみられ、掘立柱建物を数回建て直したものと考えられる。焼土粒や炭化物を多く含むこれらのピットは、文明 12（1480）年の長崎城落城に伴うとも想定できる（『大乗院寺社雑事記』）。土坑は SB2 を除く周辺に密に分布する。

井戸は 12 列を境に様相が変わる。12 列以北では２棟の建物の周囲のほか、ピットを多く認める地点に２基確認できるが、SE3 以外は 15 世紀代の遺物が出土しており、建物に伴うものと考える。12 列以南の 13 基は 13 世紀後半と 15 世紀に分かれる。15 世紀と判断できる SE6・8・13・17・18 のうち、後３者は同時期の区画溝に切られるため、溝掘削段階では埋没していたと考える。これらの区画溝に建物が伴う可能性もあるが、周辺に認めず、土坑やピット等も少ない。

以上の遺構の分布を簡単に総括すると区画溝は全体に認めるが、建物と多くの土坑は 12 列以北に展開すると判断できる。井戸は建物付近にある一方、13 世紀後半の SE9・10・14・15 も含むが、15 世紀代の SE6・8・13・17・18 のある 12 列以南に建物が存在せず、その性格が異なる可能性もある。12 列以南の井戸を切る区画溝の散在ことから建物の存在する可能性はあるが、12 列以北は居住空間の性格が以南より強いと想定できる。この両地点を第 87 図の地籍図と合わせると、北・南調査区が各々、字「小角」、「前ノ堂」にほぼ該当し、字名を境に性格が異なるとも指摘できるが、これは字「前ノ堂」南方が河川の影響を受けやすいことが起因しよう。字「小角」西方の「北門」には居住空間が広がると考える。

遺物は土器・陶磁器、輸入陶磁器や漆器・石・金属製品等、日常生活に関わる多彩な遺物のほか、瓦質風炉や茶壷とも想定できる信楽焼に中国産の天目茶碗、青磁香炉等、文化的水準の高い遺物や、本来は狭域流通品で人の往来を表す山茶碗や石鍋のほか、令和２年度の調査で商業活動を表す金属製分銅を認めるように人や物資が行きかい、生産活動もなされた「寺」に伴う都市的空間が存在したと理解できる。ただ一方で、「城」として利用されたことも重要である。

## 2　調査区と周辺の様相

中世の城館は城と館の区別が明確なわけでない。城は合戦寺の要害で防御に適した山頂部に設ける山城の場合が多いが、館は常駐の居宅を主とするため平地にあるのが普通である。山岳と平地の境界線に認める館は城を伴う場合もあるが、九頭竜川・竹田川・兵庫川等により形成された沖積平野である坂井平野では山城を持つことは不可能であった。事実、当地にある城館約 60 箇所のうち 10 箇所は南北朝争乱時の一時的な山城が多いが、残りは室町時代に崩壊する荘園制社会の中で力を付けた在地勢力が農業による経営的基盤を背景に平野に進出した際の居館が多い。そして居館の大半は自然堤防上に立地し、防御のため旧河道を防衛線としたり堀・土塁を必要とする。以下このことを踏まえ、地形分類図や地籍図、字名を援用して調査区周辺の様相を概観したい。

1）地形分類図からの検討（第 86 図）

地形分類図は長崎遺跡東方に九頭竜川等の各河川の山地から平野への流入部の扇状地が広がる。遺跡周辺に兵庫川・田島川があるが、遺跡北側に東西方向に流れる田島川は南東側で幾筋にも分かれ、遺跡東方に流れ込むものもみられる。遺跡北方と西方に氾濫平野が広範囲に広がるが、そのなかに自然堤防が散在する。長崎遺跡は地形分類では、大部分が旧河川を除く氾濫平野と自然堤防上に展開したと思われる。そのなかでも称念寺は遺跡中央に認める小規模な自然堤防に立地したことが分かる。なお地形分類図にはないが、発掘調査の結果で調査区北・南端は遺構が手薄なことが判明した。これは当遺跡北側に位置する舟寄本廟遺跡の南側で明確な遺構が展開せず長期にわたり低湿地であったことと南側で旧河川を認めることに関連しよう。これは地形図上で自然堤防が東側に舌状に伸びることと一致する。調査区の東西幅が狭く断定できないが、調査成果から、この地点に遺構が展開したと想定できる。

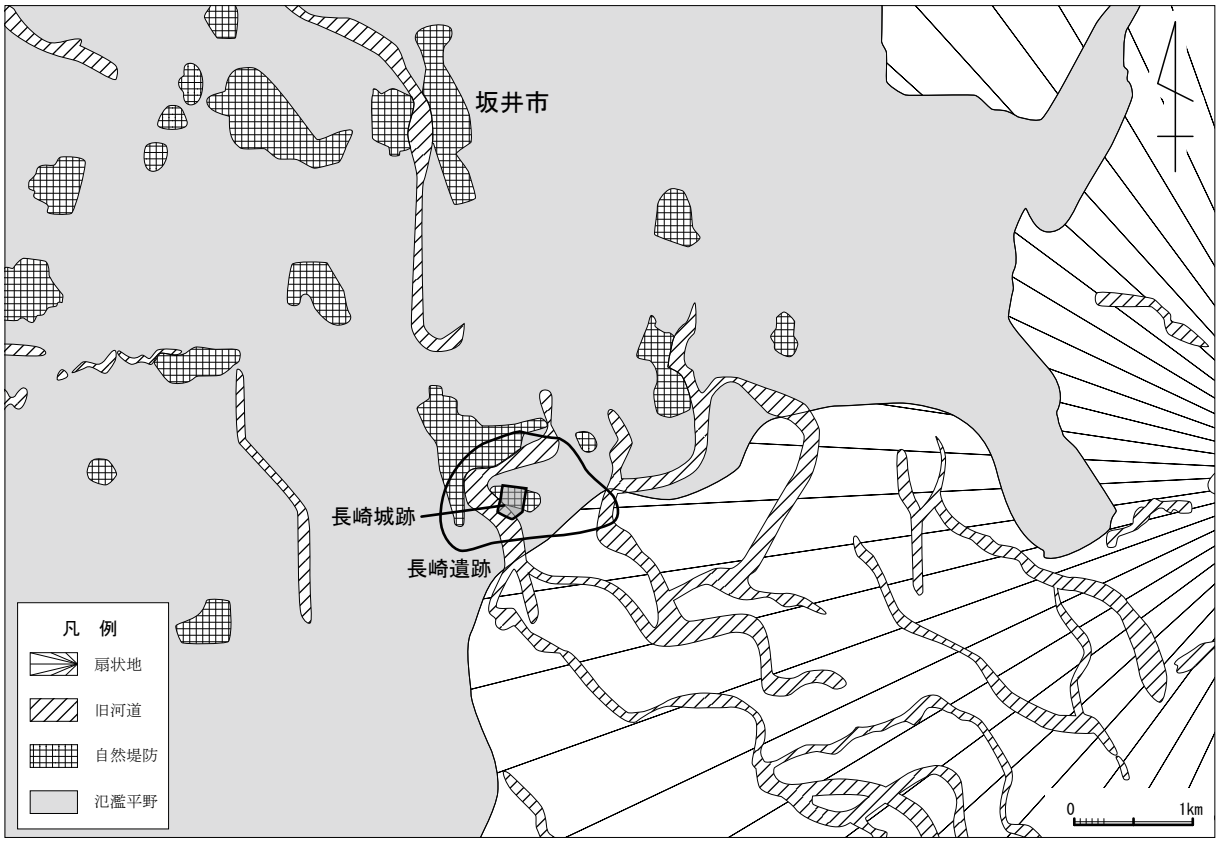
2）調査地と称念寺周辺の字名からの検討（第 87 図）

ここでは称念寺周辺を明治時代頃の地籍図と近年の発掘調査の成果に基づき、地理的分析を行った先行研究を援用し、長崎遺跡の様相をまとめたい（新谷 2021）。

称念寺を中心とする遺跡内の字名は、『福井県の中・近世城館跡』（福井県 1987）等によるが、それをみると土塁と堀が巡る字「願成寺」周辺に、「北門」・「西門」・「古屋敷」・「前ノ堂」・「小角」等の字名を認める。発掘調査は本書で報告する平成 28 年度に「前ノ堂」・「小角」、令和２年度に「古屋敷」・「兼井」で実施されたが、平成 28 年度の調査では前記したように調査区北・南端は遺構を少ない。北側は地籍図や字名からは不鮮明だが、南側は字「川行末」・「寺越」・「西馬正面」の北側を東から南方へ伸びる旧河川が存在するためで、前記した東方に伸びる自然堤防は「前ノ堂」・「小角」の両地点に収まるものと考える。なお、この旧河川は令和２年度の調査でも字「兼井」内の東方で検出され、その西側に室町時代の遺構を認めるため、同河川が称念寺の寺内町の南東側の境になる可能性が高い。

字「兼井」や西方の字「古屋敷」では、８条以上の区画溝と６棟以上の掘立柱建物等「古屋敷」の名を端的に表す遺構が検出されているが、その西側の区画堀より西方では遺構を認めない。この地点は地形分類図では南方から称念寺の西側を通る旧河道に該当するとも想定でき、西側の境となる可能性もある。総括すると「小角」北方に規模や方角は不明だが旧河道の存在が指摘でき、「前ノ宮」・「願成寺」・「兼井」南東と「古屋敷」西方を旧河道を利用して区切ったものと理解できよう。

以上、調査成果等に基づき遺跡近辺の様相を述べたが、中世の遺構は微高地に集中し、それを囲む旧河道の影響を受けたと考える。ただ令和２年度の調査で岸部に木樋、令和６年度の調査で小規模の船着場が確認されるなど田島川から派生した河川を用いた開発、物資の運搬が行われたことが指摘できる。




**第 86 図**　遺跡周辺の地形分類図（縮尺 1/40,000）

**第 87 図**　遺跡周辺の地籍図（縮尺 1/5,000）

## ３　歴史的背景と本調査区の関連性

長崎称念寺は長禄３（1459）年縁起では、養老５（721）年に創建されたという。正応３（1290）年に他阿真教により時宗とされ、称念房・道性・仏眼３兄弟が伽藍を建立した。「称念寺」は称念房の名を取り寺号とし、道性は光明院西教寺を建て「光明院の倉」とし北陸時宗の中心地として発展した。今回の調査では南調査区の井戸数基を除きこの時期の明確な遺構は検出されていないが、13 世紀後半～14 世紀初頭の遺物が大量に出土したことは、こうした動向と一致すると考える。

「長崎」の名称は 14 世紀以降の合戦の史料にあり、「城」として南北朝争乱の藤島の戦い、長禄の変、応仁・文明の乱等に活用されたことが分かり、それに伴う称念寺の動向もみて取れる（新谷 2021）。

藤島の戦いは、暦応３（1338）年に起こり、その際に、九頭竜川北側の平野部、長崎・河合・河口の３ヶ所に城を築いていることが、長崎での城の位置や構造等は不明で、14 世紀中頃～後半頃の遺物が極端に少なく明確な遺構も認めないため、調査地周辺がその城に該当する可能性は低いと考えられる。ただ、長禄２（1458）年に起こった長禄の変で合戦中に長崎に陣が敷かれた、15 世紀中頃の遺物が多い点を指摘できる。なお、この合戦中に長崎称念寺は時宗布教中心道場として将軍足利義政は「越前国長崎称念寺並びに光明院こと、早くより祈願所として寺領その煩なく領地を全うすべし」と称念寺と光明院を祈願所とし近郷近在の称念寺領を安堵しており、応仁元（1465）年に後花園天皇が祈願所として綸旨をだしている。これは合戦により被害を受ける寺領を幕府や朝廷の後ろ盾を得て保持した動きとされる（新谷 2021）が、15 世紀中頃から当時期の遺構と遺物が増加する様相は、こうした動向が関与している可能性もあろう。応仁・文明の乱では、長禄の変で主導的役割を果たした朝倉孝景が足利義政方の東軍に助力して西軍方と越前国内で戦ったが、文明３（1471）年に「長崎」は斯波義敏方の浪人等に夜討ちを受けて焼き払われている。また乱の後の文明 12（1480）年にも朝倉景氏と争った甲斐・斯波氏に長崎城が攻め落とされている。この痕跡はＤ・Ｅ４～６列に焼土粒や炭化物を多く含むピットで確認できる。火災の痕跡は令和２年度の調査でも確認され、火事場の廃材を廃棄した土坑や、埋め立て土内から炭化物や廃材が検出されている。文明・応仁の乱時は牢人衆が称念寺に籠ることがあったとされ、焼き討ちの痕跡は称念寺が軍事施設に活用されたことを示す。この後、反抗に転じた朝倉勢は文政 13（1481）年に「長崎之道場」、すなわち称念寺に出陣して斯波・甲斐氏を越前国から駆逐しているが、調査区で認めた SD1・14・15・22・26・39・41 ～ 43 などの区画溝は、このような状況下で建物が幾度も構築されたことを示すものと考える。また堀の可能性もある SD45 は、その当時の防御施設とも想定できる。この時期に遺構数と遺物量が著しく増加する現象は、「城」と「寺」の性格を合わさる当地の性格と関連しよう。

なお 16 世紀になると、朝倉氏が長崎を戦略上の拠点となり、称念寺が朝倉氏の寺領に安堵されたためか称念寺は再整備されるが、そのことは令和２年度の調査で判明している。ただ本調査区で検出された遺構は、15 世紀末頃を下限とするため、時代ごとの土地利用の差がみられる。なお、調査区の性格は２項でも述べたように字「小角」と「前ノ宮」で異なると考えられる。生産遺構か火葬遺構か確定できない SK57 が仮に火葬施設とすれば、「前ノ宮」の性格の一端を示すと考えられる。

参考文献

新谷和之 2021「中世後期における越前北部の軍事情勢と長崎称念寺」『民俗文化』33
福井県教育委員会 1987『福井県の中・近世城郭跡』
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2020「長崎遺跡」『第 35 回福井県発掘調査報告会資料』

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | ながさきいせき |
| 書　　名 | 長崎遺跡 |
| 副 書 名 | 北陸新幹線建設事業に伴う調査 10 |
| 巻　　次 | |
| シリーズ名 | 福井県埋蔵文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第 181 集 |
| 著 者 名 | 木村孝一郎（編）　御嶽貞義　秋山綾子 |
| 編 集 機 関 | 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター |
| 所 在 地 | 〒918-8226　福井県福井市大畑町 97-21-3<br>TEL：0776-53-7977　FAX：0776-53-7977<br>E-mail：maibun-c@pref.fukui.lg.jp |
| 発行年月日 | 2023 年 3 月 31 日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所 在 地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| ながさきいせき<br>長崎遺跡 | ふくいけん<br>福井県<br>さかいし<br>坂井市<br>まるおかちょう<br>丸岡町<br>ながさき<br>長崎 | 18210 | 13036 | 36°<br>25′<br>38″ | 136°<br>25′<br>15″ | 20160901<br>～<br>20170331 | 2,850 | 記録保存調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 長崎遺跡 | 集落 | 鎌倉時代<br>～<br>室町時代 | 掘建柱建物２棟<br>道路遺構１基<br>柵列２基<br>井戸 17 基<br>土坑 76 基<br>溝 74 条 | 土師質皿<br>越前焼・珠洲焼<br>瀬戸焼・山茶碗<br>瓦質土器<br>輸入陶磁器<br>木製品・石製品<br>金属製品 | 調査区両端に「城」の防御と「寺」を区切る旧河川があり、その中に区画溝と道路遺構を確認し、それに伴う掘立柱建物・井戸等を検出した。遺物に生活財のほか喫茶の風習を示すものや人々の往来を示す狭域流通品を認めるなど、遺跡の性格を示す遺構や遺物がみられる。 |


**要　約**

長崎遺跡は福井県坂井市丸岡町長崎に立地する遺跡で、長崎称念寺を中心に展開する。

今回の調査区は北・南端を旧河川に挟まれた微高地上に位置し、掘立柱建物２棟と道路遺構・柵列、井戸、土坑、溝等を検出した。井戸は構造に富む井戸側が良好に残る。遺構は北調査区に掘立柱建物や土坑、南調査区に井戸が多い傾向にあり、土地利用の一端を如実に表す。なお旧河川は「寺」の防御と「寺」を区切る性格を合わせ持つ。

遺物には土器・陶磁器、木製品、石製品、金属製品等の生活財、喫茶の風習を示す瓦質風炉や人々の往来を示す狭域流通品の山茶碗等を認める。また、輸入陶磁器の染付が微量な点は、遺跡の下限が 15 世紀末葉であることを示す。

福井県埋蔵文化財調査報告　第181集

# 長崎遺跡

―北陸新幹線建設事業に伴う調査10―

令和５年３月１日　印刷
令和５年３月10日　発行

発行　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒918-8226 福井市大畑町97-21-3
印刷　創文堂印刷株式会社
〒918-8231 福井市問屋町１丁目７番地